

東京財団研究報告書

2006-10

フィリピン日系人支援の方策についての研究

～両国におけるアンケート調査を通じて～

河合弘之 弁護士

東京財団研究推進部は、社会、経済、政治、国際関係等の分野における国や社会の根本に係る諸課題について問題の本質に迫り、その解決のための方策を提示するために研究プロジェクトを実施しています。

「東京財団研究報告書」は、そうした研究活動の成果をとりまとめ周知・広報（ディセミネット）することにより、広く国民や政策担当者に関わりかけ、政策論議を喚起して、日本の政策研究の深化・発展に寄与するために発表するものです。

本報告書は、「フィリピン日系人支援の方策についての研究」（2005年4月～2006年3月）の研究成果をまとめたものです。ただし、報告書の内容や意見は、すべて執筆者個人に属し、東京財団の公式見解を示すものではありません。報告書に対するご意見・ご質問は、執筆者までお寄せください。

2006年6月

東京財団 研究推進部

目次

第1章	はじめに	1
第2章	フィリピン日系人の歴史	4
第3章	フィリピン日系人の日本就労～背景、歴史、現状	7
	第1節 背景～1990年の入管法改正と日系人	7
	第2節 歴史～フィリピン日系人と日本就労	10
	第3節 現状～日本で働くフィリピン日系人とその家族はどのくらいか	15
	1 入国者数の推移／2 外国人登録者数の推移	
第4章	在フィリピン日系人調査	23
	第1節 在フィリピン日系人アンケート調査	23
	1 調査の実施概要／2 調査結果／3 まとめ	
	第2節 聞き取り調査	50
	1 調査の実施概要／2 調査結果	
第5章	在日フィリピン日系人調査	57
	第1節 アンケート調査	57
	1 調査の実施概要／2 調査結果／3 調査結果の分析とまとめ	
	第2節 聞き取り調査	110
	1 調査の実施概要／2 調査結果	
第6章	フィリピン日系人の組織化の現状と課題	121
	第1節 連合会の歴史と組織構造	121
	第2節 各日系人会の特徴	124
	1 北部ルソン比日基金／2 ダバオ～フィリピン日系人会（PNJK）	
	第3節 日系人会組織へのアンケート調査	126
	1 調査方法／2 調査結果／3 まとめ	
第7章	結論	143
	付録 調査票	145

第1章 はじめに

本研究は、フィリピン日系人（戦前フィリピンに移民した1世を頂点とする家系図に連なるすべての世代構成員）の地位向上のため、日本の政官民は、どのような支援を行うべきか、という政策提言研究の2年目にあたる。

フィリピン日系人とは、19世紀末頃から太平洋戦争終結までの間にフィリピンに渡った日本人移民の子で、戦争によって父あるいは両親と離れ離れになり、現地に残された人びと、およびその子孫の総称である。移民1世の子である2世を、特に「フィリピン残留日本人」「残留2世」と呼ぶことがあるが、これは戦争によって残留を余儀なくされた、という点と、大半の2世は当時の国籍法からして日本国籍である、という点を、敢えて強調したものである。

昨年度、本プロジェクトでは、戦後未処理問題としてのフィリピン日系人問題に焦点をあて、フィリピン日系人の歴史（移民史および戦後史）、実態、法的地位の論点整理、日本政府および民間の関連する政策史とその批判的検討を行った。フィリピン日系人は、日本の侵略と敗退により日系人社会が破壊され、引き続き混乱で、残された子らの出自の確認が極度に困難となったという点で、他の日系人（ブラジルやハワイの日系人など）と決定的に異なる。その意味で、日本国政府が彼らの出自の確認、国籍問題を積極的に解決する責任は極めて強い。この点を踏まえ、昨年度は、官民によるフィリピン日系人2世の公開身元調査の実施、それに必要な資料の公開、フィリピン日系人の就籍支援（「中国残留孤児等の円滑な帰国の促進及び永住帰国後の自立の支援に関する法律」及び省令、施行規則の改正）、外務省による国籍確認・家族調査の継続、フィリピン日系人問題解決のための政府横断的なプロジェクトチームの立ち上げを提言した。

さて、私たちは、日系人問題を、過去に積み残した問題の解決としてのみならず、将来の日比の問題、両国、両国民の積極的課題として捉えたいと考えている。そこで今年度は、現在のフィリピンにおける日系人の実情および、近年起きている「フィリピン日系人の日本就労」に着目した。

日系人が、活動上の制限なく日本に在留できる法的根拠は、1990年6月に施行された改正入管法（出入国管理及び難民認定法）である。この法改正により、新たな在留資

格「定住者」が創設され、「定住インドシナ難民」「永住者・定住者の家族」と並んで、日本人の子、孫（2世が日本国籍を取得していない場合3世まで。2世が日本国籍を取得した場合は4世まで）が、この資格の対象とされた¹⁾。外国人「単純労働者」の入国、定住は従来どおり認められない中、日系人だけが、就労について単純労働を含め一切制限を受けないことになった。

もっとも、この法改正は「日本人の子」であることを語れるようになって間もないフィリピン日系人の日本就労にはすぐには結びつかなかった。フィリピン日系人の大多数は、戦争により記録が焼失しており、彼らが自力で日系人であることを証明することは困難だったためである。そのフィリピン日系人の日本就労が本格化するのには、1997年の政府・外務省の「第二次フィリピン残留日本人調査」終了後、フィリピンの日本大使館内に日系人の査証を扱う専門部署「日系人デスク」が創設され、現地大使館限りの審査でフィリピン日系人に査証が発給される仕組みが整ってからである（詳細は3章）。この日本就労の流れは、日本とフィリピンの所得格差、賃金格差を背景として現在も続いており、将来も続くと思われる。

では、これらフィリピン日系人の日本就労、定住、日比間往来は、フィリピンの日系人社会に、また個々の日系人及びその家族に、どのような変化をもたらしているのだろうか。また、日本で働きながら暮らすフィリピン日系人は、どのような問題を抱え、どのような将来を描き、何を希望しているのだろうか。

中南米諸国の日系人については、1991年に国際協力事業団（現・独立行政法人国際協力機構）が実施した『日系人本邦就労実態調査』をはじめ、国際労働力移動研究やエスニシティ研究でも多く取り上げられている²⁾。これに対し、フィリピン日系人については、本格的な日本就労が南米日系人より10年遅れたためか、あるいは絶対数が南米日系人に比べて圧倒的に少なく、その存在自体が知られていないためか、同様の研究や調査はほとんどなく、その実態はわかっていない。

そこで、本研究では、フィリピン日系人の基礎データを収集することを目指し、彼らの生活の実情、現在直面している問題、将来の希望、日系人会や日本政府への要望を知るため、在比、在日フィリピン日系人へのアンケート調査を実施した。また、日系人の組織化の現状を探るため、日系人会組織に対してもアンケート調査を行った。

アンケートを通して、日系人の生の声に触れ、その実像がみえてきたこと、また、これまであまり知られていなかった日系人組織の実態を、十分ではないが、明らかに

できたことは、本研究の成果である。まとまった数のアンケートをそれぞれ集計・分析したことで、集合体としてのフィリピン日系人の「声」が浮かび上がってきた。それらの調査結果をもとに、今後よりよい日比関係を築いていく上で、政策提言を行った。

本研究の構成

第2章で、フィリピン日系人の歴史を概観した。

第3章では、第1節で日系人の日本就労の背景を、第2節で90年代のフィリピン日系人の地位向上運動と日本就労についてを解説した。どのくらいのフィリピン日系人が日本に入国・滞在しているのかについては、使用可能なデータがないため、「定住者」という在留資格分類を用いて推定した（第3節）。

第4章では、在比フィリピン日系人へのアンケート調査から、彼らの経済状況、日系人会への参加の度合いや意見、抱えている問題点、将来の希望等を明らかにした。現地フィリピンで就労経験を持つ3世を対象に実施した聞き取り調査の一部も収録した。

第5章では、在日フィリピン日系人へのアンケート調査から、国籍確認が済んだ日系人の日本での生活、就労実態、抱えている問題点、将来の希望等を明らかにした。日本に暮らす日系2世への訪問・聞き取り調査の結果も収録した。

第6章「フィリピンの日系人の組織化の現状と課題」では、組織に対するアンケート調査と聞き取り調査から明らかになった、7つの日系人組織の規模、設立目的、組織のビジョン、ミッション、ゴール、活動内容、直面している問題、役割認識等を比較し、考察した。

第7章で、上記調査結果を総合して、フィリピン日系人に対するあるべき政策を提言した。

1) 法務省告示で整理されている。法務省入国管理局監修、出入国管理関係法令研究会編『ひと目でわかる外国人の入国・在留案内－外国人の在留資格一覧』参照。

2) 『共同研究 出稼ぎ日系ブラジル人 上下』（渡辺雅子編 明石書店、1995年）や、『日系人の労働市場とエスニシティ－地方工業都市に就労する日系ブラジル人』（大久保武編 御茶の水書房、2005年）など。

第2章 フィリピン日系人の歴史

戦前の移民史

明治、大正、昭和にかけて、日本から多くの人に移住労働者として、中南米、ハワイ、フィリピンなどに渡った。フィリピンでは、当時当国を統治していた米国が、フィリピン北部のバギオに避暑地を開くため、マニラーバギオ間を結ぶ道路建設を計画し、そこに日本人労働者が採用された。1903年には1,000人～1,500人の日本人が移民会社を通じてフィリピンに渡り、1903-1904年の2年間で5,000人がマニラに上陸した。1905年に道路が完成した後も、移民の相当数はバギオに残ったり、太田恭三郎氏に率いられてフィリピン南部のミンダナオ島ダバオに移動したりしたと言われる。ダバオでは、日本人により栽培されたマニラ麻（アバカ）が第一次世界大戦で需要が激増、日本人人口も増え活気づき、単身者は日本から花嫁を呼び寄せたり、現地の女性と婚姻したりした。不況で一時人口が減ったが1920年代後半には再び好況となり、1929年にはダバオ在住日本人は1万人を突破。1941年には2万人となり、アジア最大の日本人移民社会となった。

戦争による日本人移民社会の崩壊と残留日本人の発生

1941年12月、日本がフィリピンに侵攻した。日本軍占領下、在留邦人（1世および適齢期に達した2世）は徴兵されたり、軍属への徴用、通訳、ガイド、食料供出など日本軍への協力を強いられた。隣人であったフィリピン人に銃口を向け、虐殺等に関与させられた者もいた。1944年10月の米軍上陸後、日本軍と在留邦人はともに敗走。山中で多くの1世や2世が米軍の砲爆撃やゲリラによる襲撃、飢えや病気のため、命を落とした。生き残った者も多くが家族と離れ離れになり、孤児となった者もいた。

1945年8月の敗戦後、生き残った1世は連合国収容所から本国に強制送還された。一家は離散し、多くの幼い2世とフィリピン人母がフィリピンに残された。日本のフィリピン侵攻と敗退により、フィリピンの日本人移民社会は破壊され、引き続き混乱により、残された子（2世）の出自の確認は極度に困難になった。1世の身分を示す書類は戦中多くが焼失した。また日本人を対象とした殺害や迫害から逃れるため、1世自身やその妻の手により書類が処分されたケースも多い。

戦後、多くの2世が日本人であることを隠し、フィリピン名（多くが洗礼名）を使

って生き延びた。日本の親族と連絡をとるすべはなかった。

日系人会の発足

ルソン島北部のバギオでは、シスター海野（海野常世）という一人の日本人女性により、隠れて住んでいた日系人が探しだされ、1971年、北ルソン比日友好協会が組織された。これがフィリピンで戦後最初の日系人組織の発足である。1970年代後半以降になると、引揚者や遺族のフィリピン訪問が始まり、親族や同級生と再会するものが現れた。これらをきっかけに、フィリピン各地で日系人のアイデンティティ模索の動きがでてきた。1980年のダバオの日系人会を皮切りに、フィリピン全国各地16ヶ所に日系人会が結成された。1992年には各地の日系人会をつなぐ連合組織「フィリピン日系人会連合会」（以下「連合会」とする）が発足。現在にいたるまで、日本政府に対し、身元捜し、国籍確認などを求めて活動している。連合会の寺岡カルロス会長（バギオ出身2世）は、現在、在バギオ日本国名誉総領事で、2003年には日本政府より旭日中綬章を受章している。

日本の官民によるフィリピン日系人支援

1970年代から民間の支援が始まったバギオを除き、他の地域では1980年代の終わり頃から、日本人によるフィリピン日系人への支援が活発になった。

1988年、ダバオ生まれの引揚者で歯科医であった平原定志が「フィリピン日系人友好協会」を結成、日本語教育や里親支援を開始した。平原の死後、同会に参加していた網代正孝が、「日本フィリピンボランティア協会」を結成、平原の遺志を受け継ぎつつ、支援範囲を日系人の自立、医療活動、植林活動まで広げて活動するようになった。

1992年には、雇用を通じた日系人の生活向上を目指す企業グループ、「フィリピン日系人技術教育振興事業協会」（現在の「日本フィリピン企業協議会」）が発足した。またこの頃、弁護士・西田研志も、法律家の立場から日系人の法的地位確立に貢献しようと、連合会顧問となって支援を開始していた。

90年代のフィリピン日系人をめぐる動きは、次章2節の内容と重なるため、ここでは簡単に述べるにとどめる。1995年と1997年、外務省による2度にわたる調査が実施され、一部の日系2世の法的地位の確立が達成された。残された身元未判明の2世についても、上記弁護士の戸籍捜しの取り組みにより、展望が開けた。

1999年には日系人の互助組織として、フィリピン日系人互助財団（理事長・寺岡カ
ルロス）が発足し、日系人の就労に関わる諸業務を担当するようになる。1999年には、
フィリピン日系人を雇用する企業グループ、「フィリピン日系人支援の会」（理事長・
宮内章光）が発足、先の「日本フィリピン企業協議会」と並んで、日系人への就労先提
供による日系人支援を行うようになる。

1999年4月、連合会顧問を務めていた先の弁護士が、財政問題を理由に支援運動か
ら撤退したことで、身元捜しは一時中断した。危機感を抱いた連合会や日系人会、支
援の企業グループの働きかけで、2003年10月の「フィリピン日系人リーガルサポ
ートセンター」（略称 PNLSC：代表河合弘之）が発足、4年ぶりに身元捜しが再開された。

PNLSCは、連合会とともに外務省・第三次調査（2003年3月）、および第四次調査（2005
年6－9月）に取り組んだ。2回の調査により、300余人の日系人の身元が新たに判
明した。しかし連合会に登録する2世家族800件あまりの身元がいまだ判明していな
い。これらの中には希望を失い、あきらめの気持ちから、所属の日系人会から離れて
しまう者もいるという。身元が判明した2世家族と、未判明家族との間の経済格差も
生じているといわれる。

身元が判明しない2世の国籍を確認するための最後の手法として、家庭裁判所への
就籍申立という方法がある。PNLSC代表の河合弘之およびその所属事務所の4名の弁
護士を代理人として、2004年8月、ダバオ出身の2世姉妹が東京家庭裁判所に就籍申
立を行った。このケースは身元がほぼ判明していたケースではあったが、2006年2月、
フィリピン残留日本人2世で初めて、就籍許可決定が下り、東京に本籍地をおき新戸
籍がつくられた。先の弁護士チームは2005年10月にも8人の身元未判明2世の就籍
申立を東京家裁に行っており、家裁調査官および裁判官の指示に基づく調査が進行中
である。

第3章 フィリピン日系人の日本就労～背景、歴史、現状

本章では、第1節で、南米に始まる日系人の日本就労、入管法改正とその結果について概観する。第2節で、90年代前半のフィリピン日系人の状況、90年代後半からの身元調査、国籍確認の進展と就労経路の変遷、2000年以降の状況を、やや詳しく述べる。第3節で、どのくらいのフィリピン日系人とその家族が日本に入国、就労しているのかを、入手可能なデータを用いて類推する。

第1節 背景～1990年の入管法改正と日系人

80年代後半、日本では合法非合法を問わず、外国人労働者が増加した。円高と内需主導型経済を背景に、日本の中小零細企業、特にいわゆる3K（きつい、汚い、危険）といわれる工場等で単純労働者が不足したためである。ブラジル、ペルー等の南米諸国の日系人の日本就労もこの時期に始まった。送り出し国側の事情として、中南米諸国の経済不振、高インフレ、高失業率、日本との圧倒的所得格差があった。

まず、戦後ブラジルに移住した1世および、二重国籍又はブラジル国籍の2世が、就労を目的に帰国してきた¹⁾。日本国籍の1世は日本旅券で帰国し自由に就労できる。一方、ブラジル国籍の2世は、この時期、まず観光ビザで入国し、その後、日本の入管で在留資格を「日本人の配偶者または子—日本人の家族として本邦に在留する場合」あるいは「法務大臣がとくに在留を認める者—他の在留資格に該当しない者」に変更し、就労していた²⁾。観光ビザで就労すれば違法だが、上記のように資格変更すれば、日系人は他の外国人労働者と異なり、活動上の制限を受けずに日本に滞在できる。しかし、必要な書類を揃えることができない場合もあり、手続きは必ずしも容易ではなかった。

就労目的の訪日であることは明白なのに、観光ビザしか発給されない現状に、現地日系社会からは苛立ちの声があった。ブラジル大使館への観光ビザ申請に際し、日系人と一般ブラジル人とで差があり、日系人の場合、身分を証明する書類まで要求されることも、不満の一因だった³⁾。

日本国内では、深刻な人手不足から、制限つきで外国人労働者を受け入れようという声も、一部で強くなっていた。たとえば経済同友会は、89年3月、「長期的展望にたって外国人労働者受け入れ問題を検討すべきだ」として法務省、労働省など関係省

庁に働きかけると発表している。一方で、政府内や自民党内では慎重論も根強かった。

この頃、中南米出身の日系人の多くは、斡旋人や斡旋業者を仲介者として日本での就労先をみついていた。中には親身になって就職の世話をし、査証変更手続きを手伝う日系旅行社等もあったが、労働者の給料から法外な「斡旋料」をピンはねする仲介者、斡旋業者もあり、過酷な労働条件とあわせて、日本ブラジル双方で問題になっていた。派遣法違反の摘発も相次ぎ、マスコミをにぎわした⁴⁾。

こうした状況に対応するため、入管法の改正が日程に上ることとなる。88年から89年にかけて、改正入管法の中身をめぐり、政府内外で激しい議論が交わされた。労働省が提案した外国人労働者に関する雇用許可制度は、省間での論争の結果、日の目をみずに終わる⁵⁾。結局政府は、中小零細企業の人手不足の現状には目をつぶり、外国人の単純労働者は受け入れない方針のまま、不法就労問題の解決をはかろうとした。

入管法改正案は1989年12月に国会を通過し、1990年6月から施行された。改正のポイントは雇用者罰則の導入と在留資格の拡充である。

まず、就労が認められない外国人や在留期間を経過して残留する外国人を故意に雇用したり斡旋したりした者は3年以下の懲役又は200万円以下の罰金とされ、不法就労の一掃が目指された。

次に、弁護士、会計士、医師、外国語教師、通訳、ファッションデザイナーなど、専門知識を持った外国人は積極的に受け入れるとされ、新たに「法律・会計業務」「医療」「研究」「教育」「人文知識・国際業務」「企業内転勤」「文化活動」「就学」「永住者の配偶者」「定住者」の在留資格が設けられた(表3-1)。

「就学」までが活動に基づく在留資格であるのに対し、「永住者の配偶者」と「定住者」は、地位または身分に基づく在留資格である。この「定住者」のカテゴリーに、「定住インドシナ難民」と並んで、日系2世3世(日本人の子として出生した者の実子)とその配偶者が含まれたことが、90年代の日系人の流入加速化につながった。地位又は身分に基づく在留資格には、活動上の制限が一切ない。事実上の「日系人就労の合法化」であった。

活動に基づく在留資格			身分又は地位に基づく在留資格
就労が認められる在留資格	就労が認められない在留資格	就労が認められるかは個々の許可内容によるもの	
(1) 上陸許可に係る基準省令の適用を受けないもの			
外交、公用、教授、芸術、宗教、報道	文化活動、短期滞在	特定活動(法務大臣が個々の外国人について特に指定する活動)	永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、平和条約関連国籍離脱者の子、定住者
(2) 上陸許可に係る基準省令の適用を受けるもの			
投資・経営、法律・会計事務、医療、研究、教育、技術、人文知識・国際業務、企業内転勤、興業、技能	留学、就学、研修、家族滞在		

※90年の改正で新設された在留資格(10種)に下線をひいた

表 3-1 在留資格一覧(田中宏『定住外国人—法の壁、心の壁』岩波新書、1991年、P200-201)

入管法改正以後、日系人は以前にもまして、人手不足の中小零細企業の注目を浴びた。雇用主の間で、不法滞在の外国人を雇用するのを控え、日系人を合法的に雇用しようという傾向が高まっていく。

この、「日系人就業の合法化」政策の背景と意図を正確に言い当てることは難しい。先にみたような、ブラジルをはじめとする日系社会の合法的就業に向けた環境づくりを求める声に配慮したという側面もあっただろう。また、自民党の外国人労働者問題特別委員会で「日系人特別受け入れ」案が提起されているように⁶⁾、日系人労働力に期待する声が強かったわけではない。「日系人なら国籍は違ってても同胞として受け入れやすいはず」といった先入観が働いたことも想像される。が、今日では、公式には法改正による日系人の地位の明確化は、海外に住む日本人の子孫が、親族訪問や、日本の社会、文化に触れるために来日する場合に配慮したもの、という見方が一般的である。⁷⁾

このような状況を、梶田孝道は、『公式』には外国人労働者の受け入れがなされないなかで、『外国人労働者』とはいいがたい、いくつかのカテゴリーが、事実上『外国人労働者』として機能している⁸⁾と表現し、このような「非公式」な外国人労働者受け入れがいつまで通用するのか、と疑問を投げかけている。今日、ますます深刻化する労働力不足の問題を直視するとき、考えさせられる指摘である。

ところで、海外に住む自国民の子孫に対する政策としては、ドイツのように、海外に移住した国民の子孫に無制限に国籍を与える国もあれば⁹⁾、スペインやイタリアのように、日本人の子孫に二重国籍を許容する国もある。これらの国と比較すると、「日本人の子、孫までに」「活動の制限のない在留資格を認める」（身分に基づき自由な入国、滞在を認めるが、二重国籍は認めない）という日本の政策は、比較的制限的であるといえるかもしれない。この点は、各国の国籍の考え方、法的な伝統、人口政策などに関係することであり、一概にどうあるべき、とはいえないが、当時者たちの実情と希望を踏まえ、今後、議論を深めていくべき課題であろう。

第2節 歴史～フィリピン日系人と日本就労

フィリピン日系人の日本就労が本格化するのは1990年代後半だが、90年代前半に就労目的で日本に行くフィリピン日系人が皆無だったわけではない。数は少ないが、戦後、日本の親族と交流があった2世を中心に、親族の協力を得て日本の入管で在留資格証明書を取得し、大使館で定住ビザを発給されて日本で働く日系人はいた。この頃、戦争中や戦争末期に生まれた2世はまだ50歳前後で、2世自身が日本に働きに行くケースもあった¹⁰⁾。むろんそれは全体からみればほんの一握りである。圧倒的多数は父親の戸籍謄本はもとより、身元を証明する書類や証拠のない人びと、また日系人として公式に名乗り出てすらいない人びとであった。

2章でみたとおり、90年代、日本からのフィリピン日系人への支援活動が活発になり、フィリピン日系人の運動も大きく前進した。フィリピン日系人の日本就労は、それらの運動の結果であると同時に、その“原動力”でもあった。

そのことは、1992年1月、ダバオで開催された第1回日系人大会決議文に、明確に表れている。決議文は、第二次世界大戦に巻き込まれ、戦後、日本の戦争責任を一身に負わされた2世の苦難の歩み、中国残留孤児や台湾の元日本軍人軍属に比べて見放されている自分たちの境遇について述べた後、「中・南米と違い、我々のほとんどは（前期のような戦後経緯の中で）身分を証明する書類が揃わない。ましてフィリピンにおいては日系人の就労は困難を極める。我々の子どもたちが日本に就労に行けるよう、また研修にいけるよう特別の道をつくっていただきたい」¹¹⁾と、日本政府の支援を求めている。連合会結成大会ともいうべき初めての集まりで、日本政府への要望として「子どもたちの日本就労」が前面に掲げられたことは象徴的である。フィリピンでは

出稼ぎは特別なことではなく、生活向上の近道と認識されている。2世のアイデンティティ確認、父の消息を知りたいという願いと並んで、「豊かになった父の国日本で子どもたちが働くこと」への要望が、2世とその家族の「身元捜し」への強い希望を支えることとなった。

90年代の前半、手がかりのある日系人の戸籍捜しや査証手続きを支援したのは、個人で日系人と関わる日本人と、一部の、日本語が流暢に話せる日系2世であった。善意の企業主や個人もいれば、日系人労働力に目をつける仲介者、斡旋業者（いわゆるリクルーター）もいた。

「日系人の神様」と呼ばれた故豊口修は、善意の個人の代表格である。ダバオ生まれの引き揚げ者である豊口は、1988年にダバオ墓参団に参加し、日系人と出会ったことが「人生の転機」となり、以後、私財を投げ打って多くの日系人の戸籍捜しを助けた。写真、手紙、同級生や先生の証言を日本中で集めるなど、文字通り地を這う努力であった。

豊口のような人がいる一方で、南米同様、日本で働きたい日系人に目をつけ、戸籍探しや在留資格証明書の取得を手伝い、日系人の入国後、法外な斡旋料を給料から天引きする仲介・斡旋業者もいた。日系人との接触、コミュニケーションには、日本語が流暢な2世の協力が一役買っていた。このような活動の問題は、日系人の身元捜しを、就労と結びつけてビジネスとして行い、日系人から法外なお金をとる（貸し付けし、日本就労後、返済を強いる）ところにあった。

90年代前半、南米に比べて地理的にも近く、アクセスの容易なフィリピンは、急速にリクルーターの草刈場となっていく。書類の偽造や、身元未判明の日系人を判明済みの家族に混入させて査証申請することも一部で行われた。こうした事件のせいで大使館は査証発給基準を厳格にし、日系人の日本就労は次第に狭き門となった。悪質な斡旋業者を通して日本に行った日系人が、研修生並みの安月給しか払われず、過酷な労働条件に苦しむことも、報告されていた。

先の豊口氏は「日系人の生活環境改善策を種々考えた結果、日本への就労の道を切り開く以外には方法がないことに気づいた」と、1992年、13社で「フィリピン日系人技術教育進行事業協会」（後に日本フィリピン企業協議会と改名）を立ち上げる。しかし、日系人就労といえれば必ず悪質な斡旋業者が絡む、との先入観が働いた時代である。雇用を通じた日系人支援といっても理解されないばかりか、誤解に基づく報道番組ま

でつくられたという。

日系人の戸籍探しにおいて、豊口らが頼りにしたのが、前章でも触れた弁護士・西田研志であった。西田は戦後未処理問題としてのフィリピン残留孤児問題に強い関心を抱き、フィリピン日系人の法的地位確立の方策を模索していた。豊口の考えに共感した西田は、フィリピン日系人を悪質リクルーターから守るには、個別支援ではだめで、フィリピン全土の日系人を対象に、包括的調査を行うことが必要と考えた。

西田の働きかけで、1995年、外務省による「フィリピン残留日本人一斉登録」（外務省第一次調査）が実施された。連合会の地域支部の協力のもと、フィリピン全土で呼びかけがなされ、2,125人の残留2世（故人を含む）が登録した。このうち身元判明につながる書類を有する人は666人であった。

調査後、身元判明につながる書類を有する2世の子（3世）が、豊口らの日本フィリピン企業協議会所属企業の現地就職説明会、面接会に参加し、内定を受けた3世が連合会を通して大使館に査証申請した。連合会と同じ場所に事務所をおく「フィリピン残留日本人法律支援センター（通称リーガルエイド）」が申請手続きを支援した。

しかし、日本の入管で在留資格証明書を取得した後、それを現地の日本大使館に提出、審査を経てようやく査証が発給されるという当時の仕組みは、煩雑で、時間がかかった。西田は、何とか現地大使館限りの審査で査証が発給される仕組みをつくりたい、として、外務省に、2世一人ひとりにつき、国籍確認、家族調査を実施することを提案した。この案は1997年の外務省第二次調査として実現する。

第二次調査で、身元判明につながる資料を有する2世702人の「家族調査記録」（いわゆるファミリーファイル）が大使館に納められた。702人中、2世の名前が戸籍に記載されていたのは260人（カテゴリーA）、記載されていない人が442人（カテゴリーB）であった。

第二次調査終了後、現地日本大使館に日系人の査証を扱う専門部署「日系人デスク」が設置され、在留資格取得証明書を事前に取得しなくても、大使館限りの審査で査証が発給がなされるようになった（根拠は1996年8月の外務省通達）。この場合、在留資格は日本の空港での入国審査の際に付与される。以後、97年から99年まで、家族調査の済んだ2世の子（3世）が、リーガルエイドの支援のもと、連合会から大量に査証申請した。

西田は、連合会、リーガルエイド、企業が三位一体となった就労システムを構築し

ようとした。「日本フィリピン企業協議会」の会員企業に限定せず、新しい企業を引き入れようと、全国を行脚して日系人の就労先を開拓した。賛同する企業に対し、西田は雇用条件や仕事の内容の事前通知、現地直接面接、雇用契約書の締結などを徹底させた。最初はとまどった企業主たちも、次第にこのようなスタイルに慣れていった。

フィリピン各地で面接会が行われ、内定者が次々に査証申請し、日本に渡った。日本大使館の査証受付窓口は一般に開かれており、査証申請は個人や他の組織を通じて行うこともできたが、この頃、全体で見ると7割が連合会経由の申請であったとみられている。

就労ルートの変遷

1998年4月、日系人の互助組織「フィリピン日系人互助財団」が発足すると、査証申請の実務は互助財団によって行われるようになる。リーガルエイドは身元捜しなど法的支援に特化した組織となり、同じ建物内の別室に事務所を移し、かわりに互助財団が連合会と事務所を共有し、企業の現地面接会のコーディネートや内定後の企業と日系人との仲介等を担当した。

日系人の日本就労が進むにつれて、日本の仕事内容や生活環境についていけない日系人が、契約を無視して逃げ出す事件が多発し、企業と日系人双方が、期待と現実のギャップに苦しんだ。こうした問題を解決するため、互助財団による日系人の就労前事前研修が開始された。日本語教育はもとより、日本で働く日系人の様子をビデオで見せるなどして日本で働くことの厳しさ、契約の重要性、金と甘い言葉をちらつかせて日系人に個別に近づくリクルーターの危険性等が繰り返し教えられた。身元捜しの進展と日本就労で、日系人会は活気付いたが、97年以降、政府による調査は継続されず、身元捜しの財源不足が問題になっていった。

1999年4月、財政問題を理由に西田が日系人支援をストップし、リーガルエイドは閉鎖された。日系人の日本就労の根幹となる身元確認、国籍確認が中断したことは、連合会にとって痛手であった。形式的にはリーガルエイドの行っていた業務は互助財団に引き継がれたが、日本人法律家と専門スタッフの不在は致命的であった。

もっとも、査証申請業務は互助財団により滞りなく続けられた。日系人のための「研修センター」建設構想も、互助財団理事長の寺岡カルロスがパンガシナンの私有地を提供することで実現した。2000年以降、互助財団を窓口として日本に就労する日系人

全員は、ここで、3週間の就労前トレーニング（日本語、日本の文化社会習慣等を学ぶ）が義務づけられることになる。

この頃、連合会の最大支部であるダバオの日系人会（名称はフィリピン日系人会。略称PNJK）は、会員の査証申請を独自に行うようになっていた。これはPNJKと「日本フィリピン企業協議会」との歴史的関係によって可能となった。互助財団をパートナーとして日系人に就労先を提供する企業は1999年初めに、「フィリピン日系人支援の会」として組織されたが、協議会は独自の立場を貫き、「支援の会」とは一線を画していた。

こうして企業協議会をパートナーとするPNJK、「フィリピン日系人支援の会」をパートナーとする互助財団が、連合会内の2つの就労ルートとなり、現在に至っている。

2000年以降、身元捜しが進まないことで連合会の活動が停滞すると、日系人会への期待が薄れ、日系人会から距離を置く日系人も出てきた。これに乗じて、「何が何でも日本に行きたい」という日系人に近づく斡旋業者や仲介者が再び現れた。90年代前半にみられたような、仲介者、斡旋業者による就労と結びついた戸籍捜しが再びさかんになる。以前と異なるのは、それらの活動に、日系人のみならず純粋なフィリピン人が関与していること、「財団」「協会」などもっともらしい組織をつくって公然と活動していることである。特にダバオ周辺にはそのような組織が乱立しており、それらの組織による戸籍の売買の仲介、純粋なフィリピン人の日系人なりすましが、実際に行われているという。2004年5月には13人のフィリピン人が、日系人になりすまして日本に入国したことが発覚、同年7月に日本から強制送還されている。

身元捜しが進まないという根本問題を解決せずして事態は改善されないと気づいた日系人会や日系人雇用企業グループの働きかけにより、2003年11月、日本でNPO法人化を目指す任意団体「フィリピン日系人リーガルサポートセンター」が発足した。

身元捜しは再開されたが、リクルーターの乱立状況はすぐに改善されるわけではない。身元未判明で貧しい日系人ほど、このようなビジネスの犠牲になりやすい。この状況をいかに乗り越えるか、貧しく遠隔地に住む日系人に、いかに忍耐強くアプローチし、短絡的ではない根本的な解決策を提示できるか、連合会、日系人会にとって今が正念場となっている。

最後に、フィリピン日系人の数について述べておく。1995年の第一次調査で名乗り

出た2世数（故人を含む）が2125人であったことすでは述べたが、その後も日系人会には毎年新たな登録があり、2006年2月現在、その数は3000人に達している（故人を含む）。連合会の発表によると、2005年9月現在、戸籍に名前のある2世（カテゴリーA）は872人、戸籍に名前のない2世（カテゴリーB）は1256人であるという。身元未判明の2世（カテゴリーC）は約800人である（これ以後も身元捜しの進展によりカテゴリーCからカテゴリーAまたはBに昇格するケースが多くあり、実際のカテゴリーCの数は2006年3月末時点で780人）。連合会は、カテゴリーAまたはBの2世1128人に対し、7,756人の3世、23,296人の4世がいると発表している。カテゴリーAの4世は9275人である。

これらのうち、定住ビザまたは配偶者ビザを取得して日本に行く資格を持つのは、カテゴリーAおよびBの2世および3世、カテゴリーAの4世、さらにそれらの配偶者である。カテゴリーAおよびBの3世のうち結婚している人の割合は不明だが、仮に7割が結婚していると仮定すれば、5,429人の3世配偶者がいると推定される。よって、単純計算で合計すると約2万3千人強が、来日ビザ取得の「資格」を持つことになる。ただし、このうち、2世は高齢で実際に来日して就労する可能性は低いため、上記から2世の数を引いた2万2千人強が、日本で就労可能なフィリピン日系人の人数となる。（身元は判明したが戸籍に名前のないカテゴリーBの2世のうち相当数が、父親の本籍地役場に遅れて身分関係上の届出をなす戸籍登載の手続きによってカテゴリーAに昇格している。このため実際には定住ビザを取得できる4世数はさらに増えているはずだが、その正確な数は不明である）

第3節 現状～日本で働くフィリピン日系人とその家族はどのくらいか

法務省入国管理局発行の『在留外国人統計』（平成17年版）によれば、平成16年末の日本の外国人登録者数は197万437人で、日本の総人口（1億2,768万7,000人）の1.55%占める。国籍別にみると、韓国朝鮮、中国、ブラジル、フィリピンの順に多い（表3-1）。

在留資格別にみると「永住者」が最多、次いで「日本人の配偶者」「定住者」「留学」「家族滞在」の

韓国・朝鮮	60万7,419人
中国	48万7,570人
ブラジル	28万6,557人
フィリピン	19万8,384人
ペルー	5万5,750人

表3-1 国籍(出身地)別外国人登録数(上位5カ国)

順である（図3-1）。

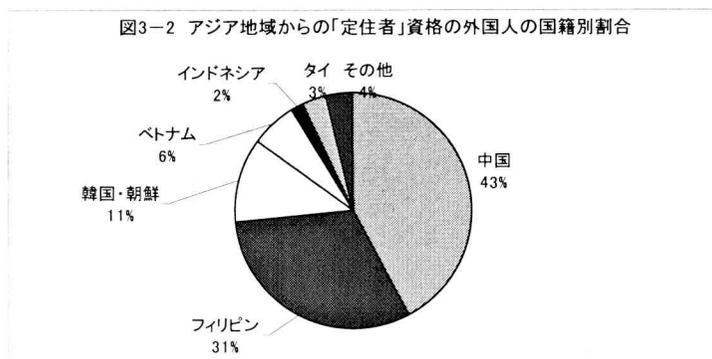
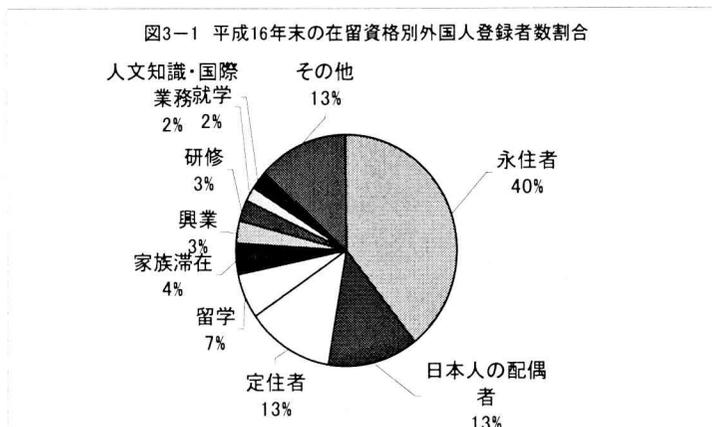
「定住者」の在留資格を持つ外国人は 25 万 734 人（全体の約 12.7%）で、その 68%（17 万 383 人）が南米地域出身者（おそらく日系人）と思われる。アジア地域出身の「定住者」は約 3 割にあたる 76,156 人で、フィリピン人は 23,756 人である。

日本に外国人登録するフィリピン人の在留資格を多い順に並べると表 3-2 のようになる（『在留外国人統計』

平成 17 年版より。データは平成 16 年末）。

「定住者」の資格で滞在する外国人には、「定住インドシナ難民」「日系 3 世等である外国人」「定住者の家族」が含まれる（平成 2 年 5 月 24 日法務省告示第 132 号）。よって、「定住者」資格を持つ外国人イコール日系人ではない。フィリピンに関していえば、日系人とその家族のほかに、「日本人との子を養育するフィリピン人シングルマザー（日本人と結婚し子をもうけた後に夫と離婚ないし別居し、親権を得て日本で子どもを養育するフィリピン人女性）」や、「日本人と結婚したフィリピン人女性の連れ子（国籍はフィリピン）」が含まれる¹²⁾。

よって、現状では、日系人とその家族の数を厳密に把握することは不可能である。法務省入国管理局在留審査課によると、日本人との子を養育するフィリピン人シングルマザーは 1 割程度であるとのことであったが、正確



興業	50,691 人
永住者	47,407 人
日本人の配偶者等	43,817 人
定住者	23,756 人
親族訪問	7,673 人
観光	4,192 人

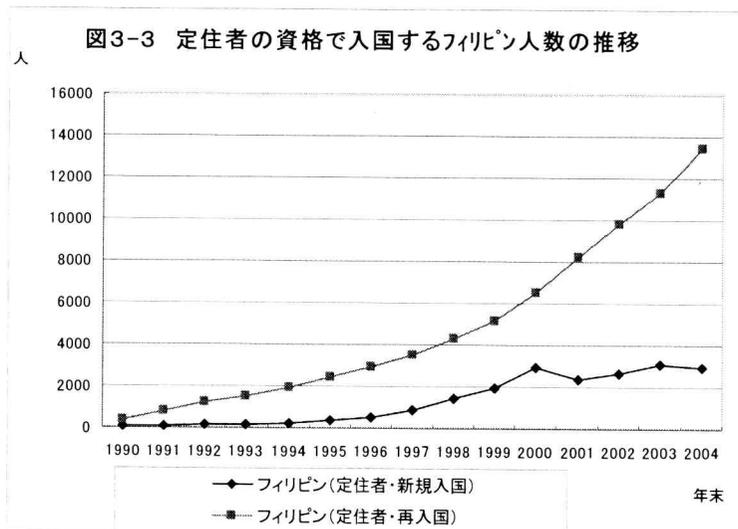
な統計があるわけではない。日本人の配偶者の「連れ子」はそれより多いと思われるが、これも統計はない。また、カテゴリーAの3世の中には、日本国籍は持たないが「日本人の子」、ということで「日本人の配偶者等」（「等」に含まれる）の在留資格を持つ者がいる。さらに、「定住者」の資格で5年以上日本に滞在した後に「永住者」の資格を取得する3世、あるいは日本国籍を取得した3世もいる。いずれも正確な数は不明である。

上記のことを念頭に置いた上で、本節では、「定住者」という在留資格分類を手がかりに、日本に入国/就労するフィリピン日系人の数を推定する¹³⁾。

「日本人の配偶者等」には文字通り日本人と結婚したフィリピン人女性が（日系フィリピン人に比べて）多数を占めると思われることから、また「永住者」には、「日本人の配偶者等」から資格変更した日本人と結婚したフィリピン人女性が（日系フィリピン人に比べて）多数を占めると推定されることから、ここでは用いない。

1. 入国者数の推移

「定住者」の資格で日本に入国するフィリピン人の数を図3-3と表3-3に示した（法務省入国管理局「出入国管理統計」より作成）。新規入国者数は1990年から1996年まで毎年微増、97年以降2000年にかけて急増している。一方再入国者数は90年以降順調に増加し、98年以降、特に増加率が上がっている。



	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
新規入国	83	82	147	162	209	341	510	844	1,425	1,895	2,924	2,332	2,610	3,039	2,893
再入国	370	786	1,248	1,528	1,908	2,448	2,920	3,510	4,256	5,160	6,524	8,221	9,796	11,291	13,413
合計(定住者・)	453	868	1,395	1,690	2,117	2,789	3,430	4,354	5,681	7,055	9,448	10,553	12,406	14,330	16,306

表 3-3 「定住者」資格で新規入国および再入国するフィリピン人の推移

新規入国者数の 97 年から 2000 年までの急激な増加は、97 年 1～3 月の外務省第二次調査で 2 世 702 人の家族調査記録（ファミリーファイル）が完成したことと関係する。調査を終了した 2 世の子が、連合会を通じて大量に査証申請したこと、ファミリーファイルを活用し、現地日本大使館限りの審査で査証が発給される仕組みが整ったことは、前節で述べた通りである。

第二次調査と前後して、「フィリピン残留日本人法律支援センター（通称リーガルエイド）」による身元未判明者の身元捜しも進展し、身元が判明し、国籍確認、家族調査を終えた 2 世の子や孫が連合会から査証申請した。すべての申請が連合会を通じてなされたわけではないが、この時期、全体として査証発給数は増加した。

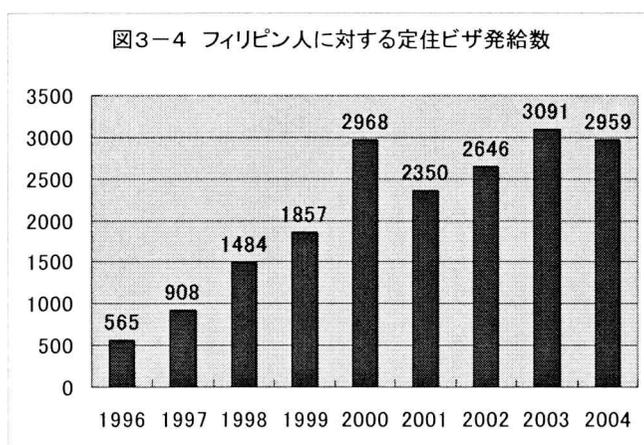
2000 年をピークとした新規入国者数の減少は、労働適齢期で査証資格があるカテゴリー A の 3 世 4 世、ないしカテゴリー B の 3 世が頭打ちとなったことによる。1999 年 4 月に連合会の顧問弁護士が日系人支援運動から手をひいたため、査証申請業務はフィリピン日系人互助財団が継続したものの、日本人弁護士の後ろ盾を失い、身元探しは一時中断した。2001 年から新規入国者数が微増に転じたのは、互助財団や日系人会（ダバオ）の自助努力による身元捜しの成果と、斡旋仲介業者の動きが活発になったことによるものと推定されるが（それらの業者や個人による戸籍探しも行われた）、97～99 年頃ほどの勢いはない。

2003 年 11 月のフィリピン日系人リーガルサポートセンター（PNLSC）発足で、身元捜しが本格的に再開された。その成果は 2004 年 3 月の外務省・第三次調査を経て、2005 年 6 月～8 月の第 4 次調査（1997 年の第二次調査と同じファミリーファイルプロジェクト）に結実された。第 4 次調査により 316 人の 2 世の身元が判明し、現在その子どもたちが査証申請を開始している。その人びとが新規入国するのは平成 18 年中となる

ため、それが統計上に現われるのは平成 19 年版統計である。

再入国者数の 1998 年以降の増加は、「定住者」資格を持つ日系人として定住ビザを取得し日本に渡った人が、休暇などでフィリピンに帰国し、再び日本に戻る回数が増えたためと考えられる（もちろん、再入国者の中には、日本人との子を養育するフィリピン人シングルマザーや日本人と結婚したフィリピン人の連れ子も、相当数含まれると推定される）。

次に、外務省領事部発表によるフィリピン大使館における「定住ビザ」の発給数統計を、図 3-4 に示す（1996 年以前の統計は不存在）。



法務省の入国管理統計が 27 の在留資格別になされているのに対し、外務省の査証発給数統計は 7 分類である。図 3-4 は「日本人の配偶者」と「定住者」からなる「特定査証」発給数のうち「定住者」のみを示したものである。

数字は、先にみた「定住者」の在留資格で新規入国する人の数にかなり近いことから、定住ビザを取得した人のほとんどが、日本入国の際に「定住者」の在留資格を取得していると推定される。

2. 外国人登録者数の推移

「定住者」資格をもつフィリピン人の外国人登録者数の推移を図 3-5 に、また国籍別「定住者」の外国人登録者数の推移（上位 5 カ国）を図 3-6 に示した（法務省入国管理局『在留外国人統計』より作成）。

図3-5 「定住者」の外国人登録者数の推移(中国、ペルー、フィリピン、韓国朝鮮人)

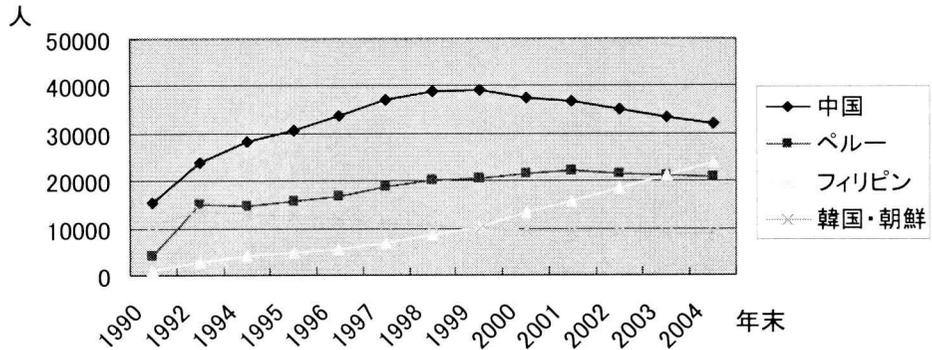
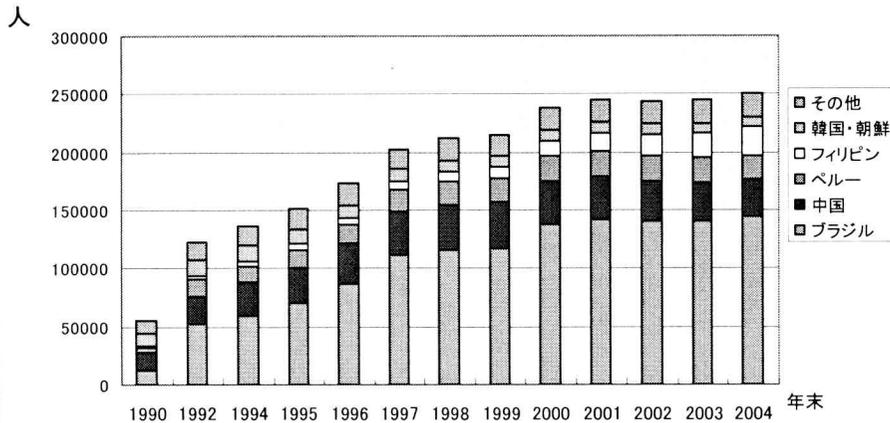


図3-6 「定住者」の外国人登録者数の推移



年	1990	1992	1994	1995	1996	1997
「定住者」資格の外国人登録者数	1190	2617	4006	4740	5584	6751
年	1999	2000	2001	2002	2003	2004
「定住者」資格の外国人登録者数	10181	13285	15530	18246	21117	23756

表 3-4 「定住者」の在留資格で外国人登録を有するフィリピン人数の推移

ブラジルとペルーが2000年以降ほぼ横ばい、中国が2000年をピークに減少しているのに対し、フィリピンは90年以降増加を続け、特に99年以降増加傾向が激しい。

2004年には、ブラジル（57.6%）、中国（12.8%）に次いでフィリピンが3位で、初めてペルーを抜いた。

1990年の時点でなぜ1,990人も「定住者」資格で外国人登録をするフィリピン人がいたのかは定かではないが、すでに日本に滞在していた日系人や、日本人との子を養育するシングルマザーであるフィリピン人女性が、日本で資格変更を行ったものと推定される。

2000年以降をみると、毎年の増加分は「定住者」資格をもつフィリピン人新規入国者数にほぼ一致している。身元探しが現在進行形であることを考えると、今後も登録者数の増加傾向は続くと思われる。

さらに、「在留外国人統計」で集計される外国人登録者数は、日本に外国人登録を有する人の数であるため、休暇、その他の理由で再入国許可を取得してフィリピンに帰国中の人も、外国人登録証が有効期限内にあれば、カウントされてしまう。厳密な意味で、日本滞在中の「定住者」資格のフィリピン人数を出すことは困難であり、ましてや日本就労中のフィリピン日系人数を出すことはさらに困難である。

なお、フィリピン日系人の間では、休暇ではなくいったん日本での職を辞してフィリピンに帰国し、フィリピンに生活の本拠を移す人でも、再入国許可をとって帰国する人が多い。査証が切れる前に、延長を目的に日本に行き、入管で延長手続きをしてフィリピンに戻り、フィリピンで生活する。日本の入管で査証延長するほうが現地の日本大使館での査証を再取得するより簡単だから、というのが理由である。一度手にいれた日本へのアクセス権を手放したくない、という心情もあるだろう。現在そのような人はそれほど多くないと思われるが、今後増えるかもしれない。

「定住者」という在留資格を手がかりに、新規入国者、再入国者、外国人登録者数から、フィリピン日系人とその家族がどのくらい来日し、就労しているのかを探ろうとしたが、他に方法がないとはいえ、これはかなり乱暴な推定である。すべての日系人が連合会や日系人会に所属しているわけではなく、就労経路は他のエージェンシー経由、個人申請など多様であるため、送り出し側で数を把握することも、現状では困難である。今後、各自治体の外国人統計等で、在留資格とは別に、国籍別「日系人」の数が把握されるようになることを期待したい。

- 1) ブラジルには戦前約 18 万人が、戦後 5 万 3 千人の計 23 万 4 千人の移住者がおり、彼らの子孫を含めると 52 万人の日系人がいる。藤崎康夫、『出稼ぎ日系外国人労働者』1991 年、明石書店、P45.
- 2) 藤崎の前掲書に詳しい。
- 3) 藤崎、前掲書、p90-94.
- 4) 藤崎、前掲書、p71-89.
- 5) 梶田孝道、『トランスナショナルな環境下での新たな移住プロセス—デカセギ 10 年を経た日系人の社会学的調査報告』、1999 年（平成 9-10 年度科学技術振興調整日総合研究調査報告書）、p8
- 6) 野島年彦、「進めたい日系人の特別受け入れ」『自由民主』1989 年 11 月号
- 7) 法改正に関わった担当者に取り取りした梶田孝道は、日系人の法的地位の明確化は、同時期に進んでいた在日韓国朝鮮人 3 世の法的地位の問題の解決という、別の政策課題との関連でなされたと指摘している。活動上の制限が一切ない「特別永住者」（在日韓国朝鮮人 1 世から 3 世までがこの地位を取得）と比較して、不利にならないような法的地位が、日系人（かつて外国に移住した日本人の子孫）にも与されるべき、との配慮から、「定住者」というカテゴリーが新設されたという。梶田、前掲書 p7-10
- 8) 梶田孝道、『外国人労働者と日本』、NHK ブックス、1994 年、p52.
- 9) 無制限な血統主義には一定の制限が加えられたというのが詳細は不明である。
- 10) 当時、毎日新聞特派員としてマニラに駐在しており、後に『ハボン—フィリピン日系人の長い戦後』を顕した大野俊の知見による。
- 11) 1992 年 1 月の第一回日系人大会に参加したジャフィール日比協会理事の中畑順次氏の手記より抜粋。
- 12) 日本人とフィリピン人との間の子で、日本国籍を持たない非嫡出子は「日本人の配偶者等」の在留資格を取得する。また日本人と正式に結婚しているフィリピン人は、日本滞在が長期化すれば「日本人の配偶者等」から「永住者」に資格変更でき、実際そうしているケースが多い。
- 13) 「日本人の配偶者等」の在留資格を持つフィリピン人は平成 16 年末時点で 43,817 人、「永住者」の在留資格を持つフィリピン人は同時点で 47,407 人である（『在留外国人統計』平成 17 年版より）。「日本人の配偶者等」には文字通り日本人と結婚したフィリピン人女性が（日系フィリピン人に比べて）多数を占めると思われることから、また「永住者」には、「日本人の配偶者等」から資格変更した日本人と結婚したフィリピン人女性が（日系フィリピン人に比べて）多数を占めると推定されることから、ここでは用いない。

第4章 在フィリピン日系人調査

第1節 在フィリピン日系人アンケート調査

1. 調査の実施概要

1 目的

本調査は1) 在比フィリピン日系人の実情を把握するとともに、2) 日系人会への所属、3) 現在直面している問題、4) 将来の希望を明らかにすることによって、政策的諸課題を検討するにあたっての基礎的資料を得ることを目的としている。

2 方法

調査対象者はルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島に居住する19歳～84歳の2世、3世、4世に属する日系人。サンプルの抽出にあたっては、フィリピン日系人連合会の会員名簿及び、日系人リストのなかからランダムに調査対象世帯を抽出、アンケート方式を用いて調査を実施した。アンケートの配布は現地日系人会を通じて、調査者、協力者が趣旨を説明のうえ直接配布、回収を行った。アンケートは英語及びフィリピン国公用語のタガログ語の2通りを準備し、対象者の希望によって選択できるようにした。

3 回収状況

配布時期：2005年4月16日～4月30日、8月1日～8月14日

配布数： 180通

回収数： 121件

有効回答数： 104件

回収率： 62%

2. 調査結果

1 回答者の基本属性

年齢、性別、婚姻上の立場

回答者の年齢構成は19歳から84歳までの幅広い分布となった。回答者の年齢別比率は、35歳以上40歳未満の19人(18%)が最も多く、続いて30歳以上35歳未満が15人(14%)、

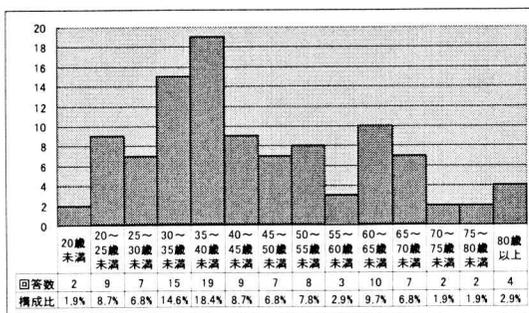


図 4-1

60歳以上65歳未満が10人(9.7%)となっている。

回答者の男性女性別比率は、女性が56人(54.4%)、男性が47人(45.6%)である。絶対数としてはいくらか女性が多くなっているが、

統計的には男性女性の比率にとくに有意な差は見られない。一般的に男性と

女性の参加者比率が同等である日系人会の集会での調査票配布が回答者の男女比率にも反映していると解釈することができる。

回答者の婚姻上の立場をみると、「既婚」が64人(62.1%)と全体の6割以上を占め、「未婚」は28人(27.2%)、「死別」が9人(8.7%)、「離婚、別居」はともに1人(1.0%)となっている。

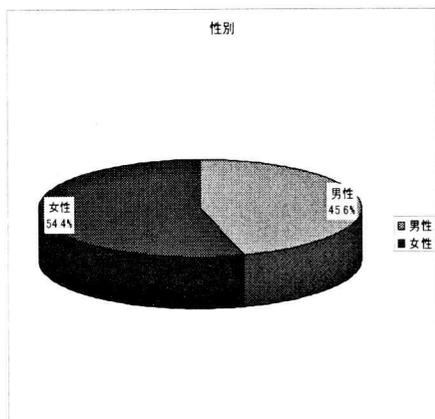


図 4-2

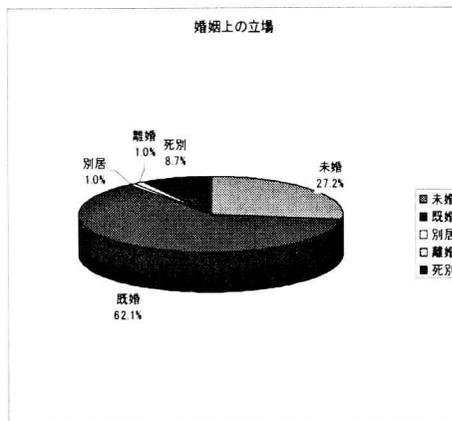


図 4-3

学歴と職業

回答者の最終学歴(中途退学、休学を含む)に最も多いのが「大学」で37人(39.2%)、つづいて「小学校」が24人(24.7%)、「高校」が21人(21.6%)、「専門学校また職業訓練学校」は6人(6.2%)、「大学院」2人の順となっている。本調査では英語及びタガログ語によるアンケート方式を用いたため、回答を返送してくれた回答者は問題意識の高い高等教育を受けた人が多いという傾向があると考えられる。

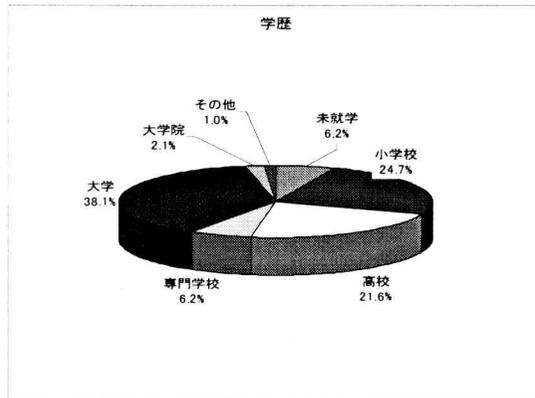


図 4-4

職業

回答者の職業をみると、最も多いのが「無職」で19人（18.3%）続いて「主婦」17人（16.3%）、「農業」が13人（12.5%）、「運輸業」が9人（8.7%）となっている。「運輸業」にはジブニー、トライシクルなどの運転手が挙げられ、「公務員」には警察官、郵便局員、市役所職員など含まれる。「教育関連」には小学校教師、大学講師、大学秘書、事務局が含まれる。回答者の職業は様々な分野にわたっているが、最も多い「無職」は、フィリピン全体の高い失業率（11.7%、2004年版 CIA World Factbook）が回答者の現状にも強く反映されている。

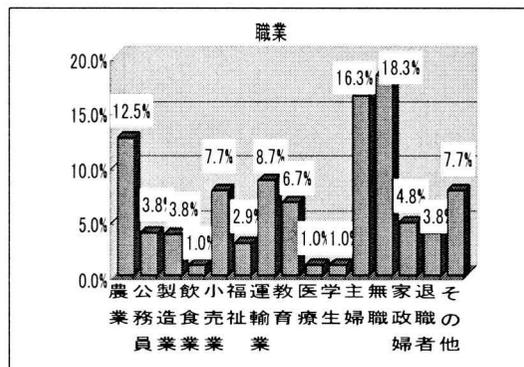


図 4-5

居住地域と使用言語

回答者の居住地で最も多いのは「ルソン地方」の43人（41.7%）、つづいて「マニラ首都圏」が29人（28.2%）、「ミンダナオ地方」25人（24.3%）、「ビサヤ地方」6

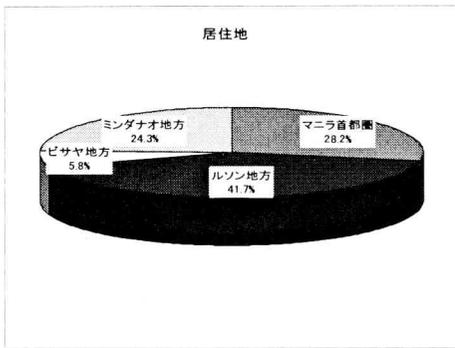


図 4-6

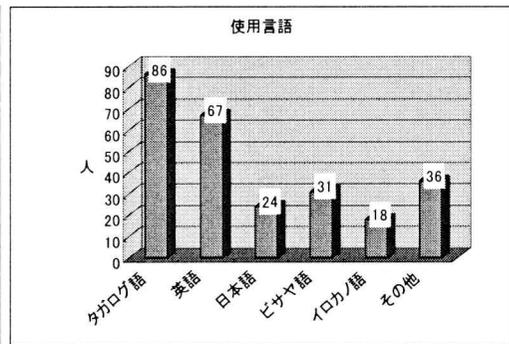


図 4-7

人 (5.8%) の順となっている。

回答者の使用言語を複数回答で尋ねたところ、実質的な公用語であり、学校教育で使用される「タガログ語」が86人、同じく公用語の「英語」は67人、ミンダナオやビサヤ地方の言語である「ビサヤ語」は35人 (13.4%)、「日本語」は24人 (9.2%)。「その他の言語」35人 (13.4%) には、ミンダナオ地方で使用されるイロongo語、ワライ語、ピコラノ語またルソン中部地方で使用されるパンパンガ語が含まれる。2言語以上を使用する回答者が74.3%を占め3言語以上を使用する回答者は23.2%であった。

国籍、日系人世代、カテゴリー

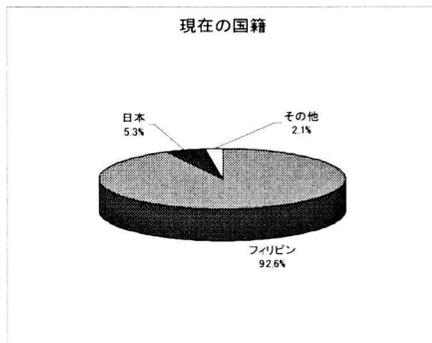


図 4-8

回答者の国籍は「フィリピン」が88人 (92.6%) と9割を超え、「日本」は5人 (5.3%)、「その他」の国籍が2人 (2.1%) であった。所属する世代は「3世」が最も多く59人 (57.8%)、つづいて「4世」が28人 (27.5%)、「2世」は15人 (14.7%) となっている。回答者とフィリピンへ移住

した家族の続柄については、「祖父」が50人 (50.5%) と半数を占め、「祖祖父、祖祖母」21人 (21.2%)、父が20人 (20.2%) 「祖母」が7人 (7.1%) 「その他」が1人 (1.0%) となっており、戦前にフィリピンへ就労に来た日本人を祖父に持つ回答者が半数以上を占める。

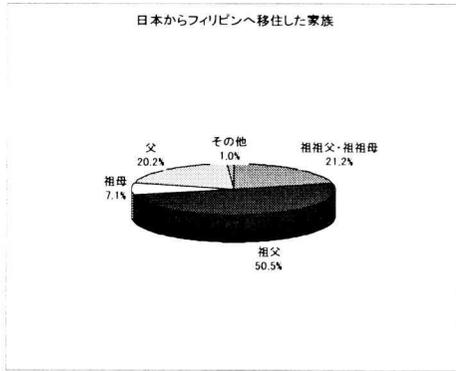


図 4-9

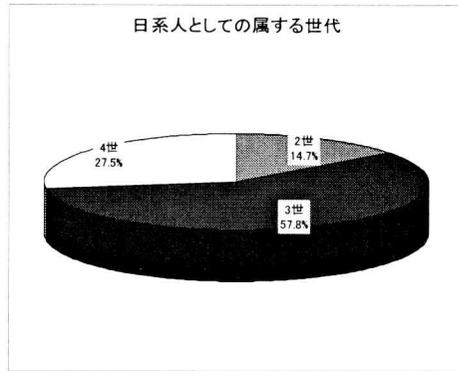


図 4-10

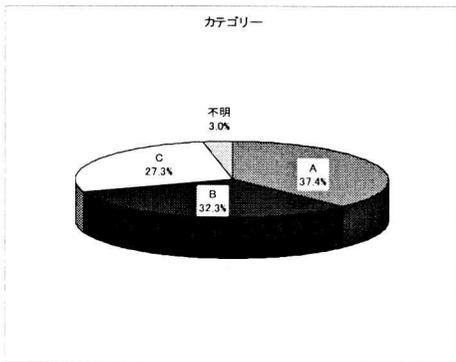


図 4-11

「カテゴリー」とは、日本の戸籍に名前が記載されている2世を「カテゴリーA」、身元は判明しているが戸籍に名前の記載がない2世を「カテゴリーB」、身元未判明の日系人を「カテゴリーC」とする便宜上の分類である。回答者の属するカテゴリーは、「A」が37人（37.4%）、「B」が32人（32.3%）、「C」が27人（27.3%）、「不明」が3人（3%）

となっている。

世帯構成

回答者と同居者の続柄を複数回答で尋ねると、「親」が30人（15.3%）、配偶者が56人（28.6%）、子供が68人（34.7%）、「兄弟、姉妹」が25人（12.8%）、「親戚」が9人（4.6%）、「孫」が9人（3.6%）、「その他」が1人（0.5%）であった。

回答者の世帯構成人数をみてみると、最も多いのが「5人」で回答者数19人（19.0%）、

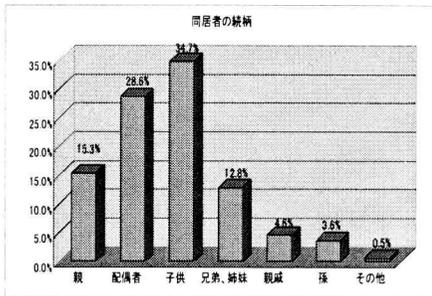


図 4-12

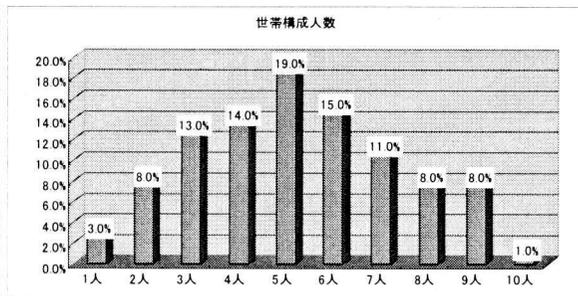


図 4-13

続いて「6人」の14人（14%）、13人（13%）とつづく。回答者と同居者との続柄の構成を複数回答でたずねてみると、約7割の回答者が子供と同居68人（32.2%）、配偶者56人（26.5%）、親30人（14.2%）となっている。

2 訪日経験、日本での就労について

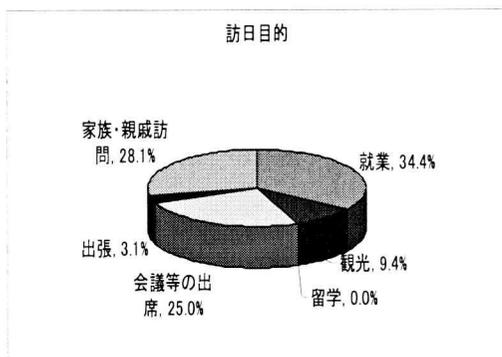


図 4-14

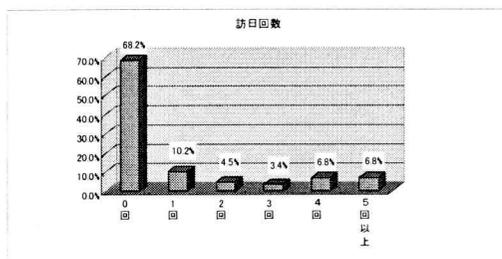


図 4-15

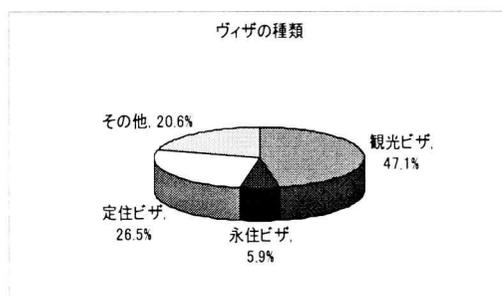


図 4-16

回答者の来日経験、日本での就労経験について尋ねてみると、来日経験は「0回」が60人（68.2%）で7割近くを占め、「1回」が9人（10.2%）、「4回」、「5回以上」がともに6人（6.8%）。来日経験のある回答者の来日目的は「就業」が11人（34.4%）、「家族・親戚訪問」が9人

（28.1%）、「会議等への参加」が8人（25.0%）となっている。「会議等への参加」の8人はいずれも毎年日本で開催される海外日系人大会への出席であった。

来日の際に取得したビザは観光ビザが、定住ビザ、永住ビザ、その他である。

観光ビザ16人（47.1%）、定住ビザ9人（26.5%）、その他が7人（20.6%）、永住ビザが2人（5.9%）であった。

日本での就労経験について尋ねたところ、「はい」が16人（16.2%）、「いいえ」が83人（83.8%）であった。

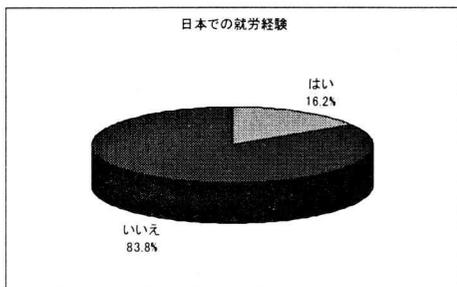


図 4-17

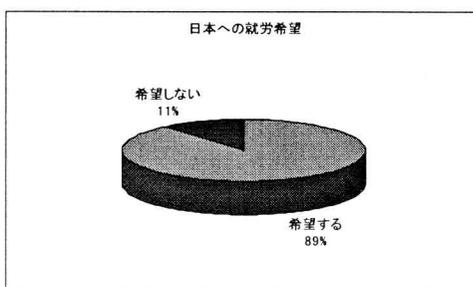


図 4-18

将来、日本での就労を希望しますか？と尋ねると、「希望する」が89人（85.6%）、「希望しない」が11人（10.6%）であった。さらに、「希望する」と回答したものに「どんな職種に就きたいですか？」とたずねると、「単純労働」が6人（9.1%）、「専門職」が13人（19.7%）、「事務職」が1人（1.5%）、「どんな職種でも」が46人（69.7%）であった。

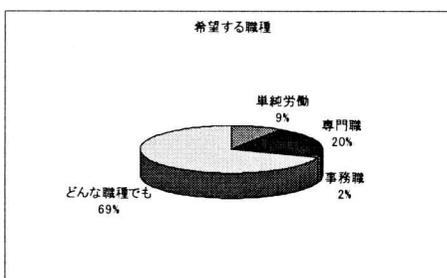


図 4-19

家族の海外就労

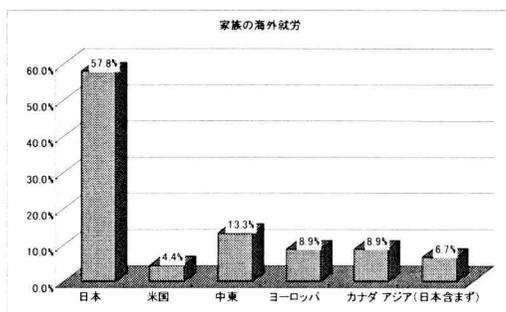


図 4-20

海外で就労する家族の有無について複数回答でたずねると、「日本」が26人（57.8%）、「中東」が6人（13.3%）、「ヨーロッパ」「カナダ」がともに4人（8.9%）、日本含まないアジアが3人（6.7%）、「米国」が2人（4.4%）であり、半数以上の就労先が日本となっている。（複数回答）。「有」と回答した人に、

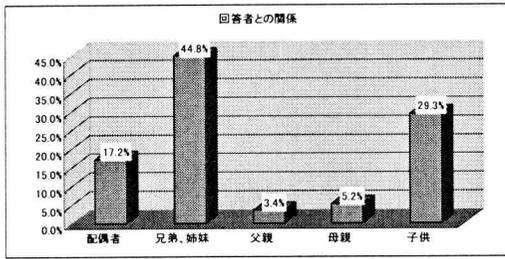


図 4-21

家族の誰が海外へ出稼ぎに行っているのか、または行ったことがあるのかを尋ねると、最も多いのが「兄弟、姉妹」で26人(44.8%)、次いで「子供」17人(29.3%)、「配偶者」が10人(17.2%)、「母親」3人(5.2%)、「父親」2人(3.4%)の順であった。

3 回答者の生活状況

3-(1) 経済

世帯単位の収入(月単位)

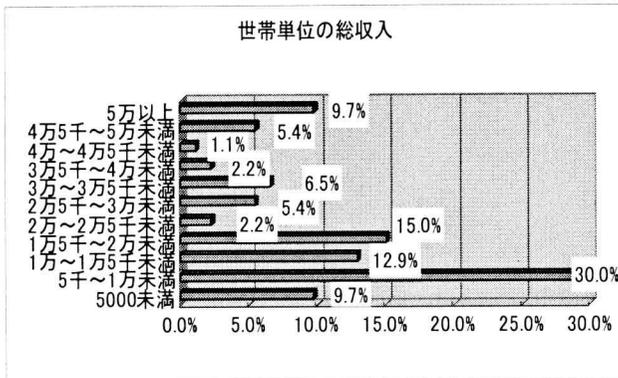


図 4-22

回答者の1ヶ月の平均収入を尋ねる設問では、世帯構成員の数や続柄、居住地域、職種によって、5,000ペソ未満から5万ペソ以上という大きな開きがあった。また農業、無職、主婦にとっては、月単位での収入は計りにくく無回答が14人(13.5%)であった。

「5,000ペソ未満」が9人(9.7%)、「5千~1万ペソ未満」が28人(30.0%)、「1万~1万5千ペソ未満」が12人(12.9%)、「1万5千~2万ペソ未満」が14人(15.0%)、「2万~2万5千ペソ未満」が2人(2.2%)、「2万5千~3万ペソ未満」が5人(5.4%)、3万~3万5千ペソ未満」6人(6.5%)、「3万5千~4万ペソ未満」が2人(2.2%)、「4万~4万5千ペソ未満」1人(1.1%)、「4万5千~5万ペソ未満」が5人(5.4%)、5万ペソ以上が9人(9.7%)であった。

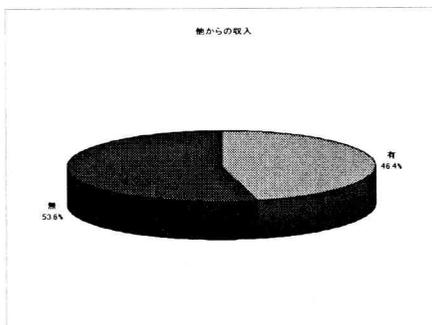


図 4-23

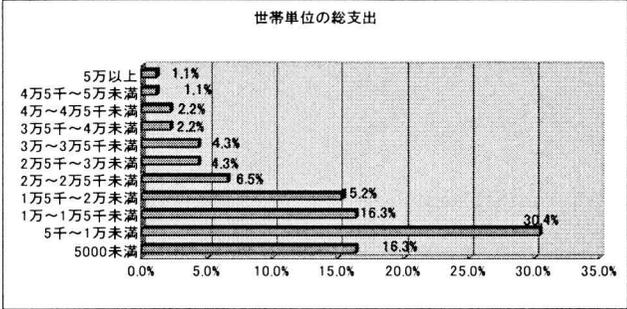
その他の収入

「その他の収入」の有無について尋ねると、

「無」が37人（53.6%）、「有」が32人（46.4%）と答え、無回答は35人であった。

「有」と答えた回答者の中から、その収入源を自由記入方式で聞いてみると、「家族からの臨時的な収入（海外送金を含む）」12件、「小規模農業」9件、「養豚・養鶏」6件、「サリサリストア（小規模雑貨店）経営」5件、「土地の賃貸料」2件、個人学習指導、商用車（ジブニー、トライシクル）各1件が挙げられた。

世帯単位の総支出



回答者の世帯単位の総

支出は、「5,000未満」15人（16.3%）、「5千~1万未満」28人（30.4%）、「1万~1万5千未満」15人（16.3%）、「1万5千~2

図 4-24

万未満」14人（15.2%）、

「2万~2万5千未満」6人（6.5%）、「2万5千~3万未満」4人（4.3%）、「3万~3万5千未満」4人（4.3%）、「3万5千~4万未満」、2人（2.2%）、「4万~4万5千未満」2人、（2.2%）、「4万5千~5万未満」1人（1.1%）、「5万以上」1人（1.1%）であった。

負債

負債の有無を尋ねると、「有」が38人（43.7%）、「無」が49人（56.3%）であった。借金が「有」の回答者にその額をたずねると「5千~1万未満」4人（8.6%）、「1万~2万5千未満」9人（25.7%）、「2万5千~5万未満」8人（22.9%）、「5万~7万5

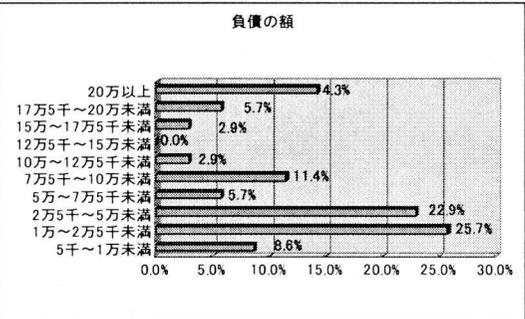


図 4-25

千未満」2人（5.7%）、「7万5千~10万未満」4人（11.4%）、「10万~12万5千未満」2人（2.9%）、「12万5千~15万未満」0人（0.0%）、「15万~17万5千未満」1

人 (2.9%) 「17万5千~20万未満」 2人 (5.7%)、「20万以上」 6人 (14.3%) であつた。

貯金、投資

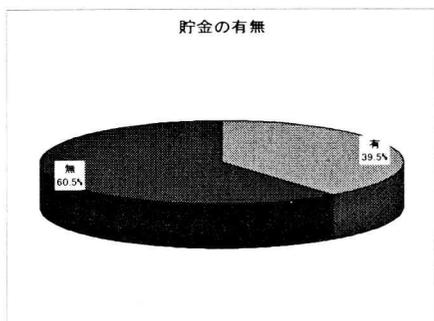


図 4-26

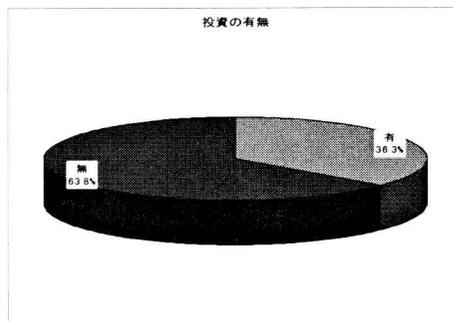


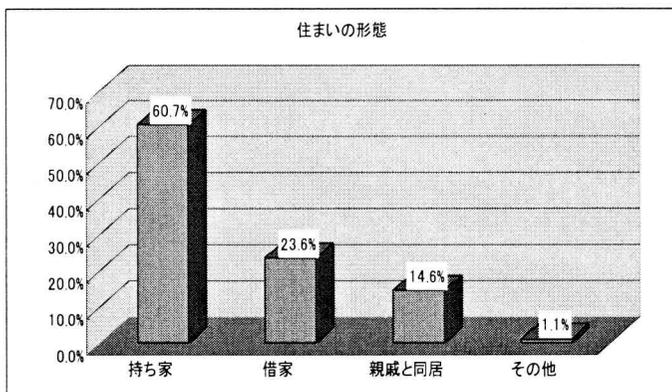
図 4-27

貯金、投資の有無を尋ねると、貯金が「有」は34人(39.5%)、「無」が52人(60.5%)、投資については、「有」が29人(36.3%)、「無」が51人(63.8%)であり、投資の内容は、「土地」が最も多く、50人(38.5%)、次に多かったのが「家」で31人(23.8%)、次が「保険」(11人、8.5%)であった。

3-(2) 住居環境

住居の形態

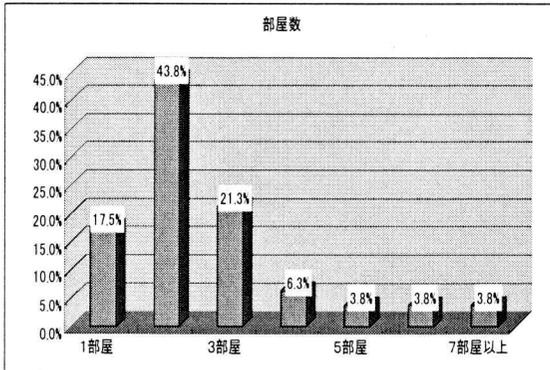
回答者の住居の形態を尋ねると、「持ち家」は54人(60.7%)、「借家」21人(23.6%)、「親戚と同居」13人(14.6%)、



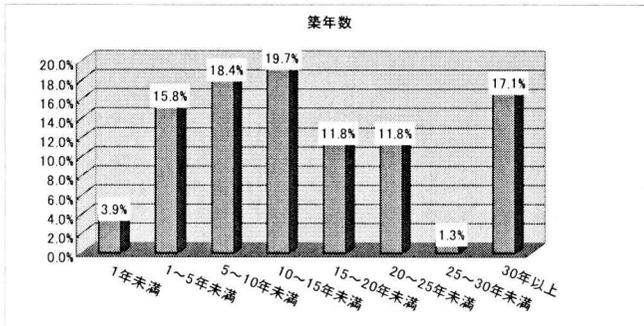
「その他」が1人(1.1%)であった。

図 4-28

住居の部屋数



回答者の住居の部屋の数を尋ねると、「1部屋」が14人(17.5%)、「2部屋」が35人(43.8%)、「3部屋」が17人(21.3%)、「4部屋」が5人(6.3%)、「5部屋」が3人(3.8%)、「6部屋」3人(3.8%)、「7部屋以上」3人(3.8%)であった。

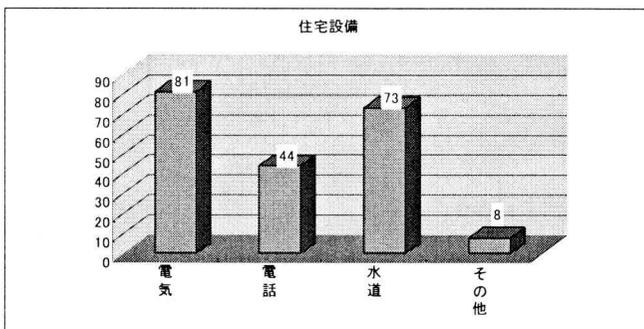


築年数

回答者の住居の築年数が「1年未満」3人(3.9%)、「1～5年未満」12人(15.8%)、「5～10年未満」14人(18.4%)、「10～15年未満」15人(19.7%)、

図 4-30

「15～20年未満」9人(11.8%)、「20～25年未満」9人(11.8%)、「25～30年未満」1人(1.3%)、「30年以上」13人(17.1%)であった。



回答者の住居の住宅設備について複数回答で尋ねると、「電気」が81人(39.3%)、「水道」が73人(35.4%)、「電話」(携帯電話は含まず)が44人(21.4%)、その他の設備が8人(3.9%)

図 4-31

である。その他にはケーブルテレビ（5件）、インターネット（2件）、温泉（1件）が含まれる。

所有する家財

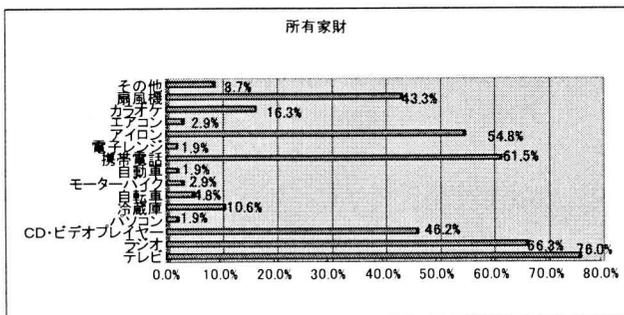


図 4-32

回答者の世帯が所有する家財について複数回答でたずねると、「テレビ」79人（76.0%）、「ラジオ」69人（66.3%）、「CD・ビデオプレイヤー」48人（46.2%）、

「パソコン」2人（1.9%）、
「冷蔵庫」11人（10.6%）、「自転車」5人（4.8%）、「モーターバイク」3人（2.9%）、
「自動車」2人（1.9%）、「携帯電話」64人（61.5%）、「電子レンジ」2人（1.9%）、
「アイロン」57人（54.8%）、「エアコン」3人（2.9%）、「カラオケ」17人（16.3%）、
「扇風機」45人（43.3%）、「その他」9人（8.7%）であった。

3-(3) 健康

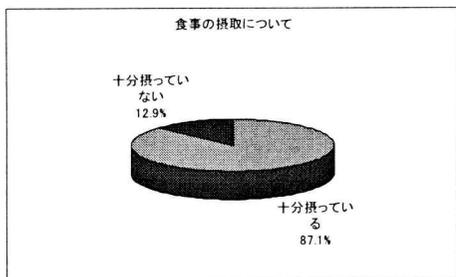


図 4-33

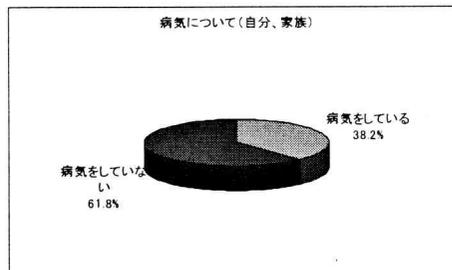


図 4-34

回答者とその家族の健康状態について把握するため、食事の摂取について、持病の有無、定期健診、健康保険への加入について尋ねてみた。回答者のその家族が「食事を十分に摂取していますか？」との問いに、「十分摂っている」が74人（87.1%）、「十分摂っていない」が11人（12.9%）。

「自分または家族が現在病気を罹っていますか？」という問いに対しては「はい」

が29人(38.2%)、「いいえ」が47人(61.8%)であった。「はい」と回答したものに、自由回答でその病名を尋ねると、高血圧症7件、糖尿病6件、喘息3件、心臓病2件、肝臓病1件、がん1件、膀胱炎1件、リウマチ1件、関節炎1件が挙げられた。次に、回答者の健康保険への加入については「加入している」21人(25.3%)、「加入していない」62人(74.7%)であった。定期健診の受診については「受けている」11人(33.3%)、「受けしていない」61人(66.7%)であった。

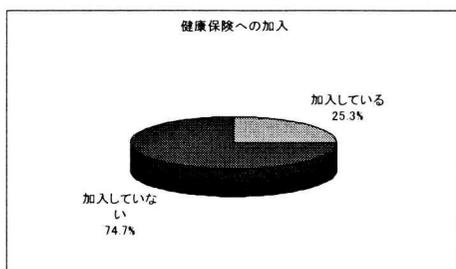


図 4-35

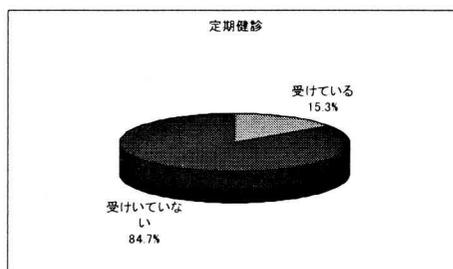


図 4-36

3-(4) 教育

回答者の子どもの就学についてたずねると、「就学している」が49人(60.5%)、「就学していない」が32人(39.5%)であった。「就学している」と答えたものに学校の種類を尋ねると、「幼稚園」10人(16.4%)、「小学校」30人(49.2%)、「高校」11人(18.0%)、「大学」8人(13.1%)、「専門学校」2人(3.3%)であり、一方「就学していない」と回答したものにその理由を尋ねると、「既に卒業した」が21人(52.5%)、「経済的な理由」が11人(27.5%)、「その他」が8人(20.0%)であった。

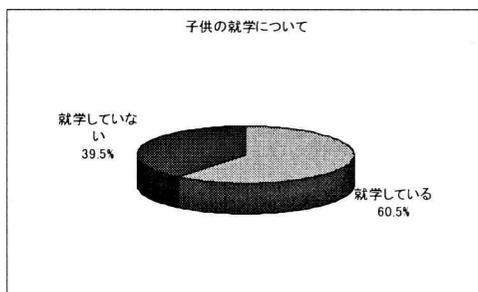


図 4-37

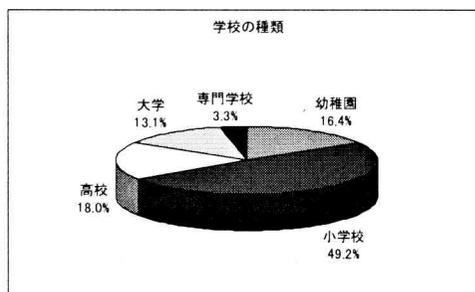


図 4-38

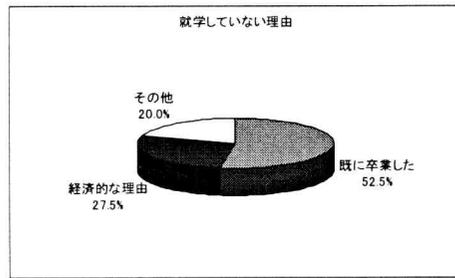


図 4-39

3-(5) 帰属意識について

回答者の「信条・価値観、行動規範」がフィリピン、日本のどちらに属すると思うか？とたずねる質問に対する回答は、「フィリピン」が42人（49.4%）、「日本」が14人（16.5%）、「両方」が21人（24.7%）、「どちらともいえない」が8人（9.4%）であった。

世代別には世代が2世に比べ3世、4世ほど「フィリピン」に属するとの回答が増え、逆に「日本」に属するとの回答が少なくなる傾向が見られた。

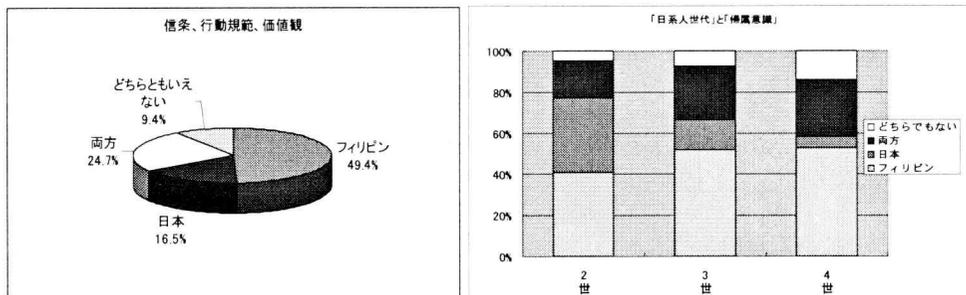


図 4-40

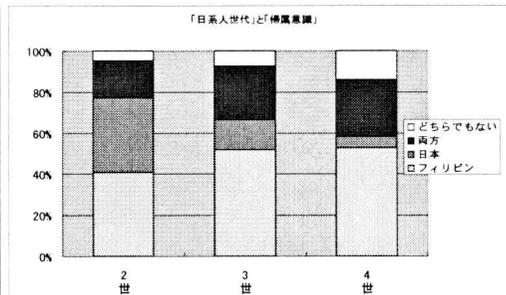


図 4-41

3-(6) 政治への参加

市民としての権利を行使していますか？という問いには、「はい」が46人（86.8%）、「いいえ」7人（13.2%）であった。「はい」と回答したものに、「どのように？」とたずねると、「投票」が32人（64.9%）、「納税」4人（10.8%）、「選挙運動」7人（18.9%）、「その他」2人（5.4%）であった。また、「どのような点で市民社会に貢献できますか？」を自由回答でたずねると、以下の回答が挙げられた。

- ・ 政権交代のための運動に参加する（60代男性）
- ・ 地域や町内会の役員として（50代男性）
- ・ 地域開発のためのプロジェクトに参加し青年、壮年層の健康や生計の向上のために貢献する（60代男性）
- ・ 忍耐をすること（60代女性）
- ・ 与えられた職務を全うする（公務員として）（30代女性）
- ・ 政治経済について憂慮する（30代男性）
- ・ 選挙運動に積極的に参加する（40代女性）
- ・ 国を愛すること（20代男性）

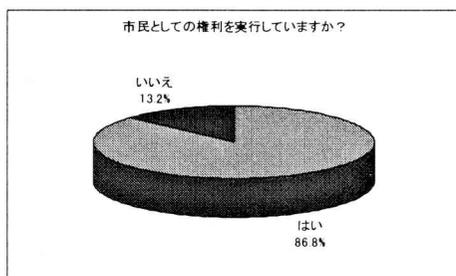


図 4-42

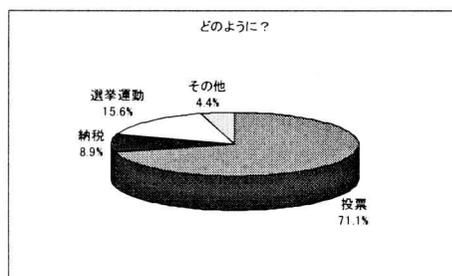


図 4-43

3-(7) 現在直面している問題とニーズ

回答者の抱えている問題（回答者が「問題」であると考えるもの）とそのニーズについて、「経済」「健康」「教育」「政治」「宗教」「環境」「その他」に分類し複数回答で尋ねてみると、最も多かったのが「経済」で73人（70.2%）次に「政治」

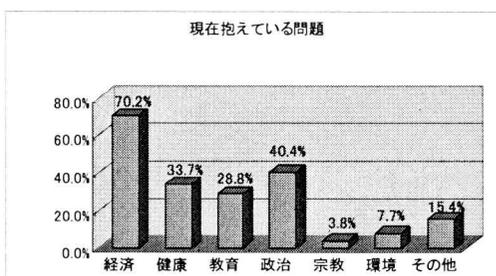


図 4-44

42人（40.4%）、「健康」35人（33.7%）、「教育」30人（28.8%）「環境」8人（7.7%）、「宗教」4人（3.8%）、その他が16人（15.4%）であった。上記の回答の内訳は以下の通りである。

「経済」

教育費が高い	21
教育の質が低い	7
教育施設の不備	2
合計	30

「健康」

医療費が高い	13
医療サービス、施設の不備	12
持病	10
合計	35

「教育」

教育費が高い	21
教育の質が低い	7
教育施設の不備	2
合計	30

「政治」

汚職	21
政府と反政府グループの対立	6
不安定な政治	12
リーダーの不在	3
合計	42

「宗教」

中絶の問題	1
政治への介入	1
宗教間の対立	2
合計	4

「環境」

公害	4
自然災害	3
ごみ問題	1
合計	8

「その他」

日系人としての証拠書類が無い	9
戸籍が見つからない	7
合計	16

4 日系人会への所属

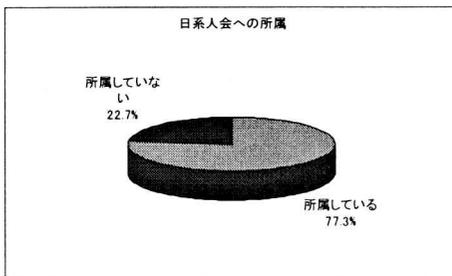


図 4-45

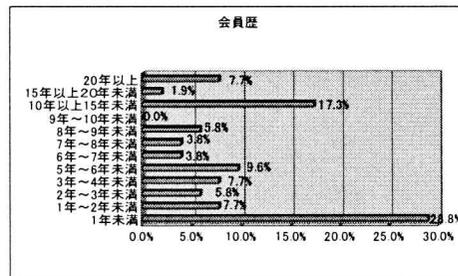


図 4-46

回答者に日系人会への所属についてたずねると、「所属している」が68人(73.0%)、「所属していない」が20人(27.0%)であった。日本人会に所属している回答者に会員歴をたずねると、「1年未満」が15人(28.8%)、「1年～2年未満」が4人(7.7%)、「2年～3年未満」が3人(5.8%)、「3年～4年未満」が4人(7.7%)、「5年～6年未満」が5人(9.6%)、「6年～7年未満」が2人(3.8%)、「7年～8年未満」が2人(3.8%)、「8年～9年未満」が3人(5.8%)、「9年～10年未満」が0人(0.0%)、「10年～15年未満」が9人(17.3%)、「15年～20年未満」が1人(1.9%)、「20年以上」が4人(7.7%)であった。

次に、「どのような活動に参加したことがありますか？」と複数回答で尋ねると、「月例ミーティング」40人(58.8%)、「年次総会」31人(45.6%)、「日本語教室」10人

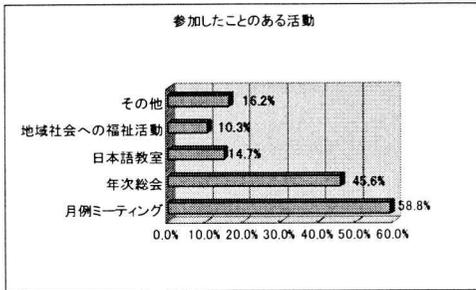


図 4-47

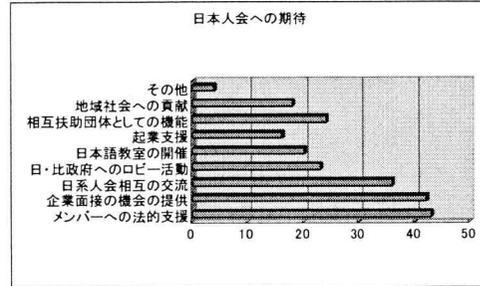


図 4-48

(14.7%)、「地域社会への福祉活動」7人(10.3%)、「その他」11人(16.2%)であった。

次に、期待する日本人会の活動を回答者(所属しない回答者も含む)に複数回答でたずねると、「メンバーへの法的支援」43人、「企業面接の機会の提供」42人、「日系人会相互の交流」36人、「日・比政府へのロビー活動」23人、「日本語教室の開催」20人、「起業支援」16人、「相互扶助団体として」24人、「地域社会への貢献」18人、「その他」4人であった。

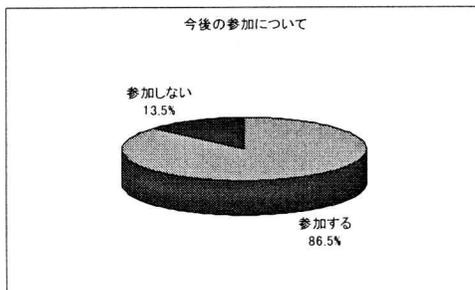


図 4-49

また、「あなたは日系人会に積極的に参加するつもりはありますか?」との問いに、「参加する」45人(86.5%)、「参加しない」7人(13.5%)と回答があり、それぞれの理由を自由記述でたずねると、以下の回答が挙げられた。

〈積極的に参加する理由〉

- ・メンバーに対して法的支援を実施しているから(40代男性)
- ・友愛、親睦のため(40代男性)
- ・自分のためではなく、兄弟や子どものために(60代女性)
- ・日本の戸籍を見つきたいから(30代男性)
- ・日本の文化を知りたいから(60代女性)
- ・他の日系人の生活の向上を支援したい(60代男性)
- ・日系人会の役員をやっているから(60代男性)
- ・日系人会は家族同様であるから(60代女性)

- ・多くの友人がいるから (30代女性)
- ・日系人、日系人会を誇りに思っているから (60代女性)
- ・日系人会は私たちを助けてくれるから (40代男性)
- ・子どもたちの日本での就労を手助けしてくれるから (60代女性)

〈積極的には参加しない理由〉

- ・仕事がとても忙しいから (40代男性)
- ・活動にあまり興味がないから (20代男性)

日系人会への課題点、発展のための提案、要望

回答者に自由記述方式で尋ねると、以下の意見が寄せられた。

〈課題点、提案—日本人会の運営〉

- ・会則の遵守と会費の納入を会員に課す (40代男性)
- ・日本的価値観やシステムが業務に応用され、事務所や備品を完備する (40代男性)
- ・活動資金不足を解消するため、会費を10%値上げする (40代女性)
- ・迅速な書類処理のため、日本人の法的支援専門家に個別相談できるようにする
(20代男性)
- ・財政難の克服 (20代女性)
- ・定期的な会合を持ちお互いの親睦を深める。差別を無くし互いに尊重しあう
(30代女性)
- ・会への収入事業を行う (20代女性)
- ・法的な知識不足、専門家が必要 (30代女性)
- ・新聞や手紙等で情報会員に対して情報を提供する (60代女性)
- ・日系人会事務所のための土地と建物。事務機器と日本語教師 (40代男性)
- ・活動資金集め (30代女性)
- ・会員に対する透明性 (30代女性)
- ・会員の管理と十分な資金集めを行う (40代男性)

<活 動>

- ・日本語会話教室を無料で開催（40代男性）
- ・日本語教育に力を入れる（60代女性）
- ・日本での就労斡旋（50代男性）
- ・生計向上プログラムを実施（30代女性）
- ・戸籍への登籍支援（50代女性）
- ・メンバーへの奨学金支給（50代男性）
- ・収入向上プログラムやマネジメントのコースの開講（40代男性）
- ・日系人の身元捜しを積極的に支援することで会員の積極的な参加を促す（30代女性）

<その他>

- ・メンバー間の協力と一致（50代男性）
- ・会員同士の交流、コミュニケーションを活発にする（40代女性）
- ・会員間のコミュニケーションを活発にする（50代女性）
- ・血縁主義、個人的な問題を会に持ち出さないようにするべき（30代女性）

<要 望>

- ・日本語会話教室を無料で開催してほしい（40代男性）
- ・日本語教室の増設を希望する（20代女性）
- ・書類を失った日系人に対し、日本での労働や日系人としての権利を受けられるよう支援して欲しい（50代女性）
- ・子どもたちのために法的な支援をお願いしたい（60代女性）
- ・スタッフと役員は誠実に職務をこなしてほしい（50代男性）
- ・会員に対してわけ隔てなく支援をしてほしい（50代女性）
- ・経済的に困窮しているため、私と子供たちが日本へ働きに行けるよう助けてほしい
(40代女性)
- ・戸籍や証明する書類がない会員への支援（50代女性）
- ・日系人組織は会員を参加させるため現実的な活動をして欲しい（50代女性）
- ・日系人としての証拠書類等を集める資金がないので、貸付をしてほしい。
(30代男性)

5 今後の日系人社会について

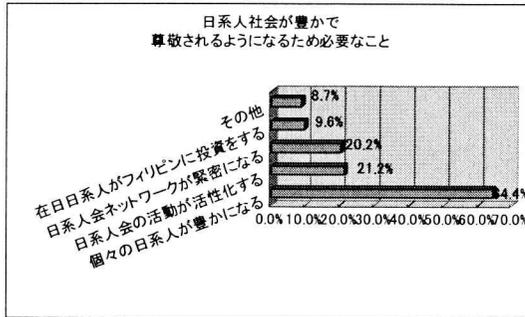


図 4-50

回答者に「日系人社会が豊かで人から尊敬されるようになるため必要なことは？」とたずねると、「個々の日系人が豊かになる」67人（64.4%）、「日系人会の活動が活性化される」22人（21.2%）、「日系人会ネットワークが緊密になる」21人（20.2%）、「在日日系人がフィリピンに投資をする」10人（9.6%）、「その他」9人（8.7%）であった。

6 回答者の将来の展望－夢、抱負について

回答者とその家族が、日系人として未来の展望をどのように描いているかを把握するために、「自分と家族の将来の夢、抱負について」を自由記述方式で尋ねると、43人から多岐にわたる回答が寄せられた。集計にあたり、記入のあった回答のうち、複数の意見が含まれるものについては、個々の意見ごとに分割して集計を行った。（分割後の回答数は116件になる）。

最も多かった順に、「日本への就労」31件、「生活の向上」28件、「日系人として認定されたい」18件、「教育」10件、「日本へ行きたい（就労除く）」9件、「身元について知りたい」5件、日本の文化を学びたい3件「その他」12件となった。

- ・海外で就労する。安定した収入を得る。家族を養い、教育を受けさせ、家を持つ。安泰な家庭を築く。老後のための貯蓄をする。（40代男性、B）
- ・よりよい生活。個人の努力が報われる。健康で安定した収入。（40代男性、B）
- ・家族で住むための家を建てる。子供に私立学校へ行かせたい。子どもたちが若いうちに日本で働く機会を与えたい。（50代男性、B）
- ・日本での就労、子どもを大学に行かせる。（40代、女性、C）
- ・日本へゆき、日本で働いている子どもたちの手助けをしてあげたい。（60代女性、C）
- ・日系人として認められる。子どもと兄弟の将来のためにも（30代男性、C）
- ・自分の身元について知りたい。子どもたちの将来のため、日系人として認められた

い (40代男性、C)

- ・日本へ行き、文化、価値観を学びたい (60代女性、C)
- ・一日に食事が3度とれ、こどもたちに教育を受けさせ、人並みの家を持つこと (30代男性、B)
- ・子どもに日本とフィリピンの国籍を持たせたい。 (60代男性、A)
- ・大勢の貧困状態の日系人への支援と生活の向上。日本への就労 (60代男性、A)
- ・日系人認められ、日本で就労し、親族に逢いたい (30代女性、B)
- ・父の祖国である日本へ行き働く (60代女性、B)
- ・子どもたちに日本で定職につけさせたい (70代女性、B)
- ・家族を日本へ連れてゆきたい (20代男性、A)
- ・フィリピンの生活は厳しいため、日本で働き、暮らしを向上させたい (60代女性、C)
- ・家族のために家を建てるため、日本で働きたい。 (60代女性、C)
- ・私たちは祖父の日本の住所等の必要書類が揃わない為、未だ日本へ行くことができない。生活水準を上げ、子供を学校に行かせるために支援がほしい (40代男性、B)
- ・美しい日本を見てみたい (30代女性、C)
- ・いつの日か、5世、6世の日系人とその子供たちが日本に行き、働く機会を得ること (50代男性、A)
- ・家を購入し、毎日家族を養う分を稼ぐ (40代女性、B)
- ・日本人の子孫として認められる (60代男性、A)
- ・日本にもし親戚が生存するなら、彼らに会いに行きたい。生活を楽にしたい。日本人と友好的な関係を築きたい。子供や孫たちが日本に行く権利、働く権利を受けられるようにしたい。 (60代女性、A)
- ・今の生活のレベルが上がること (30代男性、A)
- ・家族や親戚とともに、健康でよい人生を送りたい (50代男性、B)
- ・家族へよりよい生活。安定した収入と将来。祖父が生きた場所 (日本) での生活 (40代女性、B)
- ・孫の将来のため、就籍をしたい。 (50代男性、A)
- ・家族の生活状態がよくなり、親戚を支援できるようになること (50代女性、B)
- ・日系人として明確に認定され、日本で家族と共に事務職や専門職の仕事を得る。 (30代女性、A)

- ・私自身と家族が一刻も早く日本でよい仕事につき、生活を向上させたい。(30代女性、C)
- ・私の夢は将来経済的、情緒的に安定した生活を送れるようになること。(30代女性、無回答)
- ・私の息子、娘たちが日本で働いているので、希望は叶いました。(60代男性、A)
- ・日本での就労を通じて生活が向上し、地域の人々に貢献できるようになる。(60代女性、B)
- ・生活向上と子供に教育を受けさせる(60代女性、A)
- ・家族生活が十分に生活でき、暮らし向きがよくなる(40代女性、B)
- ・将来のためにこどもにより教育を与えたい(40代男性、B)
- ・子どもに教育を受けさせたい(30代男性、B)

7 日本政府への提言、意見

自由記入方式で31件の提言及び意見が寄せられた。集計にあたり、記入のあった回答のうち、複数の意見が含まれるものについては、個々の意見ごとに分割して集計を行った。(分割後の回答数は57件になる)。最も多い順に、「日系人に対する支援」23件、「日本での就労の機会」12件、「日系人の受け入れに関する要望」8件、「日系人組織に対する支援」5件、「支援に対する感謝」3件、「その他」6件になった。

- ・日系人を日本人、日本社会の一員として受け入れてほしい。日本での就業の機会と保証を日系人としての認定を求める。(40代男性、B)
- ・戦争によって不幸な境遇のなかで生きてきた日系人に支援の手を差し伸べていただきたい。証拠となる種類に関しての支援をしてもらいたい。(30代男性、C)
- ・戦争によって日系人であることを証明できる書類を焼失したものに対する支援。(60代女性、C)
- ・専門技術を持つ日系人に対して、日本での専門職の就労の機会を与えてほしい。(20代女性、A)
- ・日系人の生活向上のための支援(30代男性、B)
- ・日系人として早期の認定。日系人会へ事務所、教室、病院の支援をしてほしい(40代男性、B)
- ・日系人組織強化のための支援(60代女性、不明)

- ・戸籍、就籍への理解と支援（60代男性、A）
- ・日系人を兄弟同様に扱ってほしい（30代女性、A）
- ・日本への就労のため、柔軟な対応（30代女性、B）
- ・カテゴリCからBへの申請を認可してもらおう。祖父の国籍と同じくする。（50代女性、C）
- ・日系人をのルーツは日本人と同じであると認め、尊重し、支援することを希望する（60代女性、C）
- ・フィリピンの農民は非常に苦しく、生計を立てるための作物を植えることもできない。日系人に仕事を与えてほしい。（無回答、女性、C）
- ・日系人への支援を優先させてほしい。（40代男性、B）
- ・正真正銘の日系人に対して門戸開いてほしい。（30代男性、B）
- ・生活の向上のため、家族が日本へ働きに行きゆく機会を与えてほしい。（80代女性、A）
- ・日系人の生活状態の向上のため、誠実な支援を続けてほしい（50代男性、A）
- ・日系人としてのアイデンティティを持ち続ける私たちの認定の要求や手続きを厳しくしないでほしい。戦後に無視されてきた日系人の登録を簡略化してほしい。（60代女性、A）
- ・継続的な支援（50代男性、B）
- ・日系人の身元捜し、認証、書類の迅速で確実な認定方法の導入（30代女性、B）
- ・日系人に日本人としての市民権を与える。（30代女性、A）
- ・フィリピンに対する支援を引き続き行っていただきたい。日系人、フィリピン人に関わらず、無償で教育を受ける機会を与えて欲しい。（30代女性、C）
- ・私たちが日系人としてのアイデンティティが確立できるよう、また経済的にも自立できるよう支援をお願いしたい。（30代男性、不明）
- ・日本政府の日系人に対する支援に感謝している（40代女性、B）
- ・少しでも多くの日系人を支援して欲しい（30代女性、C）
- ・日系人をのルーツは日本人と同じであると認め、尊重し、支援することを希望する支援してくれることを期待している（60代女性、B）
- ・日系人の生活をよくする為、日系人会を財政的に支援してほしい（60代女性、A）
- ・困窮している日系人を救ってほしい（20代女性、A）

3. まとめ

1 生活状況

経済 物価の上昇や雇用の悪化が回答者の世帯の家計を圧迫しており、子供の就学をやめさせる、病気の治療が難しくなるなど、経済的な問題が回答者の抱える問題の大きな割合を占めていると考えられる。フィリピン国家経済開発庁統計調整委員会（NSCB）が発表した統計（2006年度）によると、衣食住に最低限必要な年間生活費（貧困ライン）は、全国平均で1人当たり13,113ペソとされ、回答者の家族5人の平均的世帯では、月収約5,460ペソが必要となる。しかし、都市部では1人当たりの年間生活費は17,040ペソ、月収約1,420ペソとなり、貧困ラインを超えるためには必要な月収は約7,100ペソである。全国平均の中でみると回答者の10.2%は貧困ラインを下回り、都市部の枠組みでみてみると、約3割は貧困ラインを下回る収入での生活を強いられていることになる。回答者の雇用状態で無職、主婦が高い比率を示していることから、現状において就職問題は深刻であると考えられる。8割を超える日本への就労希望の背景には、厳しい経済状況があるといえる。

生活環境 基礎インフラへのアクセス（電気、水道、電話など）は世帯所得、地域格差が大きいと考えられる。回答者の住宅事情は持ち家、借家、親戚の家と分類すると、約半数は持ち家となったが、地域や世帯の所得ごとに住居の材質、立地条件、周囲の環境が異なるため、台風などの厳しい気象状況に対する耐久性なども「持ち家」の回答者の間に大きな差があると思われる。部屋数は3部屋以下が8割以上となり、1部屋のみが2割近くである。

教育 回答者の学歴の約4割は「大学」と高いが、前述の理由（英語、ダガログ語による調査）のため、日系人の全体像を反映しているとはいえない。子どもの就学については3割が経済的な理由で就学していない。回答者の将来の希望にも「子どもの就学」が挙がり、教育に関する問題にも、「教育費が高い」が高い比率を占める。

健康 「回答者とその家族が食事を十分に取っていない」との回答が1割以上、「病気を罹っている」が約4割、また「健康保険への未加入」が約7割、「定期健診を受けていない」回答者も7割近くいる。回答者の健康における問題点として、「医療費が高い」という声が多くよせられた。保健医療財政難が挙げているが、回答者の抱える健康に関する問題には、保健医療へのアクセスは地域間格差、所得階層間格差に存在し、所得階層レベルが低下するにつれて保健医療指標が悪化する傾向にあると考え

られる。

日系人としての帰属意識 回答者の信条、行動規範、価値観は「日本」に属していると思う回答者が2世に多く、3世、4世と回答者の年代が若くなるほど「フィリピンまたは両方」と回答する傾向がある。2世の「日本」との回答したものなかには「天皇陛下を敬愛している」との回答を記述するものもいた。4世には「フィリピンで生まれ、育ったので比較ができない」、また両方に属していると回答したものは「日本的な価値観を祖母、両親から教えられて育った」「母は私を日本人として育てたため、日本人的な価値観を持っていると思う」など、世代によって意識が違うことがわかった。

政治への参画 回答者の抱える問題に34%が「政治」が挙げられたが、86.8%が積極的に政治に参画していると回答し、投票、選挙運動、納税などを通じて市民としての権利を実行、行使していると回答している。具体的な問題としては、汚職の防止、安定した政府、政府と反政府グループの和解が挙げられた。

宗教 宗教に関して問題を抱えるとする回答は他と比較し非常に少ないが、具体的な問題として、宗教の政治への介入、中絶の問題、宗教間の対立が挙げられた。キリスト教徒が9割以上を占めるフィリピンでは、人工中絶が非合法となっている。また回答者から「宗教間の対立」の問題が挙げられたが、特にミンダナオ地域はイスラム教徒、キリスト教徒の対立により、開発が遅れているといわれている。

2 日系人会への所属

日本人会へは7割以上が所属しており、その8割が今後も積極的に参加すると回答している。日系人会への要望のなかに「日本語学習」について多く見られた。高い日本語学習への関心は、日系人としての日本語を身につけたいという動機のほかに、将来、日本での就労、生活したいとの希望も大きく関連している考えられる。日系人会への発展のための提案には、日系人としての身元探し、日系人認定に関わる事務処理の迅速化を求める意見もみられ、所属日系人会への期待の多くはメンバーへの法的支援、日本での就労先の紹介が共に4割以上となった。続いて日系人会が相互扶助組織としての役割、日系人会同士の交流、親睦が回答者の期待としてもたれている。

3 将来の希望

日本での就労を希望する回答者が全体の8割を占めた。7割の回答者が家族の生活の向上を求めており、半数が日系人としての出自を明かしたいとの希望を明かした。

4 政府への提言

政府への提言には7割以上が「日系人への支援」を提案として挙げた。「出自を明らかにするための支援」「日本への就労」の声が圧倒的に多い。日系人として認定されるまでの複雑な手続き、処理にかかる時間、戦時中に焼失した身元証拠に対する理解を求める声も含まれる。

第2節 聞き取り調査

1. 調査の実施概要

1 目的

第1節のアンケート調査による量的調査を補足し、在比フィリピン日系人について質的なデータを得ることを目的に聞き取り調査を実施した。日本就労がフィリピン日系人に及ぼしている影響やインパクトを明らかにするという本研究の趣旨にかんがみ、在比フィリピン日系人の中でも特に日本就労経験を持つ日系人を選び、聞き取りをした。

2 方法

アンケートに回答した在比のフィリピン日系人の中から、特に日本で働いた経験を持つ日系人を選び、面接調査を依頼した。面接は日系人会の場所を借りて行ったり、家庭訪問したりした。以下の内容は、被調査者が現地の言葉又は英語で陳述したそのままを、同時進行的進行的に日本語に翻訳し、書き留めたものである。被調査者氏名、出てくる固有名詞等は仮名とした。

2. 調査結果

1 ネルソン・ハコバルさん（仮名）

56歳男性3世 ベンゲット州ラトリニダッド在住

私の祖父は移民1世の加藤S、母が残留2世の加藤K子です。私は8人兄弟（男3人、女5人）の2番目です。8人中、私を含め5人（男3人、女2人）が日本で働いた経験があります。今も兄弟のうち3人が日本にいます。このうち2人は戸籍に本人らの名前を登載済みで、現在日本旅券申請中です。この2人の子どもたちも日本で暮らしています。

私の子どもは4人（男3人、女1人）で、末の男の子はまだ学生ですが、3人は成人し、日本で働いています。

私が最初に日本に行ったのは1993年6月でした。母（2世）とともに観光ビザで入国しました。神奈川でUさん、Mさんが戸籍をとって来て、定住ビザに切り替えしました。その手続きに10万円くらい支払いました。

Uさんの紹介で就職しました。赤城山の車部品の会社で1年くらい働いたあと、前

橋のKミートに移り、そこで6年働きました。その後、娘が働いていた富岡に移りましたが、その会社が倒産したので、Kミートに戻り、さらに2年働きました。

前橋のKミートでは通産8年近く働いたことになります。最初は時給850円でしたが900円に上がりました。残業時は時給1,000円です。最初は月給手取り15万くらいでしたが、その後17万くらいになり、今では残業があると20万円までいきます。ボーナスは年に3回出ます(5万円とか10万円とかです)。

同じ会社に長く勤めると自給が上がる、ということを私自身学びましたが、私の子どもたちのような若い世代の日系人にそれを言っても聞きません。

同僚の日本人の中に友達と呼べる人もいて、一緒にディズニーランド、シーパラダイス、横浜、大阪、京都、館林などに連れて行ってくれました。Kミートの社長も一緒にいったこともあります。

私の妻は1988年から1992年まで香港で働いていましたが、日本で働いたことはありません。フィリピンでは家族で養豚業(10~20匹)をやっています。3ヶ月ごとに売って、お金を得ます。

私が1993年に初めて日本にいったとき、長女は高校生、末っ子は5歳でした。つまり、子どもたちの教育費はほとんど私の日本への出稼ぎ時の送金でまかなってきたといえます。

1995年に80万ペソかけて家を改築し(セメントの家)、2000年に200万ペソかけて近くにもう1軒家を建てました(2ヘクタールの土地)。これは子どもたちのための家です。この家は私の6年間分の貯蓄をつぎ込んで建てたというかんじです。日本で一番お世話になったK社長が、一度フィリピンに来て、私の家まで訪ねてきました。「すごいな~、私の家より大きいよ」と言っていました。

子どもたちに教育を受けさせることができたこと、そして家を建てたこと、この2つが、出稼ぎによる最大の変化です。

現在は末の息子が大学1年生ですが、彼の学費は他の2人の息子からの仕送りを充てています。

9年間の日本生活で、毎年1回ないし2年に1回フィリピンに帰国し、20日間くらい休暇をとりました。休暇は8月か9月にとることが多かったです。

日本で学んだことは、考え方です。仕事のプロセス、約束を守ること、仕事は速くやること、など。日本では、日本語がよく話せないと娯楽にお金を使わず、家と仕事

の往復になります。それでお金がたまります。

日系人の友達はいます。Hファミリーの夫婦、Kファミリーなどです。でも、日本にこれだけ多くのフィリピン日系人が働いているにもかかわらず、日系人どうしの連帯のようなものはありません。シェアリングがないからでしょう。日本で日系人が集う機会があったら参加したいです。ネットワークがあったらいいと思います。

再び日本に戻り、働けるまで働くつもりです。あと2年くらいでしょうか。フィリピンでの養豚ビジネスは続けます。

2 サウロ・コンスタンチーノさん（仮名）

37歳男性、3世、マニラ首都圏リサール州在住

私の祖父は金城T、母は残留2世の金城S子（70歳）です。私は姉と二人兄弟です（弟が1人いましたが、事故で亡くなりました）。姉はスイス人と結婚し、オランダに住んでいます。私は現在独身で、ここフィリピンでは母と2人暮らしです。

私は1999年から静岡県Y軽合金で働いてきました。今回、いったん退職して帰国しましたが、戻ってきたければ会社はいつでも受け入れるとってくれています。しばらく休んだら、またこの会社に戻ろうと思っています。

Y軽合金では派遣会社O社から派遣されて働いていました。Y軽合金はT合金の下請け会社です。車の窓のゴムの部分をつくる仕事で、ラインについて働いていました。仕事は8時半から5時半までで、時々残業もありました。

来日当初は時給780円でしたが、最後には1,000円になりました。平均月給18万円くらいでした。来日直後は12万の借金があったので、月給でも手取り7万円くらいでした。その返済が終わった6ヶ月後には月給13万円になりました。多いときは月給20万円というときもありました。夜の11時まで残業したときです。

基本的に土日は休みでしたが、土曜に半日勤務があることもありました。住居は会社提供でした。家賃光熱費含めて8万円が給料から引かれていました。アパートは2部屋ついて5万6千円です。

沖縄出身の日本人、ブラジル人、フィリピン人が一緒に働いていました。仕事は、はじめは大変でしたが、最終的には慣れました。最初ホームシックに苦しみました。最後のほうは、同僚も日本人の上司もやさしいので、特に問題はなくなりました。仕

事と同僚に沖縄出身の夫婦がおり、とても親切でした。1999年に友達とディズニーランドにいきました。

日本語は少しできるようになりました。最初、ポケットブックで帰宅後にアパートで勉強しました。そのうち会社で日本人と日本語で話すようになり、上達しました。

1999年から今日までにとった休暇は、2001年12月に1週間、2004年8月に2ヶ月半、それだけです。毎月フィリピンの母に3万円送金してきました。

2001年に、自分の名義でこの家（ビレッジの中にある2階建て・セメントづくりの家。土地は60平米）を買いました。自分と母のための家です。3万円の中から5年間、毎月家のローン12,491ペソを払ってきました。そのローンは2006年1月に終わる予定です。

母は糖尿病を患っており、薬代やインシュリン代で毎月2千ペソかかります。母は私が日本で働いている間、母は1人暮らしだったので、身の回りの世話をするための介護者を雇っていました。これらの費用は私の日本からの仕送りから家のローンを支払った残りのお金の中でまかなってきました。

1999年に日本に行く前は、私はマニラでチョコレートของบริษัทで働いていました。1996年から6ヶ月間です。その後、バスケットやペンキなどの缶の会社でも働きました。日給250ペソでした。日本で働くようになって、生活が楽になったと感じます。何より大きな変化は、この家を買ったことです。母も喜んでいます。

将来の計画は、車を買って、バウンダリー（車を所有し、ハイヤーのために貸し出すシステム）をやりたいと思っています。といっても、できる限りは日本で働きたいと思っています。

日本政府への要望は、これは私ではなく母の希望ですが、祖父が戦中、日本のための働いたことに対し、日本政府が補償してくれるのかどうか知りたい、ということです。祖父はゲリラに殺されて亡くなったので。母はしかし、私が日本で働けることについては、日本政府に感謝しているといいます。母は病気で、私の送金がなければ医療費を捻出することもできなかったのですから。オランダに住んでいる姉も、時々母に生活費・医療費の援助のため送金しており、私が帰国中で仕送りが無い現在は、母の医療費は姉からの送金からまかなっています。しかし不足がちで、十分ではありません。

3 マヌエル・カルリトさん（仮名）

32歳男性、4世、バギオ市在住

妻とふたりで山梨の工場で働いていましたが、今、休暇で1カ月間、バギオに帰ってきています。日本で働き始めたのは4年前です。始めは1年半くらい広島で牡蠣の収穫の仕事をしましたが、きつい仕事だったので、親戚のつてを頼って現在の会社に移りました。

フィリピンでは、祖母（2世）、長女である母（3世）、妻、子ども4人（小学校3年、2年、来年小学校に上がる子、2歳）の7人家族です。祖母と母は仕事をしていないので、私たち夫婦の日本からの仕送りが頼りです。毎月平均7万円仕送りしてきました。多いときは8～9万円送ったこともあります。日本でのアパート代は光熱費含めて6万円です。

日本での仕事はコピー機の組み立てです。同僚にはブラジルやペルーの日系人が多く、フィリピン人は4人、日系人は僕たち夫婦だけで、他は日本人と結婚しているフィリピン人です。今回のような休暇は大体年1回ですが、年2回ももらったこともあります。子どもに会いたいから、係長に頼んで許可をもらっています。

日本で働く前は、メトロバンクに勤めていていました。月給4千ペソでした。家族が増えるにつれて十分ではなくなったので、日本で働くことにしました。もし日本で働いていなかったとしても、外国で働く道を選んでいたと思います。

日本で働くようになって、収入が増え、生活レベルが上がりました。家を建て替えることもできました。これらは、よかった点です。

つらかったのはホームシックです。それと、最初の頃とまどったのは、仕事の仕方がフィリピンと違うこと。日本では、働いて働いて働いて働かなければなりません。日曜日しか休みがありません。休みの日は疲れて出かけることもできません。今はもう慣れましたが。日本で、勤勉に働く、ということを学びました。勤勉に働けばたくさん稼げる、ということ。

フィリピン人の友人はいますが、フィリピン日系人の友人は、親戚（叔父、いとこ）以外はいません。静岡に叔父（3世）がいるので時々行き来があります。別の親戚も同じ山梨に住んでいて、時々会っています。

問題点は、教会に行きたいのですが、カトリックの教会のある場所がわからないこ

と。病気になったとき、どんな薬を買ったらいいのかわからないこと（フィリピンからの薬でセルフメディケーションしています）。それと、最初の頃ですが、南米の日系人が仕事を押し付けてきたこと。日本語ができるからといって日本人リーダーにとりいるような人がいて困りました。どう文句を言ったらいいのかわからず、仕方なく自分がたくさん仕事をしたこともありました。

1月に日本に帰ったら、妻と2人で『くもん』の日本語教室に通おうかと考えています。僕たちの地域では外国人が多いので、役所でも日本語教室をやっています。

夢は、子どもが学校を終えること。その後子どもたちが大きくなったら子どもたちが日本で働き、自分たち夫婦はフィリピンで生活、というのが理想です。バギオでアパートメントレンタルのビジネスを始めたいと思っています。

4 NY（仮名）

83歳男性、2世、ベンゲット州在住

私は残留日本人2世です。子どもは全部で10人ですが、現在日本で働いているのは1人だけで、その息子は夫婦で名古屋で働いています。他の子どもたちは、3人は米国におり、それぞれ看護婦、歯科医、会社のアシスタントマネージャー、別の1人はカナダで看護師をしています。他の子はフィリピンにおり、それぞれ州議会議員、弁護士、運転手、農業をしています。それに無職の娘（既婚）が1人います。子どもたちの職業は教育レベルに左右されています。運転手、農業、無職、日本で働いている4人は高卒で、他は大卒です。大卒の子たちは専門職についていますから、日本就労の必要はありません。

現在日本で働いている息子夫婦には、子どもが5人いますが、息子の妻の姉妹がフィリピンで面倒をみています。彼らの長男が17歳になるので、そろそろ日本に連れていこうと思っているようです。残りの子どもたちはフィリピンの高校、小学校に通っています。日本で働く息子夫婦は自分の家族に仕送りしており、主に子どもの学費になっていると思います。私は関知していません。親の私たちに送金はありませんが、私は子どもたちのビジネスに関与するつもりはありませんから。

現在無職でフィリピンにいる娘レヒナも、かつて3～4年、日本で働いたことがあります。彼女の子ども3人が現在日本で働いています。

私自身は日系人会の理事をしている関係で2回、名古屋と広島のを会社を訪ねたことがあ

ります。日本で働く日系人は会社を豊かにしなければなりません。そうしないと職を失うし、ボーナスももらえません。

私は日本で働いている子どもや孫たち、他の日系人たちの環境をよくすることを考えています。日本で事故にあったときや病気になったとき、雇用主はもう少し親身になって世話をしてくださると思います。そうすれば彼らは会社を好ましく思うでしょう。また就労前に労働条件を正確に伝えることが必要だと思います。給料天引きがどれくらいあるのかということがよく伝わっていないことがあるようです。

プライベートな私の希望は、日本の父の親族を訪ね、フィリピンに招くことです。それから戸籍に名前のあるカテゴリーAの家族は4世まで定住ビザを取得して日本にいきますが、日系人は戦争で苦しんだことを考えれば、日系人は、何世まで、と制限されることなく、何世代までも日本に定住し就労する権利が認められるべきです。

私の父は戦争中、戦前、父から「決まりを守ることを厳しく教えられました。たとえば父は机の上の50センチボがなくなると家族全員、食事をとることができず、申し開きをさせられました。また6時に帰宅するように、といわれていて遅れると、家に入れてもらえず、外で犬と寝なければなりません。このような厳しさは日本人特有の文化・信条だと思います。フィリピンに残留し、長くフィリピンで生きてきた私ですが、今もこれらは私の行動原理となっています。私はそれを子どもたちや日系人会の若いメンバーに教えています。それが日系人の日系人たるゆえんであってほしいと思います。日本で働く日系人にはこのような教育が必要だと思います。

第5章 在日フィリピン日系人調査

第1節 アンケート調査

1. 調査の実施概要

1 目的

本調査は、国籍確認が済んだフィリピン日系人の日本における定住および就労の実態を把握するとともに、1) 付随して起こっている問題および将来の希望、さらには2) 日系人会との関わりを明らかにすることで、フィリピン日系人に対する政策提言の基礎的資料を得ることを目的とする。

2 方法

フィリピン全土から来日し、日本で生活をしている2世、3世、4世のフィリピン日系人を対象とした。フィリピン日系人を雇用している企業52社および、フィリピン日系人を雇用している可能性のある企業76社の計128社を通じ、日系人へ調査表の配布を行った。企業の担当者に対しては、調査の趣旨説明と協力をお願い、調査方法の説明を電話および書面で行った。さらに、企業関係以外でも、日本に滞在するフィリピン日系人個人20人に対し調査票を直接送付した。

3 回収状況

アンケート配布時期：2005年

配布数：1,130通（うち、企業を通じて配布930部、日系人個人へ直接配布200部）

回収数：140件

有効回答数：130件

回収率：12.4%

4 収計方法

単純集計に加え、項目別のクロス集計を行った。

2. 調査結果

1 回答者の基本的属性

性別・年齢

本調査の有効回答数 130 中、男性は 66 人（全体の 50.8%）、女性は 61 人（全体の 46.9%）、性別不明が 3（2.3%）であった。（図 5-1）「年齢」別では、40 歳以上 45 歳未満が一番多く 21 人（16.2%）であったが、他の世代との大差はなく、20 歳から 54 歳まではどの年代もまんべんなく数が分散している。年齢幅は、最年少が 17 歳から最年長の 55 歳までであった。（図 5-2）

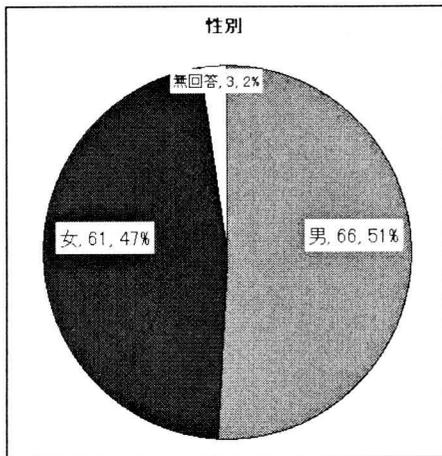


図 5-1

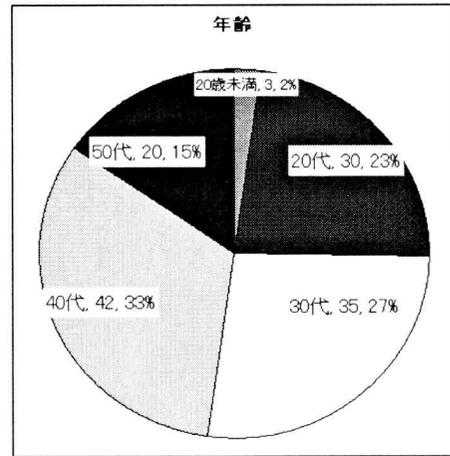


図 5-2

婚姻上の立場

既婚者が 97 人（74.8%）と未婚者 24 人（18.5%）を大きく上回った。死別、離婚などはいなかった。（図 5-3）

フィリピンの出身地と現住所

フィリピンの出身地については、ミンダナオ出身者が 70.0% と圧倒的に多く、次はルソン地方の 16.9% だった。これは、日系人の数が、フィリピンの中でもダバオ周辺のミンダナオ地域に多いことに加え、アンケート実施

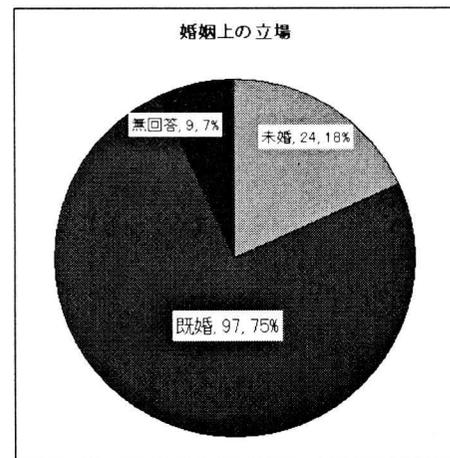


図 5-3

に協力した企業の多くが当地を中心にして日系人雇用を行っていることも影響している。(図5-4) 現住所は、東北地方在住者が36.9%と最も多かった。その次に四国地方(22.3%)、中部地方(17.7%)、関東地方(14.6%)と続いた。現住所地の分布は、今回の調査に協力的だった企業の所在地の分布と一致している。東北地方は主に福島県、四国地方は香川県に数が集中している。(図5-5)

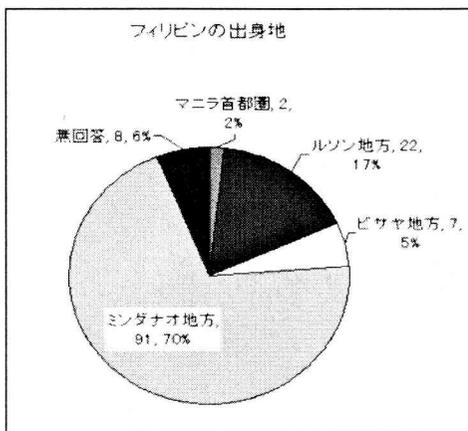


図 5-4

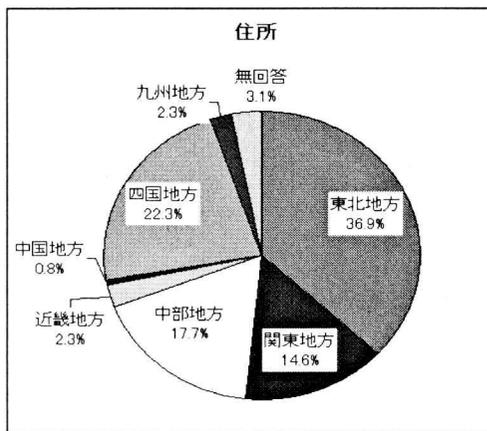


図 5-5

学 歴

大学(中退、卒業問わず)まで教育を受けた者は38.5%で最も多く、ついで高校までが27.7%、小学校が22.3%だった。無就学も2名いた。大学院は1名。高学歴者が多くなったのは、本調査が、英語とタガログ語で書かれた質問表に記述式で回答するという方法をとったため、高学歴の者からの回答率が高くなったことも影響していると思われる。

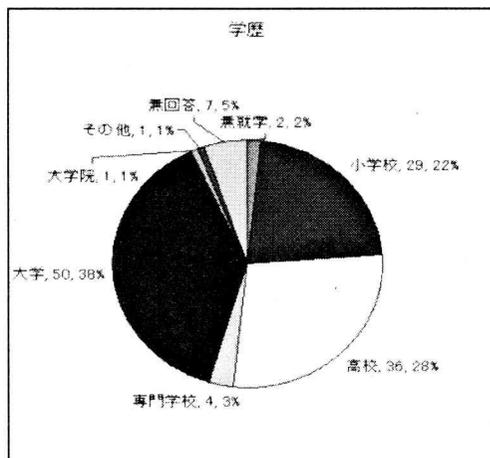


図 5-6

使用言語

複数回答で、タガログ語が 111 (33.4%)、英語が 81 (24.4%)、ビサヤ地方やミンダナオ島方面で使われているビサヤ語が 73 (22.0%)、日本語も 42 (12.7%)、ルソン北部で使用されているイロカノ語が 6 (1.8%)であった。その他 14 (4.2%) は、フィリピンのその他の地方語・部族語だった。ほとんどの人がタガログ語を、約半数が英語またはビサヤ語を、3割が日本語を使うことができるということになる。

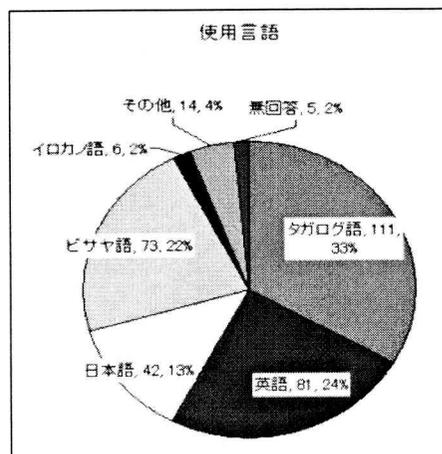


図 5-7

宗教

過半数が「カトリック」(71.5%)、ついで「プロテスタントおよびキリスト教系新興宗教」が 23.8% (内訳は、プロテスタント諸派が 20.0%、イグレスシア・ニ・クリストが 3.8%)、イスラム教が 1.5%、その他の宗教は該当者なし (0%) だった。

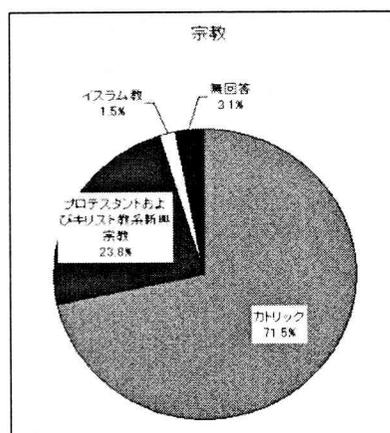


図 5-8

技術

コンピューターが 12、運転技術が 9、教員免許・教育が 6、学士 (経済学や商業学、教育学など) が 5、技師・電気技師が 2、エンジニア、理学療法士、看護師、三等航海士、フォークリフト免許、環境プランナー、プロジェクト開発、銀行業務、秘書、民事サービス、タイピングがそれぞれ 1 名だった。そのほかにも、ライティング、料理、パン作り、スポーツ (アーチェリー、バスケット)、ビジネスも各 1 名いた。「技術」と定義するには不適切ではあるが、「肉体労働」、「単純労働」と記入したものも少なくなかった。

国籍

フィリピン国籍を持つものが107人(82.3%)、日本国籍が3人(2.3%)、不明6人(4.6%)であった。日系人であることと日本国籍を持つことを混同している被調査者が若干おり、国籍不明に分類された。ほとんどの在日日系人の国籍はフィリピンであることがわかる。(図5-9)

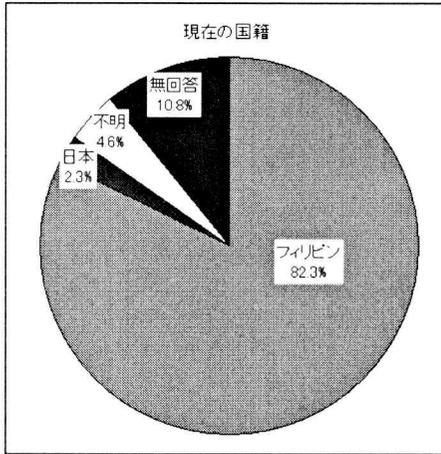


図5-9

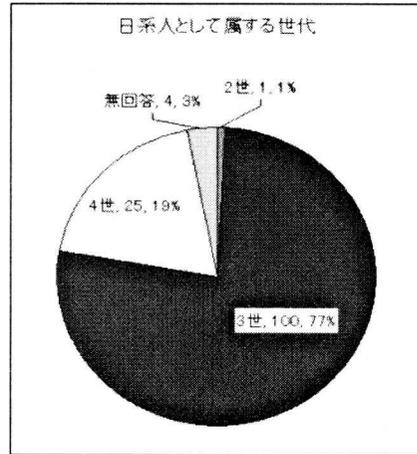


図5-10

日系人の世代

3世が最も多く、76.9%であった。次に4世が19.2%で、2世は1人(0.8%)のみであった。2世の帰国者は少なく、代わりにその子や孫が職のために来日している傾向がある。または、2世は高齢で、筆記での回答が難しいため、回答者数が少なくなったととらえることもできる。

2 来日と日本滞在

訪日回数

今回が初来日である者が一番多く(24.6%)、次に多かったのが2回目(19.2%)であった。3回目は12.3%、4回目は6.9%だった。5回以上来日している者は12.3%と、10%を越えていた。

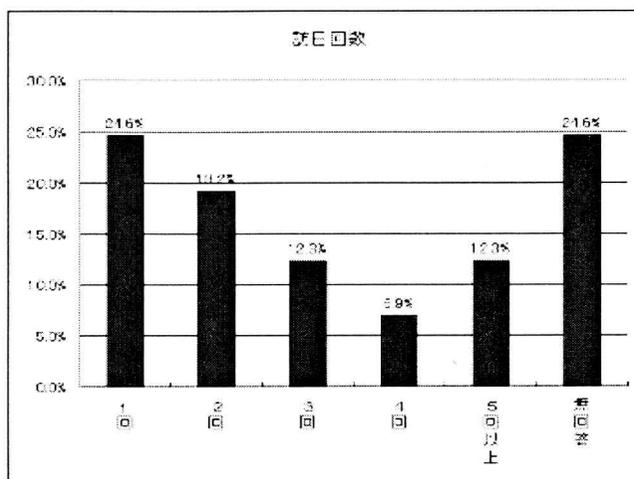


図 5-11

ビザの種類

定住ビザの在留資格で来日している者が104人の80.0%で最多であった。永住ビザは16人の12.3%だった。日本人の配偶者等（日本人の子もここに含まれる）、観光はそれぞれ1名（0.8%）、ビザ「なし」（日本パスポート保持者）は3名（2.3%）だった。日系人として取得できる定住ビザで入国し、その後（5年以上の日本滞在後）、永住ビザを取得する日系人も、まだ少数ながらでてきている。

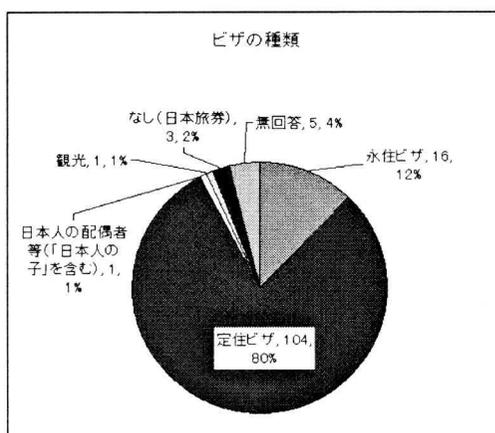


図 5-12

訪日目的

フィリピン日系人の来日の動機は就業にあることが強く現れている。9割を超す119人（91.5%）が、訪日目的は「就業」であると答えている。「観光目的」は3名のみ、「その他」として「永住するため」が1名であった。「就業のほかに、祖先の国も見たかったから」という補足的な記述のある回答もあった。

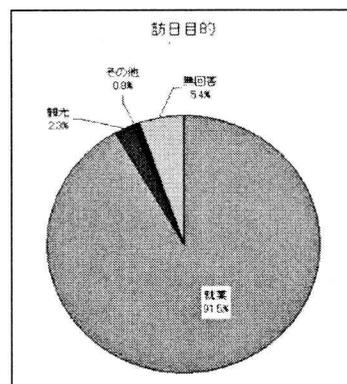


図 5-13

初来日の時期

1～3年前の2002年12月～2004年12月の間と5～7年前（1998年12月～2000年12月の間に来日）がともに多く、それぞれ24.6%、23.1%となっている。フィリピン日系人に関する外務省の第二次調査として、身元が判明した日系人のファミリーファイル作成が行われたのが1997年である。その成果により

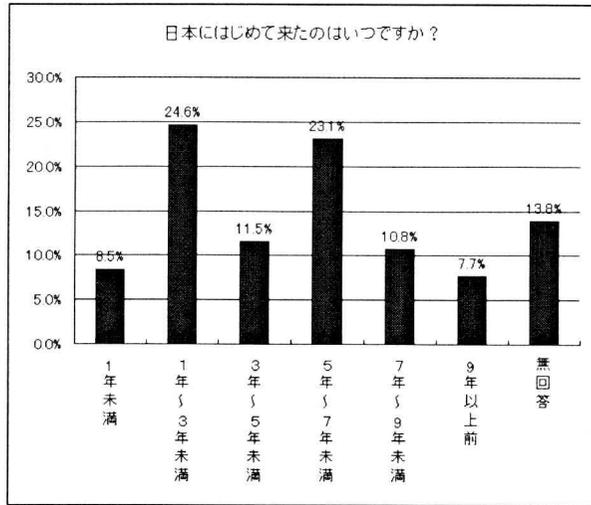


図 5-14

日系人として来日する者が増加したと思われるが、1998年～2000年の来日者が多いのはその反映だろうか。また、10年以上前から来日している者も10名いた。(7.7%)一番早い来日は、1987年にされていた。(図5-14)

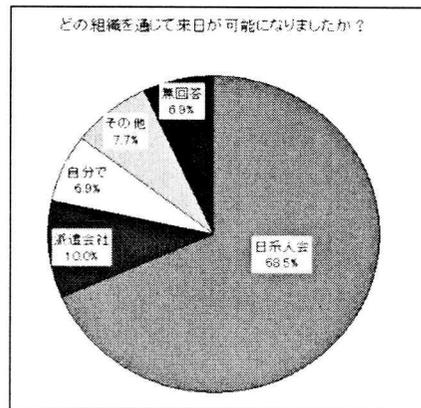


図 5-15

来日を手伝った組織

日系人会をあげたものが89(68.5%)、次に派遣会社13(10.0%)であった。実際には日系人会がメンバーに派遣会社を紹介することが多いため、派遣会社と答えた中にも日系人会の世話になっている者は多い。日系人会がまったく介入せず、派遣会社のみを経由して来日した数は、厳密にはわからない。自力で来日した者も9名(6.9%)いた。

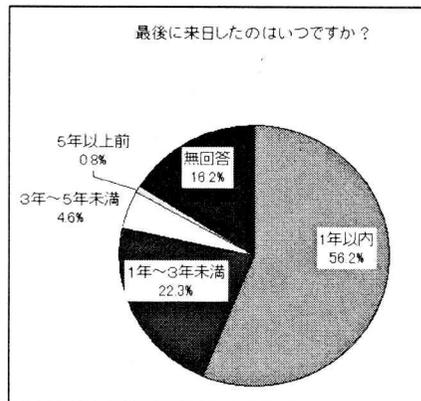


図 5-16

最後に日本へ入国した時期

ここ1年の間に入国した、という人が73人(56.2%)、1年～3年前が29(22.3%)であ

り、多くの日系人が、最近初来日したか、たびたびフィリピンに帰国していることがわかる。一方、3年～5年フィリピンへ帰っていない者も6名(4.6%)いた。

3 同居世帯と暮らし

同居人の数

「1人と同居」(44.6%)がもっとも多く、2人暮らしをしている者が多いことがわかった。次に多かったのが、「2人と同居」(3人暮らし)の19.2%、そして「0人と同居」(一人暮らし)の9.2%だった。「3人と同居」(4人暮らし)は8.5%、「5人と同居」(6人暮らし)が6.2%、「4人と同居」5.4%と続く。「0人と同居」(一人暮らし)は4.6%だった。10人以上と答えたものも4人おり、寮などの共同生活を想像させるが、真偽は不明である。全体の9割が誰かと同居して生活している。

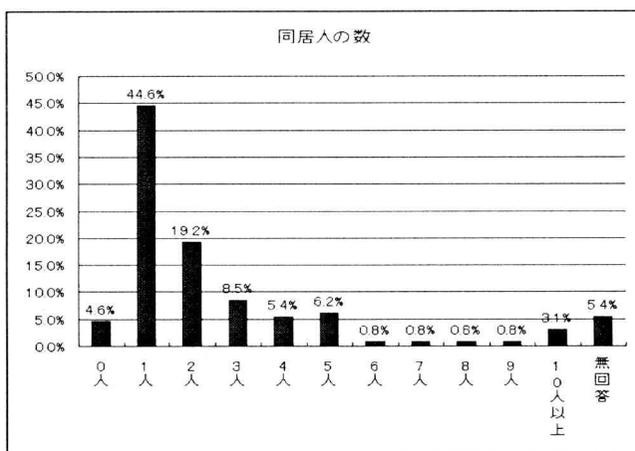


図 5-17

同居人との関係

血縁関係のある者と同居している人の総数が105人(80.8%)、血縁関係にない者とのみ同居している人が7人(5.4%)、同居人がいない一人暮らしの者が6人(4.6%)、無回答が12人(9.2%)だった。よって、全体の8割が家族と同居、家族以外との同居は0.5割にすぎないこ

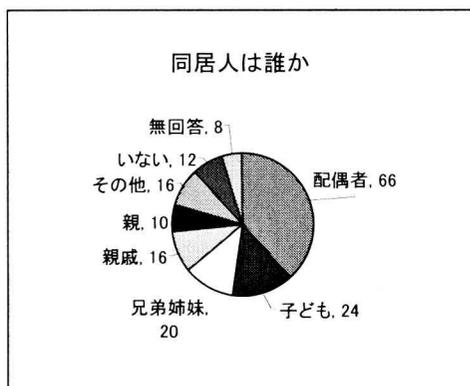


図 5-18

とがわかった。同居する家族の身分関係を見ると、「配偶者」が回答者総数の 50.8% にあたる 66 人、「子ども」が 18.5%、「兄弟姉妹」が 15.4%、「親戚」が 12.3%、「親」が 7.7% だった。「その他」は 12.3% だったが、その内訳は、友人 11 人 (8.5%)、同僚 4 人 (3.1%)、孫 1 人 (0.8%) だった。

同居以外の在日の家族

同居世帯以外でも、日本に血縁者がいる、という人は、65.4% (85 人) だった。反対に、「いない」という人は、22.3% (29 人) だった。(図 5-19) 「いない」という人のうち、同居世帯に血縁者がいる者は 22 人 (全回答者数の 16.9%) おり、逆に同居、別居を問わず、家族がだれも日本にいない者は 4 人 (3.1%) のみだった。まとめると、同居、別居を含め、現在、家族が日本に働きにきているケースは全体で 82.3% にのぼる。また、来日しているが別居している家族の内訳は、「兄弟姉妹」が最も多く、回答者全体の 32.7% だった。次に多いのが「子ども」で 7.7%、「親」6.2%、「いとこ」4.6%、「甥または姪」と「その他の親類」がそれぞれ 3.8% となっている。

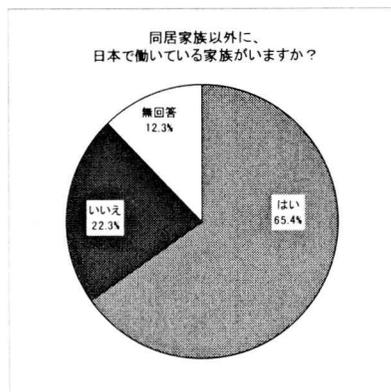


図 5-19

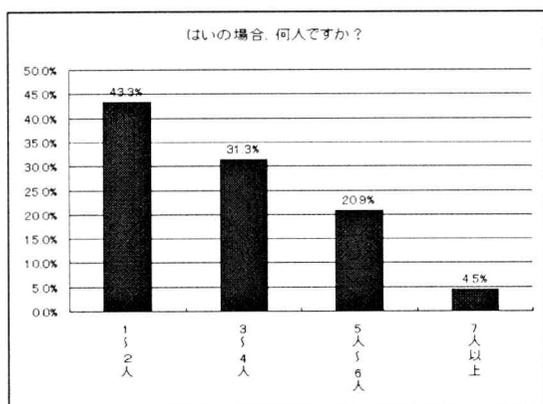


図 5-20

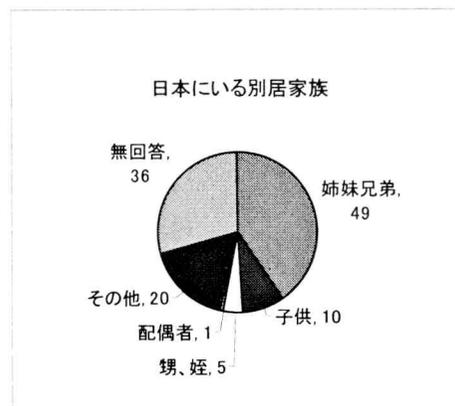


図 5-21

在フィリピンの子ども

フィリピンに子どもをおいて来日している者は、全体の66.2% (86人) だった。(図5-22) ここでいう「子ども」は、未成年か否かの区別はしていないが、多くの日系人が、自分の子どもと離れて生活をしている現状が浮かび上がった。フィリピンにいる子どもの数は、「1人」が23人、「2人」が26人、「3人」が16人、「4～6人」が19人だった。(図5-23)

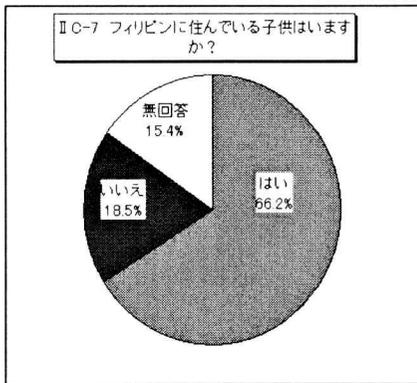


図 5-22

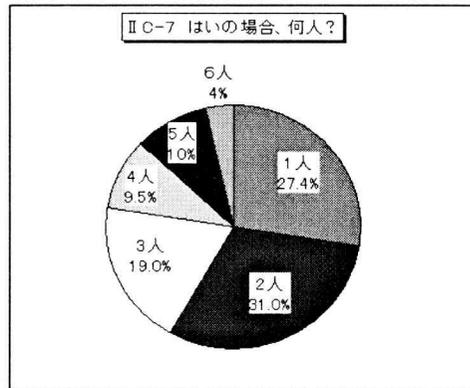


図 5-23

同居人と家計

日本での同居人と生活費すべてを共同で負担しているものが63 (48.5%)、部分的に負担し合っている者は28 (21.5%)、負担していない者が10 (7.7%) だった。(図5-24) 収入のある者それぞれが支出部分を補い合って暮らしている同居世帯が多い。同一世帯＝同一家計とはなっていない。

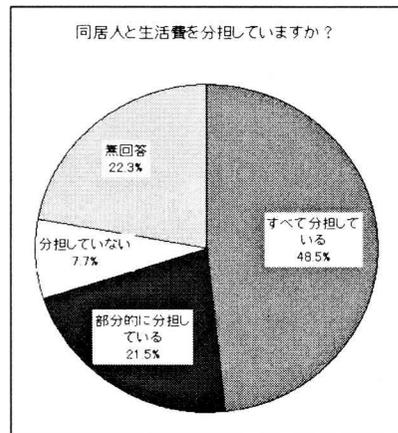


図 5-24

同居世帯の総収入

平均的な収入規模は20万円から35万円の中の世帯で、全体の約25%だった。「10万円以上20万円未満」の世帯は15件(11.5%)、「20万円以上30万円未満」の世帯は32件(24.6%)、「30万円以上40万円未満」の世帯は26件(20.0%)、「40万円以上50万円未満」は18件(13.8%)、「50万円以上60万円未満」は7件(5.4%)、「60万円以上」は5件(3.8%)だった。

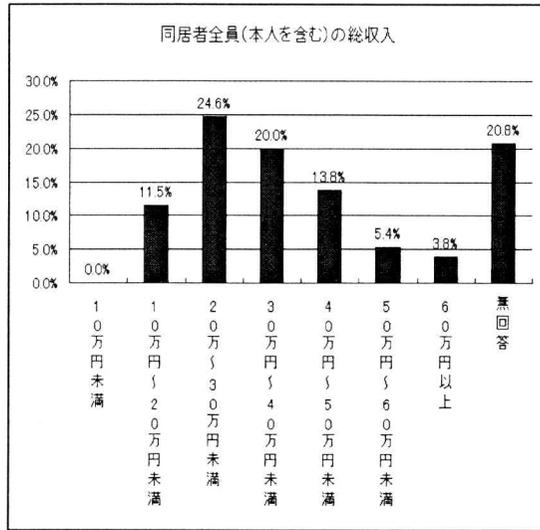


図 5-25

同居世帯の総支出

「5万円以上10万円未満」の世帯は、41(31.5%)、「10万円以上15万円未満」が32(24.6%)、「15万円以上20万円未満」が13(10.0%)、「20万円以上25万円未満」が4(3.1%)、25万円以上が2(1.5%)だった。「5万円未満」も5名(3.8%)いたが、設問の出費項目への記入が不完全だったために合計額が小額にとどまった可能性がある。

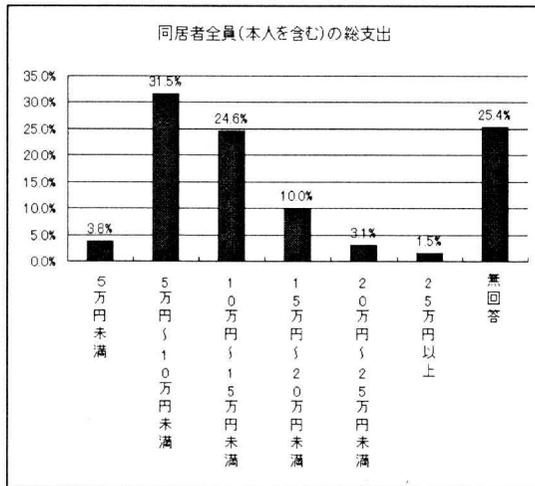


図 5-26

住居の形態

アパートが 86 (66.2%)、貸家が 29 (22.3%)、持ち家が 2 (1.5%) だった。(図 5-27) 部屋の数では 2 部屋が最も多く (45、34.6%)、次に 1 部屋 (37 人、28.9%)、3 部屋 (18、13.8%) と続く。5 部屋以上も 9 人いた。これらの住宅は、「会社が借りている」のが 82 人 (63.1%)、「自分が借りている」のが 35 人 (27.8%) だった。(図 5-28) 家賃は、一万円以上から 7 万円未満までの範囲の中で分布が均等に散らばっている。(図 5-29)

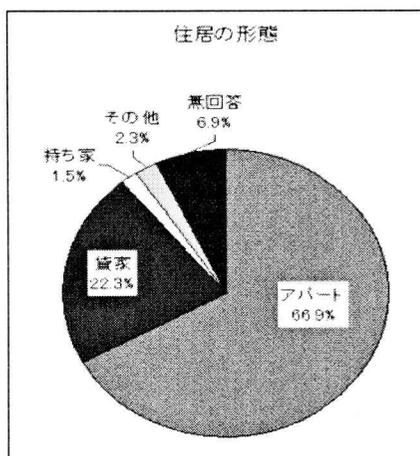


図 5-27

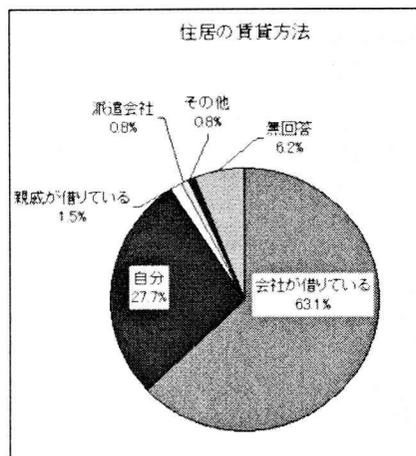


図 5-28

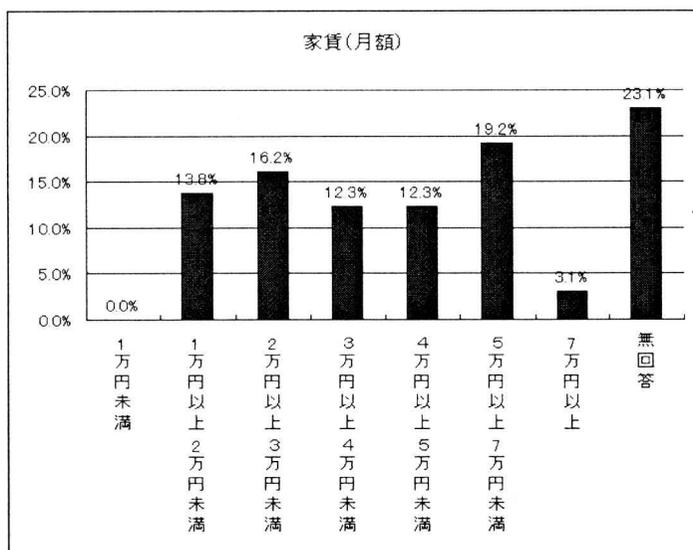


図 5-29

4 経済的状況と送金

給 料

給料（手取り）の額は、「10万円以上15万円未満」が最も多く、52人（40.0%）であった。ついで「15万円以上20万円未満」が33人（25.4%）と多かった。「20万円以上25万円未満」は12人（9.2%）。

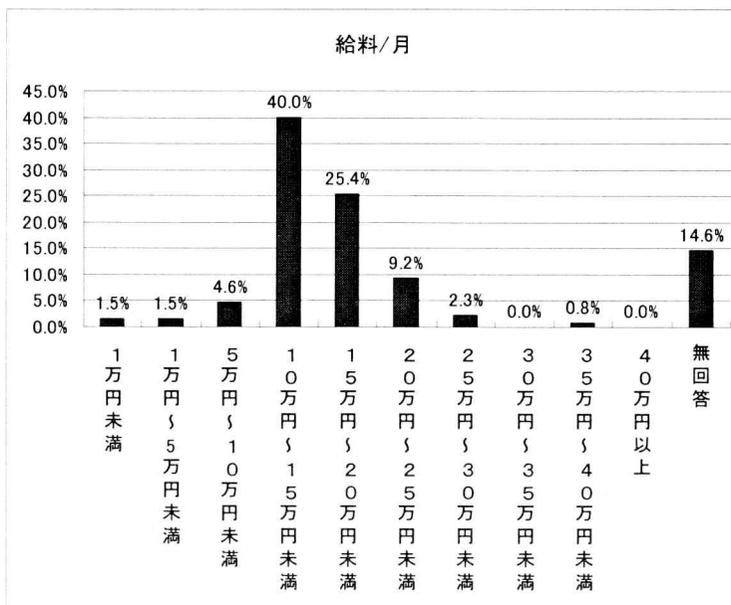


図 5-30

貯 蓄

貯金をしている者は78人（60.0%）と過半数を上回った。しかし、貯金をしていないものも41人（31.5%）と、やや多くみられた。（図5-31）

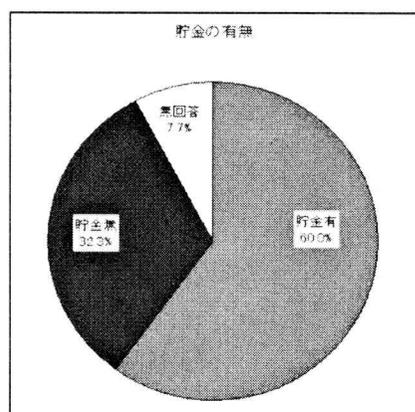


図 5-31

投資

過半数を超える 76 人 (58.5%) が、なんらかの投資をしている。(図 5-32) していないものは、42 人 (32.3%) だった。投資の内容は、「土地」が最も多く、50 人 (38.5%)、次に多かったのが「家」で 31 人 (23.8%)、次が「保険」(11 人、8.5%) であった。少数ではあるが、貸付をしたり、年金に加入しているものもいた。

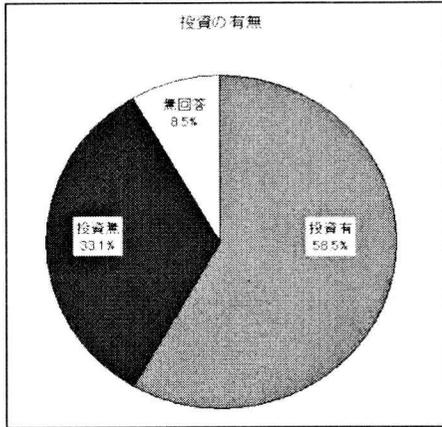


図 5-32

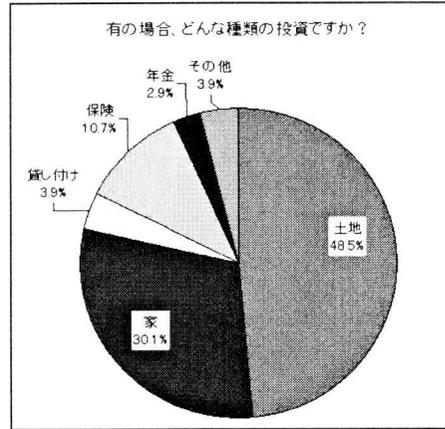


図 5-33

負債

借金を抱えているものは、全体の 27.7% にあたる 36 人だった。(図 5-34) 借金額はさほど高くなく、借金を抱えている人の半数近くの人 (15 人、41.7%) が「10 万円以下」だった。「10 万円以上 20 万円未満」の人が 5 人 (13.9%)、「20 万円以上 30 万円未満」の人が 3 人 (8.3%)、30 万円以上 50 万円未満があわせて 2 人だった。90 万円から 100 万円の借金がある人も 1 人いる。ローンを「借金」として答えている可能性もある。

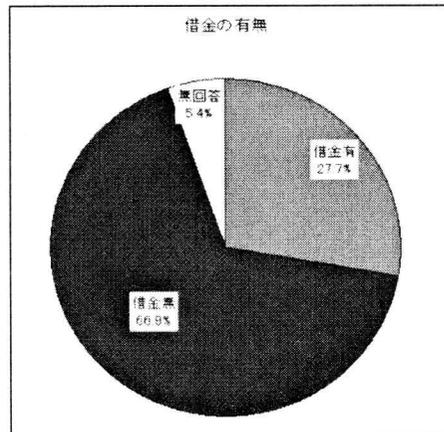


図 5-34

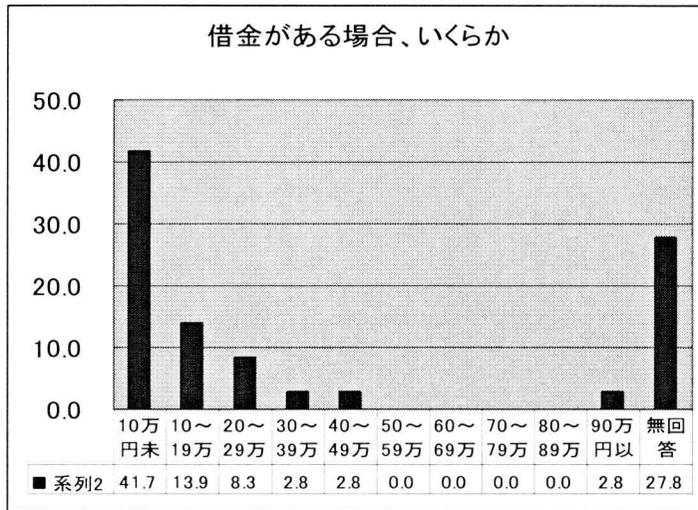


図 5-35

フィリピンへの送金

送金を「している」という人は大多数の 93.8% (122 人) にのぼった。(図 5-36) 送金の頻度は、「毎月」が最も多く、93.2%に及んだ。「数ヶ月ごと」と答えたのは 5.1% だった。(図 5-37) 一度の送金額は、「3 万円以上 5 万円以下」が 14.6%、「5 万円以上 7 万円以下」および「7 万円以上 9 万円未満」がそれぞれ 13.1%、「9 万円以上 11 万円未満」が 13.5%、「11 万円以上」が 5.4% だった。主に 3 万円から 11 万円の範囲で送金がされているのがわかる。「15 万円以上」と答えた者が最高額であった。(図 5-39) 「送金先」は、「配偶者と子ども」が最も多く、60 人 (46.2%)。次に多いのが、「両親」で 42 人 (32.3%)、次が「兄弟姉妹」の 16 人 (12.3%) だった。(図 5-38)

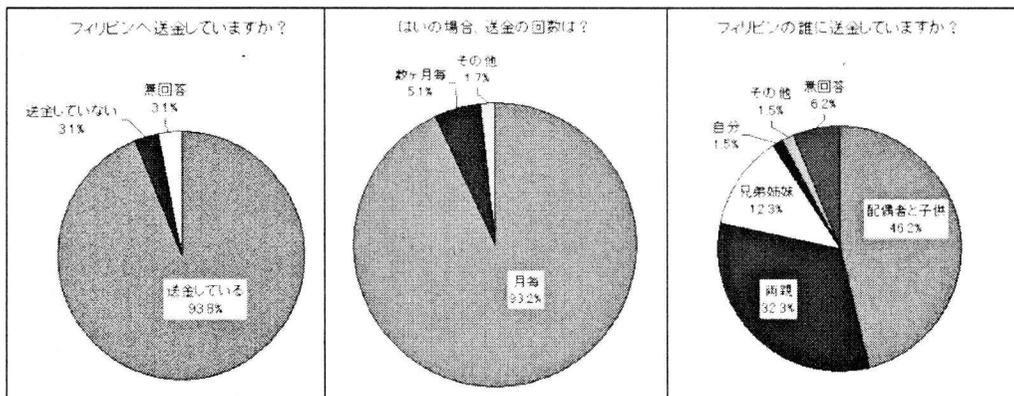


図 5-36

図 5-37

図 5-38

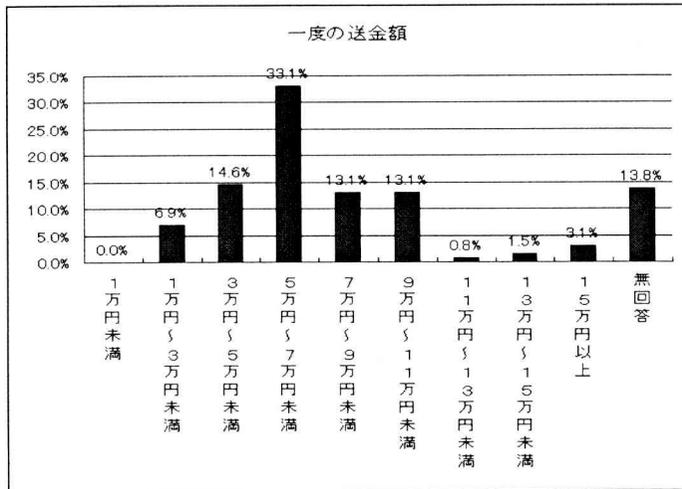


図 5-39

5 就労実態

就労者数

現在就職している人の数は、130 人中 120 人 (92.3%) と、していない人 3 人 (2.3%) に対して圧倒的多数だった。就職していない人の内訳は、「休暇中」が 1 人、主婦が 2 人だった。

職場

「工場」が 76.2% (99 人) と圧倒的に多かった。「その他」は 11.9% だが、農地や鶏舎などがこれに含まれる。「オフィス」で働く者は 2 人だけだった。(図 5-40)

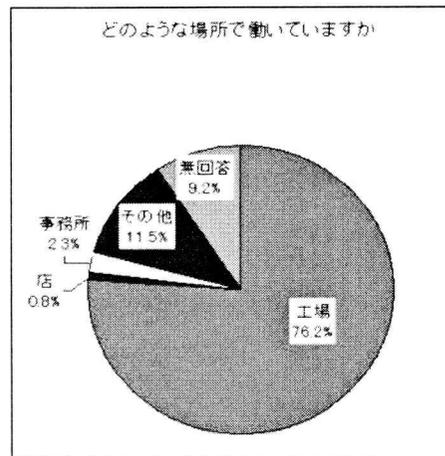


図 5-40

業種

「製造業」が最も多く 48.5%、ついで「派遣業」(33.1%)、「農業」(酪農を含む) は 2.3% だった。(図 5-41)

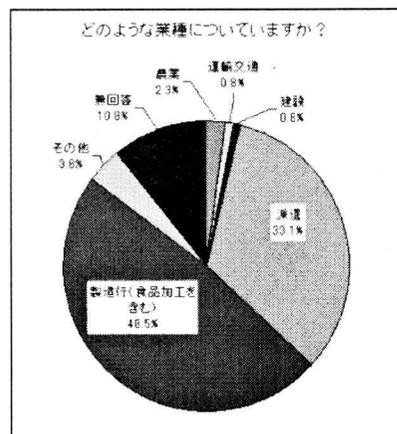


図 5-41

勤務年数

「1年未満」が26.9%、「1年以上2年未満」が17.7%、「2年以上3年未満」が14.6%と、比較的短期間の雇用が多くなっている。ところが、「5年以上」も22人（17.5%）と多く、ひとつの企業に定着している日系人もいることがわかる。

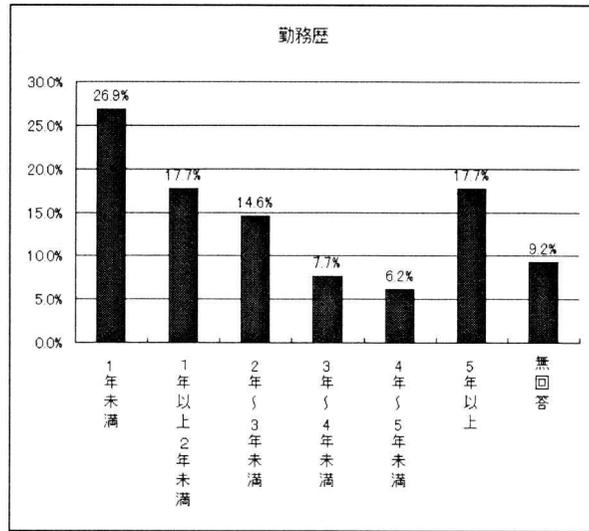


図 5-42

企業選択の動機

「仕事が気に入って」が一番多く、回答総数の35.4%が選択した。次は「雇用主、上司の人柄がいい」が多く、33.1%だった。次に多かったのが、「高給だから」と「知人が紹介してくれたから」がそれぞれ18.5%、17.7%だった。「他になかったから」も12.3%が選択した。

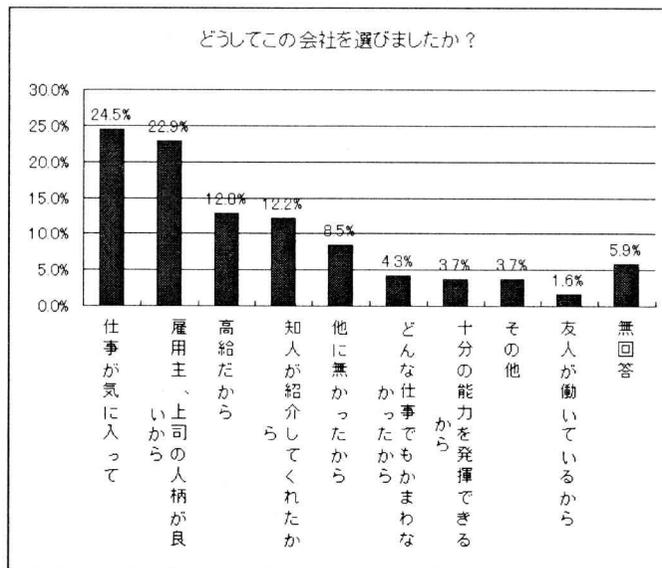


図 5-43

雇用契約書

契約書を交わした者が31人(23.8%)、交わしていない者が85人(65.4%)であった。契約期間は、「1年から2年未満」が一番多く、13人(41.9%)、次に1年未満(7人、22.6%)であった。「3年以上」も4名いた。

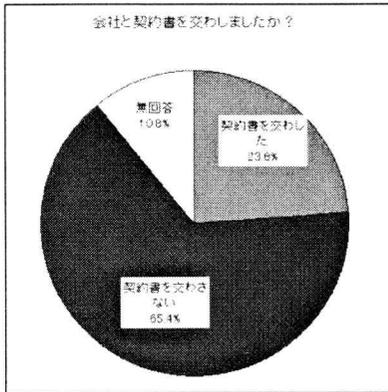


図 5-44

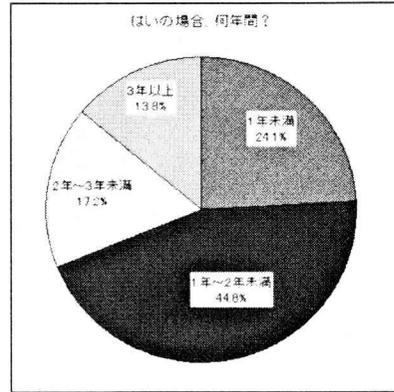


図 5-45

会社への負債

就労のため日本に来る際、航空費や来日費用、住居代などを雇用主となる会社や派遣会社が費用を肩代わりしているケースが多い。会社へ返済すべき負債があるか聞いてみると、結果は少数の11人(8.5%)だった。82.3%の人は、負債はないと答えている。負債がある人の負債額は、「10万円未満」から「30万円以上40万円未満」まで、まちまちであった。

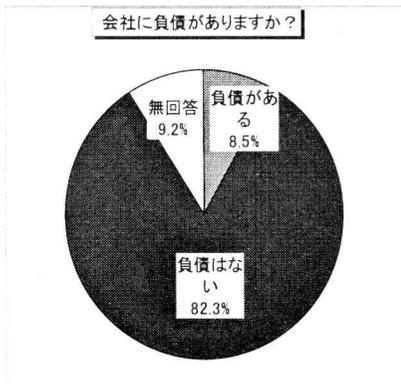


図 5-46

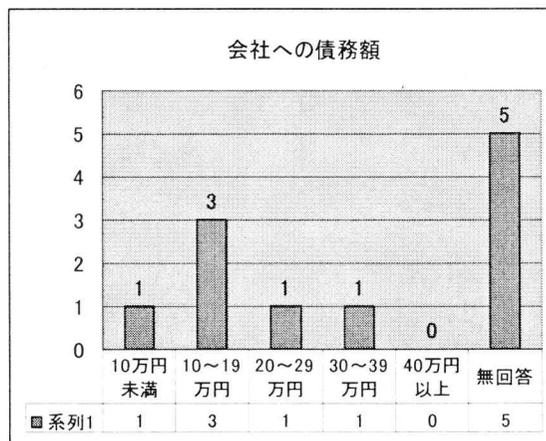


図 5-47

一日の勤務時間

「6時間以上8時間未満」が6.9%、「8時間以上10時間未満」が最も多い69.2%、「10時間以上12時間未満」は13.1%だった。「12時間以上16時間未満」働く、長時間勤務者も2名いた。

月間の残業時間

約3割の回答者が残業をほとんどしていない一方、3割近くの回答者が一日に2～3時間またはそれ以上残業している。具体的には、「残業なし」が6.2%、「月10時間未満」が20.8%、「10時間以上20時間未満」が5.4%、「20時間以上30時間未満」が14.6%、「30時間以上40時間未満」が6.9%、「40時間以上50時間未満」が6.2%、「50時間以上」が18.5%だった。(図5-49)

夜勤

夜勤がない職場があるのに対し、月30時間以上の夜勤がある職場もあり、両極化している。「夜勤なし」と答えたのが20.0%、一ヶ月「10時間以上30時間未満」が8.5%、「30時間以上」が15.4%だった。(図5-50)

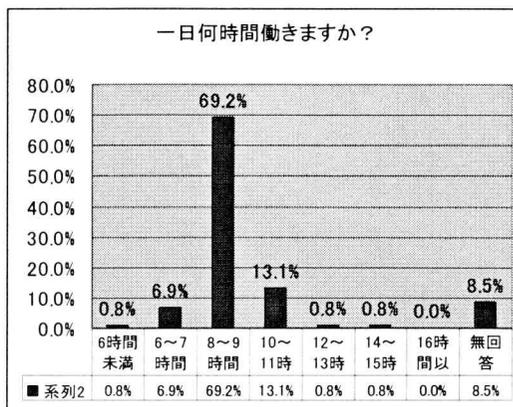


図 5-48

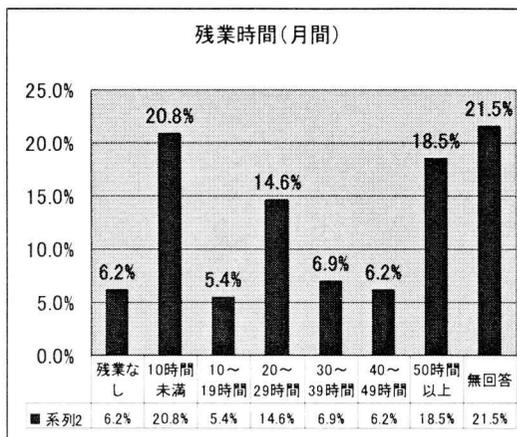


図 5-49

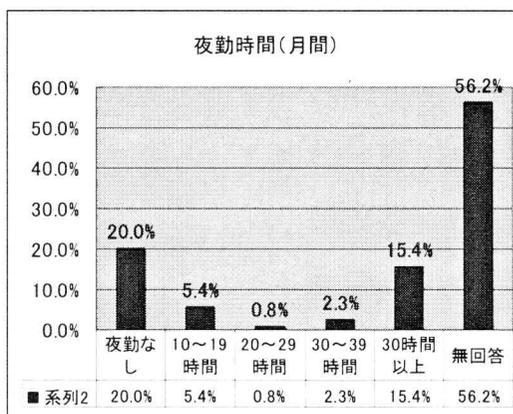


図 5-50

休日

週休1日が最も多く、53.1%だった。次が週休2日で29.2%だった。シフト制で一月の休日が5日未満の人は6.9%、5日以上が0.8%だった。一方、休日がないという人も2人いた。

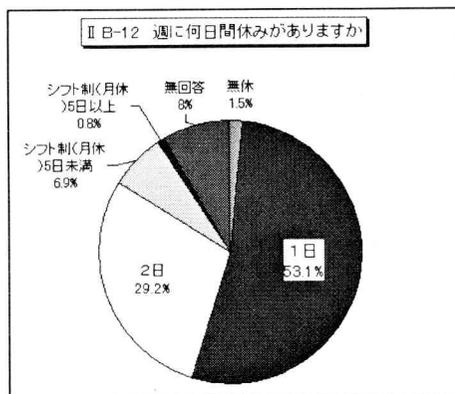


図 5-51

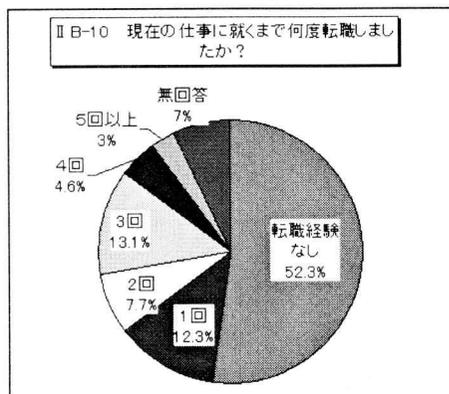


図 5-52

転職

日系人の頻繁な転職が雇用主の側からたびたび不満の声が上がるが、調査の結果、未だ転職経験のない者が半数(52.3%)に上った。「1回だけ転職経験あり」が12.3%、「2回」が7.7%、「3回」が13.1%、「4回」が4.6%だった。5回以上転職しているものも4名(3.1%)いた。転職の理由は、「仕事の内容がよりよかったから」が12.5%、「給料がより高いから」が10.6%、「以前の仕事が嫌いだったから」が8.8%、「仕事がいよいよいいから」が7.5%、「親類または友人が呼んだから」が5.0%だった。その他の理由として、「一年の契約が終わったから」「環境を変えるため」「社長が悪い人だったから」「会社のやり方が好きでなかったから」「解雇されたから」「会社が倒産したか

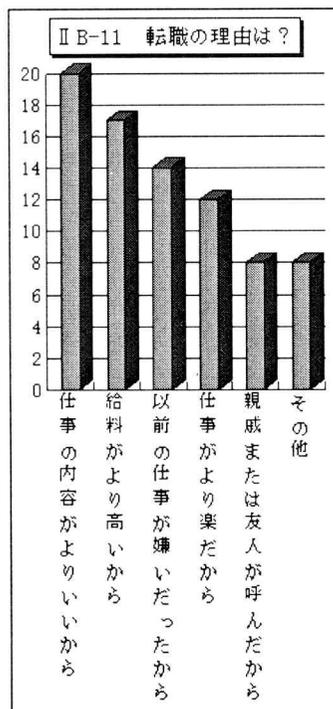


図 5-53

ら」「残業がなく、土曜勤務もなかったから。勤勉に働いたことで他の被雇用者にやっかまれた。あと、アパートの同居者が多すぎたから。」などの記入回答があった。

日系人ほか従業員数

回答者の職場にいるフィリピン日系人の従業員数は、「0人」から「30人以上」の範囲にわたり幅広いが、職場全体の4割以上が、1～20人の日系人を雇っている。さらに20人以上の日系人を雇っている職場は全体の2割強となっている。多くのフィリピン日系人が同胞とともに働く職場環境にいることがわかる。フィリピン日系人が「0人」の職場（職場でフィリピン日系人は本人しかいない）は5.4%、「1人以上5人未満」は12.3%、「5人以上10人未満」が11.5%、「10人以上20人未満」は16.9%、「20人以上30人未満」は5.4%、「30人以上」が16.9%だった。「30人以上」のうち最多だったのは130人のフィリピン日系人従業員がいる職場だった。（図5-54）

非日系のフィリピン人の数は、0～5人規模の職場が最も多い。「0人」「1人以上5人未満」が共に11.5%、「5人以上10人未満」が6.2%、「10人以上20人未満」が4.6%、「20人以上30人未満」が3.1%、「30人以上」が3.1%だった。「30人以上」のうち最多だったのは130人のフィリピン人従業員がいる職場だった。（図5-55）

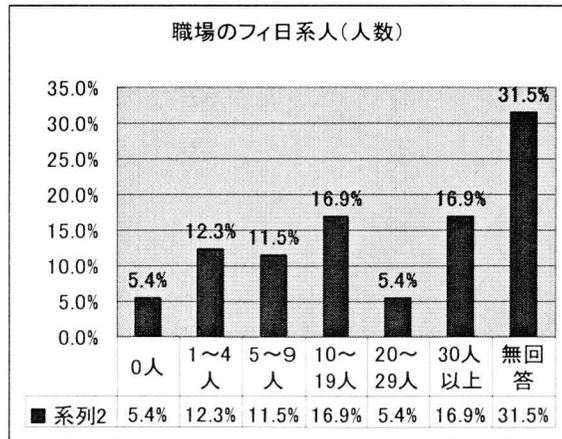


図 5-54

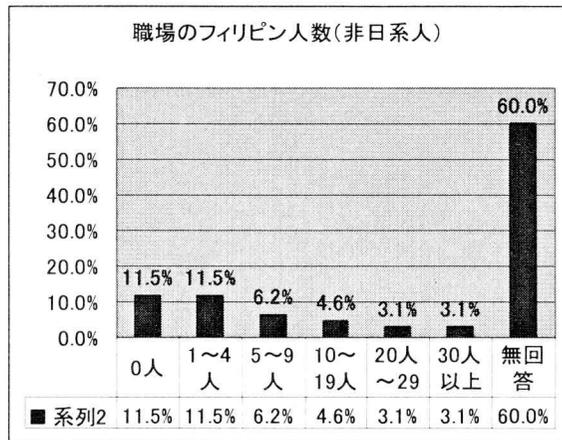


図 5-55

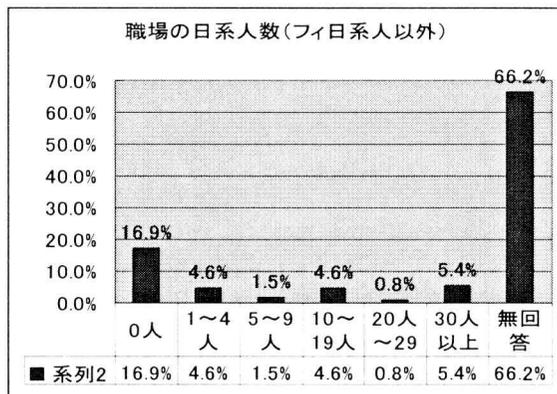


図 5-56

未満」が4.6%、「20人以上30人未満」は3.1%、「30人以上」も3.1%だった。(図5-55)

フィリピン以外の国の日系人(南米など)の数は、「0人」が最も多い16.9%。「1人以上5人未満」が4.6%、「5人以上10人未満」が1.5%、「10人以上20人未満」が4.6%、「20人以上30人未満」は0.8%、「30人以上」は5.4%だった。(図5-56)

フィリピン以外の国から来た外国人の数は、「0人」が最も多かった(11.5%)。続いて、「1人以上5人未満」が6.2%、「5人以上10人未満」が3.1%、「10人以上20人未満」が3.1%、「20人以上30人未満」は0.8%だった。一方、「30人以上」と多くの外国人を雇用している職場は6件(4.6%)だった。(図5-57)

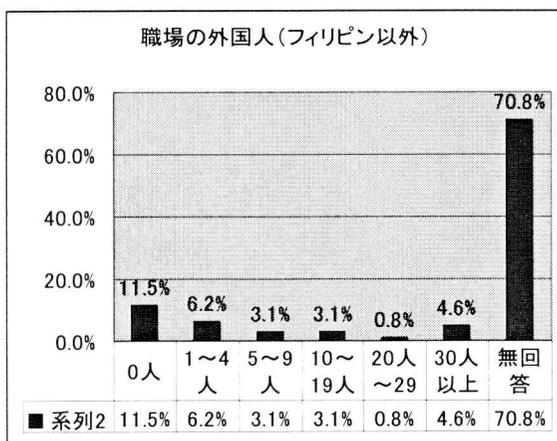


図5-57

ⅡB-17 あなたの会社ほどのような給付金を提供していますか？

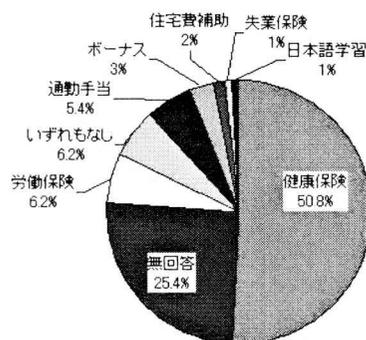


図5-58

職場の福利厚生

約半数が、「健康保険」と回答した(66人、50.8%)。「労働保険」は9.2%、「交通費支給」が8.5%、「ボーナス」は4.6%、「日本語学習」は3.8%、「住宅費補助」は2.3%だった。また、「いずれもなし」は6.2%いた。保険加入率等の福利厚生が充実していないことを表す結果となったが、実際は会社が加入しているのに日系人本人が知らなかったり、保険のシステムなどを理解できていなかったりする可能性も否めない。

ⅡB-20 仕事に満足していますか？

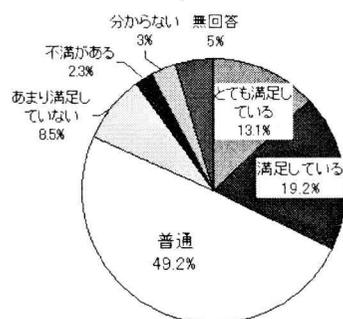


図5-59

仕事の満足度

約半数が「普通」と答え、普通またはそれ以上の者が多い結果となった。「とても満足している」が13.1%、「満足している」が19.2%、「普通」が49.2%、「あまり満足していない」が8.5%、「不満がある」が2.3%だった。

職場で日本語を使用する頻度

「たまに使う」が53.1%で最も多く、「よく使う」が37.7%、「使わない」が2.3%のみであった。職場は日本語能力がおおむね必要な環境であることがわかる。

仕事や会社での問題

「問題がない」と答えたのが過半数の70.0%、「問題がある」と答えたのが25.4%だった。(図5-61)

問題があると答えたうち、「言語能力、意思伝達能力」に問題があるとした者が20人(全回答数の15.4%)、「上司、雇い主とのコミュニケーション」が14人(10.8%)、「同僚との人間関係」、「給料、控除」と答えたものがそれぞれ8人(6.2%)であった。そのほか、「安全管理」を2名があげ、「衛生環境」を1名があげた。日系人が抱えている問題は、日本語能力やコミュニケーションに関するものであることがここでも明らかになった。しかし、少数ではあるが、職場の環境や管理体制の問題、待遇に関しての不満も存在することを無視できない。なお、「その他」として、1名が「残業時間が少なく、土曜の勤務もない」という問題があると記述回答した。少しでも長く働き時給を稼ぎたい、という希望がかなわず、不満を持っている

Ⅱ B-19 職場で日本語を使用していますか？

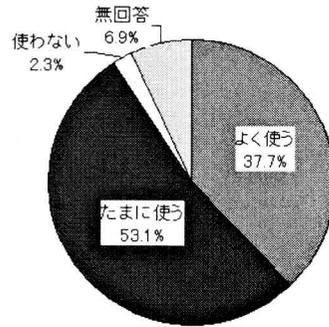


図 5-60

Ⅱ B-21 仕事や会社の問題がありますか？

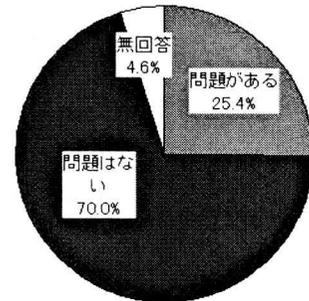


図 5-61

職場で、どのような問題がありますか？

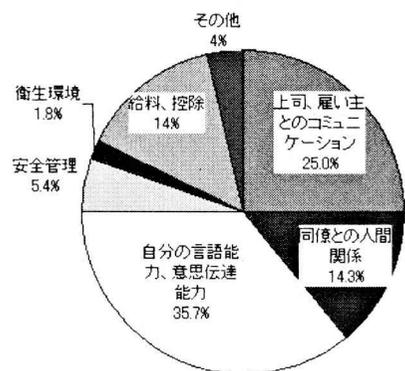


図 5-62

として、1名が「残業時間が少なく、土曜の勤務もない」という問題があると記述回答した。少しでも長く働き時給を稼ぎたい、という希望がかなわず、不満を持っている

るようである。(図5-62)

Ⅱ B-18 外国人であることで差別されたことはありますか？

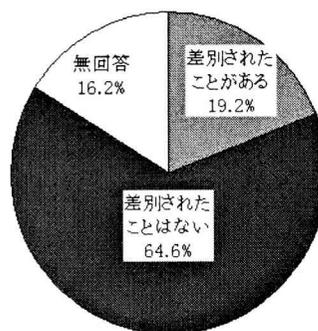


図5-63

差別をうけた経験の有無

外国人として差別された経験が「ない」と答えたのが64.6%で、「ある」と答えた者19.2%を大きく上回った。(図5-63)「ある」と答えた者のうち、差別の内容は、以下のものであった。

差別の内容	件数
自分が日本語を流暢に話せない/十分に話せない/日本語がわからない	3
日本人から、フィリピン人は日本語を話せないと言われた。	1
フィリピン人は時々「ワカラナイジン」と呼ばれる。日本語が話せないから。	1
ブラジル人をひいきする会社がある	1
よりきつい労働をさせられた	1
フィリピン人は「こしだけ」(?)	1
私は日本人ではなくフィリピン人だから。	1
他の外国人(英語を母国語とする人)との格差	1
アバマンショップでアパートを借りることを許されていないこと。ある日本人の同僚は、フィリピン人はインチやセンチ、ヤードやマイルなどについてなにも知らないと思っている。ある人はフィリピン人の体はとても汚いのでハエがたくさん留まっていると思っている。	1

表5-1

差別内容は、主に日本語能力に関するものが多い。回答の内容は、差別経験というよりもむしろ、自分の日本語能力不足に対して劣等感を抱いている事実が書かれているものが多い。また、それを職場の日本人に指摘され、傷ついた体験を持つ者もいる。また、日本人がフィリピン人に対してもっている偏見に起因する差別体験もあった。

日本で習得した技術・知識

日本での就労により、役に立つ技術または知識を「身につけた」と答えたのが 50.0%で、「身につけていない」の 28.5%を大きく上回った。習得した技術・知識として記述された内容を以下のよう

II B-22 日本で現在の仕事に役立つ技術や知識を身に付けましたか？

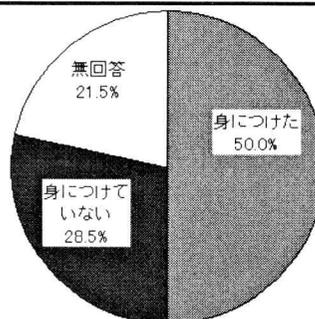


図 5-64

習得した技術または知識	件数
鶏に関する仕事について(養鶏、世話の仕方、予防接種やワクチン接種などの注射、解体、いろいろな切り方、下ごしらえの仕方など)	11
仕事の質、日本人の規則や方法、文化、責任感やリーダーシップ、仕事への熱心さと時間厳守、謙虚な心、いかに自立するか、支援すること、迅速に仕事をする事「時は金なり」(3)	8
日本語(話す・聞く・書くなど)	4
機械の組立(機械部品の組立、車の部品の組立、カーナビゲーターの後ろのライトの取り付け)	3
仕事のシステム(2)、高品質の商品を生産するためにサイクルで働く方法	3
今従事している仕事	3
コンピューター操作	2
運転技術	2
検査(品質管理)	2
印刷(品質管理)、機械操作、機械修理、技術を要する仕事、数学、コンピュータープログラミング、生産工程、プラスチック成形、プラスチック材の切断、塗装、ピザ作り、手早く箱をつぶすこと、料理	各 1

表 5-2

挙げられた技術の多くが、今の仕事内容と密接に関係があった。習得した技術が、転職先またはフィリピンにて活用できるものであるかは不明である。また、知識としては、日本人の価値観や仕事に対する考え方について多く挙げた。

来日前の仕事

農業従事者が最も多い 20.0% (26 人)。次は主婦 (16.2%)、会社員 (13.8%)、無職 (13.1%)、その他 (10.0%)、学生 (6.9%)、公務員 (5.4%)、商店経営 (4.6%)、季節労働 (3.8%) だった。

(図 5-65)

Ⅱ B-23 来日する前はフィリピンでどんな仕事をしていましたか？

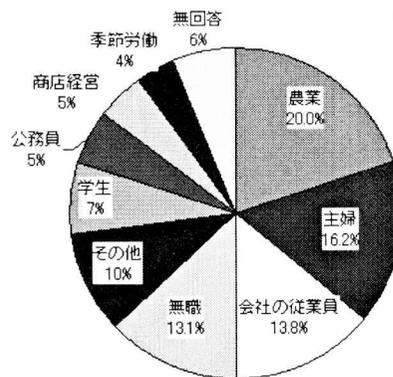


図 5-65

6 日本での生活

日本生活への適応

日本の生活に慣れたかとの問いに、「慣れた」と答えたのは過半数の 66.9% だった。それに対し、「慣れていない」は 6.2%、「わからない」は 22.3% だった。(図 5-66)

Ⅱ C-1 日本での生活に慣れましたか？

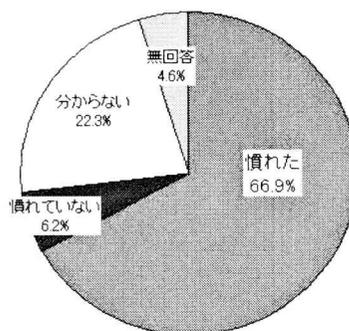


図 5-66

アイデンティティ

自分を日本人と自覚するか、については、「いいえ、フィリピン人と自覚」が 55.4% と最も多く、ついで「はい、日本人と自覚」が 20.0%、「わからない」が 12.3%、「日本人でもフィリピン人でもない」が 4.6% だった。フィリピンで生まれ育ったゆえ、自分のアイデンティティをフィリピン人と自覚している者が多い結果となったが、一方、慣れない日本においてですら自らを日本人として自覚しつづける日系人も少

Ⅱ C-2 日本で生活する間、自分を日本人であると自覚しますか？

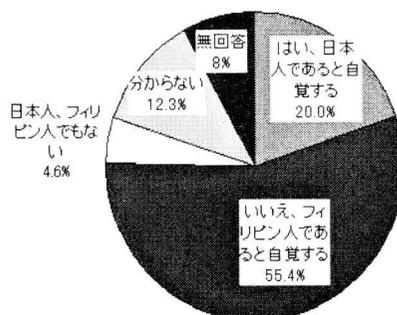


図 5-67

なくないことがわかる。日本とフィリピンの狭間でアイデンティティが混乱していたり、両方に属していないと感じる者もいる。(図5-67)

日本人の友人

日本人の友人については、「いる」と答えた者が圧倒的に多く、86.2%だった。「いない」と答えたのは6.9%だった。(図5-68)「いる」と答えたうち、友人の数については「1～4人」が13.8%、「5～9人」が14.6%、「10人以上」が31.5%であった。(図5-69) 友人関係の緊密さの程度については設問がないためわからないが、日系人が多くの日本人を友人として認識していることがわかる。

ⅡC-3 日本人の友人はいますか？

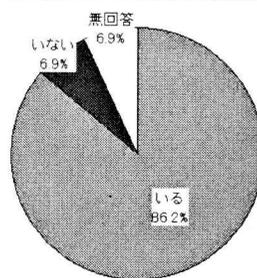


図 5-68

ⅡC-3 日本人の友人がいる場合、何人？

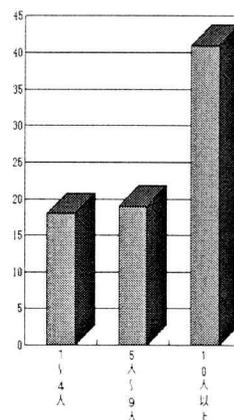


図 5-69

日系人の友人

「いる」と答えた者が86.9%、「いない」と答えた5.4%を大幅に上回った。(図5-70)「いる」と答えたうち、友人の数が「1～4人」は10.0%、「5～9人」が4.6%、「10～14人」が16.9%、「15人～19人」が11.1%、「20人以上」が18.5%であった。(図5-71) 日本人の友人よりも日系人の友人の方が、平均数が高くなっている。

ⅡC-4 日系人の友人はいますか？

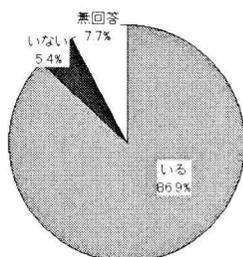


図 5-70

ⅡC-4 日系人の友人がいる場合、何人？

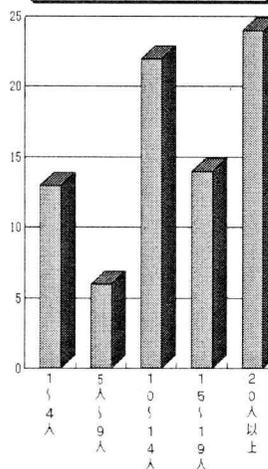


図 5-71

生活様式

日本での生活についての設問は、日系人がどのくらいフィリピン式の生活様式を継続しているのか、または日本に適応し、日本式の行動様式にシフトしつつあるのかを量ることを目的とした。選択肢のうち、一番多くの方が日常的に行っていると答えたのは、「日本のテレビ番組を観る」で57.7% (75人) だった。次に多いのは「フィリピンからの輸入品を購入する」で45.4% (59人)、次に「フィリピンの番組を観る」で40.0% (52人) だった。ついで「クリスマスをフィリピン流で祝う」が35.4%、「タガログ語のテレビ番組や映画のビデオ等を借りる」が33.1%、「教会、モスクに定期的に行く」が15.4%だった。「フィリピン

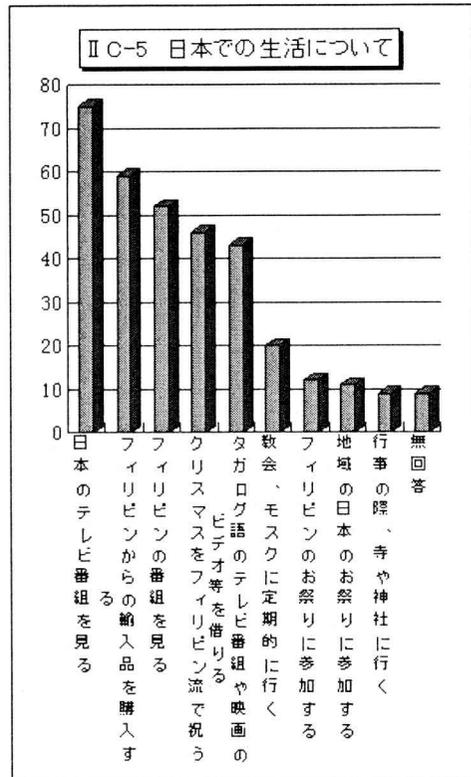


図 5-72

のお祭りに参加する」は9.5%が、「日本の地域の祭りに参加する」が8.5%、「行事の際、お寺や神社に行く」が6.9%だった。約半数の日系人が、日本のテレビ番組に親しみ、フィリピンの食材などを買い求めている。4割がフィリピンの番組をおそらくケーブルテレビで見ている。

生活上の問題

日本の生活で直面している問題については、半数の日系人 (66人、50.8%) が「日本語」と答えた。他の問題については、数がぐっと減っている。「就労」を選んだ者は

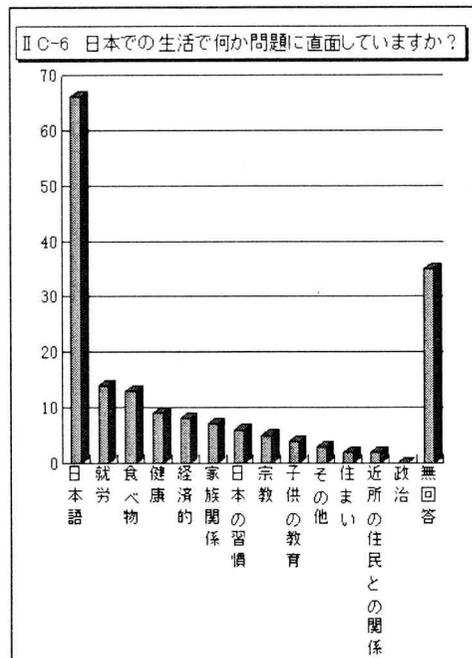


図 5-73

10.8% (14人)、「食べ物」を挙げた者は10.0% (13人)、「経済的問題」は6.2% (8人)、「健康」6.9%、「家族に関する問題」は5.4%、「日本の習慣」は4.6%、「宗教」は3.8%、「子どもの教育」(3.1%)「その他」2.3%、「住まい」「近隣住民との関係」は1.5%、「政治」は0だった。このことから、日本語の問題が半数の日系人に意識されており、それ以外の問題については個別に拡散していることがわかる。

日本への家族のよびよせ

漠然と、子どもや家族を呼び寄せたいと望んでいる、もしくは具体的に呼びよせを計画しているという日系人が半数におよんだ。「いつか呼び寄せる」と答えたのが最も多く、29.2%、次が「近いうちに呼び寄せる」23.8%であった。

「呼び寄せたいが難しい」が18.5%、「呼び寄せる計画はない」は3.8%、「みなすでに日本にいる」が2.3%だった。「呼び寄せたいが難しい」理由として以下の回答があった。(図5-74)

Ⅱ C-8 子供や家族を日本に呼び寄せる計画はありますか？

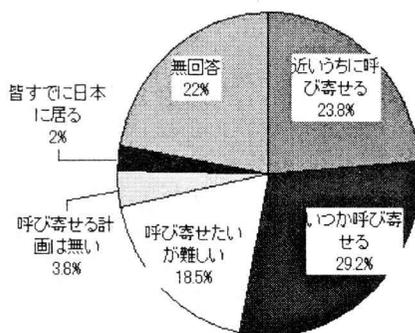


図 5-74

<呼び寄せが難しい理由>

要点	記述内容	件数
日系人のビザ資格の問題(4世・5世)	私たちは3世で、今の入管法では4世の来日はできないから。私の父(母)がまだ戸籍に名前が登録されていない/私は四世なので、呼び寄せはとても難しい	8
経済的理由	呼び寄せるお金が今はない。/費用がかかりすぎる	4
戸籍の有無	自分の戸籍がないので	4
子どもの年齢・子育て・教育	子どもがまだ小さいから/自分たちが働いている間、子どもの面倒をみってくれる人がいない/子供たちは学校へ行っているから	4
仕事	仕事で忙しいから/仕事のスケジュール	3
ビザ取得の困難性	日本大使館の書類審査が厳しいので/書類を申請するのが難しいから。	2

その他	家族の問題/子どもが病気で、フィリピンで治療しているため/子どもの父親と私が未婚だから/70代の私の両親や私の兄(建築士)が日本で工場勤めをするのはおそらく無理。	各 1
-----	---	--------

表 5-3

日本定住の希望

今後も日本に住む予定かとの問いに、「はい」が43.8%、「いいえ」が41.5%と回答が分かれた。「はい」と答えた者に滞在予定年数を尋ねたところ、「10ヶ月」が1人、「3年間」が2人、「5年間」が2人、「10年間」が3人、「10年以上」1人、「15年」1人、「20年」5人、「30年以上」1人、「永住」2人、「仕事がある間・働くことが可能な限り」が3人、「未定」が1人

だった。また、「はい」と答えた者に日本に定住する理由を聞いたところ、もっとも多かったのが「仕事があるから」の39人（「はい」と答えた人の68.4%）、次が「生活が便利だから」で31人（54.4%）、「給料が高いから」が27人（47.4%）、「日本は先祖の祖国だから」が22人（38.6%）、「家族や友人が日本に住んでいるから」が12人（21.1%）だった。それに対し、日本に今後も住む予定はないと答えた者に、その

理由を尋ねると、「フィリピンの家族と離れたくないから」が最も多い28人（「いいえ」と答えたうちの51.9%）、次が「フィリピンが自分の祖国だから」で23人（42.6%）となり、フィリピンの家族への思いや国への愛着が伺えた。「物価が高いから」が12人（22.2%）、「日本語が難しいから」が16.7%、「日本の生活に適應するのが難しい」が9.3%、「差別がある

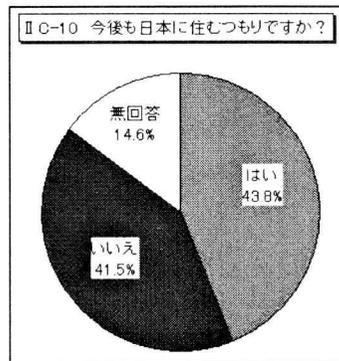


図 5-75

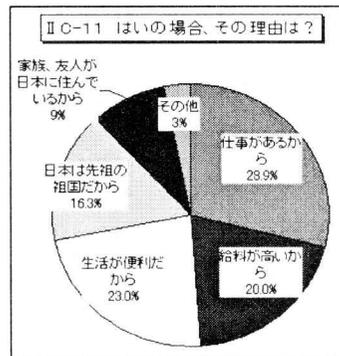


図 5-76

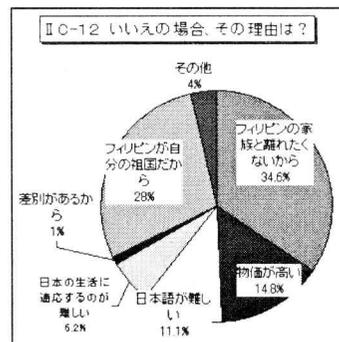


図 5-77

から」が1.9%だった。

出稼ぎがもたらした変化

収入面で出稼ぎがもたらした変化については、「収入が増えた」と答えたのが70.0%と最も多く、「変わらない」は15.4%、「収入が減った」はたったの1.5%だった。(図5-78)

借金面での変化は、「変わらない」が最も多い36.2%、「借金が減った」が36.9%、「増えた」は3.1%だった。

出稼ぎ前から借金をしていなかった回答者が多かったため、「変わらない」が多くなったようである。(図5-79)

家についての変化は、「家を建てた」者が48.5%、およそ半数が出稼ぎにきてから家を建てている。「家を建てていない」人は21.5%、「家のローンを払った」人は2.3%だった。

電化製品については、「購入した」が69.2%、「していない」が4.6%だった。

家族の絆の変化については、「変わらない」が最も多く40.0%、「強まった」が34.6%、「弱まった」がたったの3.8%だった。(図5-82) 出稼ぎによる家族の絆への影響はない、またはポジティブな影響があるととらえている日系人が多いことがわかった。

生活についての変化は、「楽になった」が66.2%、「変化なし」が10.8%、「苦しくなった」は2.3%だった。(図5-83)

出稼ぎによるその他の変化について、記述式で回答を求めたところ、7人が回答した。「生活が向上した」「子どもに必要なものを与えることができるようになった」「真

Ⅱ C-14 出稼ぎが及ぼした影響 収入

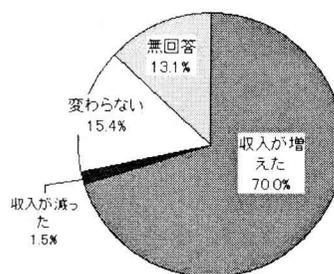


図 5-78

Ⅱ C-14 出稼ぎが及ぼした影響 借金

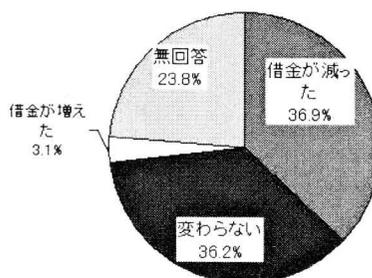


図 5-79

Ⅱ C-14 出稼ぎが及ぼした影響 家

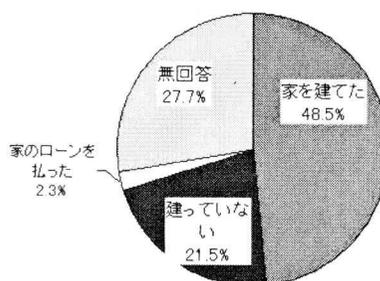


図 5-80

の幸福をもたらした」「自分の親族と会うことができた」「子ども自身の選択で子どもが学校に入学した」「会社に対して誇りを持つことができた」「退職金も計画もなく、将来が不確定。」などの回答があった。

Ⅱ C-14 出稼ぎが及ぼした影響 電化製品

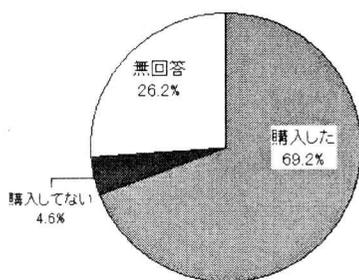


図 5-81

Ⅱ C-14 出稼ぎが及ぼした影響 家族の絆

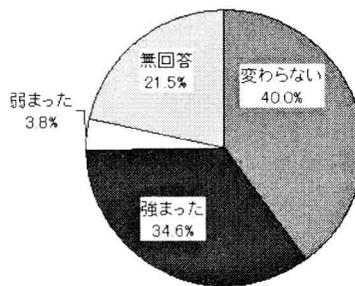


図 5-82

Ⅱ C-14 出稼ぎが及ぼした影響 生活

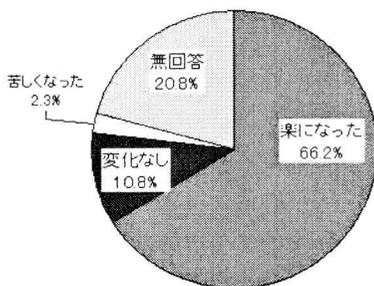


図 5-83

日本国籍取得の希望

「取得したいかわからない」が最も多く、42.3%であった。「取得したい」が25.4%、「取得したくない」が13.8%、「すでに取得している」が3.1%だった。(図 5-84)

Ⅱ C-15 日本国籍を取得したいですか？

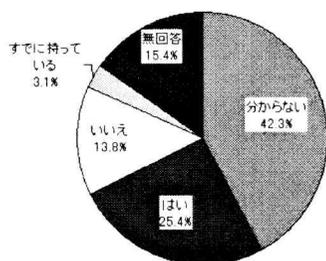


図 5-84

フィリピン帰国後の予定

フィリピンへ戻ったら何をするかという問いへの回答は以下のとおりだった。

<フィリピン帰国後の予定・希望>

要点	記述内容	件数
ビジネス	ビジネス・商売をはじめる/よい収入がある商売を探す/小さい事業をおこす/家族の将来のため、よりよい商売を見つける。/有機農園を多角経営する など	35
休暇	休暇/のんびりする。/日本に戻ってくるときに体力がでるよう、よく休む。日本では仕事づくしだから。など	12
仕事	仕事を探す/働く/以前の仕事に戻る など	8
農業	農業/私の農場で耕作する/以前のように農業をする	8
家族との時間	子どもと家族のために時間をつかい、のんびりする/家族といっしょにいる。/子どものことに時間をつかう/子どもの世話/家のメンテナンスをし、息子に必要なことをする/夫と同居する など	7
親族・友人訪問	家族、親戚、友人を訪ねる	8
未定	今のところ予定はない/未定/まだ計画はない	5
資産管理	自分の資産を管理する/自分の土地や家の世話	4
家の建築	快適な家をつくる/マイホームを建てる。	4
投資	自分たちの将来のために何か投資をする/将来、有益となりそうな資産に投資する	3
土地購入	土地を買う	2
定年生活	退職/定年して小さい商売をする	2
その他	生活の基礎を築く、生活を楽しむ、(そのためにはお金が必要だが)生活を維持する、よい将来を探す、仕事に戻り、日本の家族といっしょになれる機会を待つ。	各 1

表 5-4

将来の夢や抱負

回答者本人や家族についての将来の希望や抱負を聞いた。回答者の62.3%が記述回答した。

<将来の夢・抱負>

要点	記述内容	件数
子ども(や姉弟)の教育	子どもによりよい教育を与える/子どもたちの学業を終わらせ、よい暮らしができるようにする/子どもたちがよい大学を卒業するのを見届けること/4人の子どもに教育を受けさせ、よい人生を与えたい。/兄弟姉妹たちが全員勉学を終えること/(子供の)学校の必要を満たすこと。など	27
ビジネス	自分のビジネスを持つこと/安定した農業またはビジネスをすること/安定的に収入を生むようなプロジェクトを始める/フィリピンでビジネスをし、幸せな人生を送ること/フィリピン人に職を与えるためフィリピンでビジネスを創設する/子どものためにお金をため、家族でビジネスを始める/自分の事業をおこし、銀行に貯蓄すること。など	16
(家族の)よい生活	家族により暮らしを与え、いつか彼らが家族をもつこと/よい生活・よりよい将来/快適でよい人生を送りたい/生活水準を上げること/家族の繁栄/私と家族に神様が健康と富とを与えてくださるように。など	15
財産	乗り物、家、土地を買う/日本で土地と家を購入すること/家を建てること、農地を買うこと/家、土地、ビジネスのための投資/お金持ちになる/財産をつくること/賃貸アパートを建て、子どもたちのために畑をもつ。など	11
平安・安定・適度な生活	静かで平和な生活を送る/身分相応な慎み深い生活をする/平穏に暮らしたい/安定/生活が整えられること/安全な将来。特に食の安全/家族がゆったりと生活し、極端に貧乏でなく、生活に必要な程度の水準でいたい。十分な食事、教育、衣類と将来のための少しの貯金/定年退職し安定した収入を得ること/仲良く生活すること。など	12
支援	私の両親を助けたい/両親、兄弟、甥や姪を助けること/他人を助けたいので、もっと収入が増えたらいい/土地や家などを家族に買ってあげ、商売や教育などを支援すること/家族の生活の必要を満たすこと/日本にやってくる日系人を支援すること。など	8

家族の呼び寄せ	家族を来日させたい/日本で市民権を取得し、家族と日本に住みたい。/子どもにビザが下りて日本で働けるようになること/全ての子どもへの永住ビザ/(子どもに)大学を終えさせたあと来日できるようにすること。など	8
家族との幸せな暮らし	幸せな家族との生活/みんな一緒に生活し、一人ひとりが幸福になるように/家族が元気で、共に住み、ひとりひとりが幸せでいること/家族と一緒に暮らす。など	6
こどもの将来	子どもたちにより将来を与えること/きたる時代に、子供たちにより将来が与えられるよう/子供たちが専門家としての地位を得ること。など	5
フィリピンでの暮らし	自分たちが老いたら自分の国で暮らすためにお金を稼ぐ/あと数年ここで働いてお金をため、フィリピンで安定的収入を得るようになること/きたる時代に、子供たちにより将来が与えられるよう、たとえば、私が日本で働かなくてもいいように。/自分と妻は退職後フィリピンで過ごす	4
日本滞在	仕事を続けて日本に長くいること/日本で仕事をしながら長く住む。	3
その他	「良い仕事」「楽な生活をする」「人生で得たいものがたくさんあり、説明しきれない」「困難を乗り越える」「子どもたちのためにお金を使うこと」「3年後に米国ビザを申請し、米国に行く。なぜなら自分が学んだ理学療法士の資格を生かせるのは米国だから」	各1

表 5-5

7 日系人会について

日系人会への所属

フィリピンにある日系人会のいずれかの支部に「所属している」と答えた者は 66.9%、「していない」と答えた者は 10.8%、「以前はしていたが今はしていない」は 0.8% だった。所属する日系人会名は、PNJK（フィリピン日系人会）（ダバオ支部）が 52 人と圧倒的で、北部ルソン比日基金・アボンは 5 人、ピコール日系人会が 1 人、セブ日系人会が 1 人、日系人会ではないが、フィリピン日系人互助財団と答えた者は 4 人（当団体を指すと思われる回答「寺岡財団」も含む）だった。

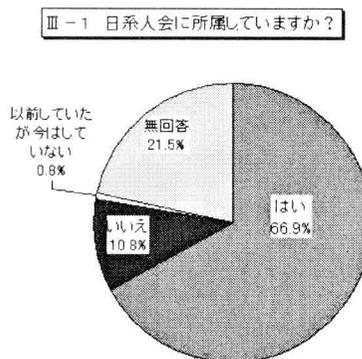


図 5-85

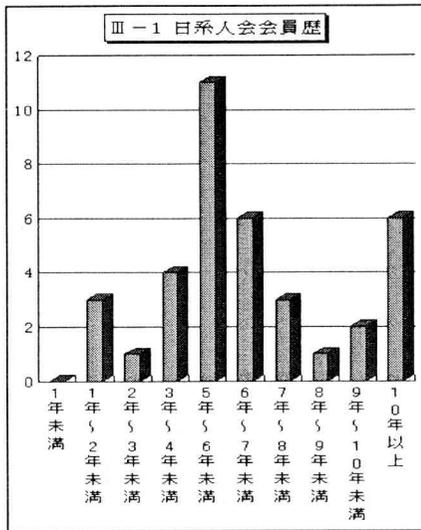


図 5-86

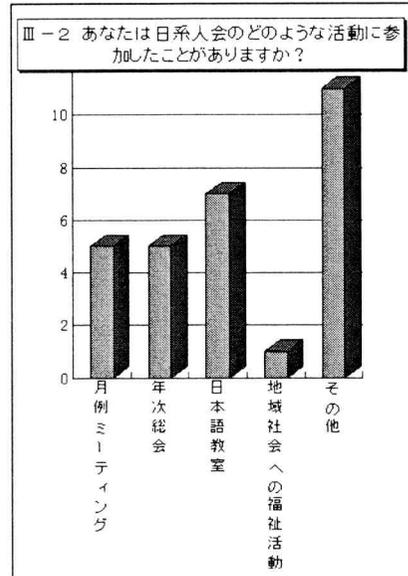


図 5-87

日系人会での会員歴

日系人会の会員になってからの年数が、4年から6年の間の人が多い。具体的には、1～3年の者は8人、4～6年が17人、7～9年が6人、10年以上が6人となっている。日系人会で参加した活動は、日本語教室への参加が7人、月例ミーティングへの参加、年次総会がそれぞれ5人、地域社会への福祉活動が1人だった。その他、参加したことのある活動として、日系人大会やセミナー(2人)、文化関連行事(2)、日本語コース終了パーティ(2)、日系人会創立記念行事(1)、日本人訪問者のホストファミリーになった(1)、日系人の登録作業の手伝い・コーディネート(1)、役員選挙の手伝い・事務所でのタイピング(1)が挙げられた。

フィリピンの日系人会との連絡

連絡を「とっている」と答えた者は46.2%で、「とっていない」26.9%を上回った。連絡を取るときはどのような時かを記述回答してもらった結果、「書類の作成やビザ申請などの用事で」(6人)、「法律関係の用事」(3人)、「日系人の従業員に関すること・仕事がらみで」(3人)、その他、「ご機嫌伺い」「つながりを強めるため」「フィリピン

III-3 フィリピンの日系人会と連絡を取っていますか?

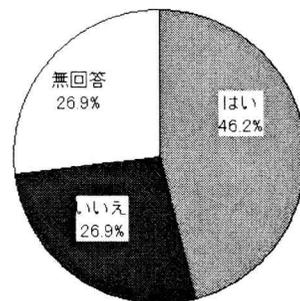


図 5-88

ンへ帰国するとき、日本に戻るときは必ず立ち寄るようにしている」「親が現在活動中のメンバーであるから」「親の戸籍登載のため」(各1人)などがあつた。連絡手段についても記述があり、「電話で連絡をとっている」(12人)、「組織に個人的に出向く」(4人)、「現役のメンバーを通じて連絡をとる」(2人)、「手紙を書く」(1人)が挙げられた。

日系人会に連絡をとっていない者35人にその理由を聞いたところ、14人から回答があつた。「電話番号や住所をなくしたから」「仕事で忙しい」(各2名)、「電話代が高い」「節約のため」「興味がないから」「いつも日本にいるため」「遠いから」「マニラにまだ日系人会があるかどうか知らない」「時間がない」「機会がない」「携帯電話が無いので」(各1名)などが連絡を取らない理由として挙げられた。

日系人会への期待

日系人会へ期待することとして、「就職活動の支援と就労先のあっせん」を選んだものが最も多く50.8%、「メンバーへの法的支援」は40.8%、「日本・フィリピン政府へのロビー活動」および「日系人相互の交流・親睦」が20.0%、「日本語教室の開催」と「相互扶助団体としての機能」が19.2%、「地域社会への貢献」が15.4%、「起業支援」が11.5%であつた。

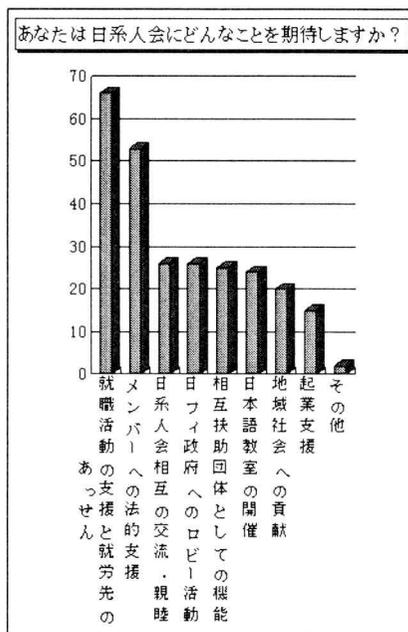


図 5-88

日本国内での日系人会の必要性

日本でも日系人会が活動する必要があると思うか、との問いに、「思う」と答えた者は64.6%で「思わない」の5.4%を大きく上回った。必要な理由は以下の通りであつた。

III-5 日本における日系人会の活動が必要だと思えますか?

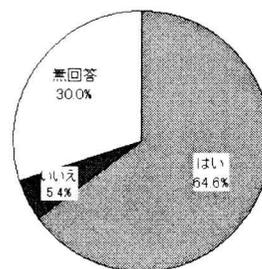


図 5-89

<日本で日系人会の活動が必要な理由>

要点	記述内容	件数
支援の希望・賛同	日系人を支援することができるから/日系人支援のため/助けになる/助けを必要とする人の救済のため/ここにいるフィリピン人のため/私たちのためになるから。など	18
(適切な)来日のため	日本人の血を引いている者が日本で働けるように/日系人メンバーが日本に合法的にいれるように/みんな日系人会を通して日本に来るため/家族が日本に来られるように/日本で働く手助けを会員がすることができる。	9
支援のお返し	日系人会が仕事を探すのを手伝ってくれたから/日系人会が貧困に対し、私の家族全体に大きく貢献したから/私たちに大きな支援をしてくれたから。など	5
必要性	支援が必要だから/日本で働いているすべての日系人に必要だから/まだ多くの人が支援を必要としているから。など	5
情報	情報や支援を普及させるため/財団が何をやっているか知るため/私たちの国や仕事についての情報や注意事項を知るため/日本でのルールについて知ることができるから。など	5
法的・書類の支援	法的な書類の関係で支援してもらいたい/書類などのサポートのため/法的な問題で私たちが支援するため/日系人の書類手続の簡易化のため	4
相互扶助	他に団体がない。各個人が我々を支える/助け合いのため/協力しあうため/私たちがよいコミュニケーションをするため。	4
問題解決	問題を簡単に解決するため/私たちが直面している問題に対し、解決を助ける/日系人会が日本に住むフィリピン人、特に問題を抱えている人にとって砦になるから	3
状況認識	私たち日系人の不満を認識するため/日系人の状況をよくみるため/	2
仕事面の支援	特に仕事に関し、日系人がすべきことを支援する/給料が上がるよう手助けするため	2
発展のため	発展するために/メンバーの経済的発展のため	2
団結のため	日系人が団結するため	2
その他	「日系人の中で協同組合をつくる」「日本で日系人の権利を教えることが必	各1

要」「日系人会は私たちがどう行動すればいいか知っているの」「日系人が迷わないように助ける」「日系人に機会を提供するために必要」「ここにはフィリピン人がもうたくさんきているから」「日系人会で学ぶことが多かったから」
--

表 5-6

また、日本に日系人会は必要ないと答えた7人のうち、その理由について以下のよ
うな回答が挙がった。「日本政府が助ければいい」「よくわからない」「今、日系人会が
どのようなことをやっているのか知らないの」など。

Ⅲ-6 あなたは日系人会に積極的に参加する
つもりはありますか？

日系人活動への参加意欲

日本の日系人会の活動について、「積極的に参加し
たい」と答えた者は55.4%でこれも「参加しない」と
答えた者6.9%を大きく上回った。「参加したい」理由
としては以下の回答があった。

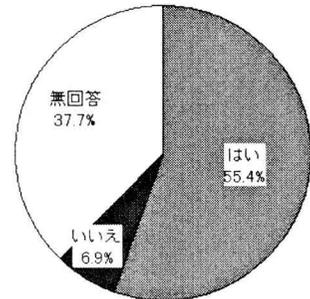


図 5-91

<日本で日系人会の活動に参加したい理由>

要点	記述内容	件数
在日の日系人を 支援したい	私たち日系人を支援するため/仲間の日系人を助けるため /他人を助けるために/必要としている人を助ける機会が あれば/私と同じような人を助けたい/法的支援のため。	8
行動・参加のため	目標を達成するために手と手をつなぐべきだ。私たちは、 ルールに従って正しいことをするべきだ/団結し、共通の目 標をつくる/プロジェクトに関与するため/団体のメンバー になるため/フィリピンで日系人会のメンバーだから、日本 でも/会員が多ければ多いほど、組織が強くなるから。	6

支援を受けるため・相互扶助のため	必要な場合助けてくれるから/生活がよくなるように/将来の生活が困難で苦しめられることがないように/日系人会はいつも私たちの見方になってくれるから/より安心してため/相互の助け合い。	6
交流・共有のため	交流のため/コミュニケーション/日本にはコンタクトを取る人がいないから/知識を共有するため/日系人家族と知り合いになるため。	4
感謝の意味で	日系人会が私を助けてくれたことに感謝しているから/日系人会が私たちのルーツを見つけてくれたから、感謝の印として参加したいなど。	4
日系人だから	日系人だから/わたしたちは日本人の血を受け継いでいるので。	4
趣旨への賛同	いいと思う/いい方法だから/私たちにとってとても有益だから。	4
情報収集のため	集会などがあれば、それにでることでもなにをするべきか、なにが必要かを知ることができるから/組織の潮流がどうなっているか知るため/いろいろな支援を知るため。	3
学びのため	ためになるから/日本の文化を学ぶため	3
在比の日系人を支援したい	フィリピンには助けを必要としている日系人がいるから/日本に滞在する機会を与えるため。	3
問題解決のため	ここ日本における日系人の問題を解決するため。	2
情報提供のため	日本で暮らす日系人についての最新情報を提供したいため。	1
監視のため	支援がちゃんとされているか見守るため。	1

表 5-7

なお、日本に日系人会があっても「参加しない」と答えた9人のうち、5人がその理由を記述した。内容は、「忙しい/仕事以外の活動をする時間がない」が4人、「年をとってしまっているから」が1人だった。

日系人会への提案

日系人会がメンバーへのサービスを向上させるための提案については、49人が記述回答した。以下はその抜粋である。

<日本の生活・仕事支援についての提案>

- ・ 生活状況に関する相談受付 (30代男性・3世)
- ・ 仕事や他のいろいろな分野の問題（お金の問題など）に関し、適切な助言をする (40代男性・3世)
- ・ 収入を貯金し、投資をするようにすべての日系人に奨励するべきだ。(40代男性3世)
- ・ 日系人がここ日本で持続的に生活できるよう助けること。日系人が地位を築き、単なるアルバイトでなく専門職をしての定職を持てるよう助ける。(30代男性・3世)
- ・ 仕事に関する私たちの問題を無視しないでほしい。日系人会がその解決に向け開かれた存在になればいい。(20代女性・3世)
- ・ 日本で働く規則やルールなどの大切な情報がなにか教えてほしい。(30代女性・4世)
- ・ 日系人と頻繁に連絡をとる (40代男性・3世) /いつも連絡をとれるようにしてほしい (20代男性・4世)
- ・ 日本で働いている日系人会メンバーの様子をフォローアップする (40代男性・3世)
- ・ ここ日本の私たちに会いに来てくれたらいいと思う。よろこばせてほしい。(20代女性・4世)
- ・ 週末や休みの日にメンバーの家を訪ねて、個人的に話をすれば、とても助けになると思う。“患者がすべての症状を伝えたときに、医師はよい診断をすることができる。” (40代女性・3世)
- ・ フィリピンに住むことを決めた場合に（参考になるように）、起業可能な事業、または日本に滞在しているながら投資できそうな事業やビジネスに関する情報を提供する（教育的な）ための教材かなにかがあればいい (20代女性・3世)
- ・ 短期滞在ビザで日本にいる家族を3度訪問して感じたことですが、日系人にと

ってもっとも困難であるのは、気候でも食べ物でも仕事でもなく、言葉の壁であると思います。ですから、より集中的な日本語の訓練をすることで、日本にいる日系人の生活の多くの面を助けることになると思います。(20代女性・4世)

<在日日系人の調査・研究についての提案>

- ・ この調査票のような形での毎年のモニタリング (30代女性・3世)
- ・ すべての日系人が日本での仕事や収入に満足しているわけではないので、日系人の状況を調査することはよいことだ。(30代女性・3世)

<在日日系人の交流・組織化についての提案>

- ・ 働いている日系人メンバーがミーティングをもてるようにし、そこで問題点や提案を出してもらおう。(30代女性・3世) /ミーティングを月2回持つべき。(40代女性・3世)
- ・ 私は日本にいるすべての日系人と協力関係を築くため、連絡をとりたい。そして団結を促し組織へと発展させる。そして支援改善のためのプロジェクトを開始するため、共通目標を構築する。ファンドも必要。(30代男性・3世)
- ・ 定例ミーティング、メンバーへのお知らせ、立場を強くする、会計報告、計画とプログラム。継続的に仕事の動機と忠誠心を確保するため、必要な動機付とスタッフ提供。(50代男性・3世)
- ・ 一年に一度、いろいろな場所にいるメンバーがいっしょに集まるか、年次総会をする。(お互いに知り合いになるため) (40代女性・3世)

<現在行っているサービスの質の向上についての提案>

- ・ 書類作成の迅速化/情報提供(遠隔地にも届くように) (20代女・4世)
- ・ フィリピン日系人の統計をとり、保持すること、紹介した際の記録をとること (50代女性・3世)
- ・ 組織のメンバーについて情報をアップデートする (20代女性・4世)
- ・ 私は日系人会の組織拡大のため、手助けや援助をしたい (20代男性・3世)
- ・ メンバーシップを継続する (40代女性・3世)
- ・ 日系人会メンバーのリクエストをよく聞くべき。(20代女性・4世)

- ・ 助け合い、一致していくことが必要だ。(30代女性・3世)
- ・ 私の子どもがみんな日本にこられるように、全力でサポートしてほしい。(高齢者の支援も)(50代女性・3世)
- ・ 日系人会はビジネスをすべきではない。会員へのよいサービス。(30代男性・3世)
- ・ バギオの日系人は、戸籍をもっているでも自分で戸籍をとる方法を知らず、戸籍を入手するのに苦勞している。マニラはフォローアップしたり照会したりするには遠い。戸籍をとる方法を日系人に教える方法があればいいのだが。(40代男性・3世)

<その他の要望・案>

- ・ 日系人会は、まだフィリピンにいる日系人の社会経済的向上の支援をしてほしい。(50代男性・3世)
- ・ 日系人会が2世の現状を改善し、3世には日本に行き働けるようにしてほしい。(50代男性・3世)
- ・ 日系人に関心を持ち続けるよう、議会にロビー活動をする。(50代男性・3世)
- ・ 日系人に特権を与える。書類をそろえることができない人たちも含めて。(30代男性・3世)
- ・ さらに多くの恵みを与えられるよう、日系人会のエージェンシーを整備すべき(40代男性・3世)

8 日本政府について

日本政府への提案

計42人が日本政府への提案を記述した。以下はその抜粋である。

- ・ すべての日系人が日本にいけるように支援してほしい。(40代女性・3世)
- ・ 日本政府は、日系人がもっといい職を探せるように、そしてブローカーから私たちが被害にあわないように支援してほしい。(50代男性・3世)
- ・ 日本人の先祖が死んでしまったために日本国籍を取得するすべがなかった日系2世のために、日本国籍または登録を与えてくれるよう、日本政府に心から希望する。このような寛大な行為をしてくれれば、私の母をはじめ、一生これを待っていた多くの日系人がどんなに心から感謝するだろうか。(40代女性・

3世)

- ・ 日本で日系人が働けるよう支援を続ける。(40代男性・3世)
- ・ 職や機会を提供すべきだ。(40代男性・3世)
- ・ 仕事をもっと斡旋してほしい。(40代女性・3世)
- ・ 日本に日系人がいることを認識し、特に仕事において同様の動機付けを与える(40代男性・3世)
- ・ (日系人の)能力を信じること(30代男性・3世)
- ・ 日本政府は日系人をもっと認め、彼らの能力を発展させるべきだ。エージェンシーをつくり、言語の壁を乗り越えられるように。あるいは子どもの教育支援、健康への支援などが必要だ(30代男性・3世)
- ・ 日本で働く外国人労働者に関わる法律をきちんと適用してほしい。日本語の読み書きができないからといって法律を無視していいと思わないでほしい(20代女性・3世)
- ・ 労働基準法を私たちにも適用し、差別しないよう望む(30代男性・3世)
- ・ 日系人への給与が低いのはやめてほしい(30代女性・3世)
- ・ (日系人が)日本人被雇用者としてもっと会社から恩恵を受けられるようになるといい(30代男性・3世)
- ・ 仕事のシステムにおいて特に、日系人メンバーに公平、十分な給料、日本人と同様の恩恵を与えてほしい(30代男性・3世)
- ・ フィリピン人との契約や待遇が日本人のものと同じになるといいと思う。(20代女性・4世)
- ・ 公正な権利と利益を(50代女性・3世)
- ・ 差別を避けるように(20代男性・4世)
- ・ 日本で働いている日系人が60歳になって退職したあとに、日本政府から年金を受け取ることができるようにしてほしい。(30代女性・3世)
- ・ 相談受付(30代男性・3世)
- ・ 役場に英語の話せるスタッフをおく。公的書類に英語の翻訳をつける。(20代男性・4世)
- ・ 日本にいる日系人が適切でよい生活を送れるにチェックし、施策を行ってほしい。法的なサポートは私たちに全員にとって重要だ。(50代男性・3世)

- ・ 政府は日本にいる日系人を保護する特別な法律を作るべきだ。(50代男性・3世)
- ・ 私たちの日本語学習を支援してほしい。また日系人会を支援してほしい(40代男性・3世)
- ・ 地方自治体で、私たちのような外国人に日本語教室を開催してほしい。なぜなら、私たちの問題の多くは、特に職場においてどうやって日本人とよいコミュニケーションをとれるか、にあるから。(30代女性・4世)
- ・ 日系人会を組織として認識し、その活動を支援してほしい(40代女性・3世)
- ・ 日本政府が、日系人会を認知し、日系人会のオフィスや日系人会の学校の教材などの改善のために支援してほしい。(40代女性・3世)
- ・ 何も無い。日本政府は日系人支援をたくさんやってくれている。他の支援を求めている日系人への支援を継続してほしい(20代女性・4世)
- ・ 日系人会とよく連絡をとりあうように提案する。(50代女性・3世)
- ・ カテゴリーBとCの家族のカテゴリーを上げる作業(戸籍登載)を早めるため、日本政府は日系人財団を支援してほしい。(20代女性・4世)
- ・ 日系人の組織にまかせっきりにしない。(40代男性・3世)
- ・ コミュニケーション能力を高めるため、お坊さんを日系人学校に派遣するべきだ。(40代女性・3世)
- ・ P N J Kへの協力や支援に対し、日本政府には百万回の感謝を述べたいです。私たちの生活改善のために、ずっと支援が続くことを願っています。日本よ、ありがとう。私をはじめとして、多くの貧困層に属する家族を本当に助けてくれました。本当にありがとうございます。(50代男性・3世)

9 斡旋業者について(任意回答)

この設問からは自由回答にしたため、無回答の比率が高くなっている。現在暗躍しているといわれる斡旋業者について情報収集を行った。

日系人会以外の組織による勧誘

「あなたは日系人会以外の組織から、日本への就労を持ちかけられたことがありますか？」について、「持ちかけられたことがある」と答えたものは10.8%、「ない」が32.3%、「無回答」が56.9%だった。10人に1人は日本就労についての話しを持

ちかけられている。

「その場合、どのような条件を提示されましたか？」では、7人が記述で回答した。

- ・ 戸籍とビザ取得手続きで13万円。
- ・ 詐欺とわかっていたのでミーティングに出席しなかった。
- ・ 給料天引き。
- ・ 高給のうえによい仕事だといわれた。
- ・ 互助財団と同様の組織で、財政支援、費用、前渡し金、基本的サービス（家など）の内容が異なる。書類準備手続きのための費用は給料天引き。
- ・ 無料のアパートと高給。
- ・ 日本に到着したとき、決められた契約条件が合意した内容でなかった。

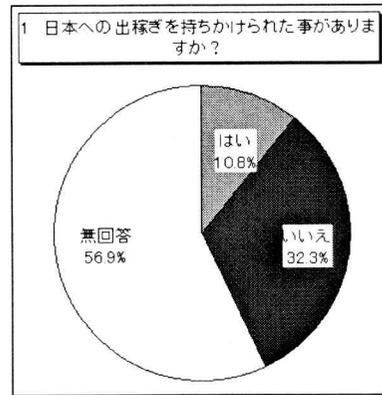


図 5-92

戸籍や関連書類の売買について

「あなたは人から、戸籍の売り買い、書類の買い取りなどを示唆されたことがありますか？」については、「示唆されたことがある」と答えたのが1人（0.8%）のみであった。「ない」が42人（32.3%）、「無回答」が66.9%だった。実際に経験のある人は1人だけであったが、戸籍売買の実態があることを現す貴重な証言である。

最後の設問、「あなたは戸籍の売り買い、書類の売買などについて耳にしたことがありますか？あればその内容を書いてください」について、8人から記述式回答があった。

- ・ 聞いたことがある。特に貧しくて戸籍がみつけれない、あるいは書類を準備できない日系人が被害にあっている。
- ・ 聞いたことがある。彼らは戸籍を約束し、家系図と補足書類をほしい人に30万ペソで売る。ほしい人は半額を書類受取時に払い、日本で仕事を得了ときに残りの額を払う。

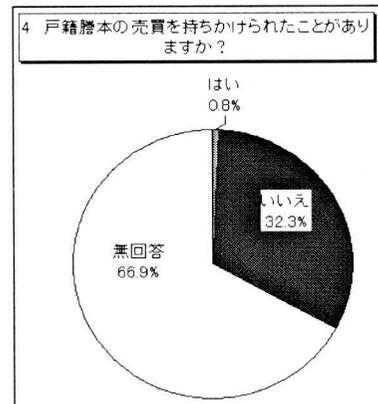


図 5-93

- ・ 南部日系人が戸籍謄本を売っているらしい。
- ・ Aというファミリーに属さないのに属するとみなすということを知ったことがある。この人は家族長にお金を払わなければならない。
- ・ フィリピンのほかの地域によくあると聞く。事務所の内部の者が、互助財団を通さなくてもいいよう他で動いているといううわさがある。これは連合会と互助財団の目的と矛盾するので正すべき。（これは他の日系人の話が根拠）
- ・ 日系人でない者を日本人のつてにより日系人のようにしたてあげていることを聞いた。
- ・ 影響を受けた書類を使って遅延登録で証明書を作る。
- ・ 知っているのはジャバユキさんのケースだけ。しかし、戸籍の売買ではなく、書類の貸し借り。

以上がアンケート調査のすべての回答結果である。

3. 調査結果の分析とまとめ

回答者の基本的属性データから浮かび上がるアンケート回答者の平均像は、次のような人物である。ミンダナオ島出身（全体の70%を占める）の日系3世（77%）、既婚者（75%）で、歳は40代（33%）前半、国籍はフィリピン（82%）、大卒（38%）でタガログ語とビサヤ語、英語ができる。宗教はローマ・カトリック、日本の住所地は東北地方（37%）（福島県）。

来日と日本滞在に関するデータから、フィリピン日系人のほとんど（91.5%）が就労目的で、定住ビザ（80%）を取得して来日していることが明確になった。日本での滞在年数が増えるに従い、定住ビザから永住ビザに切り替えるものが出てきている。来日時1998年から2000年の間と2002年から2004年の間に多い。

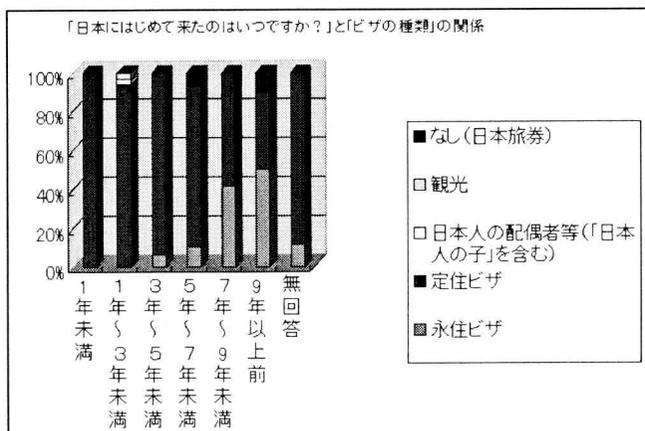


図 5-94

来日を支援したのは主に日系人会（68.5%）であるが、1割の日系人は、派遣会社の支援により来日を果たしている。1年から2年間に一度フィリピンに帰国し、また日本に戻り就労するという繰り返しのパターンが多いことがデータから見受けられる。

日本での同居世帯では、血縁関係にある者（特に配偶者）と二人で、会社が借りたアパートに暮らしているというパターンが多い。また、日本に血縁者が最低一人はいるという人は8割にのぼる。このことから、フィリピン日系人は単独ではなくむしろ、家族数人単位でフィリピンと日本を移動するのが一般的な傾向であることがわかる。同居人とは出費を分担し合って生活しており、完全な被扶養者は少数派である。同居世帯の収入は、同居人数におよそ比例して増加しており、二人で暮らす世帯が多いため、一世帯 20 万から 30 万円の家計規模のところが多くなっている。同居世帯の総支出については、記入不足のため実際の支出額を反映していないと思われるため、ここでは言及しない。フィリピンに子どもを残して日本で就労している日系人が多い。

経済的状況と送金に関しては、平均給与（手取り金）は 10 万円から 15 万円、その高額ともいえない収入の中でやりくりし、平均的な日系人

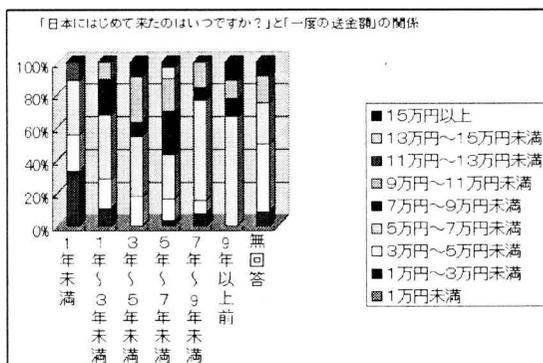


図 5-95

は、貯金、家や土地購入などの投資、さらには毎月のフィリピンへの送金も行っているのが平均像だ。来日後、7年までは送金額が徐々に増加するが、その後は減少する傾向にある。送金先は、主に配偶者や子ども、または両親であり、月々の送金は5万円から7万円が一般的である。

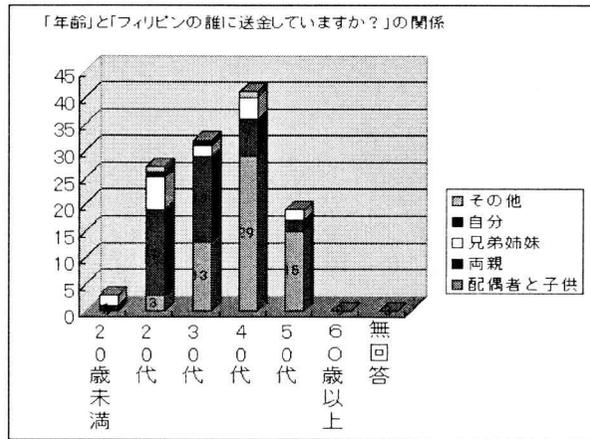


図 5-96

日系人の就労については、食品加工などの製造業での直接雇用、または派遣業者により製造業者の工場へ派遣されるなどの間接雇用がある。この製造業への集中・特化の現象は、フィリピン以外の日系人やその他外国人労働者に共通するものであろう。不況の中、不安定に変動する必要な労働者数を、必要な時にとりばやく充足させたい日本の企業側のニーズと日系人の労働力供給がここに合致した結果である。

職場環境は、回答者本人以外にも、数人から数十人の日系人や外国人労働者を雇用している事業所が多いようであるが、回答数が少ないため、厳密な言及はできない。

労働状況は、勤務時間と夜勤、休日等については労働基準法に沿ったものになっており、大きな逸脱は見出されなかった。残業に関しては、職場により差はあれども、全体的に長めになっている。時給を稼ぎたいためにさらなる残業を希望している意見もあり、日系人にとって、日本においては生活の楽しみよりも、より大きな収入を得ることを優先させる場所であるようだ。福利厚生については、健康保険への加入は約半数があると答えているが、事業所に加入義務があるその他の労災や失業保険等に関しては非加入であるようだ。これは日系人側の理解不足により加入状況が認知されて

いない可能性もある。

仕事に対する満足度はいってよく、仕事や会社における問題はないと答えるものも7割と高かった。しかし、日本政府への要望を記述回答した中では、日本人と同等の待遇を求める声が多くあがった。また、2割が日本で差別された経験をもっていた。職場での問題も差別の原因も、日本語の能力不足による誤解、理解不足にあると日系人自身が認識している。転職については、5割が転職経験を有していなかった。転職経験がある人の転職の動機は、仕事のたいへんさなど、仕事内容に関するものが多く、次の関心が時給の高さであった。

日本での生活については、日本人や日系人の友人を比較的多く持ち、また日本のテレビ番組を見るなど、日本の生活に溶け込んでいる様子がみられる。実際、日本での生活に慣れたと回答したものは7割弱である。一方、日本の生活に慣れないと回答した者は高齢者に多く、また自分はフィリピン人であると強く認識している人にその傾向がみられた。またフィリピンの番組をテレビやビデオで見ていない人にその傾向が強かった。情報へのアクセス不足によるストレスが、日本での不適應の原因になっているのであろうか。また、生活上の問題として挙げられたのは「言葉の問題」が圧倒的に多く、次に「就労」、「食べ物」と続いた。

また経済的な理由からも早急の呼び寄せはかなわないことから、今後、家族の来日、定住化はゆっくりとしたペースで進んでいくと思われる。定住を希望する日系人は、雇用の機会や経済的側面を重視している傾向があり、一方、希望しない日系人は、フィリピンの家族との結合を重視、または日本での生活の困難さを感じている傾向があった。

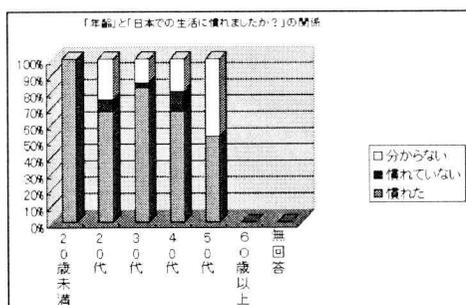


図 5-97

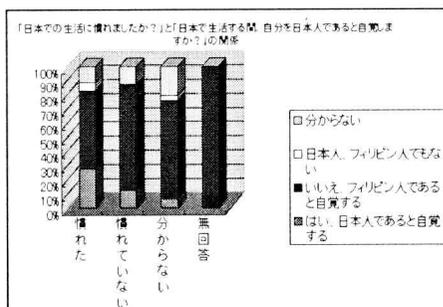


図 5-98

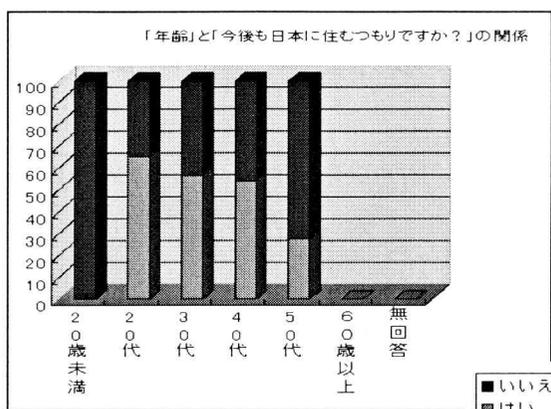


図 5-99

日本国籍に関しては、取得したいかわからないという日系人が多い。国籍選択に対し慎重な姿勢をとっているか、あるいは情報不足により判断基準がもてないている、などの要因が考えられる。また、日本での生活に慣れた日系人ほど、日本国籍取得の希望が高いことがわかる。

日本への出稼ぎがもたらした影響に関しては、日系人の大多数は、経済、生活の質、家族の関係いずれの面をもポジティブに評価している。フィリピン帰国後は、現在の収入を元手に将来ビジネスを興したいという日系人が最も多かった。また、家族との時間や日本での生活でたまった疲れを癒したいという希望が多かった。将来の夢は、子どもに教育を受けさせ、育て上げる

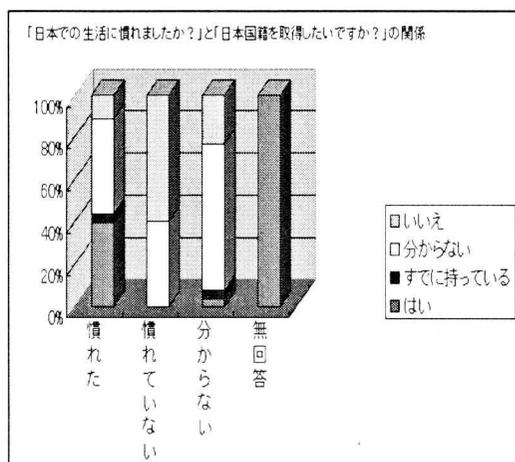


図 5-100

ことについてが最も多く、それ以外でも家族の生活の向上や幸せを願う意見が多くみられた。現在の日本での就労は、日系人の家族の基本的な必要を満たすための努力、犠牲的な行動であることと察することができる。

日系人会への所属は現在も6割を超え、半数が日系人会と連絡をとっていると言う。日系人会に期待することは、就職活動の支援と就労先のあっせんやメンバーへの法的

支援が多かった。日本国内での日系人会の活動の必要性については賛同するものが過半数を超え、また参加意欲も強く、関心の高さが伺われた。在フィリピンの日系人に対する支援の継続と、在日の日系人への新しい支援の必要性について多く意見があがった。日系人会への提案では、日本での生活や仕事の支援についてのさまざまな案が出され、日本での日系人同士の交流の場や情報の提供、相談窓口の設置などの要望があった。日系人の定期的ミーティングの開催、日系人自身による組織化が必要だという意見もだされた。現在の日系人会の活動に関して、質の向上を求める意見もだされた。書類作成やビザ申請などの迅速化、メンバーとの連絡の継続、フォローアップなどの必要性があがった。

日本政府に対しての日系人からの提案として、フィリピン日系人や日系人会に対する認知や支援、日本人と同等の待遇、相談受付業務や地方行政窓口での英語による案内の充実、などの意見が多くあがった。

斡旋業者に関する自由回答から、実際に斡旋業者からの勧誘があったのが全体の1割、戸籍謄本などの売買を持ちかけられた経験があるのが1人(0.8%)、売買の話聞いたことがあったのが6%だった。日系人が悪質な斡旋業者から搾取されないよう、情報提供、支援策をとっていく必要がある。

まとめとして、在日フィリピン日系人へのアンケート調査から、日本で暮らす日系人は、家族の生活や社会的地位、さらに子どもの教育の向上のため、日本での就労とフィリピンへの送金などの努力を行っており、実際にその成果も上がっていることがわかった。しかし一方、日本語・コミュニケーション能力や情報へのアクセスの不足、家族との分離による孤独などの問題を日系人は抱えており、そのため、日本で日常生活を営む上で助けになる支援を要望する声は高い。また、多くが製造業での就労のため、困難な業務内容や日本人との待遇格差により、日系人が困難に直面する危険性があることがわかった。さらに、派遣という雇用形態の増加により、不安定な雇用環境という現状にも直面している。これらの現状から、日本に滞在するフィリピン日系人のためのセーフティネットが必要となってきたと考えられる。

第2節 聞き取り調査

1. 調査の実施概要

1 目的

本調査では、日本に滞在しているフィリピン日系人一人ひとりをより深く調査し、本章第1節アンケート調査による量的調査に補足し、日本在留のフィリピン日系人について質的なデータを得ることを目的とする。これは、フィリピン日系人に対する政策提言の基礎的資料を得ることを最終目的とする。

2 方法

アンケートに回答した在日のフィリピン日系人の中から、東京近郊の日系人を対象とした。年代の異なる日系人をランダムに抽出し、調査の依頼をした。居住地まで訪問し、5名のフィリピン日系人に対して聞き取り調査を行った。

2. 調査結果

以下の内容は、被調査者が現地の言葉または英語で陳述したそのままを、同時進行的に日本語に翻訳し、書き留めたものである。

(1) フィリップ・カクルバさん（仮名）

19歳男性、4世、独身、日本滞在1年未満、埼玉県児玉郡在住

私はフィリップ・カクルバ（仮名）、1986年生まれの19歳です。私は中村マタイチ（仮名）のひ孫の日系4世です。私の祖母は残留2世のカメ（仮名）、母はその娘で3世のロサリー・カクルバ（仮名）です。現在私は祖母カメの弟・中原義経の子どもである叔母（アメリカ）と叔父（エドモンド）とともに、埼玉県児玉郡にあるS 養鶏で働いています。派遣会社はI社です。

私の家族では、母ロサリー（3世）が福島県石川郡の養鶏場で働いていますが、父と他の兄弟姉妹はフィリピン・ダバオにいます。私は5人兄弟の2番目です。

家は農業で、ダバオのバンサランに1ヘクタールの農地を所有しており、ココナツ、マンガ、ドリアンを栽培しています。また同時にトライシクルを1台所有しており、客を乗せて運賃をとることでも収益を得ています。私は18歳でトライシクルの運転を

して収入を得るようになりました。私はダバオのパンサランで高校3年生まで終えた後、Hさんの会社（派遣会社）に応募し、採用になりました。フィリピンでは仕事がないため、収入を得てお金を貯めるためです。母がI社で働いていた関係で採用になりました。18歳だった私は、母の被扶養者としての在留資格を取得し、日本に来ました。母のいる平田に数週間いた後に、2005年3月、埼玉県のS養鶏で働くようになりました。日本に行く前に日本語等のトレーニングはまったく受けていません。

S養鶏には175,000羽くらい鳥がおり、鳥に何種類もの注射をしたり、薬を点眼したり、ケージに詰めたり鳥を出したりするのが仕事です。

M農場では私たちフィリピン日系人3人と日本人8人の計11人が働いています。日本人は30代が2人、他はもっと高齢です。私が一番若いです。家は会社が提供してくれており、5万円を3で割った金額が毎月の給料から引かれます。家は農場の敷地内にあるため、仕事場にはすぐにいけます。

7時には仕事場に入り、30分間、その日の仕事の指示を受けた後、7時30から5時まで働きます。10時に15分間の休憩、12時から1時まで昼休み、3時に再び15分間の休憩があります。他の日本人との関係は特に問題はありません。厳しい人もいますが、いろいろな人がいるのは普通のことだと思います。

休みは日曜日だけです。時々日曜も要請されて働くことがあります。仕事を始めてすぐは時給900円でしたが3ヶ月後には1,000円になりました。叔父も同じです。叔母は女性なので時給800円で、仕事内容は同じなのにおかしい、とっています。5時以降残業するときは25%の割増し賃金が払われますが、日曜日に働いても通常の金額です。

ダバオにはたくさん鳥がいるので、鳥を扱うのは慣れており、仕事に不満はありません。同じ鳥を育てるのでも日本はハイテクなので驚きました。たとえばえさをやるのも、フィリピンでは手でやりますが、日本は機械です。

給料は20日締め翌月10日払いで、派遣会社のH社長がここに直接きて私たちに払ってくれます。控除前の給与は21~23万円ですが、家賃光熱費、保険（I社ダバオ会、県民救済）、健康保険、所得税などをひかれ、手取りは15~16万円です（来日すぐの頃は貸付金が5万円ほど引かれていたため12万円くらいでした）。そこから私は毎月父に5万円くらい送金しています。家族支援のためです。父は私と母の送金で現在家を建て替え中です。また下の弟妹は3人も小学校（1人は次の6月に高校に入

学予定)なので、彼らの教育費にも充てていると思います。

H社長は給料を払うと同時に、私たちに問題がないか、見に来ているようです。ピザ更新などもH社長が面倒みてくれます。携帯電話がほしい、と頼めば、買ってきてくれて、お金は給料天引きにしてくれます。ラーメンを食べさせてくれたこともあります。

日本語ができないので、日本に来てからいとももらった単語帳で練習し、少し覚ええました。今では少し話せますが、まだ十分ではないので機会があれば勉強したいと思います。問題といえばそれだけです。

日曜日は叔父や叔母とともにヤオコウなどに買い物に行きますが、会社の周辺以外の場所は詳しくないので遊びに出かけたりすることはありません。派遣会社のH社長が、私と叔父用に自転車を2台くれました。

月2回くらいは東京のアジアフードの店にフィリピンの食材を注文します。宅急便の代引きで支払います。食べ物には困っていません。

私はこれから20年くらい日本で働きたいと思います。日本とフィリピンとを比べればフィリピンのほうが好きですが(というのも私はフィリピンで生まれ、育ち、私はフィリピン人ですので)、働くのは日本で、と考えています。フィリピンでは給料が安いので。大雑把に言えば日本での1ヶ月の給料は、フィリピンでの1年間の給料に値するのです。

まずはお金を貯めて、土地を買い、フルーツや植物を植えたいです。

私は被扶養者として日本にきたのですが、成人した兄は被扶養者にはなれないので日本に来ることができません。祖母カメの名前がまだ戸籍に載っていないからです。私の兄弟や私の従兄弟たちが日本で働けるようになるといいと願っています。

(2) エドモンドさん(仮名)

50歳男性、3世、既婚、日本滞在8年、埼玉県児玉郡在住

1997年9月、PNJKを通じ、A鉄鋼に就職しました。3ヶ月半後の12月に、神戸のY鉄鋼所に移動させられ、そこで1999年3月まで働きました。Castingの仕事(三菱自動車の下請け)で、鉄くずの溶接や組立です。給料はよかったです(時給1000円、時には10時まで残業)、大変な仕事だったので、契約期間が終わると退職し、い

ったんフィリピンに戻りました。数ヶ月後、I社に応募し、採用されました。

I社から宮城のTハムに派遣され、そこで2000年から2003年まで働きました。時給750円（女性は700円）でした。ソーセージの作り方を覚えたのはよかったのですが、やがて、ソーセージが原因のアレルギーになり、通院しなければならなくなったため、辞めました。

療養のためフィリピンで休んでいたところ、2005年、H社長に呼ばれ、働かないかと言われました。そして2005年2月にここ、S養鶏農場に来て、今では約1年になろうとしています。

妻と1人息子はフィリピンにいます。遅く結婚したので息子はまだ10歳です。

私の兄弟姉妹（中村義経の子7人＝女4人、男3人）は、全員日本で働いた経験を持ちます。現在2人がフィリピンで休暇中です。姉リリアが昨年11月に、ここS農場に来て、現在、私は姉と甥（中村カメの4世）と3人で、S養鶏M農場で働いています。

仕事を変ったときのフィリピンでの休暇を除くと約7年半か8年間日本で働いていることとなります。これまで毎月7－8万円をフィリピンの家族に送金してきました。

日本に行く前には畑で農業をしていました。2005年、200万ペソくらいかけて家の建てかえをしました。家の横には父から受け継いだ小さな土地があり、そこではヤシや果物、野菜などを栽培しています。

S養鶏の仕事はまあまあです。鳥が手をつつくので、それが傷になり、痛いということがありますが、それは日本人労働者でも同じなので、文句を言うつもりはありません。機会があれば日本で働き続けます。いつまで働けるかわかりませんが、日本で産業・農業の知識を得ましたし、稼ぐことができました。そのことに感謝しています。日本人の友達やフィリピン人の友達は周りにはいません。日本は「仕事仕事だけ」なので、日本人の友達がいなくても特に問題はありません。

日本でも、日系人の活動は必要だと思います。何かあったときの助けが必要ですから。私は古くからPNJKのメンバーで、個人的な問題に直面したらPNJKに連絡をとります。

毎日妻と娘に電話しています。コンタクトをとり続けたいからです。朝、時には昼、夜と1日何回もかけることもあります。毎月国際電話のカード10枚（8,500円）を使

ってしまいます。カードもH社長が給料のとき持ってきてくれて、給料天引きにしてくれます。

家族は日本に遊びに訪ねてくるだけならいいですが、日本で仕事をするのは自分だけでいいです。家族を働かせようとは思いません。

(3) アメリアさん

53 歳女性、3 世、既婚、日本滞在 7 年、埼玉県児玉郡在住

1998 年、I 社に採用になり、福島県の平田村の鶏卵会社の T ファームで 5 年間働きました。46 歳だった私は、PNJK では「高齢だから日本で就職は無理」と断られたのですが、H 社長が採用してくれたのです。H 社長にはとても感謝しています。

平田村のあとは、富岡の T ファームに移り、2 年間働きました。平田村のときと同じ会社で、社長は S・T 氏です。その後、栃木の T ハムに移り 3 ヶ月、次に高山村にある S 養鶏の T ファームで働きました

家族は夫と子ども 3 人です。3 人の子どもたちのうち、17 歳の末娘だけがフィリピンにいて、後の 2 人は日本で働いています。2 人とも I 社からの派遣で、長男は三重県でエレクトロニクスの仕事を、次男は群馬の S 養鶏で鳥の仕事をしています。2 人とも既婚ですが、長男は単身、次男は夫婦で、日本で働いています。夫の仕事は農業ですが、今、私は夫と末娘を、在留資格認定証明書を取って呼寄せの手続きをしています。11 月に手続きしましたが、まだ下りません。娘が日本で働けるのかどうかわかりません。17 歳ですから。いったん日本に来たとしても、再びフィリピンに帰って大学に行くと思います。

私は日本に来る前は小学校の先生をしていました。月給 12,000 ペソです。23 年勤務した学校を退職し、日本で働くことを決めました。日本で働くことにより（フィリピンにいるより）多く稼げたので、よかったと思っています。この間、家を少し建て増しましたが、私は家より農地に投資したいと考えています。今、2 ヘクタールの土地がありますが、この農地をよくしたい。またさらに土地を買って農地を大きくしたいと思っています。家は建ててしまえばそれだけですが、農地はそこからさらに収益を得ることができますから。

また私は日本国籍をとりたいと思っています。

(4) ロサリンダ・ナブヤ (仮名) さん

30 歳女性、4 世、既婚、日本滞在 8 年 埼玉県深谷市在住

私はロサリンダ・ナブヤ (仮名)、1975 年生まれの日系 4 世で、埼玉県深谷市に住んでいます。大学卒業後の 1997 年に来日し、仕事を持っていましたが、2005 年 12 月に第 1 子を出産、現在は無職です。私の家族は皆、すでに日本で暮らしています。

私の曾祖父は、戦前フィリピンに渡った鹿児島県出身の日本人、吉満末吉 (1 世) です。曾祖父は、バゴボ族の女性と結婚し、私の祖父、吉満幸治 (仮名) が 1932 (昭和 7) 年に生まれました。米やアバカ麻を作り家族 7 人で平和に暮らしていましたが、戦争が始まり、曾祖父は日本軍に徴兵されたそうです。戦後、日本へ引揚げた曾祖父から数回手紙が届き、祖父幸治の名が戸籍に記載されていることがわかったそうです。

その後、祖父、吉満幸治 (2 世) はダバオ市出身の祖母と結婚し、私の母、吉満ルーズ (仮名) (3 世) が 4 人姉妹の 3 女として 1956 年に生まれました。母は、フィリピン人の父と 1974 年に結婚し、私を含め 5 人の子をもうけました。父は小学校教師として、母は果物の仕入れの仕事をして、私たち姉弟を大学まで行かせてくれました。私の来日後、母は 1999 年 10 月、父も 2002 年にそれぞれフィリピンを離れ、ふたりで川口市のクリーニング工場に働いていましたが、私の出産後はふたりとも退職し、現在は一緒に暮らしながら、家事を主にしてくれています。

母の姉妹は、末っ子のキャロルを除き、長女ロイダ、次女ジョセリンもすでに日本で働いています。2005 年 7 月、フィリピン日系人リーガルサポートセンター河合弘之弁護士の助けにより、母の名前は祖父幸治の戸籍に記載され、すでに日本旅券を取得しました。叔母のジョセリン (愛知県小牧市在住) も、戸籍登載を希望しています。

私は長女で、私の下には弟が 4 人います。ミンダナオ大学卒業後、フィリピン日系人会 (PNJK DAVA0) の日本語教室で勉強しながら、日本フィリピンボランティア協会の植林事業の手伝いなどをしました。その後 PNJK を通じ、1997 年、すぐ下の弟のジョジョと共に、22 歳のとき初めて来日しました。最初は丸亀市の S 木材での仕事に就きましたが、男性ばかりの職場での力仕事は体力的にきつく、3 ヶ月で退職し、その後は福島県の A 社にて 1 年間働きました。その後は埼玉県に移り、春日部で食品加工の仕事を 2 年ほど続けたのち、リネンクリーニング業にもついたので、夏には 50

度近い中で作業しなければならず、その仕事は長く続けられませんでした。その後現在の深谷市に移り、友人の紹介で携帯電話工場での出荷前検査の仕事をしていましたが2005年、妊娠を機に退職しました。

2004年8月に結婚した夫は2005年3月にビザが取れて来日し、現在は同じ深谷市内のMフーズにて働いています。これで晴れてファミリー全員での日本暮らしが実現しました。

2000年に3番目の弟が来日、2003年に2番目の弟と末っ子も来日しました。弟のうち2人はすでに結婚しており、妻も日本で一緒に働いています。

現在は既婚の弟夫婦2組を除き、父・母・独身の弟2人・夫・そして生まれたばかりの私の息子の7人で一緒に暮らしています。それまで両親とはお互い別々に仕事を持っていたので、週末にカトリック教会のミサなどで月に2、3度会えればよいほうでしたが、今では家族そろってとても幸せな毎日です。収入は毎月、夫と弟たちがそれぞれ25万円ずつ給料をもらっているのですが、今までの貯金とあわせれば、皆で暮らすには十分な額です。現在のアパートの家賃は6万3,000円、2LDKで十分な広さがあります。電車の駅からは遠いですが、バス停もスーパーも近いので満足しています。弟たちの仕事は夜勤と日勤のシフトがあるので辛そうですが、ふたりともまだ若く、体力もあるので、がんばっています。両親も弟たちの弁当を作ったりして協力しています。

フィリピンには家族で月3万円ほど送金しています。これは親戚に任せてあるポメロ（柑橘系の果物）農園の運営資金に充てています。また、フィリピンに家もあるので、その管理にも必要です。

今後、子供の教育をどこで受けさせるかは、これから家族と相談しながらゆっくり考えていきます。今は2006年12月に息子の洗礼と1歳の誕生日を祝うため、皆でフィリピンに帰国できるよう貯金しているところです。

(5) レオネル・ハマダ・ロングノ（仮名）さん

55歳男性、3世、既婚、日本滞在2年 東京都八王子市在住

私はレオネル・ハマダ・ロングノ（仮名）です。母マーシー（日系2世）とフィリピン人の父の間に生まれた日系3世です。

私の祖父は和歌山出身の日本人、浜田金之助（仮名）で、1920年代くらいにフィリピンに渡りました。祖父は、バギオのアンタモックの鉱山の労働者として働いていました。鉱山で祖父はイフガオ族の女性と知り合い、結婚し、2人の子供をもうけました。長女は私の母マーシー（仮名）で、弟はジョシュア（仮名）といました。ジョシュアが6歳くらいするとき、日本とフィリピンの戦争になり、ジョシュアは飛行機からの弾に当たって死んでしまいました。戦時中、祖父は家族といっしょに行動していましたが、戦後は収容所に入れられ、日本に強制送還されました。強制送還された後も、祖父と母は手紙でのやり取りをしていたようです。祖父はフィピンに戻ることはなく、日本で亡くなりました。祖母は農業をして母を育てました。

私の母は、フィリピンの学校で教育を受け、バギオの大学（教育学部）を卒業しました。その後、母は教師として小学校や高校、アメリカンスクールなどで教えました。母は同僚の教師だった父と出会い、結婚し、6人の子供をもうけました。

私は、2番目の子、長男としてイフガオのバナウェで生まれました。バギオの大学で学び、エンジニアの基礎課程（2年）を修了しました。その後、単身でマニラに行き、Airways Specialist の試験（政府機関 Civil Aeronautics Administration が実施）を受け、合格しました。そのため私は CAA Air Academy に入学、2年の過程を終了し、卒業しました。私の専門は、飛行機と飛行場間の通信・ナビゲーションでした。卒業後、公務員として Air Transportation Office で 28年間働きました。昇給し、退職前は Airport Manager までになりました。1993年、私は JICA の Air Navigation Equipment のトレーニングを受けるために、日本に初めてきました。3週間ほど、東京にある JRC（Japan Radio Corporation）や川崎市の東芝で研修を受けました。当時、日本について感銘を受け、日本で働きたいと思いました。2002年、私は 52歳で退職しました。

私はバギオで小さい商店を経営していた女性と 1979年に結婚し、6人の子供をもうけました。私が転勤になるごとに家族は住所地を移動していましたが、現在はフィリピンの私の定住地をキリノ州に決めました。そこには土地と家があり、私の母が手伝いといっしょにそこに住んでいます。

子どものうち、長男と次男は大学のコンピューター経営学を卒業しました。長男は今、イフガオ州庁（Provincial Capital）で勤務しており、妻と子供が1人います。次男は、妻と子供2人を持った後、脳溢血をおこして死亡しました。そのため、彼の

2人の子は私が支援しています。長女は大学の商業学を卒業し、会社勤めをしており、まだ独身です。次女は商業学の会計専攻を卒業し、これも会社員です。3男は勉強を怠けたため、留年してまだ高校4年生、4男は、今大学1年生で看護師のコースを選択しています。

日系2世である私の母は、昔からバギオ日系人会（アボン）とかかわりが深く、シスター海野が日系人支援を始めたころのメンバーでもありました。現在の日系人会連合会会長の寺岡さんとも知り合いです。しかし、私は公務員としての仕事があったため、以前は来日しませんでした。今、退職したので日本に来ています。

退職後、私はすぐに日本に来ました。来日の理由は、退職で職がなくなったため、日本で職を探そうと思ったからです。私の弟は、2003年の2月に先に来日していました。2004年9月にはもう一人の弟も来日しました。

来日の際、私はフィリピン日系人互助財団の支援で、日系人として定住ビザを取得しました。そしてP社という派遣会社を互助財団に紹介してもらいました。契約書に署名しましたが、そこに書かれた条件は来日後守られませんでした。前約束であった、24万円の「借金」を6ヶ月でP社に支払わなければならない、私はそれを払い終わりました。24万円の内訳は、航空費としかわかりません。おそらく、P社の手数料などが入っているのでしょう。あと、互助財団の収入になるのかもしれませんが。財団がやっている来日前の日本語研修は受けませんでした。

成田空港には、P社の代表取締役のT氏が迎えにきていました。P社にはスタッフはおらず、T氏だけがすべてを管理運営しているようです。まず、茨城県の友部町に住みました。アパートはP社が用意しましたが、家賃などは給料から天引きされました。家には4人の日系人の同僚が同居し、家賃は一人2万6千円を払っていました。税金と労災保険、光熱費、水道代なども給料から天引きされました。健康保険には加入してくれなかったため、自分で国民健康保険に入りました。その会社には自転車で通い、電気製品の品質管理の仕事をしました。故障を見つければ修理し、その後出荷します。時給800円でした。仕事の内容は、よかったです。1年半働いた後、会社は閉鎖になり、所有者が変わったため、私たちは解雇されました。

P社から仕事を紹介されなかったため、私は日系人の友人から紹介された群馬の派遣会社M社に移りました。派遣先は車の部品を作っている会社でした。時給は900円、アパート代や光熱費はやはり給料からの天引きでした。税金の控除もありましたが、

労災には入れてもらっていなかったかもしれません。3週間ほど働きましたが、他の不法滞在のフィリピン人にとって変えられました。理由はよくわかりませんが、彼らへの給料は私たち日系人より低くてすむからだと思います。

2005年6月、私と弟2人は岐阜のH社という派遣会社に行きました。自動車部品の製造をしている会社の工場で、労働者として3ヶ月働きました。8月、私の息子が病気で倒れたため、私は2人の弟と共にフィリピンに帰国しました。そのまま息子は死亡してしまったため、後始末のため、長くフィリピンに滞在し、11月に日本に戻りました。

私と弟は元の派遣会社P社に電話し、戻りました。この会社のほかに知らなかったからです。今の私の派遣先はH社で、サーキット版を製造している会社です。私は品質管理の仕事をしています。コンピューターの画面を見て故障がないかチェックします。時給は900円、夜の7時から朝の4時までの夜間の仕事です。私1人が日系人で、他に10人ほどフィリピン人（女1人、男9人）がいますが、みな在留期間超過の者たちです。

今一番苦労していることは、派遣会社との問題です。たとえば、私たちの給料から控除した税金を派遣会社が納税していなかったことがありました。ある日系人がビザの更新の際、納税証明書を役場に申請したら、納税されていないことが判明したのです。それらのトラブルの後、社長は給与から税金を控除することをやめました。しかし、最近、平成16年分の納税徴収票をもらいました。控除していないのに、なぜ源泉徴収票をつくれるのか、理解できません。偽の書類を作ったのではないのでしょうか？また、在職証明書を取得するのに、会社は私たちから1枚2万円もとります。被雇用者なのに、在職証明書を申請するのに、なぜお金を払わなければいけないのでしょうか？また、社長から渡される印も押していない給料明細（Pay Slip）にはよく記録に間違いがあります。勤務時間が実際より短くかかれていたり、時給が実際より少なく書かれていたりします。私は常に誤りがないかチェックし、少なく書かれた部分は請求するようにしています。今、2か月分の誤りを請求していますが、まだ支払いをうけていません。これらの差額は社長のポケットマネーになってしまうのだと思っています。字が読めない日系人などは、だまされてしまってかわいそうです。また、派遣先の会社がP社を通して支払ったボーナスを、P社は払ってくれないということもあります。ボーナスがなかった日系人が派遣先でたずねたところ、支払った、とのこと

で、P社に不平を訴え会社を欠勤したら、P社の社長はボーナスを渡してくれたそうです。もっと悲惨なのは、ある日系人の女性です。工作中、手をプレス機にはさんでしまい、手のひらの半分までがなくなってしまいました。しかし、一年ほどたつ今も、労災が降りていません。おそらく社長が労災への加入手続きをやっていなかったのでしょう。P社では今25人くらいの日系人を抱えています。日系人の出入りが速いです。しばらくすると、他に移ってしまう。P社の悪いことが分かってくるからでしょう。

今後も、日本でしばらく働きたいと思います。しかし、他の機会があればすぐにも、P社から別の会社に移りたいと思います。私は私の名が戸籍に登載されることを希望しています。そして、子供を来日させ、働いてもらいたいと思います。日本に来るのは子供たちの選択ですが、日本人の血が入っていることがビザを持つことで証明されるのはいいことです。フィリピンの方が人との付き合いが深く、生活は日本より楽しいと思います。日本を選択するのはやはり就職の機会と給与の高さです。フィリピンに円を持ち帰れば、よい額になります。

日本のいいところは、仕事です。フィリピンの場合、就職がたいへんで、多くの必要書類を会社から要求されるし、縁故者もないといけません。しかし日本の手続きはとても簡潔で、すぐに仕事を始められるところがよいと思います。

今の楽しみは、英字新聞を買ってきて読んだり、聖書を読んだりすることくらいです。家族に会えないのは慣れました。家族みんなと日本でいっしょに住めたらいいと思います。日本人の友人もたくさんいます。でも、コミュニケーションが問題です。英語を多少しゃべれる日本人もいて、私の家に遊びにくる人もいます。私が日本人の友人の家に遊びに行くときもあります。

第6章 フィリピン日系人の組織化の現状と課題

フィリピンの日系人を代表する組織として日本政府に認知されているのは、1992年に発足したフィリピン日系人会連合会である。連合会は各地の日系人会を支部として組織されており、現在17支部から成る。各地の日系人会は、日系人の数の違いにもあって規模、歴史ともに様々で、それぞれ独自の歴史をもつ。

本章では、第1節で連合会の発足経緯と組織構成について、第2節で連合会の構成員で比較的規模の大きい2つの日系人会の歴史について概観した。第3節でフィリピン日系人の組織化の現状を知ることがを目的に実施した「日系人会組織アンケート調査」結果を、項目ごとに整理し、比較検討し、調査結果の分析から、あるべき支援策を考えた。

第1節 連合会の歴史と組織構造

フィリピン日系人会連合会（以下、連合会）は、1992年1月18～22日にダバオで開催された第1回日系人大会の場で提案され、組織された。この大会は各地の日系人会代表が初めて一箇所に集った記念すべき大会で、最終日に採択された決議文には、ダバオ、バギオ、サンボアング、セブ、イロイロ、スリガオ、プトゥアン、ネグロスからの代表が署名しているから、少なくともこれらの地域から参加があったと思われる。

大会開催に到る経緯は定かではないが、目的は「フィリピン各地の日系人会グループ・組織の親善交流、並びに将来的には統一された団体として組織を運営していくこと、フィリピン全土に散住する日系人の生の声を日本政府にアピールすること」であったという（参加していたジャフィール日比協会理事の中畑順次氏の手記による。以下同じ）。大会3日目に、連合会の組織役員の選出が行われ、初代連合会会長にはダバオ代表の日系2世、阿部庄一（フィリピン名Rodolfo Tutor）が選任された。バギオからダバオまで、15の支部（各地の日系人会）が、連合会に組織された。この「連合会」結成式は、後にフィリピン日系人の法的地位向上に力を尽くすことになる弁護士・西田研志や、日系人会と地域社会への貢献という分野で力を発揮する日本フィリピンボランティア協会会長の網代正孝も参加していた。

連合会は設立と同時にフィリピン証券取引所に法人登録した。当初、ダバオ市ラナ

ンの「フィリピン日系人会（PNJK）」を住所地として登記された。1993年2月、連合会は、弁護士・西田研志を代理人として日本弁護士会連合会人権擁護委員会に人権救済の申立を行った。同弁護士は後に連合会の法律顧問に就任した。

1994年の第2回日系人大会で、阿部庄一にかわり、セブ出身の日系2世、大成マサヨシ（フィリピン名 Benedicto Onari）が会長に選ばれた。これに伴い連合会の住所はダバオからセブ島マンドラウエ市のセブ日系人会に移された。

1995年、1997年、連合会の全面協力のもと、外務省による第一次、第二次フィリピン日系人残留日本人調査が実施された。1995年には集団で帰国した2世32人のうち13人が日本滞在中に日本旅券の発給を受け、受け取ったばかりの日本旅券で帰国した。

フィリピン日系人社会では身元確認への期待が一気に高まった。1995年、1997年、1998年と3度にわたって2世の集団帰国も実施され、政治的に問題をアピールするチャンスとなった。

1998年12月、集団帰国の一行に同行して来日した連合会会長、大成マサヨシは、身元調査の継続を求める嘆願書と2世3世の署名約6千人分を小淵恵三首相（当時）に提出した。同時に連合会は法務省、外務省、労働省、厚生省（当時）に日系人政策をめぐる質問状を提出し、その回答を求める形で4省との合同交渉に臨んだ。しかし、期待に反し、政府による支援は再開されなかった。

連合会顧問を務めていた弁護士が経済問題を理由に1999年4月に辞任し、日系人支援運動から退くと、連合会の活動はしばらく停滞する。

2000年、連合会の役員選挙でバギオ出身の日系2世、寺岡カルロス（北部ルソン比日基金理事長）が会長に選ばれた。在バギオ日本国名誉総領事であり、また日本の各種支援団体や国会議員とのパイプを持つ寺岡は、その立場をフルに活かし、日本政府に身元調査再開を求めた。2003年10月にフィリピン日系人リーガルサポートセンター（PNLSC）が発足したこともあり、2004年3月の外務省の第三次調査、2005年6月から9月までの第四次調査が実現した。この2回の調査は、外務省が連合会に調査を委託し、それにPNLSCが全面協力する形で実施された。その後もPNLSCと連合会のパートナーシップは続き、身元捜し、家族調査、就籍申立等が継続されている。

連合会の組織構造

連合会の定款によれば、連合会は会長職の下に副会長職3名を置き、ルソン、ピサ

ヤ、ミンダナオ、の3つのエリアブロックからそれぞれ選出するとされている。その下に書記、会計、社内監査役、事務局長の各職が置かれている。役員は2年ごとに選挙で選ばれるが、なんらかの事情で選挙が行われなかったときは従前の役員が継続して職務を遂行するという。さらに、会長が広報職、書記補佐、会計補佐を任命するとされ、その任期は2年である。

定款によれば連合会の設立目的は、①日本人を祖先に持つ会員どうしの、また会員と一般社会との協力・協調、相互理解の促進 ②会員の、またフィリピン社会全体の教育、文化、社会経済状況改善ためのプログラムや活動、プロジェクトの実施 ③日比国民間の現在および将来にわたるよりよい協力関係、相互理解、強い友好の絆構築に貢献する。④工業、経済、技術、農業、環境、歴史、社会学、人間学、その他すべての科学や人智・活動分野における教育、研修の推進 ⑤傘下の構成員である日系人会への支援（⑤は2003年10月23日の改訂で追加された）である。

発足時15支部だった連合会の支部組織は、2006年2月現在、下記の17団体となっている。

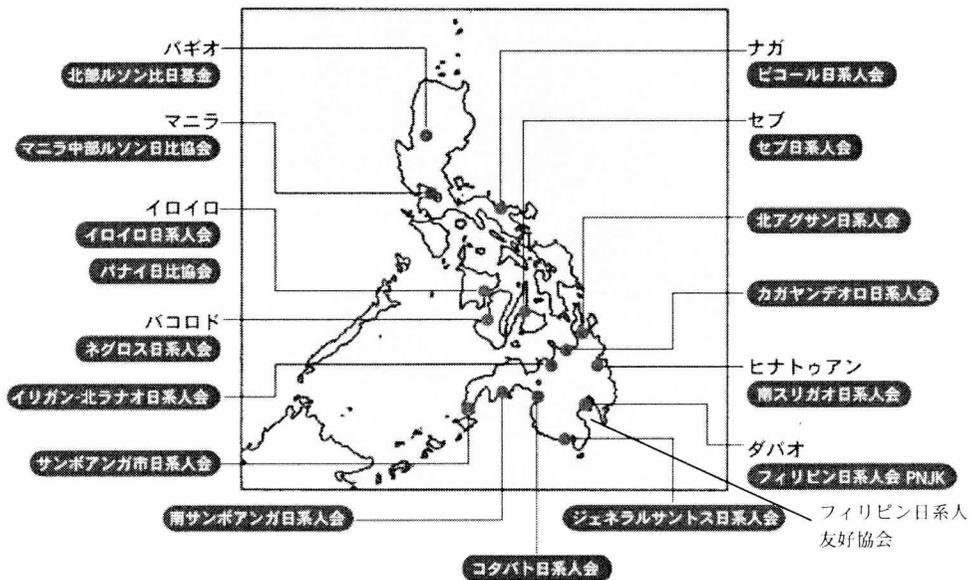


図 6-1 連合会に加盟するフィリピン各地の日系人会

第2節 各日系人会の特徴

1. 北部ルソン比日基金

バギオ周辺の日系人の組織化は、カトリック修道女・海野常世（シスター海野）の日系人掘り起こしに始まる。1970年にバギオを訪れ、差別を恐れて隠れて生きている日系人の存在を知ったシスター海野は、山々を歩いて日系人を探しだし、一人ひとりを励ました。シスターの提案で、1972年10月、日系2世浜田オセオ宅に28人の日系人が集ったのがバギオ日系人会のはじまりである。1973年6月、「再び日系人がばらばらにならないように」との願いから、北部ルソン比日友好協会が組織された（フィリピン証券取引所への登記は1983年）。

バギオの日系2世がまず望んだことは、子どもたちの教育支援であった。シスターは日本から寄付金を募って1974年に奨学金事業を立ち上げた。支援の輪は、遺骨収集にバギオを訪れる元日本兵をはじめ、カトリック教会関係団体、草の根市民団体、ロータリークラブなどに広がり、多くの日系3世4世が奨学金事業の恩恵を受けた（後に純粋なフィリピン人子弟も対象となる）。この奨学金事業は、現在も協会の最重点事業として実施されている。

1986年、日本からの寄付金で日比親善友好会館（通称アボン）が設立された。1987年、協会は、財団法人北ルソン比日基金を設立（理事長・寺岡カルロス）、ライオンズクラブやロータリークラブなど日本の支援団体とのパイプを強化しつつ、現在に至っている。

シスター海野は1989年12月に亡くなるまで、会の運営を全面的に支援し続けた。シスターは生前、若者の教育について「頭をつくるのではなく、人間をつくること」と述べ、「思いやりがあり苦しみのわかる人間をつくる」ことを提唱していたという。この精神は現在も会の理念として、脈脈と受け継がれている。シスター海野がバギオの日系人に与えた影響ははかりしれず、シスターへの尊敬と信頼、恩に報いたい、という会員の共通の思いが、会員の結束力となり、活動を支えてきたといえる。基金の現理事長・寺岡カルロスの「私たちはみな、シスター海野のあと継ぎですよ」という言葉にも、それが表れている。

2. ダバオ～フィリピン日系人会（PNJK）

ダバオでの日系人会発足は1980年3月である。1970年代に引揚者や旧軍人との交

流の中から結成された残留2世の集まり「2世会」が母体となり、世界救世教の宣教師・宮本敬三のアドバイスもあって「フィリピン日系人会 (Philippine Nikkei-jin Kai, PNJK)」が組織された(フィリピン証券取引所への登記は1980年4月)。初代会長には日系2世の萩尾ユキトシが選ばれた。萩尾の奔走で、ディゴス、サンタクルス、カリナン、ダバオ市に支部が結成され、会員数は400人余りとなる。

1981年には、日本で歯科医を営む平原定志が発足させた「フィリピン日系人友好協会」の支援で、日系人師弟の奨学金事業や日本語教育がスタートした。やがて地域支部は7つに、会員数は700人余りとなり、カリナン、アルトルガ、トリル、ダバオ市、ディゴスの地域支部では、日本語の話せる2世を教師とした日本語教室が次々に開校された。

1990年、「フィリピン日系人友好協会」や世界救世教の支援で、ラナンに「日系人会館」が完成した。

1991年、PNJK理事会は、小学校入学前の3～5歳の子どもたちを対象とした幼稚園を、PNJKの教育施設として開校することを決定した。裁判官や教師の職にあった日系2世、特に女性たちの尽力により、1992年25人の子どもの入学をもってPNJK幼稚園がスタートした。この年の終わりにはフィリピン教育省の認可を受ける。幼稚園は小学校にまで広がり、1996-1997年には小学校6年生までが開校された。現在のPNJK学校の土地は、1994年、日本フィリピンボランティア協会等の支援で購入されたものである。

2000年6月にはPNJK高校 (PNJK School of Davao Inc.) が、さらに2002年には「ミンダナオ国際大学 (Mindanao Kokusai Daigaku:MKD)」が開校した。ミンダナオ国際大学は、ダバオ生まれの引揚者・内田達男の妻の遺志を受けて建設されたもので、運営は日本フィリピンボランティア協会とPNJKが共同で運営している。日比の架け橋となる人材育成という命題のもと、日本語教育や日本研究を特長としたユニークな大学として、内外に知られてきている。

このように、幼稚園から大学までの教育施設を有することは、PNJKの大きな特徴となっている。

第3節 日系人会組織へのアンケート調査

1. 調査方法

フィリピン日系人の組織化の現状（規模、ビジョン・ミッション・ゴール、課題、展望）を把握するため、フィリピン日系人会連合会傘下の17の日系人団体に対し、アンケート調査を実施した。調査票の配布、回収は、フィリピン日系人会連合会の協力を得た。回答を得られたのは7つの日系人会のみであった。このうちコタバト日系人会は「我々はダバオPNJKの傘下であり独立した支部ではないが、将来独立する意思はあるため敢えて回答する」との断りがあった。

回答の中で不明な箇所や詳しく知りたい箇所については、可能な範囲で聞き取り調査を実施した。回答を得られなかった日系人会については、連合会を通じて最小限のデータを入手しようと努めたが、期間内には回答を得られなかった。連合会事務局すらコンタクトできなかった支部もある。

2. 調査結果

組織の基礎的データに関する回答を、表6-1にまとめた。

	設立年	SEC*登録の年	現在の会員数	役員数	スタッフ数			予算規模	財源
					常勤	パート	ボランティア		
北部ルソン比日基金	1972	1983	1,768	14	6	1	14	400万ペソ	日本の支援団体からの寄付/会員の会費・寄付
PNJK(ダバオ)	1980	1980	5,598		9	1	2	600万ペソ	日本の支援団体からの寄付/日系人からの会費/食堂賃料/翻訳サービスからの収入/日本語教室からの収入
中部ルソンマニラ日比協会	1998	1998	285		2	0	3	43万2千ペソ	互助財団が維持経費を提供/会員の会費・寄付
セブ日系人会	1991	1991	200	19	0	1	5	なし	互助財団が毎月の事務所維持経費を提供
パナイ日比協会	1998*	1998	126		1	1	1	12万ペソ	連合会が事務所維持経費を提供
サンボアンガ日系人会	1994	登録していない	20		0	0	2	なし	なし

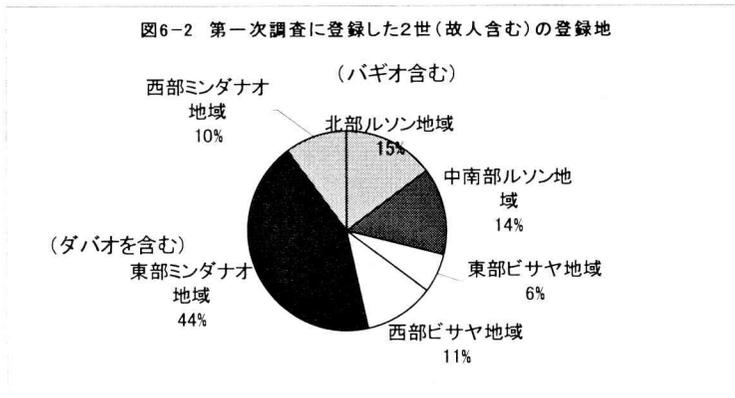
コタバト日 系人会(PN JKの傘下)	1988	登録 してい ない	168	7	2	1		なし	互助財団が最小限の維持 経費を提供/会員からの寄 付
---------------------------	------	-----------------	-----	---	---	---	--	----	----------------------------------

表 6-1 基礎データ

マニラ-中部ルソン日比協会（以下、マニラ日比と略）とパナイ日比協会（以下パナイ日比と略）の設立が1998年と比較的新しい。この2組織はいずれも、もともと当該地域に日系人会が存在していたところ、組織の内外から会運営のあり方に対する批判が起こり、一部メンバーを中心に新たに結成された組織である。前者の母体となったのは1993年設立のマニラ日系人会で、同会は新組織発足と前後して消滅した。後者は、イロイロ日系人会（設立年は定かではないが90年代初め）から一部会員が分かれたもので、パナイ島には現在も2つの組織が並存している（イロイロ日系人会からは今回回答は得られなかった）。この2組織を除くと、日系人数が集中しているバギオ（北部ルソン比日基金。組織発足当初は北部ルソン友好協会）とダバオ（PNJK）で組織化が早いこと、その後1990年前後に第二の波として、規模はそれほどでもないが日系人が一定数存在する地域で、会結成の動きがあったことが伺える。

会員数

ダバオがずば抜けて多く、さらにバギオもその他に比べるとかなり多い。この2地域はもともと日本人移民が多かった地域であり、そのため残留日本人2世が多くいるためである。参考までに外務省第一次調査に登録した2125人の2世（故人を含む）の



地域分布を図6-2に示す。2世全体の44%がダバオを含む東ミンダナオ地域に集中し、次いでバギオを含む北部ルソン地域（15%）に集中している。

予算規模と財政、スタッフ

ダバオのPNJKとバギオの北部ルソン比日基金の予算規模がずば抜けて大きい。

会員数の多さに加え、歴史が長く、活動の幅が広いためであろう。日本の民間支援団体から直接寄付を受けるなど、大口の独自財源を持つのはこの2組織だけである（他の支部でも、日系人以外を対象とした個別のプロジェクトに対する外部からの支援を受けているところはある）。他の支部は、連合会会員の査証申請手続きを一手に担う「フィリピン日系人互助財団」からの分配金が唯一の財源となっている（互助財団は収入として得た査証手続き費用の中から日系人会に必要な経費や事務局維持費を払っているが、金額の分配に関する特定のルールは特になく、任意である）。7組織中3組織が「（年間予算は）ない」と答えている。

P N J Kも北部ルソン比日基金も、主要財源が日本からの寄付である点は同じだが、P N J Kは「ファンドレイジングのための活動」として、日本語教室、食堂の賃料（運営を外部委託し賃料を受け取る）、翻訳サービスを挙げており、多様である。

独自財源を持つ北部ルソン比日基金とP N J Kは、活動も活発なためか、かなりの数の常勤スタッフを抱えている（6名および9名）。数は少ないが常勤スタッフがいるマニラ日比、パナイ日比、コタバト日系人会では、スタッフの給料は互助財団からの支援経費でまかなっているとのことであった（聞き取りによる）。セブ日系人会とサンボアング日系人会は常勤スタッフはおらず、必要な活動は役員が無償で行っているという（同）。

どの日系人会もボランティアを抱えているが、これは役員（会長や理事）が無償で会のための仕事を行っていること指す。このことはアンケートのほかの箇所でも、しばしば「問題点」として指摘されていた。現地聞き取り調査でも「理事がボランティアであることが、後継者が育たない一因となっていると思う」との声があった。

会館/事務所の有無

北部ルソン比日基金は1983年に、P N J Kは1986年にそれぞれ日本からの支援で会館を建設している。前者は2000年にシスター海野メモリアルホールが増築された。後者は、2001年ミンダナオ国際大学開校のため大幅に改築され、現在大学の1階部分が日系人会事務所となっている。

マニラ日比は1998年の発足時から、2世会員で不動産業を営む山岡一美氏が無償で3階建ての建物の2階3階部分を提供し、現在に至っている。この山岡一美氏は2002年より会長職にある。セブ日系人会は、1996年に日本フィリピンボランティア協会の

橋渡しで国際ボランティア貯金からの資金援助で福祉センターが設立されて以来、建物の一室を事務所として使用している。

イロイロ日系人会から分かれたパナイ日比は、事務所はなく、会長が自宅で事務・連絡をこなしている。ちなみにイロイロ日系人会は天台宗別格本山の深大寺の資金援助で設立された会館を有している（日本フィリピンボランティア協会の橋渡しによる）。

サンボアンガ日系人会も事務所はなく、会長や副会長が個人で事務連絡をこなしている。会員の集まりにも会長宅を使っているとのことである。

クタバト日系人会では 1994 年 7 月に外務省の資金援助で日本語学校校舎が建設されており、事務所として活用することも可能である。しかし「そこまで行く交通費を自己負担しなければならないため、自宅で仕事をするほうが楽」とのことであった（今回のアンケートより）。

ビジョン、ミッション、ゴール(VMG)

各日系人会の設立目的についての回答を表 6-2 に、ビジョン、ミッション、ゴールの回答を表 6-3 にまとめた。これらを注意深く読むと、いずれの日系人も、表現やうたっている箇所は異なるが、日系人の法的・社会的・経済的地位の向上、およびそのための日系人の団結に言及しており、これらが日系人会設立の根拠であり組織の目指すところであることがわかる。

表 6-2 設立目的

	組織発足の目的	10 年後の日系人会
北部ルソン 比日基金	戦後フィリピンにとり残された残留日本人が団結するため	今以上に組織化され、日系人の生活向上に成果を上げている
PNJK(ダバオ)	会員相互の相互理解と親善のため/会員どうしの、又は会員と一般社会との相互扶助、相互協力、調和的關係促進のため。会員の教育、社会、経済状況を改善するためのプロジェクトや活動を実施するため	①就籍や BtoA(戸籍登載)プロジェクトによる日系人認定が完了②日系人による協同組合ビジネスがスタート③日比の架け橋として重要な役割を果たしている④TESDA-JITCO 支援による非日系人向け研修生ビザのプログラムがフィリピン社会全体に向けた事業として確立⑤PNJKの教育施設がダバオ市における第一級の教育機関となっている
中部ルソン マニラ日比 協会	証拠となる様々な書類を提示することでフィリピン日系人が日本におけるルーツをたどることを助ける	適切な支援があれば、日本フィリピン両政府に認知され、そのビジョン、ミッションを次々に実現している、安定した組織となっているだろう
セブ日系人 会	セブアノの日系人が必要な支援を受けられるよう1つになるため。また彼らが日系人として認められるようにするため	セブ日系人会として自立的なプロジェクトを持ち、事務所の通信費、光熱費、会員の書類準備を手伝うための費用、必要とする会員への医療支援費等をまかなえるようになっている。

パナイ日比協会	日本人を親にもつ子どもの身元を確認し、助けるため	会員の3世4世のほとんどが日本で働いている
サンボアンガ日系人会	会員家族の生活をよくするため	日本で働くことで、日系人家族の生活が向上している
コタバト日系人会	(PNJKと同じ)	会員が共通の関心を追求する、独立した組織となっている

表 6-3 ビジョン、ミッション、ゴール

	ビジョン	ミッション	ゴール
北部ルソン比日基金	コミュニティと国の進歩に積極的に参加するような、人為的災害や自然災害に対し援助や救済を提供できるような、高度に教育され、経済的にも社会的にも責任を伴う、自立的な家族とコミュニティをつくること。	①高校、大学レベルの奨学金提供、②会員のための社会生活、産業・技術・農業技術向上のためのセミナー、ワークショップその他関連活動の実施、③人的・自然的災害の被害者に対する援助(財源と物資が利用可能な範囲で)・・・これらの手段により、進歩しつつある21世紀時代の共同体の一員として、フィリピン日系人の尊厳と貧しいフィリピン人の生活向上のために活動すること	
PNJK(ダバオ)	戦争によって取り残されたすべての残留日本人とその子孫が、日本政府によって日本人の子として認められるよう、声を1つにするべく団結すること。	日系人を日本政府が認めるよう日本政府に求めていくと同時に、フィリピン社会にとって有益なプログラムを実施すること	①すべての日系人のアイデンティティ確立のため、会員に、日本・フィリピン両政府が求める必要書類についての詳しい情報を提供する。②日系人としての真のアイデンティティ確立のためPNJK理事が審査面接を行う ③日本人の子として認められた日系人が定住ビザを得るため日本大使館との間に立つ ④日系人会のプログラムを知らない日系人のさらなる掘り起こし ⑤フィリピン社会への貢献として教育機関を設立する(子どもたちを善良で法を守る市民へと育てるため) ⑥フィリピン社会に受け入れられるような日系フィリピン人のイメージを示すべく、宗教、市民組織と関わる ⑦すべてのメンバーが団結し参加して協同組合ビジネスを立ち上げる(組織、メンバー、コミュニティの経済的地位を維持するため)
中部ルソンマニラ日比協会	日本の親族を捜すのを助けることにより、フィリピン日系人への支援の道を広げること	すべてのフィリピン日系人が日本政府に認められ、社会的経済的地位向上のため(日本で)働く機会を得られるようにする	
セブ日系人会	セブ日系人会は、同胞日系人の生活レベルの向上を望んでいる。また日本人の兄弟姉妹たちとその社会に対しても役に立ちたい。また、戸籍がみつからない日系人が日本政府によって認められることを望んでいる。		
パナイ日比協会	①フィリピン日系人の地位が全面的に認められるようにする ②日系人被雇用者も日本人と同様の権利を雇用主から保障される日がくることを望む ③パナイ島におけるフィリピン日系人のイメージをよくする ④団結と生産力をもって政府のパートナーとなる		

サンボ アンガ 日系人 会	それぞれの日系人の経済的社会的地位向上に重要な役割を果たす	心、目的、行動の面で一致団結する	結束、団結、チームワーク
コタバト 日系人 会(PNJ Kの傘 下)	日系人の強力な組織を持つこと。会員が、日本人を祖先に持つことで得られる特権を最大限、享受し、平和でよい暮らしを送れるようになること	会員の福祉の向上	最近、現在の状況に合わせて調整されたもの。現在、日系人としての登録を正式なものとし、彼らに仕事の機会を与えることに焦点を絞っている

最も歴史が古い北部ルソン比日基金は、ビジョンとして、社会全体に対する組織の貢献（社会と国の発展に積極的に関わり、自然災害や人災に支援の手を差し伸べるような、教育のある、経済的にも社会的にも自立した家族、コミュニティを育成すること）を打ち出している。これに対し歴史が新しいマニラ日比は、「設立目的」および「ビジョン」で、「日系人の身元探し支援（それを通じた日系人支援）」を挙げ、ミッションで「(社会的経済的地位向上のため) 日系人に日本で働く機会が与えられることを目指す」としており、日本就労とそれに必要な身元探しへの強い関心が伺える。設立が1998年、つまりフィリピン日系人の日本就労が本格化した時期であることも一因であろう。ちなみにコタバト日系人会も、ゴールで「日系人への仕事の提供」に言及していたが、こちらは「現在の目標」であるとの断りがあった。

北部ルソン比日基金とPNJKは、ミッション（使命・任務）とゴールで、かなり具体的な活動内容に踏み込んでいる。

北部ルソン比日基金のミッションは、①高校生大学生への奨学金提供 ②様々な分野のセミナー、ワークショップの開催 ③人災、自然災害の被害者に対する支援、を通じてフィリピン日系人と貧しいフィリピン人の尊厳を高めるために活動する、というものである。

一方PNJKのゴールは、日系人のアイデンティティ、法的地位の確立に必要な会員支援（手続きに関する情報提供と役員による面接審査、日系人の定住ビザ取得支援、登録呼びかけ）(①～④)、教育施設の設定 (⑤)、フィリピン日系人のイメージ向上のための他団体（宗教、市民組織）との交流 (⑥)、協働組合ビジネスの立ち上げ (⑦) である。

ビジョン、ミッション、ゴールはどのように作られたか、の問いでは、パナイ日比協会（現会長が作成）、サンボアンガ日系人会（役員の見解を統合した）、コタバト日系人会（発起人の非公式な会議で決定）が、かろうじてVGM作成手続きに言及して

いたが、その他は、「我々のアイデンティティ追求の結果である」「会員のニーズ分析から」「会員の生活向上を支援したいという願いから」など、直面する問題に対応してVMGが生まれたことを示唆する回答であった。後者の場合、作成手続きは不明であるが、通常NGOで行われているような会員参加のワークショップを経たところはないようである。

「ビジョン、ミッション、ゴールは組織の現状に合っているか」の問いでは、パナイ日比のみが「十分ではない」と答え、コタバト日系人会が「VMGはときに応じてかわっていくもの」と一般論を述べた他はすべて、「(VMGは)現状に合っている」と答えた。

活動内容

理事会（役員会）を毎月定例で開催しているのは北部ルソン比日基金とPNJKだけである。PNJKは、毎年、最大の支援団体である日本フィリピン企業協議会(JPIC)との合同理事会も開催している。この2団体以外は、必要に応じて理事が集まる形であった。

会員の定例会は、北部ルソン比日基金は、シニア、壮年、ユースなどの部会ごとに行われて、PNJKは、11の地域支部ごとに定例会ないし不定期の集まりが持たれていた。PNJK会員が全体で集まるのは年1回の総会及び選挙のときである。

会全体での例会を毎月開いているのはマニラ日比で、毎月50人前後の参加者があるとのことである。セブ日系人会は「できるだけ毎月定例会を持つよう努力している」という回答である。サンボアング日系人会とコタバト日系人会は定例化への言及はなく、おそらく必要に応じて会員が集う状況と思われる。特にコタバト日系人会は、別の箇所の記述によれば「遠隔地に住む会員が多いため全体で集まるのは困難」で、そのため設立以来一度も選挙が行われていないとのことであった。

日本語教室は北部ルソン比日基金とPNJKで実施していた。北部ルソン比日基金では、一時期、国際協力事業団(JICA)のボランティアが日本語教師を務めていたこともあるという。ちなみに、回答では挙げられていなかったが、聞くところによれば、最近、マニラ日比でも、日本人ボランティア、日本で学んだことのある4世などに先生になってもらい、独自に会員向けの日本語教室を開催しているとのことである。

その他、いくつかの組織で共通して挙げたのは、クリスマスパーティのような親睦会（北部ルソン比日基金、マニラ日比、パナイ日比）、日系人大会への出席（パナイ日比、サンボアンガ日系人会。※ここでの日系人大会とはフィリピンで開催される連合会主催の大会を指す。各支部は会員数に応じて代表を派遣する）があった。北部ルソン比日基金では部会ごとにピクニック、スポーツフェスティバル、映画上映会などを実施しており、会員どうしの交流に力を入れていることが伺えた。

	日常活動	独自の活動
北部ルソン比日基金	総会、理事会、部会ごとの月例会、各種親睦会、能力開発・職業ガイダンス(青年部会)、日本語教室、ケノンロードバビリオンの清掃奉仕、各種記念行事	教育プログラム(奨学金事業)、生計プログラム(各種セミナー)
PNJK(ダバオ)	会員に対する法的支援(大使館提出書類の評価/戸籍登載、査証申請手続き準備)、日本語教室・PNJK学校行事、研修生派遣プログラム、遅延登録審査会の開催、日比フェスティバル、慰霊祭	身元捜しの促進/戸籍登載プロジェクト/TESDA-JITCO 研修生派遣プログラム/PNJK学校行事/協同組合ビジネスの立ち上げ
マニラ中部ルソン日比協会	情報提供、ガイダンスなどの会員サービス、月例会、クリスマスパーティ、「海外日系人大会」参加ツアー、恵まれない子どもたちへの贈り物配布	ブラカン州ノルサガライの先住民への医療・歯科医師団派遣、生活困窮者への毛布の配布(ゴールデンエイカー財団の活動への参加)
セブ日系人会	月例会、理事会	「特別な子どもたち」のための福祉センター(デイケアセンター)運営
パナイ日比協会	事務、会員訪問、クリスマスパーティ、互助財団が召集する会議への出席	互助財団からの情報を会員に伝達する
サンボアンガ日系人会	日系人大会出席。互助財団・連合会が召集する会議への出席	会員に書類収集・準備を促す
コタバト日系人会	査証申請する日系人のための事務作業/親支部であるPNJKの年間行事への参加	各種書類収集・準備を促す

表 6-4 活動内容

各種記念行事では、設立記念日などを除くと、PNJKの「慰霊祭」が目をひく。日本からの遺骨収集団、慰霊団との交流を重視してきたのは何もPNJKだけでなく、他地域（コタバト、サンボアンガ、バコロド、セブなど）でも同様だが、今日まで公式行事として継続されているのは、さすが移民数が最大だったダバオならではの。具体的には、ダバオ引揚者でつくるダバオ会沖縄支部（沖縄ダバオ会）の「ダバオ慰霊と親善交流の旅」の受け入れ、交流を指す。

マニラ日比の「海外日系人大会」(財団法人海外日系人協会主催で毎年秋に日本で開催される)参加ツアーは、カテゴリー、世代を問わず、一度父(祖父)の国・日本を訪れてみたい、と願う2世(3世)に好評で、年々参加者が増え、昨年は70人規模のツアーになったという。フィリピン日系人の存在をアピールするため、衣装なども工夫をこらして参加しているという(子どもたちが日本で働いているカテゴリーAないしBの2世の参加が多い。大会終了後は日本で働く子どもたちの家に滞在して観光し、数週間で帰国する)。

会員に向けた法的支援を独自に、つまりマニラの連合会本部および互助財団から相対的に独立して、実施しているのはPNJKのみである。会員数がずば抜けて多く、十分な組織体制を備えているため、連合会内で暗黙の了解を得ているようである。マニラ、パナイ日比協会、コタバト日系人会が挙げた「会員向け情報伝達、ガイダンス」「会員への除法伝達」「会員に書類収集・準備を促す」も、法的支援の一部ではあるが、いずれもマニラの連合会ないし互助財団の実働部隊(下請け)としての仕事である。

会独自のプロジェクトとして注目されるのは、北部ルソン比日基金の奨学金プログラム、生計プログラム、マニラ日比の先住民への医療使節団派遣、PNJKの研修生派遣プログラム(一般フィリピン人向け)、セブ日系人会の福祉センター運営である。

生計プログラムの中身について、北部ルソン比日基金に聞き取りしたところ、これまでに、スリッパづくりセミナー、フラワーアレンジメント教室、日本人形づくり(1回のみ)、日本料理教室を開催したとのことであった。いずれも会員がスキルを学び、それを生計に活かせるように、との目的で実施したもので、特にスリッパづくりについてはフィリピン雇用労働省技術教育技能教育庁の、また日本人形づくりは日本のNPO法人国際エンゼル協会の支援を受けたとのことである。

また、協働組合については「日本の食材を扱う組合店舗の開設、会員向けローンなどを目指して3年前に設立し、登記も済ませ、40人くらいが参加を表明した。しかし、よいマネージャーが見つからないため、現在ストップしている」とのことであった。他にも養豚、養鶏の生計プログラムの案がでていますが、資本を必要とするため難しく、いまだ実現していないとのことである。協同組合ビジネスの立ち上げは、PNJKも「将来の課題」として挙げており、日系人会の新しい展開を示唆していると思われる。

マニラ日比に、医療使節団のプロジェクトについて聞いたところ、プラカン州ノル

サガラ出身の理事の1人が以前、公職として同地域の先住民支援をしていたことに端を発し、医師である現会長の息子（3世）が、仲間を誘ってこのようなプロジェクトを立ち上げたとのことであった。フィリピン社会への奉仕事業を日系人会のプロジェクトとして実施している点が注目される。

セブ日系人会の、福祉センター（知的障害児のためのデイケアセンター）運営も地域貢献プロジェクトの1つである。日本フィリピンボランティア協会（JPVA）が開設を支援し、1994年に国際ボランティア貯金でセンターの建物が建設されて以来、10年の歴史を持つ。JPVAは現在も、調布市内の福祉作業所ポピーの家と協働で同センターの運営費を支援しているとのことである。

問題認識

日系人会が直面している問題を聞いたところ、表6-5のようになった。

会員	会議に出席しない/参加が少ない(バギオ、PNJK,コタバト、)	組織	会長の仕事が多すぎる(パナイ)
	非協力的(PNJK)		時間厳守と忠誠心(マニラ)
	組織の一因という自覚/責任感がない(PNJK)		ダバオへの依存(コタバト)
	リクルータに説得されやすい(PNJK)	プログラム	財源がない(マニラ、サンボ、コタバト)
	会費を不払わない/払えない(PNJK, マニラ)		遠隔地に住む日系人に連絡をとることが困難(パナイ)
	書類作成・提出に時間がかかる(セブ、パナイ、サンボ)	その他	参加が少ない(PNJK)
	戸籍がなかなか見つからず希望を失ってしまう会員がいる(セブ)		コミュニケーション障壁(マニラ)
スタッフ	(日系人を雇うと)戸籍が見つかった後(日本にいくため)辞めてしまう		日系人の賃金は日本人より低い(パナイ)
	スタッフが2人しかいない(マニラ)		
	スタッフに給料が払えない/ボランティアである(セブ、パナイ、サンボ、コタバト)		

表6-5 日系人会が直面している問題点

会員に関することでは、いくつかの回答で、「会議/活動への不参加」「書類の準備に時間がかかる」「会費の未払い」等の原因が会員の経済状況（貧困）にあると指摘されており、組織による会員に対する財政援助が、解決策として挙げられていた。スタッフに関する問題やプロジェクトに関する問題でも、財政難が根本にあることが伺えた。

一方、同じ内容であっても、PNJKの「カテゴリーA Bの家族が総会に出席しない」は、身元が判明することで子どもたちの日本就労が可能になることから発生する問題といえる。北部ルソン比日基金の「スタッフが日本に働きに行くため辞めてしまう」も同様である。

会員が貧しいこと、会として支援したくても財政基盤がないためできないことが、規模の比較的小さい日系人会から指摘される一方、一定の組織基盤と歴史を持つ組織から、会員の日系人会離れ（特に日本に行ったあとの）が指摘されていることは、今後の日系人会の方向性を考える上でも、押さえておくポイントだろう。

日系人会の役割・貢献

「日系人にとっての日系人会の役割」として7団体中6団体が日系人のアイデンティティの確認/身元探しへの支援を挙げた（PNJK マニラ、セブ、パナイ、サンボアング、コタバト）。いくつかの団体で、「それによる日系人の経済的地位の向上」「日本就労の道を開く」などが付記されていた。身元が明らかになる（アイデンティティが確認される）→日本就労の道が開かれる→生活・経済状況が改善される、という一連の流れを支援することが、日系人会の主な役割、との認識が伺える。

一方、北部ルソン比日基金は「社会に貢献するリーダー育成」を、会の役割として挙げており、上記の流れとは無関係に、「人づくり」に力を入れていることがわかる。これは先にみた同会の「ビジョン」からも読み取れる

2団体が「日本で就労中の日系人の立場を守る/彼らのことを気にかける」を挙げた（マニラ日比とパナイ日比）。これは、実際に日本就労中で、問題を抱える日系人がいる現実を認識した上で出された意見と思われる。実際、マニラ日比の定例化では日系人の家族が、日本就労中の子弟の状況や問題点が話し合われているという。

日比関係への貢献では、両国の関係強化、架け橋になる、相互理解、教育・文化交流など、予想された一般的な回答であった。具体的にどのようにするかを問えば、さらに興味深い回答が得られたかもしれない。

フィリピン社会への貢献では、（日系人が日本で働き、送金することにより）フィリピン側家族の経済状況が改善し、ひいてはフィリピン経済も改善される、という内容の指摘が4団体から、「人づくりにより国づくりに貢献」が1団体から（北部ルソン比

日基金)、「日本文化を(フィリピンに)伝えることで貢献」(コタバト日系人会)が1団体からあった。

日本社会への貢献では、5団体が「労働力供給により日本の人手不足解消に貢献」とする中、北部ルソン比日基金が「文化交流・教育交流」を挙げている。日系人の日本就労が始まる20年近く前に発足し、当初から日本との教育交流、文化交流に力を入れてきた歴史によるものだろう。

「日本政府・民間セクターは日系人会会員の地位向上をどう支援できるか」の質問では、回答が分かれた。「身元確認により就労の道を提供する」(北部ルソン比日基金)、「仕事を提供する」(サンボアング日系人会)は、すでに実施されていることである。

マニラ日比の「日系人を国際競争力のある労働者にするためのトレーニング提供」、セブ日系人会の「日系人により賃金を保障する/日系人を利用して偽物を混入させようとする悪質ブローカーから日系人を守る」、パナイ日比の「日系人と日本人の賃金格差の解消」は、日本就労という現在進行形の現象をよりよくするための、あるいはその中で起きている問題を解決したいためのコメントといえる。セブ日系人会は、「雇用主がブローカーと取引するのをやめて日系人会とだけつきあえば、日系人が(ブローカーの)犠牲となることはなくなるはず」と、解決策まで提起している。

P N J Kの「就籍プロジェクトによって」は、身元判明が困難な証拠の少ない日系人の救済を求める意見である(「日系人会が調査し認めた日系人であれば、証拠がたとえ共同宣誓書のみであっても認められるべき」)。就籍は司法手続きであり、その許可は裁判所が下すものなので、上記括弧内のコメントは直接的には裁判官に対するものということになるが、就籍への民間・政府の支援・支持を広く求めた意見ともとれる。最後に残されるカテゴリーCの問題に言及した意見として傾聴に値する。北部ルソン比日基金も、「直面している問題点」の欄で、証拠がなく身元が判明しない日系人の問題に触れていた。

コタバト日系人会の、「日本政府は、日系人会の組織強化することで、また日系人が日本に入国するときの支援システムを提供することで、フィリピンにいる日系人会会員を支援できる(ほとんどの日系人は日本に着いてすぐは右も左もわからず、適応を容易にするための情報もない)」という意見は、唯一組織強化に言及した意見と解すべきであろう。同会は「日系人会の会員サービス向上のための提案」でも、組織化、運営のスキルが不可欠と述べていた。

	バギオ	PNJK	マニラ	セブ	パナイ	サンボ	コタバト
日系人会の役割	社会を変えていく力となるような優れた次世代リーダー育成	アイデンティティ確認/経済状況の改善	身元探しを支援。それにより日本就労の道を開く	戸籍探しを手伝い、みつかったらフィリピンでの書類準備を手伝う	身元探し	日系人認定	会員の成長・発展を支援する
日系人会の日比関係への貢献	二国間の協力関係、相互理解、教育・文化交流	戦争で損なわれた日比関係をよくする架け橋となる	強力な関係維持に貢献	日系人に日本の言葉、文化を教えることにより、日系人と日本人の間相違や隔たりを乗り越えるのを助ける	関係強化	社会経済的	祖先が失った日系人の信用をとりもどす
日系人会のフィリピン社会への貢献	人づくり、コミュニティづくりにより国づくりに貢献	日系人の生活水準向上はフィリピンの経済・教育の発展につながる	日系人に仕事の機会が与えられればフィリピンの失業率低下につながる	日系人を日本就労を支援することでフィリピンの家族の生活も向上	経済状況の改善	家族生活の向上	フィリピンで日本文化を紹介する
日系人会の日本社会への貢献	文化交流・教育交流	労働力供給	日本の人手不足の解消に貢献	日系人を労働者として送ることにより日本経済に貢献	勤勉な労働者を提供	協力	高齢化時代に入った日本に労働力供給/日比間の歴史再訪
日系人会は会員の地位向上のために何ができるか	日系人の尊厳を高める触媒となるべき。会員の経済的地位向上のため、身元探し、日本での職探しを支援する	日系人としてのアイデンティティ確認を支援することで彼らに定住ビザ取得、日本就労の道を開く(それは彼らの生活向上につながる)	会員が日本で職を得られるよう支援する。日本就労中の彼らが仕事上問題がないか気にかける	日系人を日本で働けるようにする。また日本で働く日系人の地位/立場を保護する	質のよい仕事を提供	家族生活の向上	法律面で会員の関心を代弁。社会面で会員間のよい関係を育てる。文化面で。日本文化を学ぶ活動を行う。経済面で。日本就労促進
日本の官民は日系人会会員の地位向上をどう支援すべきか	身元確認、日本での働く場を提供	就籍プロジェクトによって	トレーニング(国際競争力のある労働者となるように)	日系人により賃金を保障/悪質ブローカーから日系人を守る一企業が日系人会とだけつきあうようになれば可能	日本人と日系人の賃金格差解消	日本での仕事を提供	日系人組織強化のための支援・組織化と運営能力の強化。財政問題の解決
直面している問題	戦争による記録焼失のため、日系人だということを示すことのできない人が多くいる	1世の氏名がわからない場合や2世が死亡している場合、身元探しが困難/身元が判明しても書類集めに動くお金がない/2世の遅延登録/捕虜として収容所に収容された人の名簿が非公開である(日本政府)	財政基盤がないこと	財源がないため会員がフィリピンで書類集めをするのを支援(前貸しのような形で)できない。そのため戸籍が見つかってもファミリーファイルを完成できない。このため会員が日本に行くまでに時間がかかってしまう。	会員の書類準備が遅い/事務局の責任は重いが手当は少ない	僻地において貧しい日系人をフォローアップする費用がない	

日系人会をよくなるための提案/意見	戦争による記録焼失のため、日系人だということを示すことのできない人が多い	会員の相互理解、特に役員が組織の成功の鍵/組織の礎を築いた先人の遺産を受け継ぐ/会員の組織への支持/地域支部の活性化により中央組織を活性化させる/年間事業計画をもち、会員の参加を促すような活動を組み込む/教育・社会プログラムとして各種セミナー、ワークショップ、トレーニングを実施/広報媒体の刷新	日系人会は、プログラムや活動のための恒常的財源を持つべき	戸籍が見つかった後の書類集めに財政支援を必要とする人がいる。その人らを援助するための財源が必要。そうすればブローカーのところを走る日系人がへり、偽日系人もへるだろう	パナイ島からマニラに行く旅費は高く、日系人は貧しい。一回マニラに行けば全部済むよう、事前研修、大使館面接、日本への出発日がうまく調整されるとよい。事前研修の期間を短縮し本当に必要なことだけ教えるようにする/月1又は隔月で連合会の会議が開かれるべき。連合会会合を招集する互助在団は常に最新情報を伝えるべき	規模の大きい支部は小さい支部を援助すべき/サンボアンガ日系人会にコンピューター、電話FAX機、事務用品の寄付を/書類をフォローアップするための財源を/日本語教室を	会員の絆を強めるような様々な活動が行われることが理想。サービスの質の向上には役員やスタッフをトレーニングにより育てることも有効。会員間の密な情報交換も必要だが、経済的理由のため会議に出席できないことが問題。
-------------------	--------------------------------------	---	------------------------------	--	---	---	---

表 6-6 日系人会の役割、貢献、組織をよくなるための提案/意見

会員サービス向上のための提案/意見

日系人会の財政基盤の必要性に触れた意見が4団体からあった（北部ルソン比日基金、マニラ日比、セブ日系人会、サンボアンガ日系人会）。セブ日系人会は特に、「新たに戸籍が見つかったもお金がないためにフィリピン側の書類を集めることができない会員を、会として支援することが必要」で、「それができれば、彼らがブローカーのところを走るのを阻止でき、偽日系人の混入も減るだろう」と具体的に提案していた。

日系人の日本就労の促進、という観点からの意見である。

サンボアンガ日系人会は、「規模の大きい日系人会は小さい日系人会を助けるべき」「コンピューター、電話ファックス機、事務用品の寄付を」「日本語教室を」などの要望を書いている。同会には有給スタッフがおらず、会長や副会長が自分の時間を割いて連合会/財団から依頼される仕事（日系人への連絡、書類準備の催促）をこなしている。問題点で「会員に書類をフォローアップするためのファンドがない」と書いており、財政基盤の確立が会員サービス向上に必要、との見解が伺えた。

一方、北部ルソン比日基金は、(多くの日系人会に) 財政基盤がないことを問題としながらも、「日本政府による貧しい日系人への教育資金の提供、生計プロジェクトへの財政支援を望む」としており、日本就労とは関係なく、日系人の（フィリピンにおけ

る)生活向上に向けたプロジェクトの必要性を提起している。

コタバト日系人会は、「会員どうしの絆を強めるような活動が理想的。そのためには役員やスタッフをトレーニングして育てることも有効」としてソフト面での組織強化の必要性を提起した。

一方PNJKからは、会員、特に日本で就労する会員が、組織の一員として組織を支えることこそが組織をよくする、という意見があった。「手遅れになる前に一人ひとりの日系人はよく考えるべきだ」との文言から、発言者が会員の日系人離れに強い危機感が伺えた。「問題認識」の項目でも指摘したが、これは身元が判明し、日系人の日本就労が進む中で新たに生じている問題である。PNJKからは他にも、「会員に身近な地域支部組織の活動を活性化させることが、中央組織への参加を活性化することにつながる」「教育や社会サービスプログラムとして、会員向けセミナー、ワークショップ、その他のトレーニングを実施すべき」「ニュースレターを刷新すべき」など、外への要望というより組織内部への提案も書かれており、内部からの現状変革も可能と思われた。

3. まとめ

本調査の結果わかったことは、程度や表現の違いはあれ、いずれの日系人会組織も、会員の日系人としてのアイデンティティ確立(身元が明らかになり、国籍確認がなされること)、会員の社会経済的地位の向上、尊厳の回復を目指して活動している、ということである。生活レベル向上は、日系人として認められ、日本での職を得てこそ実現する、ゆえにこのプロセスを支援することが日系人会の役割である、と言い切る組織さえあった。同時にどの日系人会も、日系社会の活性化を通じて地域社会やフィリピン社会に貢献しつつ、日比の友好関係構築にも貢献したいと考えていることもわかった。

活動内容では、それぞれの日系人会が、思いのほか多様な活動を繰り広げていた。しかし、日本とのパイプの強い日系人会と、パイプを持たない日系人会との格差は歴然としていた。歴史の長い、規模の大きい2つの日系人会では、日本からの財政支援もさることながら、日本のNGO、民間団体をパートナーとして活動を展開しており、その活動が日比友好に貢献するものとして高く評価されている。一方、会員数の少ない、規模の小さい日系人会では、慢性的に活動資金がない状況にあり、独自のプロジ

エクトを展開できないことはもちろん、資金力がないがゆえに日系人のアイデンティティ確認を支援できず、日系人会離れを招いている、という指摘さえあった。「日系人は貧しく、戸籍がみつかってもフィリピンで書類を集める費用（役場まで行く交通費や証書代）が捻出できず、家族調査がなかなか進まない。日系人会が財政支援、あるいはフォローアップしたくても、財源がないためできない、スタッフもいない。このため日系人が性質の悪い斡旋人や仲介業者のもとに走り、偽日系人問題が起きる」という悪循環である。この問題は日系人会だけの問題とはいえ、実態把握の後に、何らかの対策を考える必要があると思われる。

ところで、各地の日系人会の活動についての情報が、日系人会相互間でどこまで共有されているのかは気になるところである。お互いほとんど知らない可能性もある。島嶼国家フィリピンにおいて、地域間対話を継続的に持つことは意外と難しい。しかし、今後、連合会の組織基盤と団結をより強くしていくためには、傘下の日系人会相互の定期的な情報交換や、財政基盤確立、プロジェクト実施、組織運営に関するノウハウの共有が重要になると思われる。規模の大きい日系人会や日本の NGO が、プロジェクトに応じた財源確保の可能性や助成金確保について助言したり、橋渡ししたりすることも期待される。こうした中で、各地の日系人会の連合体である「連合会」の役割、使命もおのずと明らかになっていくであろう。

証拠がなく自らを日系人と証明できない人びとの救済について、いくつかの日系人会から言及があった。この問題が解決されなければ、日系人社会内の格差（身元判明家族と未判明家族との格差）は拡大する一方である。身元捜しの限界を補う意味で、代替案として期待されているのが、家庭裁判所の許可を得て新たに戸籍をつくる「就籍」である。PNJKの「日本の官民は、就籍プロジェクトによって日系人の地位向上を支援すべきだ」という意見は傾聴に値する。

日系人の日本就労が進む中で新たに生じている事柄として、①日本で暮らす会員とフィリピンの日系人会組織はどのような関係を保つのが望ましいか、日系人会は在日日系人に何ができるのか、という問題と、おそらくこれと表裏の関係にあると思われるが、②日本就労を実現した会員の「日系人会離れ」にどう歯止めをかけるか、という問題があることがわかった。コミュニケーション手段はあるとはいえ、日本とフィリピン、海を隔てて離れる両者が、頻りに連絡をとりあうことは難しい。ならば、日本ではむしろ、所属する日系人会支部の枠を越えて、日系人会（あるいは連合会）「日

本支部」が組織されることも一案である。5章でみたとおり、日本で暮らす日系人の間では、「日本に日系人会が必要」「もしあれば活動に参加したい」という声が高かった。在日日系人がフィリピンの日系人会のあり方や日系人社会の将来像について意見交換することで、新しい提案や意見も出てくるかもしれない。日本を経験した日系人がフィリピンに戻って日系人会に新たな風を吹き込む、といったことも今後ぜひあってほしい。

会員の組織離れについては、先に触れた身元探し、就籍などの法的サービスを、日系人会がどれだけ効果的かつ効率的に進められるか、さらには日本就労への橋渡しにとどまらず、広く会員に支持される社会文化的プロジェクト（日本語教育や奨学金事業、協同組合事業、地域貢献事業）を実施する組織となれるかにかかっている。それには日系人社会のあり方に関する明確なビジョンが必要であり、ビジョン策定やプロジェクトの企画、実施過程にできるだけ会員が参加することが望まれる。今回実施した在日フィリピン日系人アンケート（第4章）、および在日フィリピン日系人アンケート（第5章）では、日系人の多数が日系人会に積極的に参加したいと考えている一方で、日系人認定手続きの迅速化、組織運営の透明性確保、会員との連絡を密にしてほしいといった要望があり、課題もあることがわかった。人材の確保と、法的支援についての専門知識や組織運営のスキルを学ぶスタッフトレーニング、それらを可能とする財政支援が望まれる。

日系人会は今、過渡期にある。日本への“出稼ぎ”によってフィリピン日系人をとりまく状況を大きく変化していること、また、これまで組織を支えてきた2世が高齢化し、世代交代の時期を迎えていることが背景にある。こうした中で、各日系人会が、現在抱えている組織上の問題をどのように解決し、求心力を維持、増強し、どのように発展していくのか、注意深く見守っていきたい。それは日本の官民の支援のあり方にもかかっている。

最後に、今回の調査では17の日系人会中7つの日系人会の組織の輪郭が明らかになったにすぎないこと、全体を把握するためには適当な時期に再び日系人会連合会の協力を得て調査を実施する必要があることを付記しておく。

第7章 結 論

戦後未処理問題としての責任を果たすことは、日本人の責務であるが、それは歴史に学び、日比のよりよい友好関係構築を目指すものである。両国の国交、人流は脈々と続いており、私たちはその渦中にある。であるならば、今起きている事象に目をむけ、その質を問い、過去の経験が生かされているのかを検証し、また私たち自身の姿を見つめ直していくこともまた、日本の官民の責務である。

今年度の研究の柱でありオリジナリティは、フィリピン日系人の実情を知るための3つのアンケート調査（在フィリピン日系人調査、在日フィリピン日系人調査、フィリピンの日系人会組織調査）である。

1つ目の「在フィリピン日系人調査」からは、依然としてフィリピン日系人が貧しい暮らしを送っており、フィリピンにおける就職難からから、8割の回答者が日本への就労を希望していた。身元判明済み家族と未判明家族との間には、貯蓄や借金の有無に差があり、わずかではあるが日系人社会に格差が生じていること、全体として身元探し（出自の確認）とそれに続く日本就労への期待が極めて強いこともわかった。日系人会に所属している人が回答者の7割を占め、その8割が、今後も積極的に活動に関わりたい、と答えた。希望、要望としては日本語教室や奨学金プログラムの実施のほか、身元探しや日系人認定の手続きの迅速化を求める声が強かった。政府に対しても同様の要望が出された。

2つ目の「在日フィリピン日系人調査」からは、日本で暮らす日系人が日本で就労し、フィリピンに送金することにより、家族の生活や社会的地位、子どもの教育の向上が図られているたこと、一方で、日本語能力の不足や情報へのアクセスの問題、家族との分離による孤独など、日本で日常生活を営む上での支援の要望があることが明らかになった。また、在日フィリピン日系人の多くが製造業や派遣業社で就労しているため、不安定な雇用であり、業務内容も困難で、日本人との待遇格差があるといった実態が明らかになった。日系人会への所属は6割を超え、また日本国内でも日系人会の活動が必要、とする回答者が過半数を超えた。

3つ目の「日系人会組織調査」からは、財政基盤の弱さゆえに会員サービスが十分行えず、日本就労による会員の生活向上、という目標がなかなか実現しないこと、独自のプロジェクトも進められないことに悩む多くの日系人会の姿が浮き彫りになった。

一方、比較的規模の大きいバギオとダバオの日系人会からは、日系人が日本に行くことでの日系人会ばなれ、日系人会を担う後継者が育たない問題などが指摘された。それぞれの日系人会の独自の歴史や活動内容、抱えている問題点などが日系人会間で情報共有されていないのではないかと推測され、今後は日系人会相互の助け合い、情報交換などが課題となっていくと思われた。

以上の調査結果から、私たちはフィリピン日系人の支援の方策として以下のことを提言する。

- ① 官民が一致協力してフィリピン日系人の身元探し、就籍プロジェクトを支援する。
- ② 日系人会および日系人会連合会の組織強化を、ハード、ソフト両面から支援する。
- ③ 日系人の法的地位の確立や日本査証の取得が迅速に行われるため、日系人会各支部の業務遂行能力の向上、特に専門スタッフの補充とトレーニングが急務である。
- ④ NPO、自治体、日系人を雇用する企業が連携して、日本で暮らす日系人への情報提供相談対応、ネットワークづくり支援を行うべきである。
- ⑥ 日本で暮らすフィリピン日系人の権利保護を強化するため、彼らの就労、居住、社会保障等にかかわる現状把握を急ぐべきである。日系人に関わる法制度は、厚生労働省、法務省、外務省、各自治体等にまたがっていることから、効果的に現状を把握するためには、省庁横断的な対応が望まれる。

最後に、日本とフィリピン—2つの国の将来のためにフィリピン日系人が、いや日系人だからこそ果たせる役割があると私たちは考えている。彼ら自身、それを果たしたいと希望している。彼らにおおいに活躍してもらうためにも、日系人の地位向上を支援すると同時に、彼らとともに日比友好、市民の間の草の根対話を推進していきたい。

Sulat Humihingi ng Pahintulot

Minahal Naming Respondent:

Isang maalab na pagbati!

Kami po ay gumagawa ng isang pananaliksik upang tingnan ang kalagayan ng mga Pilipinong may lahing Hapon na narito sa Pilipinas. Ang pinaka-pangunahing layunin sa pag-aaral na ito ay para malaman ang tunay na kalagayan at katotohanan sa buhay ng mga may lahing Hapon. Sa pag-aaral na ito nawa'y makagawa ng mga programa na makatulong sa kanila para sa isang maayos at matiwasay na kinabuukasan para sa kanila.

Sa puntong ito, kami po ay malugod na umapela sa inyo na sagutan ang mga katanungan. Wala pong mali sa inyong mga sagot. Huwag po lamang iwanan ang mga katanungan na walang sagot.

Titiyakin po naming sa inyo na ang lahat na mga kasagutan ninyo ay aming iingat na lubos.

Maraming salamat po!

Lubos na Gumagalang,

(Signed) Attny. Hiroyuki Kawai
Chairperson of Philippine Nikkei-jin Legal Support Center
Legal adviser of the Federation of Nikkei-jin Kai

Palatanungan

Panuto: Bilugan ang mga sagot sa mga katanungan na may mga pagpipilian at sulatan ang mga puwang para sa mga tanong na kailangan ay paliwanag at salaysay.

I. Kaalaman Tungkol sa Respondent

A. Tungkol sa Sarili

1. Edad/Taong Gulang: _____
2. Kasarian : _____
3. Katayuan sa Buhay: _____
4. Tirahan: _____
5. Natapos sa Pag-aaral: _____
6. Trabaho: _____
7. Alam na Salita: _____
8. Kahusayan/kadalubhasaan: _____
9. Kasalukuyang Nasyonaledad: _____
10. Pagbakas ng pinagmulan ng inyong pamilya, anong henerasyon ka napabilang na may lahing Hapon? _____
11. Anong kategoreya kayo na may lahing Hapon?
 - A – May klarong pinagmulan na pamilya na may lahing Hapon na nakarehistro sa Japan, may klaro at maayos na dokumento
 - B – May dokumneto na may karapatan bilang may lahing Hapon
 - C – Hindi tukoy ang pinagmulan
12. Nakapunta na ba kayo sa bansang Hapon? a. Oo b. Hindi
Kung oo, pakisagot sa mga kategoreya ng visa na inyong nakuha pagpunta ninyo sa Japan
 - a. Permanenting visa
 - b. Visa bilang asawa ng Hapon
 - c. Turistang Visa
 - d. Iba pa
13. Ilang beses na kayong nakapunta sa bansang Hapon? _____
14. Ano ang inyong layunin pagbisita sa bansang Hapon?
 - a. Trabaho
 - b. Pagbisita ng pamilya/kaibigan
 - c. Paglililiwaliw
 - d. Pagdalo ng komperensiya
 - e. Negosyo/pagsasanay

B. Tungkol sa Pamilya

1. Bilang ng myembro na nakatira sa bahay? _____
2. Paki-puno ng mga impormasyon tungkol sa kanila.

Kasarian: _____ Ugnayan: _____ Taong gulang: _____ Trabaho: _____ Sahod/kita: _____ Arawang Kita: _____ Buwanang Kita: _____ Pangalan ng kompanya: _____ _____	Kasarian: _____ Ugnayan: _____ Taong gulang: _____ Trabaho: _____ Sahod/kita: _____ Arawang Kita: _____ Buwanang Kita: _____ Pangalan ng kompanya: _____ _____	Kasarian: _____ Ugnayan: _____ Taong gulang: _____ Trabaho: _____ Sahod/kita: _____ Arawang Kita: _____ Buwanang Kita: _____ Pangalan ng kompanya: _____ _____
--	--	--

Kasarian: _____ Ugnayan: _____ Taong gulang: _____ Lugar _____ ng pinagtatrabahoan: _____ Gaano katagal: _____ Simula ____ Hanggang ____ Kabuuan _____ Uri ng trabaho: _____ Kabuuang pinapadala para sa pamilya: _____ Bilang ng pagpadala ng pera: _____ a. Buwanan b. sa loob ng ilang buwan tuwing ika-anim na buwan k. Iba pa: _____	Kasarian: _____ Ugnayan: _____ Taong gulang: _____ Lugar _____ ng pinagtatrabahoan: _____ Gaano katagal: _____ Simula ____ Hanggang ____ Kabuuan _____ Uri ng trabaho: _____ Kabuuang pinapadala para sa pamilya: _____ Bilang ng pagpadala ng pera: _____ a. Buwanan b. sa loob ng ilang buwan tuwing ika-anim na buwan k. Iba pa: _____	Kasarian: _____ Ugnayan: _____ Taong gulang: _____ Lugar _____ ng pinagtatrabahoan: _____ Gaano katagal: _____ Simula ____ Hanggang ____ Kabuuan _____ Uri ng trabaho: _____ Kabuuang pinapadala para sa pamilya: _____ Bilang ng pagpadala ng pera: _____ a. Buwanan b. sa loob ng ilang buwan tuwing ika-anim na buwan k. Iba pa: _____
--	--	--

C. Pang-ekonomiyang Katayuan

1. Kita ng Pamilya

Magkano ang kabuuang kita ng inyong buong pamilya?

Kasapi ng Pamilya	Uri ng Trabaho	Buwanang Kita	Bilang ng Taon Nagtatrabaho
Tatay			
Nanay			
Nagtatrabaho na anak			
Nagtatrabaho na anak			

2. Magkano ang kabuuang buwanang gastos ng inyong pamilya?

Mga Bagay	Halaga
Bahay (upa/maintenance, etc)	
Ilaw/panggatong/enerhiya	
Tubig	
Pagkain	
Damit	
Kalusugan	
Pag-aaral	
Bagay	
Iba, paki paliwanag	

3. May utang na pera ba kayo ngayon? a. Oo b. Wala
Kung oo, magkano? _____
4. Mayroon ba kayong naipon? a. Oo b. Wala
5. Mayroon ba kayong pinamuhunan?
a. Insurance
b. Pension plan
k. Land
d. Pautang ng pera
6. Ibang pinagkitaan? _____
7. Tungkol sa Bahay
A. Anong klaseng bahay ang inyong tinitirahan?
a. Sariling pag-aari b. Bahay paupahan
k. Apartment/condo unit d. Nakitira sa kamag-anak
e. Iba pa: _____
- B. Gawa sa anong uri ang bahay ninyo?
a. Kahoy b. Konkreto/cemento
k. Halo sa dalawa d. Iba pa
- K. Bilang ng silid sa bahay? _____
- D. Taong gulang ang bahay?
a. 0-9 na taon b. 10-19 na taon k. 20-29 na taon
d. Mahigit 30 na taon e. Hindi tukoy
8. Kagamitan
Mga kagamitan sa bahay. Pakiguhit lang sa mga kagamitan na mayroon kayo sa bahay.
_____ Ilaw
_____ Telepono
_____ Tubig
_____ Iba pa: _____
9. Kasangkapan
Mga kasangkapan na makikita sa bahay. Pakiguhit lang sa mga kasangkapan na mayroon kayo.
_____ TV _____ Makina sa paglalaba
_____ Radio _____ Microwave
_____ Cassette _____ Plantsa
_____ Karaoke _____ Aircon
_____ CD player _____ Electric fan
_____ Ref _____ Biseklita
_____ Personal computer _____ Motorsiklo
_____ Cell phone
- Ibang pang pag mamay-ari
Ano pa ang iba ninyong pagmamay-ari
Lupa: _____ Bahayan _____ Sukat
_____ Sakahan _____ Sukat
Hayopan: _____ Bilang
Sasakyang Pampasahero: _____ Bilang
Apartment: _____ Bilang
Iba pa: _____

D. Kalagayan ng Kalusugan

1. Nakakain ba kayo at ang inyong pamilya ng katamtaman?
a. Oo b. Hindi, kulang sa tatlong beses isang araw
2. Mayroon bang nagkasakit sa inyong pamilya? Ano ang karaniwang na sakit? Paano ninyo ginamot ang ganitong uri ng sakit?
a. Oo b. wala
Kung oo, uri ng sakit at saan pinagamot: _____
3. Kayo ba o ang inyong pamilya ay may insurance?
a. Oo b. Wala
4. Kayo ba o ang inyong pamilya ay regular na komokunsulta sa doctor?
a. Oo b. Hindi

E. Kalagayan sa Kultura

1. Saang bansa ang mga kultura na inyong nakaugalian? Pakipuno lang pos a kahon sa ibaba.

Nakaugaliang Kultura	Nakaugaliang Kultura sa Pilipino	Nakaugaliang Kultura sa Hapon
Paniniwala		
Values		
Iba pa		

2. Sa inyong karanasan, mayroon bang magkapareha sa mga nakaugalian at paniniwala sa dalawang bansa?
a. Oo b. Wala
Kung oo, ano ang mga ito? _____
3. Kung ang nakaugalianay ang dalawang kultura, nahirapan ba kayong pagsabayin ang dalawang kultura?
a. Oo b. Hindi
Kung oo, paano ninyo naisaayos at pagsabayin ang dalawang kultura? Pakipaliwanag _____ po.

F. Kalagayan sa Pulitika

1. Kayo po ba ay aktibo sa pulitika sa inyong bansang kasalukuyang tinitirahan? Ginagawa o ginamit ninyo ba ang inyong karapatan bilang isang mamayan? a. Oo b. Hindi
Kung oo, saang antas? _____
Kung hindi, ano ang dahilan? _____
2. Sa inyong pananaw, sa anong antas kayo ay makatulong sa pamahalaan ng bansang kasalukuyang mong tinitirahan?

II. Mga Kailangan at Hamon o Problema sa Buhay

Anu-ano ang inyong mga pangangailangan, problema o hamon sa buhay?

Bagay	Problema o Hamon	Pangangailangan
Ekonomiya		
Kalusugan		
Pag-aaral		
Politika		
Pamilya		
Relasyon sa Paligid		
Iba pa		

III. Epekto sa Pagdayo sa Bansang Hapon

- Nakapagtatrabaho na ba kayo sa bansang Hapon?
 - Oo
 - Hindi (→Punta sa ※)

Kung oo, gaano katagal kayo nakapagtrabaho sa Japan?
 _____ Taon _____ Buwan
- Ilang beses na kayong nakalipat ng pinapasukan? _____
- Habang kayo ay nagtatrabaho sa Japan, magkano ang inyong perang pinapadala sa pamilya dito sa Pilipinas? _____
 Kadalas nagpadala ng pera:
 - Buwanan
 - Sa loob ng iilan na buwan
 - Kada anim na buwan
- Sa inyong pagtatrabaho sa bansang Hapon, may nabago ba sa inyong sarili o sa inyong pamilya?
 - Oo
 - Wala

Kung oo, anu-ano ang mga pagbabago?

 - Tumaas o lumaki ang kita
 - Ang buhay ay naging magaan
 - Ang buhay ay lalong humihirap
 - Natustusan ang utang
 - Nabaon sa utang
 - Tumaas ang uri ng pamumuhay
 - Nakapagpatayo ng bahay
 - Nakabili ng mga kagamitan
 - Napagpatibay ang ugnayan ng pamilya
 - Napahina ang ugnayan ng pamilya
- Noong kayo pa ay nagtatrabaho sa bansang Hapon, mayroon ba kayong mapait/mahirap na karanasan?
 - Oo
 - Wala

Kung oo, anu-ano ang mga ito? _____
- May natutunan ba kayong mga kasanayan o kadalubhasaan at kaalaman na inyong magagamit sa pagtatrabaho dito sa Pilipinas?
 - Oo
 - Wala

Kung oo, anu-ano ang mga ito? _____
- Bakit nandito kayo ngayon sa Pilipinas?
 - Bakasyon
 - Nakapag-ipon ng sapat na pera
 - Kasalukuyang nagtatrabaho sa Pilipinas
 - Mas gustong tumira sa Pilipinas kaysa bansang Hapon
- Naisin ninyo pa bang nagtatrabaho sa Japan?
 - Oo
 - Hindi

※Katanungan sa Mga Hindi Nakapagtatrabaho sa Japan

1. Gusto ba ninyong magtatrabaho sa Japan kung mayroong pagkakataon?
 - a. Oo
 - b. Hindi
2. Kung oo, anong klaseng trabaho?
 - a. Manwal na trabaho
 - b. Espesyal na uri ng trabaho
 - k. clerical na trabaho
 - d. Kahit anong trabaho
 - e. Iba pa
3. Kung hindi, ano ang inyong mga dahilan kung bakit ayaw ninyo magtatrabaho sa Japan?
 - a. Ayaw umalis/malayo sa Pilipinas
 - b. Ayaw malayo sa pamilya
 - k. Kuntento sa kasalukuyang trabahho dito sa Pilipinas
 - e. Iba pa

IV. Antas sa Paglahok ng Nikkei-jin Kai

1. Kayo ba ay kabilang sa Nikkei-jin Kai?
 - a. Oo
 - b. Hindi
 Kung oo, ano ang pangalan ng samahan at gaano na kayo katagal bilang kasapi?
 Pangalan ng Nikkei-jin Kai: _____
 Katagal Bilang Kasapi: _____
2. Regular ba kayong nagbabayad sa pagiging kasapi?
 - a. Oo
 - b. Hindi
 Kung oo, magkano? _____
3. Anu-ano ang mga gawain ng Nikkei-jin na samahan? Anu-ano ang mga pamamaraan para ito ay maisakatuparan? Anu-anong klase ng mga gawain ang inyong sinalihan sa samahan?

Mga Gawain	Sinalihan	Pamamaraan

4. Ilan ang inyong kaibigan sa Nikkei-jin? _____
5. Ano ang inyong inaasahan sa Nikkei-jin Kai?
 - a. Legal na suporta para sa mga kasapi
 - b. Tulong makapagtrabaho at paghahanap ng mga kompanya na nangangailangan ng mangagawa
 - k. Pagtataguyod ng ugnayan sa ibang kasapi
 - d. Paglolobi sa pamahalaan ng bansang Hapon at Pilipinas
 - e. Pagbibigay pagkakataon para makapag-aral sa bansang Hapon ng salitang Hapon
 - g. Tulong para sa pagpatayo ng negosyo
 - h. Sistema ng damayan
 - i. Tulong para sa lipunan l. Iba pa
6. Masaya ba kayo sa Nikkei-jin Kai?
 - a. sobrang masaya
 - b. masaya
 - k. hindi masaya (dahilan: _____)

7. May kusa ba kayo para maging masugid na kasapi ng Nikkei-jin Kai?
 - a. Oo, dahilan _____
 - b. Hindi, dahilan _____
8. Nakapag-aral ba kayo ng salitang Hapon sa Pilipinas?
 - a. Oo, saan: _____ Panahon/Katagal _____ (linggo)
 - b. Hindi, dahilan? _____
9. Kung hindi, gusto ninyo bang mag-aral ng salitang Hapon sa Pilipinas?
 - a. Oo
 - b. Kung may pagkakataon
 - k. Hindi gaano
10. Ano ang inyong nakita na mga problema/kahirapan sa Nikkei-jin Kai? Paano ito matugunan?

Problema	Paano lutasin

11. Ano ang inyong maipahiwatig para mapaganda ang tulong na maibigay ng Nikkei-jin Kai para sa kasapi?
12. Ano ang dapat gawin para ang samahan ng Nikkei-jin ay maging tanyag at respetadong mamayan sa Pilipinas?
 - a. Tumulong sa mga Nikkei-jin magkaroon ng maayos na buhay
 - b. Maliksi sa iba't-ibang gawain ng Nikkei-jin Kai
 - k. Pagbuo ng isang matatag na sosyohan ng mga kasapi ng Nikkei-jin Kai
 - d. Mga Nikkei-jin na nasa bansang Hapon ay maglagak ng kapital dito sa Pilipinas
13. Kung mayroon kayong nais isangguni o may hiling sa Nikkei-jin Kai, pakisulat lang po.

Iba pang Katanungan

1. Kung kayo ay may hiling sa pamahalan ng bansang Hapon, pakisulat lang po.

(Optional)

Pangalan: _____

Pangalan ng 2nd gen. _____

Pangalan ng 1st gen. _____

Tirahan: _____

Telepono: _____

依頼状

回答者の皆様へ:

拝啓

ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

私どもは、フィリピンに在住する日系人の現状を調べるサーベイを行っております。この研究の主な目的は、フィリピン在住の日系人の現状や生活状況を明らかにすることであり、これにより日系人の生活が将来、よりよいものと変えられていく手助けとなる支援プログラムをデザインし、策定することを願っております。

つきましては、皆様にはアンケートに書かれたすべての質問に関して、回答していただきますよう、お願い申し上げます。回答には、正解はありません。回答にもれがないよう、よろしくお願い申し上げます。

回答の内容は、責任を持って管理し、外部に漏れることのないように処理いたします。それでは、よろしくお願い申し上げます。

敬具

フィリピン日系人リーガルサポートセンター 代表理事
フィリピン日系人会連合会 顧問
弁護士 河合 弘之

質問表

以下の質問を注意深く読み、選択肢のある質問には○で答えてください。記述で答えるものには、_____に言葉を記入してください。

回答者の基礎データ

A. 個人データ

- 1 年齢 _____才
- 2 性別 _____
- 3 身分 _____
- 4 住所地 _____
- 5 最終学歴 _____
- 6 職業 _____
- 7 使用している言語 _____
- 8 技能・資格 _____
- 9 現在の国籍 _____
- 10 あなたは日系何世ですか _____世
- 11 あなたの日系人カテゴリーはなんですか
 - A 一身元が判明しており、日本で自身の出生が登録されている
 - B 一身元は判明しているが、自身の出生が日本で登録されていない
 - C 一日系人であることを明らかに示す書類がない
- 12 来日したことはありますか a) はい b) いいえ
はいの場合、来日の際取得したビザの種類
- a) 永住ビザ b) 配偶者ビザ k) 観光ビザ d) その他
- 13 来日回数 _____
- 14 来日目的を教えてください。
 - a) 日本で働くため b) 親族/友人訪問 k) 留学 d) 会議出席
 - e) 仕事上の出張・研修

B. 家族データ

- 1 あなたと一緒にすんでいる家族は全部で何人いますか _____人
- 2 それぞれの人について下の表に記入してください

年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 職業 _____ 収入 一日 _____ペソ または一ヶ月 _____ペソ 勤務先・学校名 _____ _____ _____	年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 職業 _____ 収入 一日 _____ペソ または一ヶ月 _____ペソ 勤務先・学校名 _____ _____ _____	年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 職業 _____ 収入 一日 _____ペソ または一ヶ月 _____ペソ 勤務先・学校名 _____ _____ _____
---	---	---

性別 _____ あなたとの関係 _____ 年齢 _____ 才 働いている場所 _____ 滞在期間 _____ _____ から _____ まで 仕事の内容 _____ フィリピンへの仕送り額 _____ 仕送り頻度 a. 毎月 b. 半年ごと k. その他 _____	性別 _____ あなたとの関係 _____ 年齢 _____ 才 働いている場所 _____ 滞在期間 _____ _____ から _____ まで 仕事の内容 _____ フィリピンへの仕送り額 _____ 仕送り頻度 a. 毎月 b. 半年ごと k. その他 _____	性別 _____ あなたとの関係 _____ 年齢 _____ 才 働いている場所 _____ 滞在期間 _____ _____ から _____ まで 仕事の内容 _____ フィリピンへの仕送り額 _____ 仕送り頻度 a. 毎月 b. 半年ごと k. その他 _____
--	--	--

C. 経済状況

1 家族の収入

あなたの家族の一月の総収入はいくらですか。以下の表に記入してください。

家族の構成員	仕事の種類	ひと月の収入	勤続年数
父			
母			
息子			
娘			

2 支出

あなたの世帯の一月の支出を教えてください。

科目	額
住居費(賃貸や住宅維持費など)	
光熱費	
水道代	
食費	
教育費	
医療費	
衣服代	
レジャー	
その他(具体的に書いてください)	

- 3 個人や団体に現在借金がありますか？ a. はい b. いいえ
 はいの場合、いくらですか？ _____

- 4 貯金はありますか？ a. はい b. いいえ
 5 投資はありますか？ どのようなタイプの投資ですか？
 a. 保険 b. 年金 k. 土地 d. 現金の貸付
 6 他にも収入源がありますか？ _____

7 住居について

- A. 現在お住まいの家はどのような形態ですか。
 a. 持ち家 b. 借家
 k. アパート d. 親類の住まいに同居
 e. その他（説明してください）
 B. 家やアパートは何でできていますか？
 a. 木造 b. コンクリート・セメント k. a と b の複合
 d. その他（説明してください） _____
 K. 部屋の数 _____
 D. 建設年数
 a. 築 0～9 年 b. 築 10～19 年 k. 築 20～29 年
 d. 築 30 年以上 e. 不明

8 設備

家に備わっている設備はなんですか。あれば、印を付けてください。

- _____ 電気
 _____ 電話
 _____ 水道
 _____ その他（具体的に記入してください）

9 電化製品

家にある電化製品は何ですか。あれば、印をつけてください。

- | | |
|----------------|-------------|
| _____ テレビ | _____ 洗濯機 |
| _____ ラジオ | _____ 電子レンジ |
| _____ カセットデッキ | _____ アイロン |
| _____ カラオケセット | _____ エアコン |
| _____ CD プレイヤー | _____ 扇風機 |
| _____ 冷蔵庫 | _____ 自転車 |
| _____ コンピューター | _____ バイク |
| _____ 携帯電話 | |

10 その他の所有物

その他、どのようなものを所有していますか？

- 土地 _____ 住居用 _____ 平方メートル
 _____ 農業用 _____ 平方メートル
 家畜 _____ 頭
 公用車 _____ 台
 アパート _____ 個
 e. その他（具体的に） _____

D. 健康状態

- 1 あなたの家族は食事を十分とっていますか。
a はい b いいえ、一日3食とれていません。
- 2 家族の中で、病気の人はいいますか？
a. はい b. いいえ
はいの場合、家族が頻繁にかかる疾病は何ですか？ _____
疾病に対して、どのように処置をしていますか。 _____
- 3 あなたや家族は健康保険に加入していますか？ a) はい b) いいえ
- 4 定期的に健康診断を受けていますか？ a) はい b) いいえ

E. 社会・文化的状況

- 1 日比どちらの国の社会・文化的活動を行っていますか。下の表に記入してください。

社会文化活動	フィリピンの教え・習慣	日本の教え・習慣
宗教に基づくもの		
価値観に基づくもの		
その他		

- 2 あなたの経験で、両国の教えや習慣で似ている点がありますか。
a. はい b. いいえ はいの場合、例をあげて説明してください。

- 3 両方の国の文化活動を行うことは難しいですか？
a. 難しい b. 難しくない
難しい場合、どのように両立させていますか？文化活動が制約によって変わりましたか？ _____

F 政治的状況

- 1 あなたは住んでいる国で政治に積極的に参加していますか？市民としての権利を行使していますか？ a) はい b) いいえ
はいの場合、どの程度？ _____
いいうの場合、その理由 _____
- 2 あなたは、どの程度あなたの選んだ国の政府に貢献できますか？

II. 問題や必要、課題について

あなたが今直面している問題や課題、ニーズは何ですか。

	問題/課題	ニーズ
経済的側面		
健康		
政治		
宗教		
教育		
その他		

III. 日本へのでかせぎによる影響

- 1 日本に働きに行ったことがありますか？ a) はい b) いいえ
 ※行ったことのない人は次頁★★に進んでください。
 →日本に働きに行ったことがある人へ
 どのくらいの期間日本で働きましたか？（_____年_____ヶ月）
- 2 その期間中に何人の雇用主のもとで働きましたか？ _____人
- 3 日本で働いていた時期、どのくらい仕送りをしましたか？仕送り額一回____ペソ
 仕送り頻度 a) 毎月 b) 2~3ヶ月に一度 k) 半年に一度
 d) その他（_____）
- 4 日本へ出稼ぎに行ったことであなたやあなたの家族になにか変化はありましたか？ a) はい b) いいえ
 → はいの人は、どのような変化がありましたか？
 a) 収入が増えた b) 生活が楽になった k) 生活が苦しくなった
 d) 借金が減った e) 借金が増えた g) 生活レベルが上がった
 h) 家をたてた i) 電化製品を購入した l) 家族の絆が強まった
 m) 家族の絆が弱まった
- 5 日本で働いていて、つらかったこと、嫌なことはありましたか？
 a) ある b) ない
 ある場合、その経験を書いてください_____
- 6 日本で働いたことで、フィリピンで活かせる技術や技能が身につきましたか？
 a) はい b) いいえ
 身についた場合、どんな技術や技能ですか？_____

- j その他（具体的に _____）
- 6 あなたは現在の日系人会に満足していますか？
 a) 大変満足している b) 満足している
 k) 不満である（理由 _____）
- 7 あなたは今後、日系人会に積極的に参加していく意思がありますか？
 a) はい（その理由は？ _____）
 b) いいえ（その理由は？ _____）
- 8 あなたはフィリピンで日本語を学んだことがありますか？
 a) ある（具体的にどこで？ _____）（期間 週間 ヶ月 年）
 b) ない（理由 _____）
- 9 あなたはフィリピンで、日本語を学びたいですか
 a) とても学びたい b) 機会があれば学んでみたい k) 特に希望はない
- 10 日系人会での問題・困難なことがありますか？あれば、それをどのように解決できるとお思いますか？

問題	解決法

- 11 日系人会の会員への支援サービスの向上のために提案することがあれば、書いてください。
- 12 フィリピン日系人社会が豊かで尊敬されるまとまりとなるために必要なことは何だとお思いますか？
 a) 個々の日系人の暮らしが豊かになる
 b) 日系人会が活発になる
 k) 日系人どうしのネットワークが緊密になる
 d) 日本にいった日系人がフィリピンに投資をする
- 13 日系人会への要望、提案があれば、この下に書いてください。

その他

日本政府への要望があれば書いてください。

以下は記入無記入、自由です。

氏名：

2世の名称：

1世の名称：

住所：

電話番号：

Sulat Humihingi ng Pahintulot

Minahal Naming Respondent:

Isang maalab na pagbati!

Kami po ay gumagawa ng isang pananaliksik upang tingnan ang kalagayan ng mga Pilipinong may lahing Hapon na narito sa bansang Hapon. Ang pinaka-pangunahing layunin sa pag-aaral na ito ay para malaman ang tunay na kalagayan at katotohanan sa buhay ng mga may lahing Hapon. Sa pag-aaral na ito nawa'y makagawa ng mga programa na makatulong sa kanila para sa isang maayos at matiwasay na kinabuukasan para sa kanila.

Sa puntong ito, kami po ay malugod na umapela sa inyo na sagutan ang mga katanungan. Wala pong mali sa inyong mga sagot. Huwag po lamang iwanan ang mga katanungan na walang sagot.

Titiyakin po naming sa inyo na ang lahat na mga kasagutan ninyo ay aming iingatan ng lubos.

Maraming salamat po!

Lubos na Gumagalang,

(Signed) Atty. Hiroyuki Kawai

Chairperson ng *Philippine Nikkei-jin Legal Support Center*
Legal adviser ng *Federation of Nikkei-jin Kai Philippines, Inc.*

(Signed) Carlos Teraoka

Chairperson ng *Federation of Nikkeijin Kai Philippines, Inc.*

Permission Letter

Dear Respondent:

Warm greetings!

We are conducting a survey to find out the living condition of Japanese descendants from the Philippines who are currently staying in Japan. The main purpose of the study is to know deeply their condition and realities with great hope that programs will be formulated and designed to help them able to have a better life condition in the near future.

In this regard, we are appealing to you to answer all the questions being asked in this questionnaire. There is no wrong in your answers. Do not leave an item unanswered.

We assure you that all your answers will be taken with utmost care and confidentiality.

Thank you very much.

Sincerely yours,

(Sgd.) Atty. Hiroyuki Kawai

Chairperson of *Philippine Nikkei-jin Legal Support Center*
Legal adviser of the *Federation of Nikkei-jin Kai Philippines, Inc.*

(Sgd.) Carlos Teraoka

Chairperson of the *Federation of Nikkeijin Kai Philippines, Inc.*

Questionnaire

Panuto: Bilagan ang mga sagot sa mga katanungan na may mga pagpipilian at sulatan ang mga puwang para sa mga tanong na kailangan ay paliwanag at salaysay.

Instruction: Please read the items carefully. Encircle the answer of the items with choices and fill up the spaces provided for your answers for items need data or narrative answer/s.

I. Kalagayan ng mga May lahing Hapon

(Living Condition of Japanese Descendants)

A. Kaalaman Tungkol sa Respondent (Respondent's Background)

a. Kaalaman sa Sarili (Personal Data)

1. Edad (Age): _____
2. Kasarian (Gender): _____
3. Katayuan sa Buhay (Civil Status): _____
4. Tirahan (Present address): _____-Ken _____-shi/cho/mura
5. Probinsya sa Pilipinas (Hometown in the Philippines): _____
6. Natapos sa Pag-aaral (Educational attainment): _____
7. Alam na Salita (Language/s spoken): _____
8. Reliyon (Religion) _____
9. Kakayahan/ Lisensiya (Skills/License)(e.g., Computer, engineer or nurse):

10. Kasalukuyang Nasyonalidad (Current Nationality): _____

11. Pagbakas ng pinagmulan ng inyong pamilya, anong henerasyon ka napabilang na may lahing Hapon? (Tracing your family tree, what generation of Japanese descendants do you belong?):

- a. 2nd Generation
- b. 3rd Generation
- c. 4th Generation
- d. Others (Specify) _____

Kung hindi ninyo alam kung ano ang inyong generation, pakisagot sa tanong nito: Sa inyong ninuno, sino ba ang Hapon na dumating sa bansang Pilipinas mula sa Japan? (If you do not know what your generation is, please answer this question: In your ancestor (or family), who is the Japanese migrated to the Philippines from Japan?)

- a. Mga Ninuno (Great grandparents)
- b. Lolo (Grand father)
- c. Lola (Grandmother)
- d. Tatay (Father)
- e. Nanay (Mother)
- f. Iba pa, pakisabi (Other/s (specify)) _____

b. Kaalaman Tungkol sa Kasama sa Bahay (Household Data)

1. Maliban sa iyo, ilan lahat ang mga tao na nakatira sa bahay? (How many people are living in your house (excluding you)?): _____

2. Ilagay ang mga sagot sa boxes na nakalagay sa ibaba para sa personal na impormasyong nilang lahat.

(Please fill in the box/es provided below for the personal data of all of them.)

<p>Edad (Age): _____</p> <p>Kasarian (Gender): _____</p> <p>Ugnayan (Relationship): _____</p>	<p>Edad (Age): _____</p> <p>Kasarian (Gender): _____</p> <p>Ugnayan (Relationship): _____</p>	<p>Edad (Age): _____</p> <p>Kasarian (Gender): _____</p> <p>Ugnayan (Relationship): _____</p>
<p>Kompanyang pinagtatrabahuan (Company working with): _____</p>	<p>Kompanyang pinagtatrabahuan (Company working with): _____</p>	<p>Kompanyang pinagtatrabahuan (Company working with): _____</p>
<p>Buwanang Kita (Income per month): _____ Yen</p>	<p>Buwanang Kita (Income per month): _____ Yen</p>	<p>Buwanang Kita (Income per month): _____ Yen</p>
<p>Edad (Age): _____</p> <p>Kasarian (Gender): _____</p> <p>Ugnayan (Relationship): _____</p>	<p>Edad (Age): _____</p> <p>Kasarian (Gender): _____</p> <p>Ugnayan (Relationship): _____</p>	<p>Edad (Age): _____</p> <p>Kasarian (Gender): _____</p> <p>Ugnayan (Relationship): _____</p>
<p>Kompanyang pinagtatrabahuan (Company working with): _____</p>	<p>Kompanyang pinagtatrabahuan (Company working with): _____</p>	<p>Kompanyang pinagtatrabahuan (Company working with): _____</p>
<p>Buwanang Kita (Income per month): _____ Yen</p>	<p>Buwanang Kita (Income per month): _____ Yen</p>	<p>Buwanang Kita (Income per month): _____ Yen</p>

Edad (Age): _____	Edad (Age): _____	Edad (Age): _____
Kasarian (Gender): _____	Kasarian (Gender): _____	Kasarian (Gender): _____
Ugnayan (Relationship): _____	Ugnayan (Relationship): _____	Ugnayan (Relationship): _____
Kompanyang pinagtatrabahuan (Company working with): _____	Kompanyang pinagtatrabahuan (Company working with): _____	Kompanyang pinagtatrabahuan (Company working with): _____
Buwanang Kita (Income per month): _____ Yen	Buwanang Kita (Income per month): _____ Yen	Buwanang Kita (Income per month): _____ Yen

3. Nagbahagi ba kayo ng gastusin sa bahay kung saan ka nakatira ngayon?

(Do you share the living expenses with the people whom you live with now?)

- a. Oo, lahat na bagay (Yes, all the items) b. Oo, may bahagi (Yes, partly)
c. Wala (Not at all)

4. Magkano ang kabuuang buwanang gastusin ng inyong tinitirahan sa Japan?

(How much is the total monthly expenditure of the people whom you live with?)

Mga Bagay (Items)	Halaga sa Yen bawat buwan (Amount in Yen per month)	Sino ang nagbabayad (Who pays the bill?)
Bahay (House) (rental/maintenance/etc.)		
Ilaw/enerhiya (Light/fuel)		
Tubig (Water)		
Pagkain (Food)		
Edukasyon (Education)		

Gamot (Medical)		
Damit (Clothing)		
Pagliliwaliw (Entertainment)		
Insurance(Health, Pension and others)		
Iba pa (Other/s (please specify)		

5. Anong uri ng bahay ang inyong tinirahan? (What kind of house do you currently stay?)

- a. Apartment/Condominium for rent
- b. bahay paupahan (House for rent)
- c. Sariling pag-aari (Privately owned)
- d. Iba pa (Others) (Please specify): _____

6. Bilang ng silid? (Number of rooms inside): _____

7. Paano ninyo inuupahan ang bahay? (How do you rent your place?)

- a. Bigay ng kompanya (Your company provided)
- b. Sariling inuupahan (You rented by yourself)
- c. Inuupahan ng kamag-anak o kaibigan para sa inyo (Your relative or friend rented for you)
- d. Iba pa (Others) (Specify): _____

B. Ekonomiyang Kalagayan (Economic Condition)

1. Magkano ang inyong buwanang sahod pagkapos bawasan ng buwis? (How much is your approximate monthly salary after being taxed?): _____ Yen

2. Mayroon ba kayong naipon? (Do you have any savings?)

- a. Oo (Yes)
- b. Wala (No)

3. Mayroon ba kayong pinamuhunan? (Do you have investment/s?)

- a. Oo (Yes) b. Wala (No)

Kung oo, anong uri ng pamumuhunan? (If yes, type of investment?)

- a. Lupa sa Pilipinas (Land in the Philippines)
b. bahay sa Pilipinas (house in the Philippines)
c. Pautang (lending cash) (in Japan / Philippines)
d. Insurance(in Japan / Philippines)
e. Pension (in Japan / Philippines)
f. Iba pa (Other/s (specify)): _____

4. May utang na pera ba kayo ngayon sa isang tao o institusyon?

(Do you have an outstanding credit to an individual or institution?)

- a. Oo (Yes) b. Wala (No) Kung oo, magkano? (If yes, how much?)

5. Nagpapadala ba kayo ng pera sa Pilipinas? (Do you remit money to the Philippines?)

- a. Oo (Yes) b. Hindi (No) →*Kung Hindi, Pumunta sa Question No. 9

6. Kung oo, gaano kadalas kayo nagpapadala ng pera? (If yes, frequency of remittance)

- a. Buwanan (Monthly) b. sa loob ng iilang buwan (every few months)
c. Tuwing anim na buwan (every six month)
d. Iba pa (other/s (specify)): _____

7. Magkano ang halaga ng pera na inyong pinapadala sa Pilipinas?

(How much money you sent to your family in one time ?)

8. Kanino ninyo ipinapadala ang pera sa Pilipinas?

(To whom are you sending money to the Philippines?)

- a. Asawa at mga anak (Your wife and children)
- b. Mga magulang (Your parents)
- c. Mga kapatid (Your brothers/ sisters)
- d. Pamangkin (Your nephew / niece)
- e. Iba pa (Other/s (specify)): _____

9. Mayroon bang ibang myembro ng pamilya ang nagtatrabaho sa Japan liban sa inyo? (Is there any family member who is working in Japan at present aside from you?)

- a. Oo (Yes)
- b. Wala (No)

Kung oo, paki-puno ng kahon sa ibaba ng impormasyon tungkol sa kanila na nagtatrabaho sa Japan? (If yes, please fill in the box/es provided below for a family member who worked/working in Japan.)

Myembro ng Pamilya at ugnayan (Family Member/ Relationship)	Regular ba na nagpadala ng pera sa pamilya sa Pilipinas? (Send Regular Remittance to the family in the Philippines?) Sagot: Oo o Hindi? (Answer: Yes or No)

II. Epekto sa Pagdayo sa Bansang Hapon
(Consequences/Effects of Migration in Japan)

A. Sa Pagdayo (On Migration)

- 1. Ilang beses na kayong nakapunta sa bansang Hapon
(Number of times visited Japan): _____

2. Uri ng VISA na nakuha (Type of visa acquired):

- a. Permenting visa (Permanent Residence Visa)
- b. Long Term Residence Visa
- c. Visa bilang asawa ng Hapon (Spouse Visa)
- d. Turistang Visa (Tourist visa)
- e. Iba pa (Other/s (specify)) _____

3. Ano ang inyong layunin pagbisita sa bansang Hapon? (Purpose of coming to Japan)

- a. Trabaho (Work related)
- b. Pagbisita ng kaibigan o pamilya (Visit friends/family)
- c. Pag-aaral (Studies)
- d. Paglililiwaliw (Sightseeing)
- e. Pagdalo ng komperensiya (Attending conference)
- f. Negosyo (Business)
- g. Iba pa (Other/s (specify)): _____

4. Kailan ba kayo unang nakapunta sa bansang Hapon?

(When did you arrive in Japan for the first time?) _____

5. Anong samahan o ahensya ang tumulong sa inyo noon para makapunta sa bansang Hapon?

(Through which organization or agency were you able to come to Japan at that time?)

- a. Nikkei-jin Kai
- b. Broker (Name: _____)
- c. Sariling pag-aaply (Applied by yourself)
- d. Iba pa (Others(specify)): _____

6. Kailan ang pinakahuli mong pagdating sa Japan? (When is your latest arrival?)

_____ Taon (year) _____ Buwan (month)

B. Trabaho (Work)

1. Mayroon ba kayong trabaho ngayon sa Japan? (Are you currently employed?)

- a. Oo (Yes)
- b. Wala (No)

2. Kung wala, ano ang inyong ginagawa (If no, what are you doing?)
- a. Bakasyon (Vacation) b. Naghahanap ng trabaho (Looking for a job)
 c. Estudyante (Student) d. Maybahay/Nasa bahay/katulong
 (Housekeeper)
 e. Iba pa (Others): _____
3. Anong klase ng lugar ang iyong trabaho? (Kind of current work place)
- a. Pablika (Factory) b. Tindahan (Store) c. Opisina (Office)
 d. Construction site e. Iba pa (Others)(Specify): _____
4. Anong uri ng kompanya ang inyong kasalukuyang pinapasukan?
 (What kind of company you are working now?) * *Kung naka-kontrata ka sa
 employment agency, paki-pili ang f.*
(If you are sent by employment agency to your current work place, choose letter F.)
- a. Pagsasaka (Agricultural) b. Pangingisda (Fishery)
 c. Restaurant d. Transportasyon (Transportation)
 e. Konstruksiyon (construction) f. Employment agency (*Haken*)
 g. Tagagawa (Manufacturer(including food processing))
 h. Iba pa (others (specify)): _____
5. Pakisulat ang pangalan ng inyong kompanya.
 (Please write your company's name).

6. Gaano ka na katagal nagtatrabaho sa kompanyang ito?
 (How long have you been working in this company?)
 _____ Taon (year) _____ Buwan (month)
7. Bakit kayo negdesisyon na magtatrabaho sa kompanyang ito?
 (Why did you decide to work in that company?) (Multiple answer)
- a. Dahil mataas ang sahod (Because of higher salary)
 b. Uri ng trabaho (Kind of work)(because I like the work)

- c. Mabuting asal ng may-ari (Good character of the employer or boss)
- d. Akala ko kasi magamit ko sa kompanyang ito ang aking mga kakayahan
(Because I thought I could give fully use my ability in this company)
- e. Dahil ang mga kaibigan ko ay dito nagtatrabaho
(Because my friends are also working in this company)
- f. Dahil may isang tao ang nagpakilala sa akin sa kompanyang ito
(Because somebody introduced me to this company)
- g. Hindi ko binibigyang pansin ang uri ng trabaho
(I did not mind what kind of company I work)
- h. Walang mapagpilian (I had no choice)
- i. Iba pa (Others (specify)): _____

8. Nakipagpalit ka ba ng kontrata sa inyong kompanya?

(Did you exchange contract with your company?)

- a. Oo.(Yes) Ilang taon ang kontrata? (Length of the working contract):
___taon
- b. Wala (No)

9. Kayo ba ay may utang sa inyong kompanya? (Are you indebted to your company?)

- a. Oo (Yes) Magkano sa Yen? (How much in yen?): _____Yen
- b. Wala (No)

10. Ilang beses na kayong nagpalit ng kompanya bago sa kasalukuyang kompanya?

(How many times did you move to a company before your current company?)

- a. Wala pa (None) *Go to Q.12
- b. Isang beses (Once)
- c. Dalawang beses (Twice)
- d. Tatlong beses (Three times)
- e. Apat na beses (Four times)
- f. Mahigit limang beses (More than 5 times (indicate)): _____na beses

11. Ano ang inyong dahilan kung bakit kayo lumipat sa ibang kompanya? (What is the reason of moving to other company?) (Multiple answer)

- a. Mas mataas ang sahod (Because of higher salary)
 - b. Mas maganda ang uri ng trabaho (better kind of work)
 - c. Mas magaan na trabaho (Easier work)
 - d. Dahil sa tawag ng pinsan o kaibigan (Because my relatives or friends called me)
 - e. Dahil hindi ko gusto ang dati kong kompanya. (Because I did not like my former employer or company) (reason): _____
 - f. Iba pa, ipaliwanag: (Other/s (specify)): _____
- _____

12. Sa kasalukuyan, ilang araw kayong walang tabaho sa isang linggo?

(At present, how many day/s off do you have in a week?)

- a. Isang araw (One day)
- b. Dalawang araw (2 days)
- c. Pagpalit ng oras (Work shift):
Ilang beses na araw na pahinga bawat buwan? (times day off in a month) _____

13. Ilang oras kayo nagtatrabaho sa isang araw?

(How many hours do you work in a day?) _____ oras

14. Tungkol sa sobrang oras? (How about over time?)

Oras sa isang buwan (Hours in a month): _____ oras

15. Tungkol sa pagtatrabaho sa gabi? (How about night work?)

Oras sa isang buwan? (Hours in a month): _____ oras

16. Ilang mangagawa ang nagtatrabaho sa inyong kompanya?

(How many workers are there in your company?) (If none, please put 0)

	Philippine <i>Nikkei jin</i>	Non <i>Nikkei-jin</i> Filipino	<i>Nikkei-jin</i> from other country	Other foreigner
Sa inyong seksiyon (in your section)				
Buong kompanya (Whole company)				

17. Anong benepisyo ang binibigay ng inyong kompanya para sa iyo?

(What benefits does your company provide you?)

- a. Health insurance
- b. Labor Accident insurance
- c. Unemployment insurance
- d. Bonus
- e. Transportation allowance
- f. Retirement pay
- g. All paid trip vacation
- h. Bokasyonal na pagsasanay (Vocational training)
- i. Nag-aaral ng salitang Hapon (Joining Japanese language class)
- j. Extra pay for house rent/expense

18. Naranasan na ba ninyong ikaw ay ipinagtatangi dahil ikaw ay isang dayuhan?

(Have you ever been discriminated because you are a foreigner?)

- a. Oo (Yes) Uri ng pangtatangi? (What kind of discrimination?):

b. Hindi (No)

19. Ang salitang Hapon ba ang inyong ginagamit habang kayo ay nagtatrabaho?

(Are you using Japanese language while you are working?)

- a. Oo, madalas (Yes, often)
- b. Oo, pero hindi gaano kadalas (Yes, but not so often)
- c. Hindi (No)

20. Kayo ba ay masaya sa inyong trabaho? (Are you satisfied with your work?)

- a. Oo, ako ay sobrang masaya sa aking trabaho (Yes, I am very satisfied.)
- b. Oo, ako ay masaya sa aking trabaho (Yes, I am satisfied with my work)
- c. Ok lang (so far OK)
- d. Hindi gaano (Not so)
- e. Hindi, marami akong hindi nagustuhan (No. I have some complaint on my work)
- f. Hindi ako siguro (I am not sure)

21. May problema ka ba tungkol sa inyong trabaho o sa inyong kompanya?

(Do you have any problem regarding your work or your company?)

- a. Oo (Yes)
- b. Wala (No)

Kung oo, ano ang mga ito? (If yes, what is that?) (Multipul answer)

- a. Pakikipag-usap sa inyong pinagtatrabahuan (Communication with your boss or employer)
- b. Personal na ugnayan sa ibang ka-trabaho (Personal relationship with your co-worker)
- c. Kakayahan sa pagsasalita (My language ability or communication ability)
- d. kaligtasan sa trabaho (Safety of the work)
- e. Kalinisan sa paligid ng kompanya (Sanitary environment of the company)
- f. Kita o bawas sa kita (Salary or salary deduction):
- g. Iba pa (Others) (Specity): _____

22. Sa Japan, may natutunan ba kayong kakayahan o kaalaman na inyong magamit sa inyong kasalukuyang trabaho? (In Japan, did you learn any skills and knowledge that you can apply to your work at present?)

- a. Oo (Yes)
- b. Wala (No)

Kung oo, anong uri ng kakayahan o kaalaman ang mga ito?

(If yes, what kind of skill/s and knowledge were those?)

23. Bago kayo pumunta dito sa Japan, nagtatrabaho ba kayo sa Pilipinas? (Before coming to Japan, did you have work in the Philippines? What kind of work is that?) (multiple answer)

- a. Panahonang manggagawa (Seasonal worker)
- b. Kawani ng pamahalaan (Government employee)
- c. Kawani ng isang kompanya (Employee of the company)
- d. Magsasaka (farmer)
- e. Tagapagbili (Shopkeeper) f. Estudyante (Student)
- g. Maybahay (Housekeeper) h. Walang trabaho (No work)
- i. Iba pa (Others) _____

C. Tungkol sa Buhay at sa mga Pagbabago ng Buhay (Life and Life Change)

1. Nasanay na ba kayong manirahan dito sa Japan? (Are you get used to live in Japan?)
 - a. Oo (Yes) b. Wala (No) c. Hindi tukoy (Unclear)

2. Mas naramdaman mo ba na ikaw ay isang Hapon habang nasa bansang Japan? (Do you identify yourself as Japanese while living in Japan?)
 - a. Oo, naramdaman ko (Yes, I feel so)
 - b. Hindi, naramdaman ko na ako ay Filipino (No, I think that I'm a Filipino)
 - c. Hindi ko nadarama ang pagiging Japanese o Filipino (I feel neither Japanese nor Filipino.)
 - d. Hindi ko alam (Do not know)

3. Mayroon ka bang mga Hapon na kaibigan? (Do you have any Japanese friend?)
 - a. Oo. (Yes) Ilan? (Specify number of friend) : _____ b. Wala (No)

4. May mga kaibigan ka bang may lahing Hapon? (Do you have any friend of Japanese descendant?)
 - a. Oo. (Yes), Ilan? (Specify number of friend) : _____ b. Wala (No)

5. Bilugan ang mga letra kung ginagawa mo sa Japan ang mga sumusunod:
(Circle the letter if you practice in Japan.) (Multiple answer)
- a. Regular na nagsisimba (To go to church/mosque regularly)
 - b. Bumibisita sa Japanese temple
(To go to Japanese temple or shrine occasionally)
 - c. Bumibili o humihiram madalas ng Tagalog VHS tape o VCD-DVD
(To borrow VHS and watch Tagalog TV program/movies)
 - d. Nanonood sa Wins Channel o Channel 7 Cable TV
(To watch WINS channel or channel 7)
 - e. Nanonood ng Japanese television program/news
(To watch Japanese program on TV)
 - f. Nagdaraos ng fiesta kasama ang mga kababayan Filipino
(To celebrate festivals with fellow Filipinos)
 - g. Sumasali sa Japanese festival sa komunidad
(To participate Japanese festival in a community)
 - h. Nagse-celebrate ng Pasko (To celebrate Christmas in Filipino way)
 - i. Bumibili ng mangga at iba pang pagkain galing sa Pilipinas
(To buy mango and other food from the Philippines)
 - j. Iba pang mga sosyo-kultural activities ng mga Filipino o Japanese (pakisulat)
(Other socio-cultural activity of Filipino or Japanese) (Specify)
-

6. Kayo ba ay may kinahaharap na problema sa bansang Hapon?

(Are you facing any problem in your daily life in Japan?) (Multiple answer)

- a. Ekonomiya (Economics)
- b. Ugnayan ng pamilya (Relationship in the family)
- c. Kalusugan (Health)
- d. Relihiyon (Religion)
- e. Pagkain sa Japan (Food in Japan)
- f. Kondisyon sa trabaho (Condition of employment)
- g. Salitang Hapon (Japanese language)
- h. Edukasyon ng mga Anak (Education for children)
- i. Tirahan (Habitation)
- j. Kulturang ng Hapon (Japanese customs)
- k. Pulitika (Politics)
- l. Ugnayan sa mga kapitbahay (Relationship with neighborhood)
- m. Iba pa (Others (specify)): _____

7. May mga anak ka ba na naninirahan sa Pilipinas? Kung meron, pakilagay ang bilang sa blanko kung ilan at kung wala ay ilagay an "0"

(Do you have children who live in the Philippines? Kung wala, pakilagay ng "0")

Bilang ng anak na nasa Pilipinas (Number of children in the Philippines) _____

8. Kayo ba ay may planong dalhin ang inyong mga anak o ibang myembro ng pamilya sa Pilipinas na manirahan sa bansang Hapon kasama ninyo?

(Do you have a plan to invite your children or other family members to come to Japan and stay together with you?)

- a. Oo, sa malapit na hinaharap (Yes, in the near future)
- b. Oo, pero hindi pa sa ngayon (Yes, but not in near future)
- c. Gusto ko pero medyo mahirap (I would like to, but it is difficult.)
- d. Wala (No)
- e. Nandito na lahat sila sa Japan (They are all here in Japan)

9. Kung ang sagot ay ang letrang c or d na nabanggit sa itaas ano ang mga dahilan?

(If your answer c or d in the above, What is/ are the reason/s?)

10. Kayo ba ay may planong manirahan sa bansang Hapon sa hinaharap?

(Are you going to live longer or for good in Japan in the future?)

- a. Oo (Yes) Paliwanag (specify, year) _____ taon
- b. Wala (No) → Go to Q.12

11. Kung oo, ano ang mga dahilan na gusto ninyong manirahan ng mahaba-haba o sa buong buhay sa Japan?

(If yes, what is the reason for staying longer or for good in Japan?) (Multiple answer)

- a. Oportunidad sa trabaho (Work opportunity)
- b. Maganda ang kita (Have a good salary)
- c. Kaginhawaan sa buhay (Convenience of life)

d. Ang bansang japan ang tahanan ng aking mga ninuno

(Japan is the homeland of my ancestors)

e. Pamilya at kaibigan nanirahan sa Japan (Family and friends live in Japan)

f. Iba pa (Other/s: (specify)): _____

12. Kung wala, ano ang mga dahilan? (If No, what are your reason/s)

a. Ayaw mahiwalay sa pamilya sa Pilipinas

(Do not want to be away from the family in the Philippines)

b. Mataas ang antas ng pamumuhay sa Japan (High cost of living in Japan)

c. Hirap sa salitang Hapon (Difficulty of Japanese Language)

d. Hirap mamuhay sa Japan (Difficulty of adjustment to live in Japan)

e. Mayroon pagtatangi sa bansang Hapon (There is discrimination in Japan)

f. Ang Pilipinas ay aking bansang hinirang (Philippine is my homeland)

g. Iba pa (Other/s (specify)): _____

13. Ano ang inyong gagawin pagbalik sa Pilipinas?

(What are you going to do when you go back to the Philippines?)

14. Ang inyong hanapbuhay sa Japan ay nagdulot ng maraming pagbabago sa inyong sarili o buong pamilya?

(Is your work in Japan brought about changes in yourself/your family?)

Tungkol sa Kita (About income):

a. Tumaas (Increased)

b. Bumaba/Nabawasan (Decreased)

c. Walang pagbabago (No change)

Utang (Debt)

a. Bumaba (Decreased)

b. Tumaas (Increased)

c. Walang pagbabago (No change)

d. Walang utang mula noon hanggang ngayon (No debt even before until now)

Bahay (House)

- a. Nagpatayo (Built) b. Walang napatayo (Not built)

Di-kuryenteng kasangkapan (Electric appliances)

- a. Binili (Purchased) b. Hindi nakabili (Not Purchased)

Ugnayan sa Pamilya (Family Bond)

- a. Napalalim (Enhanced) b. Humina (Weakened)
c. Walang pagbabago (No change)

Tungkol sa buhay (Life)

- a. Naramdaman kung mas magaan ngayon (I feel it becomes easier)
b. Masyadong mahirapan sa buhay (It becomes harder)
c. Walang pagbabago (No change)

Iba pang pagbabago (Other changes)(Specify)) _____

15. Gusto ba ninyong magkaroon ng Hapon na nasyonalidad?

(Do you want to acquire Japanese nationality?)

- a. Oo (Yes, I do) b. Mayroon na (I got already) c. Hindi alam (do not know)
d. Hindi ako sang-ayon (No, I do not think)

16. Anu-ano ang inyong mga pangarap sa buhay para sa kinabukasan ng inyong pamilya? (What are your dreams and aspirations for you and your family's future?)

III. Paglahok sa Nikkei-jin Kai (Participation to the *Nikkeijin-kai*)

1. Kasapi ka ba ng Nikkei-jin Kai? (Do you belong to any *Nikkeijin-kai* chapter ?)
 - a. Oo (Yes) Pangalan ng Nikkeijin kai (Name of *Nikkeijin-kai*) _____
Katagal Bilang Kasapi (Length of membership) _____
 - b. Wala (No)
2. Anu-anong klase ng mga gawain ang inyong sinalihan sa samahan?
(What kind of activities you had joined in the past?)

3. Mayroon ba kayong kontak o ugnayan sa Nikkeijin-kai sa Pilipinas?
(Do you have any contact or communication with *Nikkeijin-kai* in the Philippines?)
 - a. Oo(Yes) Sa anong paraan? (what case?:) _____
 - b. Wala, (No) Bakit?(why?): _____
4. Ano ang inyong inaasahan sa Nikkei-jin Kai?
(What do you expect from *Nikkeijin-kai*?) (Multipul Answer)
 - a. Legal na suporta para sa mga kasapi (Legal support for the members)
 - b. Tulong makapagtrabaho at paghahanap ng mga kompanya na nangangailangan ng mangagawa
(Employment assistance and set up the interview with potential candidate companies)
 - c. Pagtataguyod ng ugnayan sa ibang kasapi.
(Promote friendship and deepen exchange with other *Nikkeijin*)
 - d. Paglolobi sa pamahalaan ng bansang Hapon at Pilipinas (Lobbying to Japanese and Philippine Government for programs that would benefit *Nikkeijin kai* members)
 - e. Pagbibigay pagkakataon para makapag-aral sa bansang Hapon ng salitang Hapon. (Offer an opportunity to study in Japan and the Japanese language)
 - f. Tulong para sa pagpatayo ng negosyo (Support for setting up a new business)

- g. Sistema ng damayan (System for a mutual assistance organization)
- h. Tulong para sa lipunan (Make a contribution to community)
- i. Iba pa (Other) Sulat (Specify)_____

5. Sa tingin mo ang mga gawain sa Nikkeijin-kai ay kailangan para sa mga may lahing Hapon na nasa Japan?

(Do you think that activities of *Nikkeijin-kai* are necessary for Japanese descendants in Japan?)

a. Oo (Yes) Bakit (Why?)

b. Wala(No) Bakit (Why?)

6. Kusa ba kayo para maging masugid na kasapi ng Nikkei-jin?

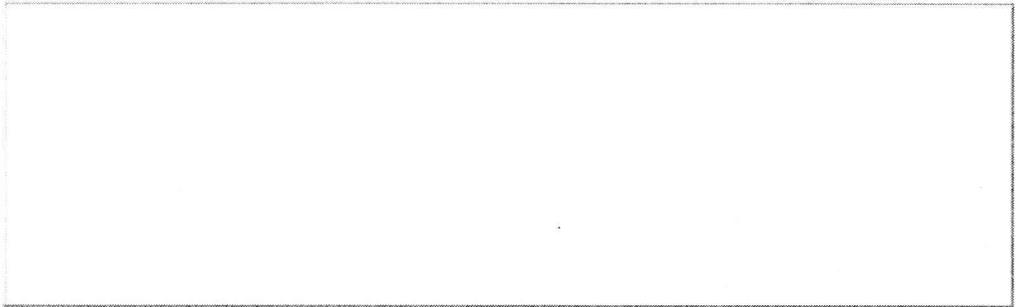
(Are you willing to have an active involvement in *Nikkeijin-kai*?)

a. Oo (Yes) Dahilan (Reason) _____

b. Hindi(No) Dahilan (Reason)_____

7. Ano ang inyong maipahiwatig para mapaganda ang tulong na maibigay ng Nikkei-jin-kai para sa kasapi? (What can you suggest for the *Nikkeijin-kai* to improve its services to her members? If you have any specific suggestion, please write it down.)

8. Ano ang inyong mga mungkahi para sa pamahalaan ng Hapon para kilalanin at tulungan ang kalagayan ng mga Nikkeijin-kai. (What can you suggest for the government of Japan to recognize and help the *Nikkeijin-kai* improve their living condition?)



* Ang mga sumusunod na katanungan ay opsyonal na maaring sagutin o hindi. Subalit kung may sapat na oras, lubos na makakatulong kung masasagutan ang mga katanungan. Maraming salamat po. (The following questions are optional. If your time allows, please fill them up. Thank you very much.)

About Brokers/Recruiters

1. Sa Pilipinas, may nag-alok ba sa inyo ng trabaho sa Japan mula sa ibang agency?

(In the Philippines, is there someone from an agency has ever offered you a job in Japan?)

2. Kung oo, anu-ano ang mga kondisyon nito?

(What are the conditions stipulated in the agreements from the agency?)

3. Kayo po ba ay inalok na bumili o magbenta ng KosekiTouhon o mga dokumento sa ibang tao?

(Is there someone offered you to buy or to sell KosekiTouhon or documents to other people?)

4. May narinig ba kayong mga kuwento tungkol sa pagbili o pagbenta ng KesekiTuohon o mga dokumento? Kung oo, paki-guhit balangkas ng mga kwento.

(Did you hear stories about buying and selling KosekiTouhon or documents? If you heard, what are these stories?)

*Maraming salamat po sa inyong kooperasyon! Makakatulong ng lubos kung inyong itse-tsek kung ang lahat ng mga katanungan ay nasagutan.
(Thank you very much for your cooperation! Please check if all questions were answered.)

* Kung maaari ay isulat ang inyong pangalan at address at puwede rin hindi isulat batay sa inyong kagustuhan.

(If possible, please write your name and address below although it is not required.)

Pangalan (Your Name) : _____

Pangalan ng unang henerasyon (Name of 1st. Generation) _____

Tirahan (Address) : _____

Telepono (Telephone Number) : _____

*Ilagay ang nasagutan nang questionnaire sa kalakip na envelope para maiwasan ang pagbasa ng iba sa inyong kasagutan. (Put this questionnaire into an attached envelop and seal to avoid others to read your answers.)

*Ibalik ang envelop sa tao na nag-abot sa iyo ng questionnaire o ipadala sa pamamagitan ng post-office. Maari itong ihulog sa post office box ng walang stamp. (Give the envelop that enclosed this questionnaire back to the person who passed this questionnaire or send by mail. Just put it to a postbox without stamp.)

Maraming salamat sa muli sa inyong kooperasyon!

Thank you again for your cooperation!

在日日系人アンケート(日本語訳)

質問表

以下の質問を注意深く読み、選択肢のある質問には○で答えてください。記述で答えるものには、_____に言葉を記入してください。

I. 日系人の生活状況

A. 回答者の基礎データ

a. 個人データ

1. 年齢 _____才
2. 性別 _____
3. 身分 _____
4. 住所地 _____県_____市・町・村
5. 出身地 _____州_____市・町
6. 最終学歴_____
7. 使える言語 (複数回答可) _____
8. 宗教 _____
9. 技能・資格 (例 コンピューター、エンジニア、看護師など)

10. 国籍 _____
11. あなたは日系何世ですか a. 2世 b. 3世 c.4世 d.その他_____

何世かわからない場合、あなたの家族の中で誰が日本からフィリピンへ移住したのか教えてください。

- a. 祖祖父
- b. 祖父
- c. 祖母
- d. 父
- e. 母
- f. その他 _____

b 世帯データ

1. あなたと同居している人は全部で何人いますか。(あなたを除いた数) ____人
2. それぞれの年齢、性別、関係、職業、収入の有無、収入額、勤務先・学校名などを下に記入してください。

年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 勤務先・学校名 _____ 収入一ヶ月 _____円	年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 勤務先・学校名 _____ 収入一ヶ月 _____円	年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 勤務先・学校名 _____ 収入一ヶ月 _____円
年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 勤務先・学校名 _____ 収入一ヶ月 _____円	年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 勤務先・学校名 _____ 収入一ヶ月 _____円	年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 勤務先・学校名 _____ 収入一ヶ月 _____円
年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 勤務先・学校名 _____ 収入一ヶ月 _____円	年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 勤務先・学校名 _____ 収入一ヶ月 _____円	年齢 _____才 性別 _____ 関係 _____ 勤務先・学校名 _____ 収入一ヶ月 _____円

3. 同居人と家計を分担していますか？

- a. はい。すべてに関して分担しています
b. はい、部分的に分担しています c. いいえ、分担していません

4. あなたの世帯の一ヶ月の支出を教えてください。

科目	額	支払う人
住居費(賃貸や住宅維持費など)		
光熱費		
水道代		
食費		
教育費		
医療費		
衣服代		
レジャー		
保険(健康、年金など)		
その他(具体的に書いてください)		

5. あなたの住まいは次のうちどれですか？

- a. アパート b. 一軒屋(賃貸) c. 持ち家 d. その他_____

6. 家の部屋数 _____

7. 住まいはどのようにして借りていますか

- a. 会社が借りている b. 自分で借りている c. 親戚や友人が借りた
d. その他_____

B. 経済状況

1. あなたの給料は手取りいくらですか？ _____円
2. 貯金がありますか？ _____円
3. 投資がありますか？ a. はい b. いいえ
はいの場合、どのような種類の投資ですか？
 - a. フィリピンの土地
 - b. フィリピンの家
 - c. 日本またはフィリピンで現金の貸付
 - d. 日本またはフィリピンで保険
 - e. 日本またはフィリピンで年金
 - f. その他 _____
4. 借金がありますか？
 - a. はい b. いいえ はいの場合、いくらですか？ _____円
5. フィリピンに仕送りをしていますか？
 - a. はい b. いいえ →*いいたの場合、設問8番に行ってください。
6. はいの場合、どのくらいの頻度で送金しますか？
 - a. 毎月 b. 2~3ヶ月に一度 c. 半年に一度
 - d. その他 _____
7. 一回につき、いくら送金しますか。 _____円
8. 誰に対して送金しますか。
 - a. 自分の妻や子どもへ b. 自分の両親へ c. 自分の兄弟へ
 - d. 自分の甥や姪へ e. その他 _____
9. 家族のだれかが日本で働いていますか？
 - a. はい b. いいえ

はいの場合、彼らについて下の表に記入してください。

家族の誰ですか（あなたとの関係）	フィリピンの家族への定期的な送金の有無

II. 日本へのかせぎがもたらした結果・影響

A. 移住(来日)

1. いままで何回来日しましたか _____ 回
2. なんのビザを持っていますか
 - a. 定住ビザ b. 配偶者ビザ c. 観光ビザ
 - d. その他 (_____)
3. 来日目的を教えてください。
 - a. 日本で働くため b. 親族訪問 c. 観光/会議出席
 - d. 仕事上の出張/研修
 - e. その他(_____)
4. 一番最初に来日したのはいつですか _____ 年
5. そのとき、なんの組織（会社）を通じて来日しましたか？
 - a. 日系人会 b. ブローカー c. 独力で d. その他 _____
6. 今回来日したのはいつですか _____ 年 _____ 月

B. 就労

1. 現在あなたは働いていますか。 a. はい b. いいえ
2. いいえの人は、なにをしていますか
 - a. 休職中 b. 転職中 c. 学生 d. 主婦 e. その他 _____
3. はいの人は、職場はどのような場所ですか
 - a. 工場 b. 商店 c. オフィス d. 建設現場
 - e. その他 _____

	フィリピン 日系人	フィリピン人 (日系人以外)	フィリピン以外の 国から来た日系人	その他の 外国人
あなたの部署	人	人	人	人
会社全体	人	人	人	人

17. あなたの会社には、次の福利厚生がありますか。
- a. 健康保険 b. 労災保険 c. 雇用保険（失業保険）
d. ボーナス支給 e. 交通費支給 f. 退職金
g. 一時帰国用の有給休暇 h. 職業トレーニング
i. 会社による日本語授業 j. 住居手当
18. 会社で、「外国人」というだけで差別的な扱いを受けたことはありますか。
- a. ある その内容 _____
b. ない
19. 職場で日本語を使う必要性がありますか。
- a. ある b. あるが頻繁には必要ない c. ない
20. 仕事に対する満足度について
- a. とても満足している b. やや満足している c. 普通
d. あまり満足していない e. とても不満足である f. わからない
21. 仕事上の悩みはありますか a. ある b. ない
- ※あると答えた人は、どんな悩みですか。
- a. 経営者・上司との意思疎通 b. 同僚との人間関係
c. 言葉・コミュニケーション能力 d. 安全面 e. 衛生面 f. 給与面
g. その他 _____
22. 日本で働いたことで、フィリピンで活かせる技術や技能が身につきましたか？
- a. はい b. いいえ
- 身についた場合、どんな技術や技能ですか？ _____

23. 来日前のフィリピンでの職業は何でしたか？

- a. 季節労働者 b. 公務員 c. 会社員 d. 農業 e. 商店経営
f. 学生 g. 主婦 h. 無職
i. その他 _____

C. 生活実態とその変容

1. あなたは、日本の生活に慣れましたか

- a. はい b. いいえ c. わからない

2. あなたは、日本で生活してみて、自分は日本人だと感じていますか？

- a. はい、そう感じている b. いいえ、私はフィリピン人だと思う。
c. 日本人ともフィリピン人とも思えない。 d. わからない

3. あなたは日本人の友達がありますか a. いる 何人？ _____ b. いない

4. あなたはフィリピン日系人の友達がありますか

- a. いる 何人？ _____ b. いない

5. 以下の中であなたが日本で行っているものに丸をつけてください。(複数回答)

- a. 教会・モスクで礼拝する b. 日本の寺を訪問する
c. タガログ語のビデオテープやVCD、DVDを買ったり借りたりする。
d. ケーブルテレビのWINSチャンネルやチャンネル7を観る
e. 日本のTV番組やニュースを観る
f. フィリピン人の仲間とお祝い事をする
g. 地域の日本の祭りに参加する
h. フィリピン風にクリスマスを祝う
i. マンゴやその他フィリピンからの輸入食品を買う
j. その他のフィリピン式または日本式の社会文化活動をする

具体的に書いてください _____

6. 日本の生活の中で直面する問題がありますか？(複数回答可)

- a. 経済的問題 b. 家族の中の人間関係 c. 健康面 d. 宗教面
e. 日本の食事 f. 就労面 g. 日本語 h. 子どもの教育
i. 住居 j. 日本の習慣・文化 k. 政治 l. 近所の人との人間関係
m. その他(具体的に _____)

7. 子どもがフィリピンにいますか？いる場合、子どもの数を記入してください。
(いない場合は、0と記入してください)

フィリピンにいる子どもの数 _____人

8. フィリピンにいる子どもや家族を日本に呼び寄せるつもりですか？
- a. はい。近いうちに呼び寄せる予定です
 - b. はい。しかし近いうちに呼び寄せる予定はありません
 - c. 呼び寄せたいですが、難しいです
 - d. 呼び寄せるつもりはありません
 - e. すでにみな日本にきています

9. 上記の質問にcかdと答えた人は、その理由を教えてください。

理由 _____

10. あなたは、これからも日本に住む予定ですか。

- a. はい 何年住む予定ですか？ _____年
- b. いいえ →問12へ行ってください

11. 上の質問に「はい」と答えた人は、その理由はなんですか？

- a. 日本は仕事があるから
- b. 日本は給与が高いから
- c. 日本の生活が便利だから
- d. 日本は祖先の祖国だから
- e. 日本には家族や友人がいるから
- f. その他 _____

12. 問10で「いいえ」と答えた人は、住みたくない理由はなんですか？

- a. フィリピンの家族と離れたくないから
- b. 日本の生活はお金がかかるから
- c. 日本語が難しいから
- d. 日本になじめないから
- e. 差別があるから
- f. フィリピンが自分の故郷だから
- g. その他 _____

13. フィリピンに帰ったら、何をしようと思いますか。
- _____

14. 日本で就労したことで、自分や家族になにか変化はありましたか？

収入

- a. 増えた b. 減った c. 変わらない

借金

- a. 減った b. 増えた c. 変わらない d. もともとなかった

住居

- a. 新築した b. 建てていない

電化製品

- a. 買った b. 買ってない

家族関係について

- a. 結束が強まった b. 結束が弱まった c. 変わらない

生活感

- a. 楽になった b. 苦しくなった c. 変わらない

その他の変化(あれば記述してください) _____

15. 日本国籍を取得したいですか？

- a. はい b. もう取得した c. わからない d. 取得したくない

16. 自分や家族の将来の夢や希望はなんですか？

--

Ⅲ. 日系人会への参加の度合い

1. あなたは日系人会に所属していますか？

a. はい（日系人会名 _____）

（入会期間 _____）

b. いいえ

2. あなたは日系人会のどのような活動に参加したことがありますか？

3. 現在、日系人会と連絡をとることはありますか

a. ある（どういうとき？ _____）

b. ない（なぜ？ _____）

4. 日系人会にどういうことを期待しますか？(複数回答可)

a. メンバーへの法的支援

b. 仕事に関する支援・就労先候補となる企業面接の場の提供

c. 日系人相互の交流・親睦

d. 日本・フィリピン政府へのロビー活動

e. 日本語・日本について学ぶ場の提供

f. 起業への支援

g. 相互扶助組織として期待

h. 地域社会への貢献

i. その他（具体的に） _____

5. 日本でもフィリピン日系人の活動は必要だと思いますか？

a. はい（理由 _____）

b. いいえ（理由 _____）

6. 日系人会の会員として活動に参加したいですか？

a. はい（理由 _____）

b. いいえ（理由 _____）

7. 日系人会がメンバーに対するサービスを向上させるため、なにか提案があればこの下に書いてください。

8. 日系人が認められ、生活支援を受けられるようになるために、日本政府に提案があれば書いてください。

以下の質問は回答自由です。お時間があればご記入ください。

リクルーターについて

1. あなたは日系人会以外の組織から、日本への就労を持ちかけられたことがありますか？ _____
2. その場合、どのような条件を提示されましたか

3. あなたは人から、戸籍の売り買い、書類の買い取りなどを示唆されたことがありますか？

4. あなたは戸籍の売り買い、書類の売買などについて耳にしたことがありますか？あればその内容を書いてください

ご協力たいへんありがとうございました。提出の前に、回答もれがないかどうか、再度チェックしてください。

よろしければ、あなたの氏名、住所などを下に記入してください。

氏名： _____

一世の氏名： _____

住所： _____

電話番号： _____

同封の封筒にこの回答用紙を入れ、他人があなたの回答を読むことのないよう、封をしてください。

封をした封筒を、アンケート配布者に手渡すか、郵送してください。郵送の場合、切手を貼らずにそのままポストに投函してください。

ご協力、たいへんありがとうございました！

Permission Letter

Dear Respondent:

A warm greeting!

We are conducting a study to assess the Nikkei-jin Kai Organization in giving services to Japanese Descendants. The study mainly aims at looking the Nikkei-jin Kai Organization as an institution providing assistance to Filipino Japanese individuals who are living in the Philippines. Looking into the different programs and services of the organization, its nature, organizational structure, and others can help improve its services. In addition, it will also serve as an eye-opener to both the Japanese and the Filipino governments about what this organization is doing as well as how they can extend their assistance.

In this regard, we are requesting your support by answering the questionnaire we are giving to you. All items being asked are significant in this study, thus; we hope that you will not leave an item unanswered.

Thank you very much for your support. We assure you that all information you shared will be taken with utmost care and confidentiality.

Sincerely yours,

(Signed) Attny.Hiroyuki Kawai
Chairperson of Philippine Nikkei-jin Legal Support Center
Legal adviser of the Federation of Nikkei-jin Kai

Questionnaire

Instruction: Read carefully each item. Answer all the items being asked on the space provided for your answers.

I. Description of Nikkei-jin Kai Organization

A. History or historical development

1. When your Nikkei-jin Kai Organization was organized?

2. What was the main purpose of creating Nikkei-jin Kai Organization?

3. Who and how many were the first organizers? _____

4. Who and how many were the first batch of members? _____

5. When was the organization registered to SEC? _____

6. What do you think Nikkei-jin Kai Organization will be after ten (10) years?

B. VMG (Vision, Mission, Goal)

1. What is the VMG of the organization?

2. How the VMG of the organization was formulated? What inspired the formulation of the VMG?

3. How the VMG is being disseminated and inculcated into the individual members of the organization?

4. Do you think the VMG is still abreast to the present condition of the Nikkei-jin Kai members? _____

C. Membership

1. How many existing members in the organization? _____
2. To what generation they belong? _____
3. What are the requirements or qualifications of becoming a member in the organization?

4. What are the roles, functions and responsibilities of a member?

D. Workers/employees/Staff

1. How many employees, both full-time, part-time and volunteers working in the organization?

Items	Total Number
Full-time	
Part-time	
Volunteer	

2. What is their nature of work? _____

3. What are the qualifications of the workers?

4. What are the criteria of selecting workers?

E. Organizational Structure

1. Identify and describe the different officials and members as well as their functions in the organization?

2. How the officials of the organization were chosen?

3. How long is the term of the officials? _____

F. Programs/Activities and Approaches

1. What are the daily, monthly, and yearly activities of the organization?

2. What are the different programs and activities being launched by the organization?

3. How these different programs and activities being implemented?

G. Resources

1. What are the existing resources of the organization?

2. Where is the source of funds for the whole operation of the organization?
Who are the main benefactors, supporters, donors for the different programs and activities?

3. What are the main sources of revenues?

4. How much is the annual budget of the organization? How it is done and allocated? _____
5. What are the different activities or projects being implemented by the organization to raise funds? _____

II. Problems/Challenges Encountered and Its Coping Mechanisms

What are the problems/challenges encountered and its coping mechanisms?

Areas	Problems/Challenges	Coping Mechanisms
Living the VMG		
Membership		
Staffing		
Organizational Structure		
Programs and activities		
Others		

4. What do you think the Nikkei-jin Kai Organization can contribute to the Philippine society?

5. What do you think the Nikkei-jin Kai Organization can contribute to Japan society?

6. To what extent, Nikkei-jin Kai Organization can help uplift the legal, social, cultural and economic status of its members?

7. What do you think the Japanese government and private sector can help uplift the Nikkei-jin Kai Organization members?

IV. Comments and Suggestions to Improve Nikkei-jin Kai Organization

1. What are your comments and suggestions to improve the services provided by Nikkei-jin Kai Organization to her members?

(optional)

Pangalan: _____

Tirahan: _____

Telepono: _____

依頼状

回答者の皆様へ:

拝啓

ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

私どもは、日系人に対してサービスを提供している日系人会組織に関する研究を行っています。この研究の主な目的は、フィリピンに在住する個々の日系人に対し支援を行う組織としての日系人会の現状を明らかにすることです。それぞれの日系人会が行っているさまざまな活動、会の特質、組織形態などについて調べた結果は、会のサービス向上の参考資料としてお使いいただけるかと存じます。加えて、この研究により、日系人会とその活動が大変有意義なものであることを日本とフィリピン両政府に知らせ、結果、なんらかのインパクトを与えることができるのではないかと考えております。

つきましては、皆様にはアンケートに回答していただきますよう、お願い申し上げます。すべての設問はこの研究にとって重要ですので、回答にもれがないよう、よろしくお願い申し上げます。

回答の内容は、最新の注意と責任を持って当方で管理いたします。なにとぞ、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

敬具

フィリピン日系人リーガルサポートセンター 代表理事

フィリピン日系人会連合会 顧問

弁護士 河合 弘之

日系人会への質問票

質問の内容をよく読み、その答えを空欄に記入してください。

I. 日系人会組織の概要

A. 背景・歴史

1. 貴日系人会が組織されたのはいつですか？ _____
2. 日系人会発足の主な目的は何ですか。 _____

3. 設立者はだれですか。(何人ですか) _____

4. 創設時の会員はだれで、何人いましたか。

5. SEC 登録したのはいつですか。 _____
6. 10 年後、日系人会はどうかと思いますか。 _____

B. 組織のビジョン、ミッション (使命)、ゴール (目的) (VMG)

1. 貴会のビジョン、ミッション、ゴール (VMG)は何ですか？

2. 貴会の VMG はどのようにして作られましたか？VMG を作成するきっかけとなった出来事、または思想は何でしたか。

3. どのようにしてこの VMG を会員の中に普及、浸透させていきましたか？

4. この VMG は日系人会の会員の現状にいまだ即していると思いますか？

C. 会員

1. 貴会の現在のメンバー数を教えてください。 _____人
2. 彼らは、どの日系人カテゴリーに入りますか？ _____
3. 会員の役割、機能、責任は何ですか？

D. 従業員・被雇用者・スタッフ

1. 常勤スタッフ、非常勤スタッフ、ボランティアなどの会で働く人の数を下にあげてください。

種類	合計人数
常勤スタッフ	
非常勤スタッフ	
ボランティアスタッフ	

2. 彼らの仕事の内容はどのようなものですか？

3. スタッフの必要条件(資質)はなんですか。

4. 雇入れの際の評価の基準は何ですか。

E. 組織機構

1. それぞれの役員や会員について、組織の中の彼らの役割を見つけ、描写してください。

2. 組織の役員はどのようにして選ばれますか？

3. 役員の任期はどのくらいですか。

F. プログラム・活動とアプローチ

1. 貴会では、日ごと、月ごと、年ごとの活動にどのようなものがありますか？

2. そのほか、貴会で着手した独自のプログラムや活動にはどういったものがありますか？

3. それらのプログラムや活動は、それぞれどのように実施されますか？

G. 財政

1. 貴会の現在の資力にはどのようなものがありますか。

2. 貴会の全体の経営に係る財源は何ですか？それぞれのプログラムや活動における主な後援者、サポーター、寄付者はだれですか？

3. 歳入の主な財源は何ですか？

4. 貴会の年間予算を教えてください。予算はどのように決定しますか。また、予算配分はどうなっていますか。

5. ファンドレイジングのためにどのような活動やプロジェクトを実施していますか。

II. 現在の課題と対処法

貴会は、どのような問題や課題に直面していますか。また、それらに対してどのように対処していますか。

分野	問題・課題	対処法
VMG に関して		
会員 に関して		
スタッフ に関して		
組織・システム に関して		
プログラム・ 活動に関して		

4. フィリピン社会に日系人会が貢献できることは何だと思えますか？

5. 日本社会に日系人会が貢献できることは何だと思えますか？

6. 日系人会が、会員の法的、社会的、文化的、経済的地位を向上させるため、
どのような手助けができると思えますか？

7. 日系人会の会員の地位向上のため、日本政府と民間はどのようなことができると思いますか？

IV. よりよい日系人会にするための意見や提案

日系人会が、会員に対しよりよいサービスを提供していくため、意見や提案があれば記入してください。

(以下は記入自由です。)

氏名：

住所：

電話番号：

東京財団研究報告書 2006-10
フィリピン日系人支援の方策についての研究
2006年6月

編著者：
河合 弘之

発行者：
東京財団 研究推進部
〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル3階
TEL: 03-6229-5502 FAX: 03-6229-5506
URL: <http://www.tkfd.or.jp>

無断転載、複製および転載を禁止します。引用の際は、本報告書が出典であることを必ず明示して下さい。
報告書の内容や意見は、すべて執筆者個人に属し、東京財団の公式見解を示すものではありません。

東京財団は日本財団等競艇の収益金から出捐を得て活動を行っている財団法人です。

TKFD
THE TOKYO FOUNDATION
東京財団